

平成 2 2 年度「生涯学習施策に関する調査研究」

社会教育施設の利用者アンケート等による効果的社会教育施設
形成に関する調査研究

報告書

2011 年 3 月

株式会社三菱総合研究所

目 次

1. 調査の概要	1
1.1 目的	1
1.2 内容と方法	1
(1) 地域住民の一般的な学習状況及びニーズの把握	1
(2) 特定地域における社会教育の現状と住民の学習ニーズ	2
(3) 検討委員会の設置・運営	2
1.3 調査項目	3
(1) 地域住民の一般的な学習状況及びニーズの把握	3
(2) 特定地域における社会教育の現状と住民の学習ニーズ	3
2. 調査結果	5
2.1 地域住民の一般的な学習状況及びニーズの把握	5
(1) 基本属性	5
(2) 学習活動の内容	6
(3) 学習活動を社会に役立てる意志	36
(4) 学習活動の費用	54
(5) やりたいができていない学習について	60
(6) 社会教育施設等の認知度	73
(7) 社会教育施設等が提供する学習機会	81
(8) 社会教育施設等への要望	91
(9) 社会教育の専門職員への期待	107
(10) 社会教育施設への要望	115
(11) 学習に関する相談や情報提供等	123
2.2 特定地域における社会教育の現状と住民の学習ニーズ	134
(1) A市の例	134
(2) B市の例	151
(3) C市の例	168
(4) D市の例	185
(5) E市の例	202
(6) F市の例	219

1. 調査の概要

本調査の概要は、以下のとおりである。

1.1 目的

社会教育については、社会教育調査により社会教育施設が提供するものについての基礎的な情報を把握しているが、「利用者側」の情報については把握できていない。

学習機会が多様化する中で、従来、地域住民の教養の向上、生活文化の振興及び教育普及活動等、地域の社会教育の中心としての役割を担ってきた社会教育施設等（公民館、生涯学習センター、図書館、博物館）の役割を再検討するためには、住民の認知度、学習参加率・参加頻度等の現状について把握することが必要である。さらに、行政側が意図して実施する施策と住民側の社会教育施設・社会教育指導者に対するニーズを比較分析することが求められている。

また、地域の社会がますます複雑多様化し、子どもを取り巻く環境も大きく変化する中で、学校だけが様々な課題に対して役割と責任を負うのではなく、学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育て体制を整備する中、学校教育（小中学校）と社会教育の連携が今後ますます重要となっている。

本調査は、地域において社会教育施設が提供する学習機会の現状を把握するとともに、社会教育施設に対する住民のニーズ（潜在的なニーズも含む）を踏まえて、今後の社会教育施設のあり方について検討することを目的として実施するものである。

1.2 内容と方法

（1）地域住民の一般的な学習状況及びニーズの把握

地域を大都市／中小規模都市／農山漁村に分類し、各地域の住民について、WEB アンケート調査により学習状況及びニーズを把握した。サンプル構成の設計は、以下のとおりである。

図表 1-1. 「（1）地域住民の一般的な学習状況及びニーズの把握」におけるサンプル構成の設計

地域分類	男性			女性			合計
	20～ 39歳	40～ 59歳	60歳以 上	20～ 39歳	40～ 59歳	60歳 以上	
大都市群	65	65	65	65	65	65	390
中小規模都市群	65	65	65	65	65	65	390
農山漁村群	65	65	65	65	65	65	390
計	195	195	195	195	195	195	1170

※ 本調査では、大都市／中小規模都市／農山漁村を以下の基準で分類した。

大都市：人口 30 万人以上の市区町村

中小規模都市：人口 3 万人以上 30 万人未満の市区町村

農山漁村：人口 3 万人未満の市区町村

(2) 特定地域における社会教育の現状と住民の学習ニーズ

6 自治体を対象として訪問調査を実施し、各自治体における社会教育施設の状況や取組内容を把握した。また、当該地域の住民を対象とした WEB アンケート調査を実施し、住民の学習状況及びニーズを把握した。WEB アンケート調査のサンプル構成の設計は、以下のとおりである。なお、各地域の WEB アンケートモニター数の関係で、一部のカテゴリーのサンプルが不足する場合は、他のカテゴリーのサンプルを増やし、総数を確保するように調整を図った。

図表 1-2. 「(2) 特定地域における社会教育の現状と住民の学習ニーズ」におけるサンプル構成の設計

事例	男			女			合計
	20～ 39 歳	40～ 59 歳	60 歳以 上	20～ 39 歳	40～ 59 歳	60 歳以 上	
事例 A 自治体	65	65	65	65	65	65	390
事例 B 自治体	65	65	65	65	65	65	390
事例 C 自治体	65	65	65	65	65	65	390
事例 D 自治体	65	65	65	65	65	65	390
事例 E 自治体	65	65	65	65	65	65	390
事例 F 自治体	65	65	65	65	65	65	390

(3) 検討委員会の設置・運営

外部有識者から構成する検討委員会を設置し、調査設計及び分析等について助言を受けながら調査を実施した。委員の構成及び運営は、以下のとおりである。

■委員構成 *敬称略。氏名の 50 音順

磯崎恵美子 藤沢市善行公民館
 小川洋一 株式会社朝日カルチャーセンター・取締役
 鈴木真理 青山学院大学教育人間科学部・教授
 原義彦 秋田大学教育文化学部・准教授

■運営

開催回	時期	議題	配布資料
第 1 回	12 月中下旬 (各委員を個別に 訪問)	・調査の目的及び想定される成果について ・調査の全体設計について ・アンケート調査の調査票について	・調査の全体設計 ・調査票(案)
第 2 回	3 月 4 日(金)	・調査及び分析結果について ・報告書案について	・各調査の分析結果 ・報告書(案)

1.3 調査項目

(1) 地域住民の一般的な学習状況及びニーズの把握

住民の一般的な学習状況及びニーズの把握についての調査項目は、以下のとおりである。

図表 1-3. 「(1) 地域住民の一般的な学習状況及びニーズの把握」の調査項目

分類	調査内容
住民の学習ニーズ	学習活動の内容(学習内容、場所、方法、頻度、時間、理由等) (※社会教育施設を利用した活動に限らない)
	学習活動の費用(活動内容ごとの実支出額、支払可能額等) (※社会教育施設を利用した活動に限らない)
	学習希望があるにもかかわらず、できていない学習内容とその理由 (※社会教育施設を利用した活動に限らない)
住民と社会教育施設等の関係	社会教育施設等の存在・役割認知度、それらの提供する学習機会の認知度
	各地域の社会教育施設等が提供する学習機会への参加(利用)頻度
	社会教育施設等に対する要望
	イメージする社会教育施設等の内容、及び現実との違い
	社会教育の専門職員(社会教育主事、公民館主事、司書及び学芸員)に対して期待すること
社会教育施設等が提供している学習機会	今後、社会教育施設等により提供して欲しい学習内容
	学習ニーズを自治体へ伝える方法・内容・頻度
	社会教育施設等と連携して欲しい他機関とその理由
	社会教育施設等の利用に係る自治体への相談頻度と内容
その他	地域における学習に関する満足度
	地域での学習に関する情報の充足度
	学習成果を活用する機会の有無

(2) 特定地域における社会教育の現状と住民の学習ニーズ

特定地域の社会教育の現状についての調査項目は、以下のとおりである。住民の学習ニーズについては、「(1) 地域住民の一般的な学習状況及びニーズの把握」と同様の質問項目を用いた。

図表 1-4. 「(2) 特定地域における社会教育の現状と住民の学習ニーズ」の調査項目

分類	調査内容
住民の学習ニーズ	自治体が考える地域住民の学習ニーズ
	地域住民の学習ニーズのうち、自治体が対応できていると思われるニーズと対応できていないと思われるニーズ
住民と社会教育施設等の関係	地域住民における、社会教育施設等の存在・役割認知度、それらの提供する学習機会の認知度を高めるための方策
	各地域の社会教育施設等が提供する学習機会への参加者(利用者)数、学習参加(利用)率、参加(利用)頻度 [統計データ含む]
	自治体が社会教育の専門職員(社会教育主事、公民館主事、司書及び学芸員)に対して期待すること
社会教育施設等が提供している学習機会	社会教育施設で提供している学習内容(学習内容、学習場所、頻度、時間、対象等) [統計データ含む]
	今後、特に重点をおいて提供したい学習内容
	地域住民の学習ニーズの把握方法
	社会教育施設等の活用方法(実際の活用実績、どのように活用してもらいたい) [統計データ含む]
	事業実施の際の他機関(社会教育施設、学校、大学、NPO、民間企業等)との連携・

分類	調査内容
	協力状況(連携・協力の有無、具体的な内容等) [統計データ含む]
	今後の関係施設・機関との新たな関係づくりに対する意識(期待する連携先、内容)
	学校支援ボランティア・コーディネーター研修等の実施状況、その内容[統計データ含む]
	社会教育施設等における利用団体、利用者等との打ち合わせや相談対応回数(主な内容別)[統計データ含む]

2. 調査結果

2.1 地域住民の一般的な学習状況及びニーズの把握

(1) 基本属性

回答者の属性は以下のとおりである。都市規模、年齢、偏りなく、1,206票を回収した。

図表2-1.対象者の基本属性

地域分類	男性			女性			合計
	20～ 39歳	40～ 59歳	60歳以 上	20～ 39歳	40～ 59歳	60歳 以上	
大都市群	67	67	67	67	67	67	402
中小規模都市群	67	67	67	67	67	67	402
農山漁村群	67	67	67	67	67	67	402
計	201	201	201	201	201	201	1206

(2) 学習活動の内容

学習活動の内容は以下のとおりである。

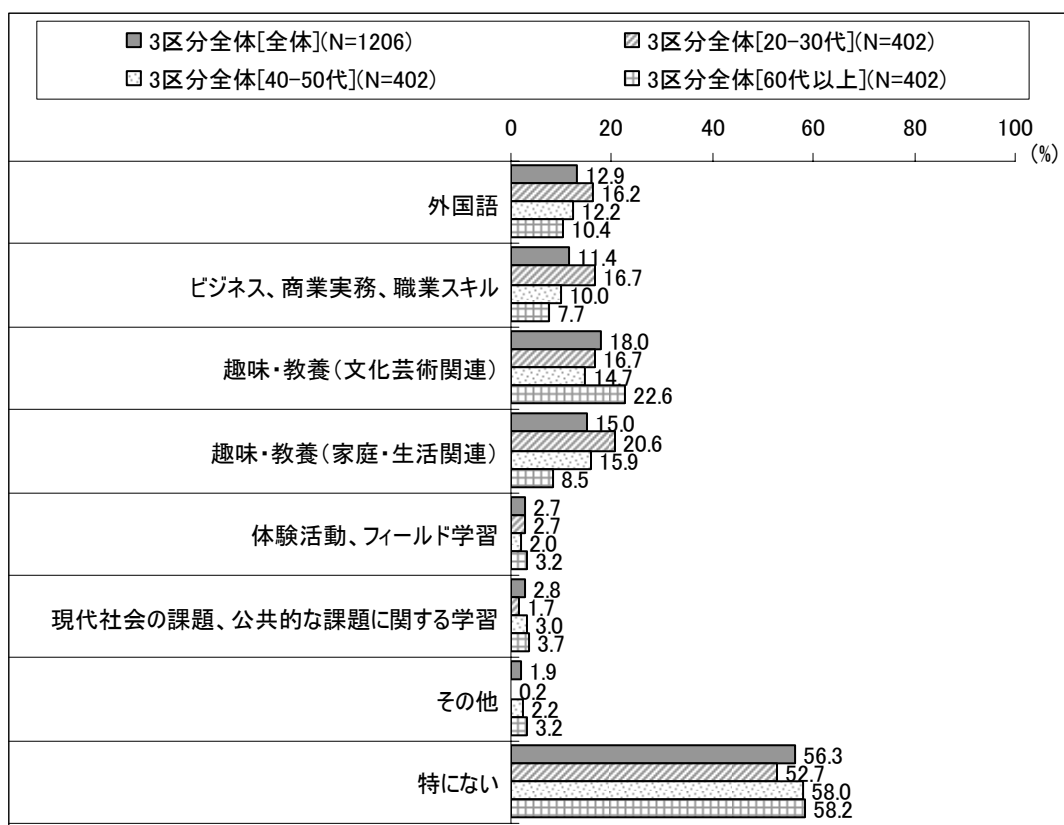
問 以下の1～6の学習活動のうち、あなたが実際に取り組んでいる活動はありますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。また、取り組んでいる各活動に関し、活動場所、活動頻度、活動時間、活動理由それぞれについて、当てはまる番号すべてに○をつけてください。(学習活動内容と活動場所の()には、具体的な内容をお書きください)

1) 取り組んでいる学習活動

取り組んでいる学習活動内容について質問したところ、全体では、「趣味・教養（文化芸術関連）」が最も多く、18.0%であった。

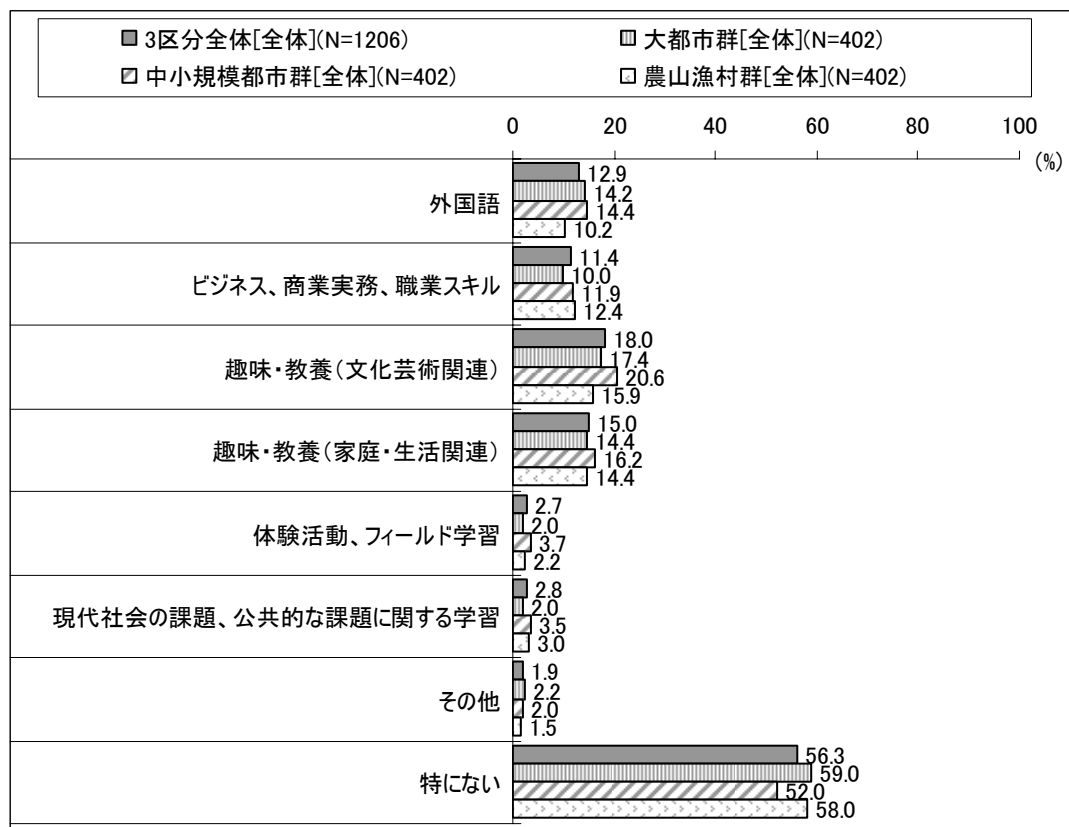
年代別にみると、20-30代、40-50代では、「趣味・教養（家庭・生活関連）」が最も多く、それぞれ20-30代が20.6%、40-50代が15.9%であった。一方、60代以上では、「趣味・教養（文化芸術関連）」が22.6%と最も多かった。

図表2-2. 取り組んでいる学習活動内容(年代別)



地域規模別にみると、大都市群、中小規模都市群、農山漁村群すべてで「趣味・教養（文化芸術関連）」の回答が最も多く、大都市群は 17.4%、中小規模都市群は 20.6%、農山漁村群は 15.9%であった。

図表2-3.対象者が取り組んでいる学習活動内容(地域規模別)



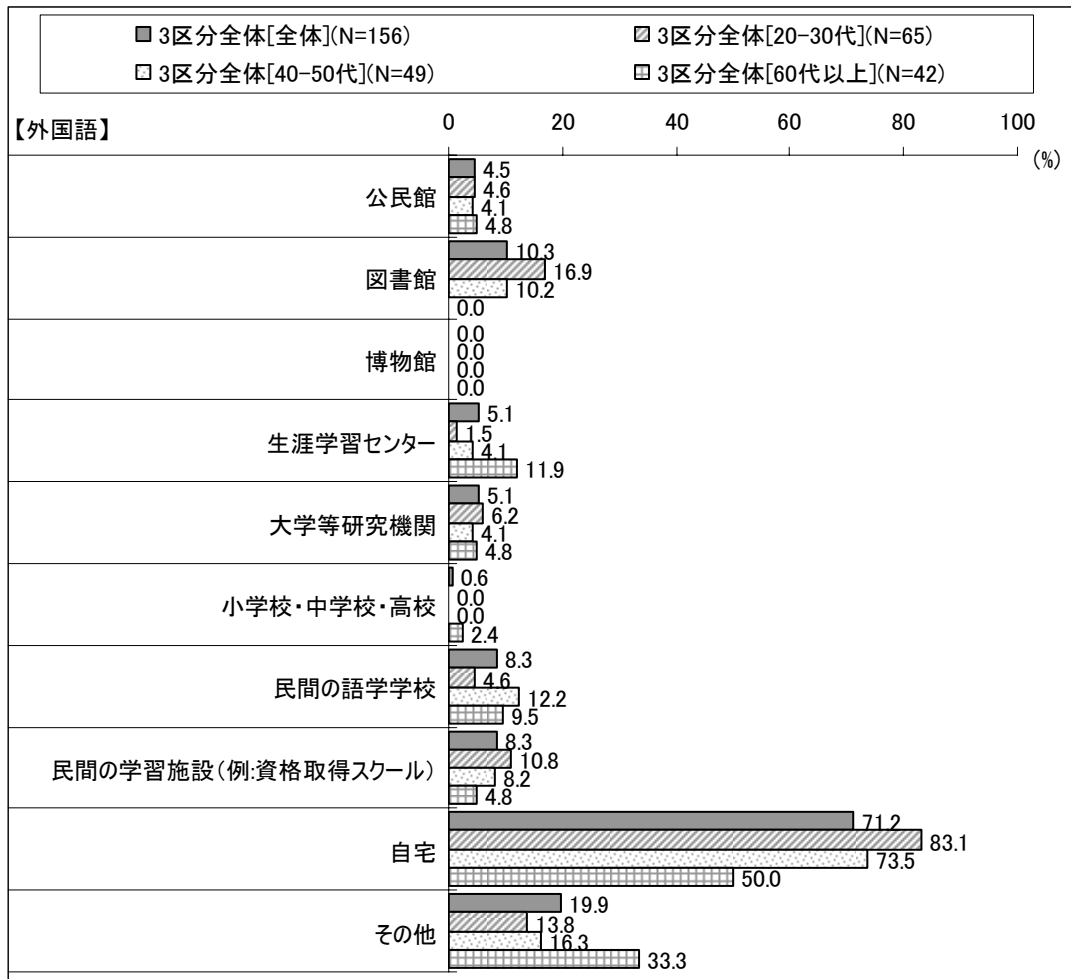
2) 活動場所

【外国語】

外国語に関して、その活動場所を質問したところ、全体では、「自宅」が最も多く、71.2%であった。

年代別にみると、すべての年代で「自宅」の回答が最も多かった。次いで多かった回答は、20-30代では「図書館」が16.9%、40-50代では「民間の語学施設」が12.2%、60代以上では「生涯学習センター」11.9%であった。

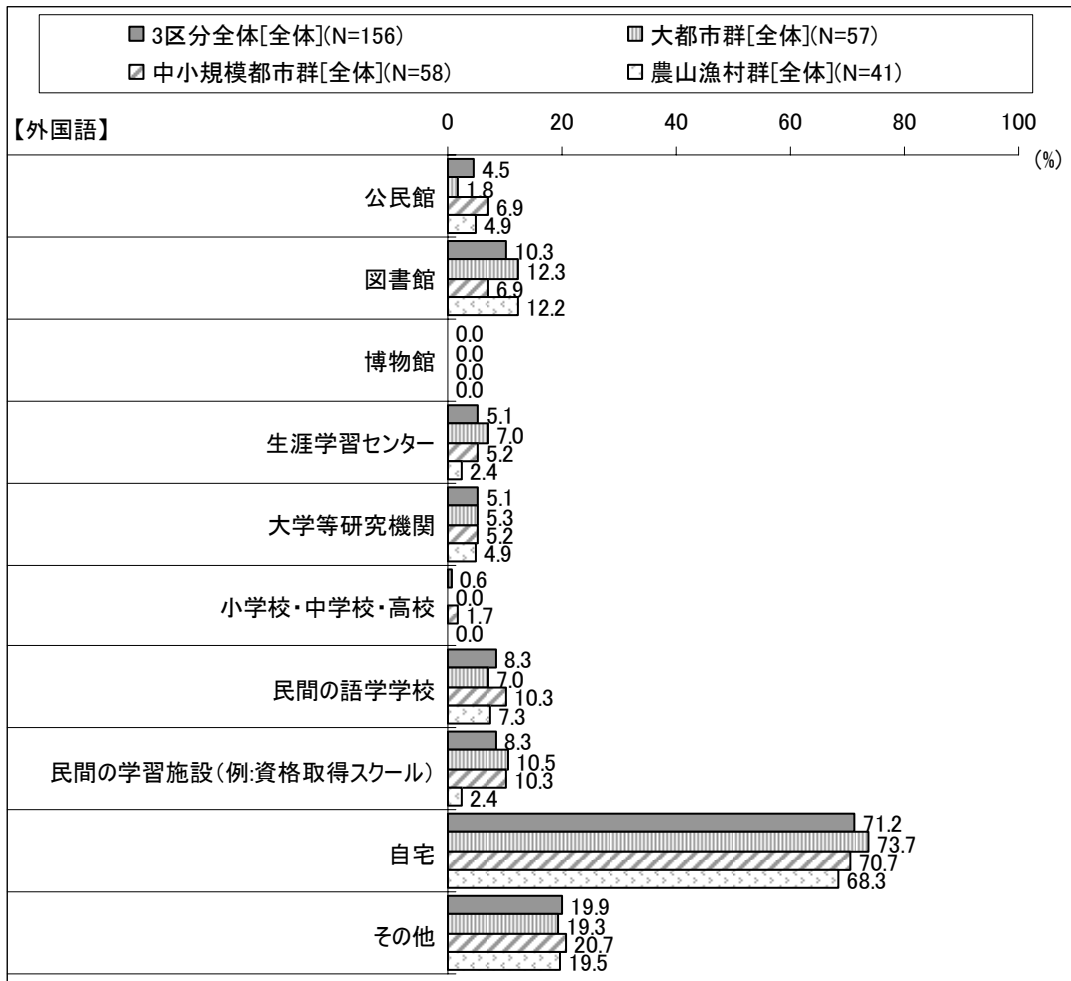
図表2-4. 外国語を学ぶ場所(年代別)



地域規模別にみると、すべての地域で最も多かった回答は「自宅」であり、大都市群が73.7%、中小規模都市群が70.7%、農山漁村群が68.3%であった。

地域規模別に年代ごとの回答をみてみると、大都市群では「自宅」の次に多く得た回答として、20-30代の21.4%が「図書館」、40-50代の21.4%が「民間の語学スクール」、60代以上の26.7%が「生涯学習センター」を挙げていた。また、農山漁村群の60代以上では、「民間の語学スクール」が22.2%であった。

図表2-5. 外国語を学ぶ場所(地域規模別)

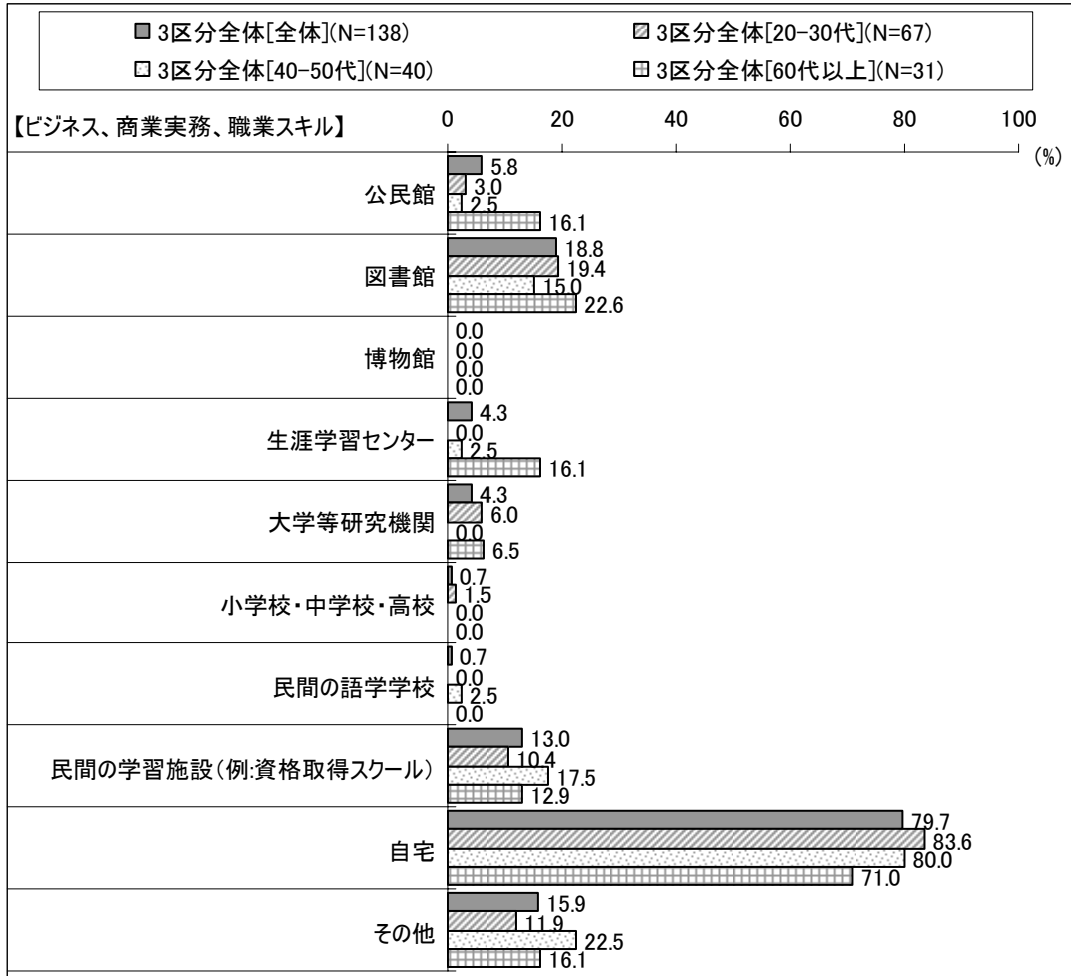


【ビジネス、商業実務、職業スキル】

ビジネス、商業実務、職業スキルに関して、その活動場所を質問したところ、全体では、「自宅」が最も多く、79.7%であった。

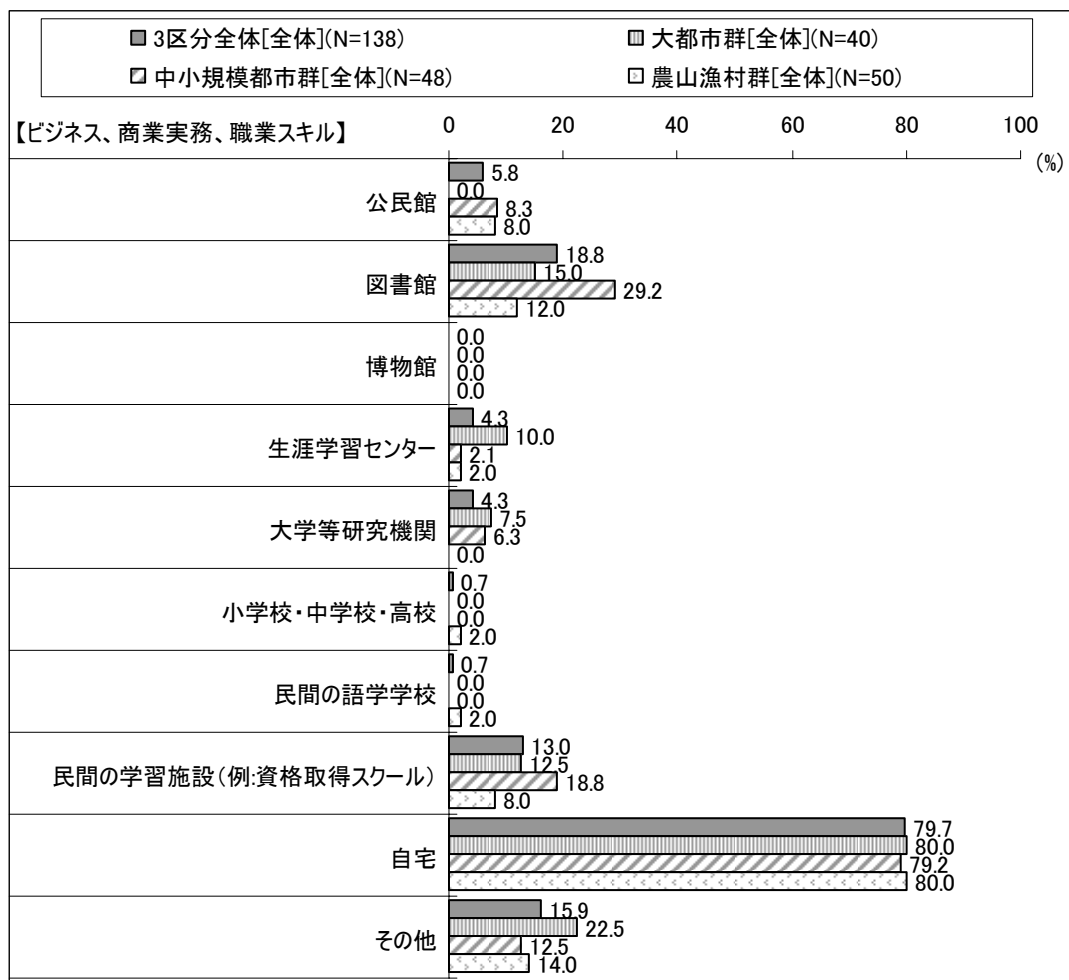
年代別にみると、すべての年代で「自宅」の回答が最も多かった。次いで多かった回答は、20-30代では「図書館」が19.4%、40-50代では「民間の語学施設」が17.5%、60代以上では「図書館」が22.6%であった。

図表2-6. ビジネス、商業実務、職業スキルを学ぶ場所(年代別)



地域規模別にみると、すべての地域で「自宅」の回答が最も多く、大都市群が 80.0%、中小規模都市群が 79.2%、農山漁村群が 80.0%であった。次いで回答が多かったのは、すべての地域で「図書館」であった。

図表2-7.ビジネス、商業実務、職業スキルを学ぶ場所(地域規模別)

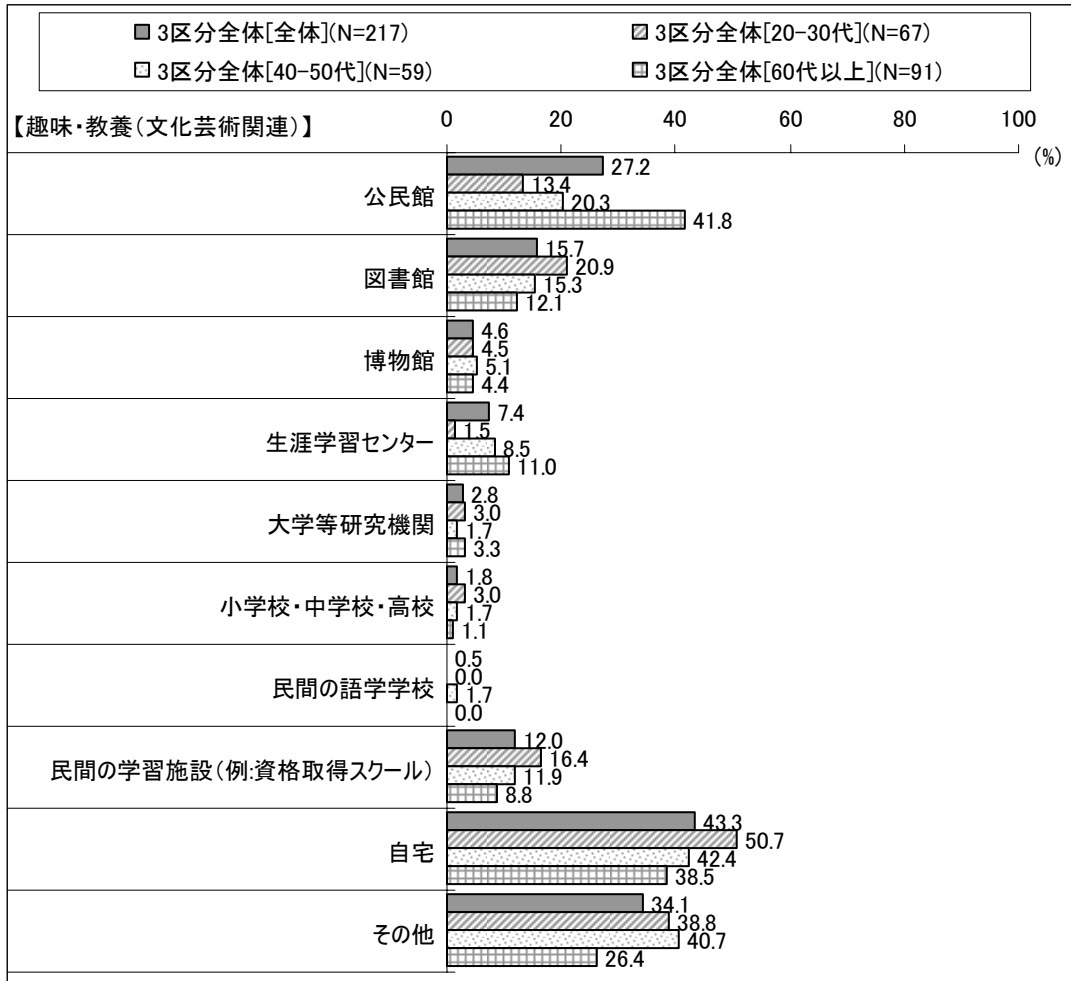


【趣味・教養（文化芸術関連）】

趣味・教養（文化芸術関連）に関して、その活動場所を質問したところ、全体では、「自宅」が最も多く 43.3%、次いで「公民館」が 27.2%であった。

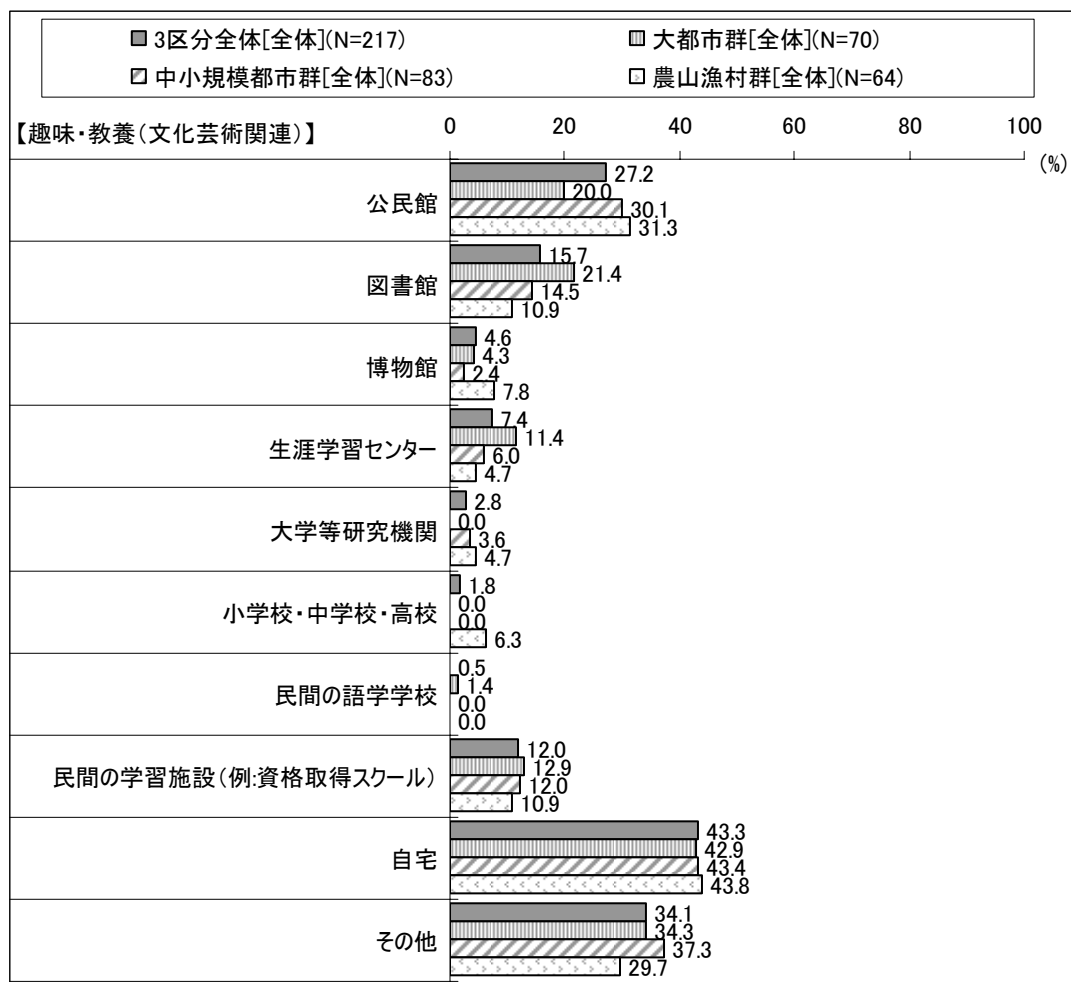
年代別にみると、20-30 代、40-50 代で「自宅」が最も多く、20-30 代が 50.7%、40-50 代では 42.4%であった。一方で、60 代以上では「公民館」が 41.8%で最も多かった。

図表2-8. 趣味・教養(文化芸術関連)を学ぶ場所(年代別)



地域規模別にみると、すべての地域で「自宅」が最も多かった。次いで多かった回答は、大都市群が「図書館」21.4%、中小規模都市群が「公民館」30.1%、農山漁村群が「公民館」31.3%であった。

図表2-9. 趣味・教養(文化芸術関連)を学ぶ場所(地域規模別)

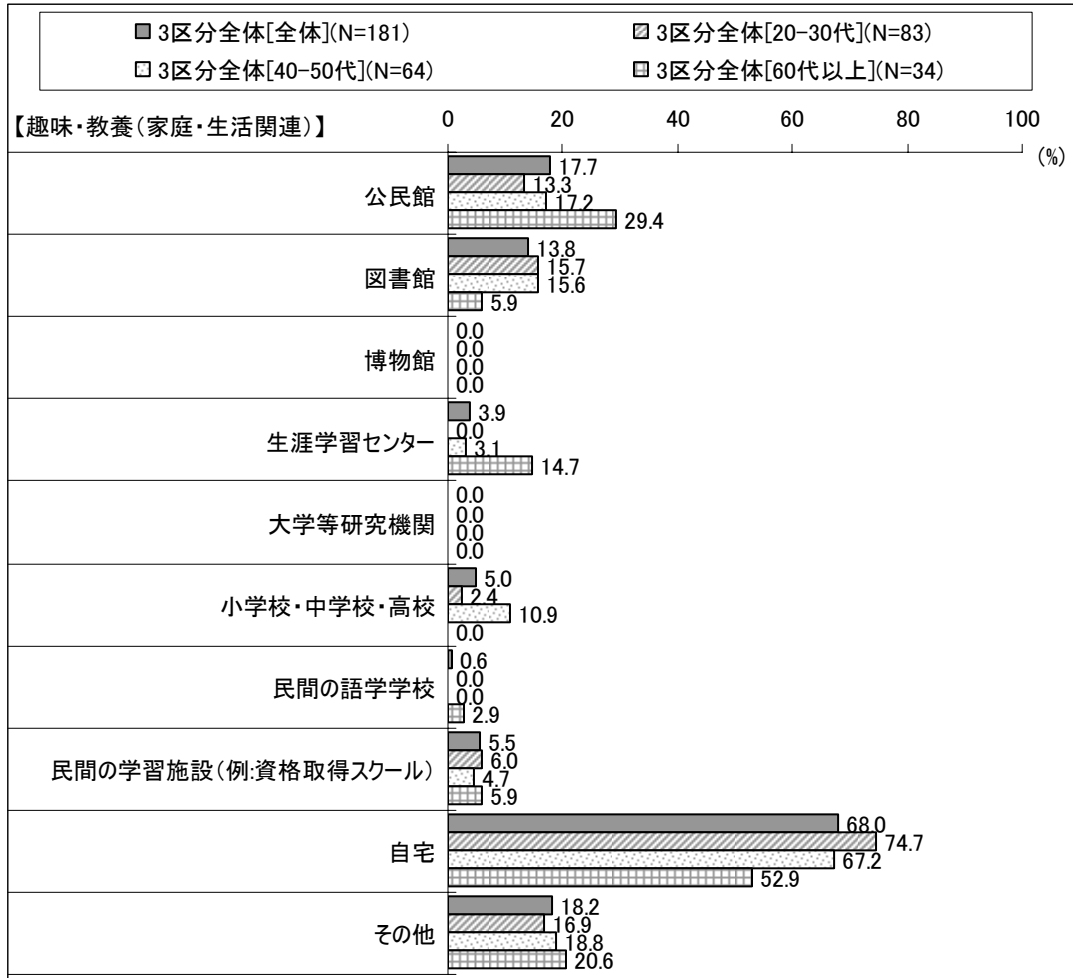


【趣味・教養（家庭・生活関連）】

趣味・教養（家庭・生活関連）に関して、その活動場所を質問したところ、全体では、「自宅」が最も多く 68.0%であった。

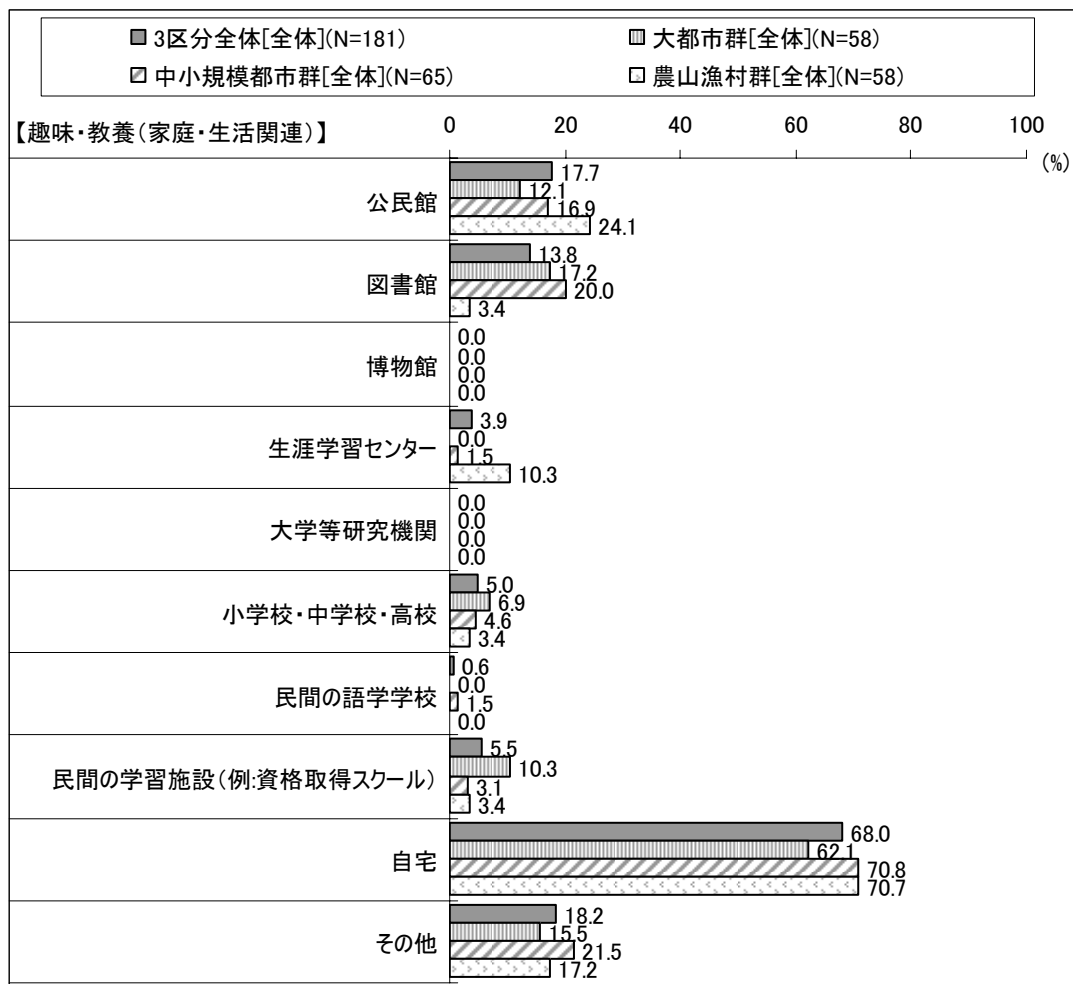
年代別にみると、すべての年代で「自宅」が最も多かった。次いで多かった回答は、20-30代では「図書館」が 15.7%、40-50代では「公民館」が 17.2%、60代以上が「公民館」29.4%であった。

図表2-10.趣味・教養(家庭・生活関連)を学ぶ場所(年代別)



地域規模別にみると、すべての地域で「自宅」が最も多かった。次いで多かった回答は、大都市群が「図書館」17.2%、中小規模都市群が「公民館」20.0%、農山漁村群が「公民館」24.1%であった。

図表2-11.趣味・教養(家庭・生活関連)を学ぶ場所(地域規模別)

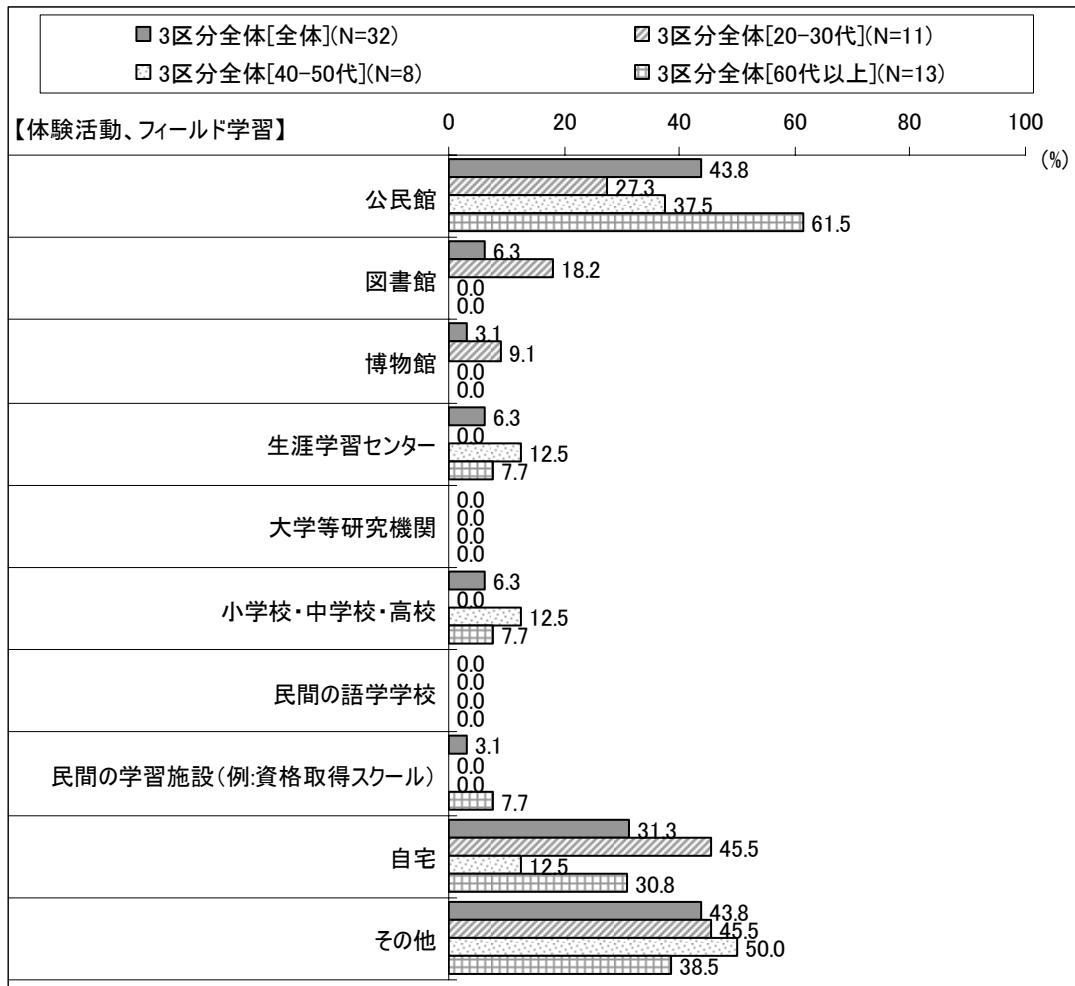


【体験活動、フィールド学習】

体験活動、フィールド学習に関して、その活動場所を質問したところ、全体では、「公民館」が最も多く43.8%、次いで「自宅」が31.3%であった。

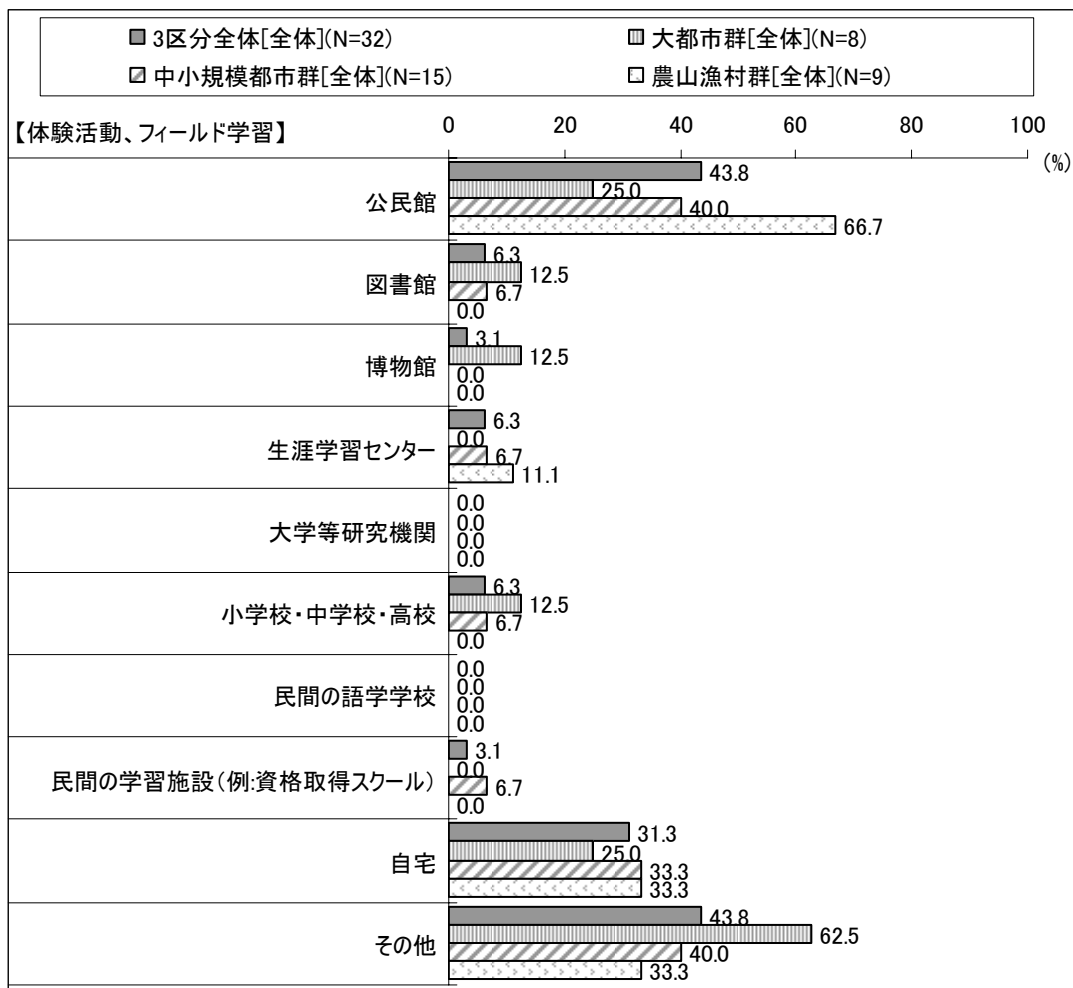
年代別にみると、最も多かった回答は、20-30代では「自宅」が45.5%、40-50代では「公民館」が37.5%、60代以上が「公民館」61.5%であった。

図表2-12.体験活動、フィールド学習を学ぶ場所(年代別)



地域規模別にみると、最も多かった回答は、大都市群では「公民館」及び「自宅」が25.0%、中小規模都市群では「公民館」40.0%、農山漁村群では「公民館」66.7%であった。

図表2-13.体験活動、フィールド学習を学ぶ場所(地域規模別)

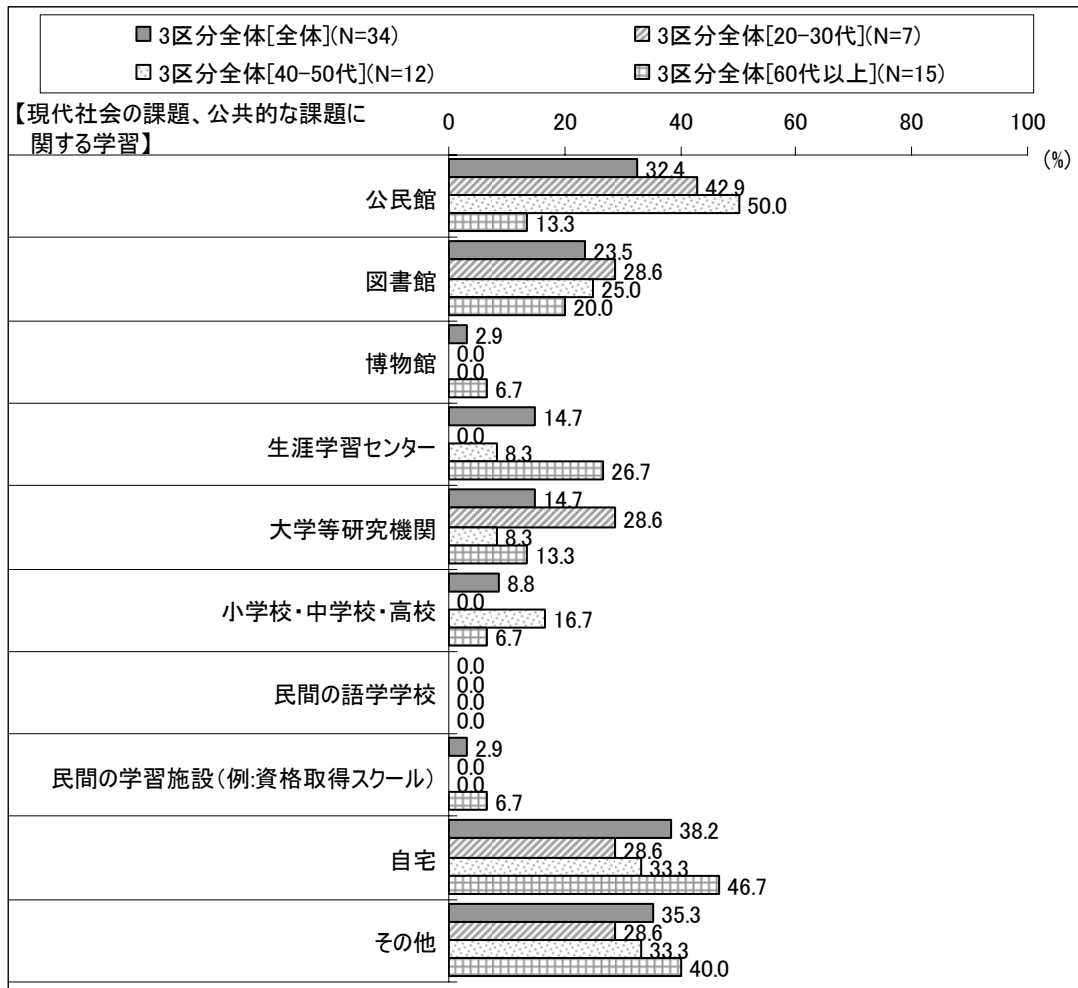


【現代社会の課題、公共的な課題に関する学習】

現代社会の課題、公共的な課題に関する学習に関して、その活動場所を質問したところ、全体では、「自宅」が最も多く 38.2%、次いで「公民館」が 32.4%であった。

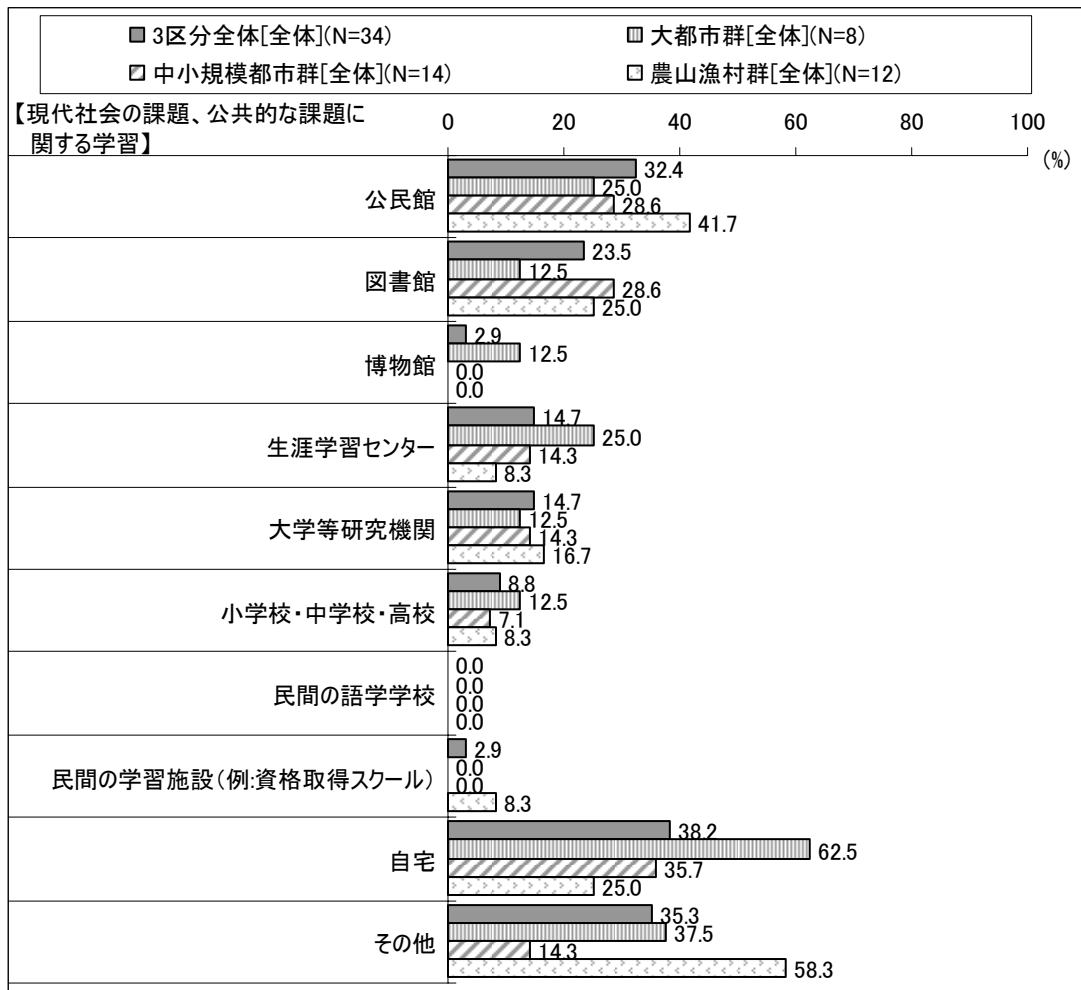
年代別にみると、最も多かった回答は、20-30代では「公民館」が 42.9%、40-50代では「公民館」が 50.0%、60代以上では「自宅」46.7%であった。

図表2-14.現代社会の課題、公共的な課題に関する学習を学ぶ場所(年代別)



地域規模別にみると、大都市圏では「自宅」が 62.5%、中小規模都市圏では「自宅」が 35.7%、農山漁村圏では「公民館」が 41.7%と最も多かった。

図表2-15.現代社会の課題、公共的な課題に関する学習を学ぶ場所(地域規模別)



3) 活動頻度

外国語に関して、その活動頻度を質問したところ、全体では、「週に1~2日程度」が最も多く、42.9%であった。年代別にみると、すべての年代で「週に1~2日程度」が最も多く、20-30代では43.1%、40-50代では38.8%、60代以上では47.6%であった。

ビジネス、商業実務、職業スキルに関して、その活動頻度を質問したところ、全体では、「週に1~2日程度」が最も多く、38.4%であった。年代別にみると、20-30年代で「週3日以上」が最も多く、38.8%であったのに対し、40-50代及び60代以上では「週1~2日程度」が最も多く、40-50代が40.0%、60代以上が41.9%であった。

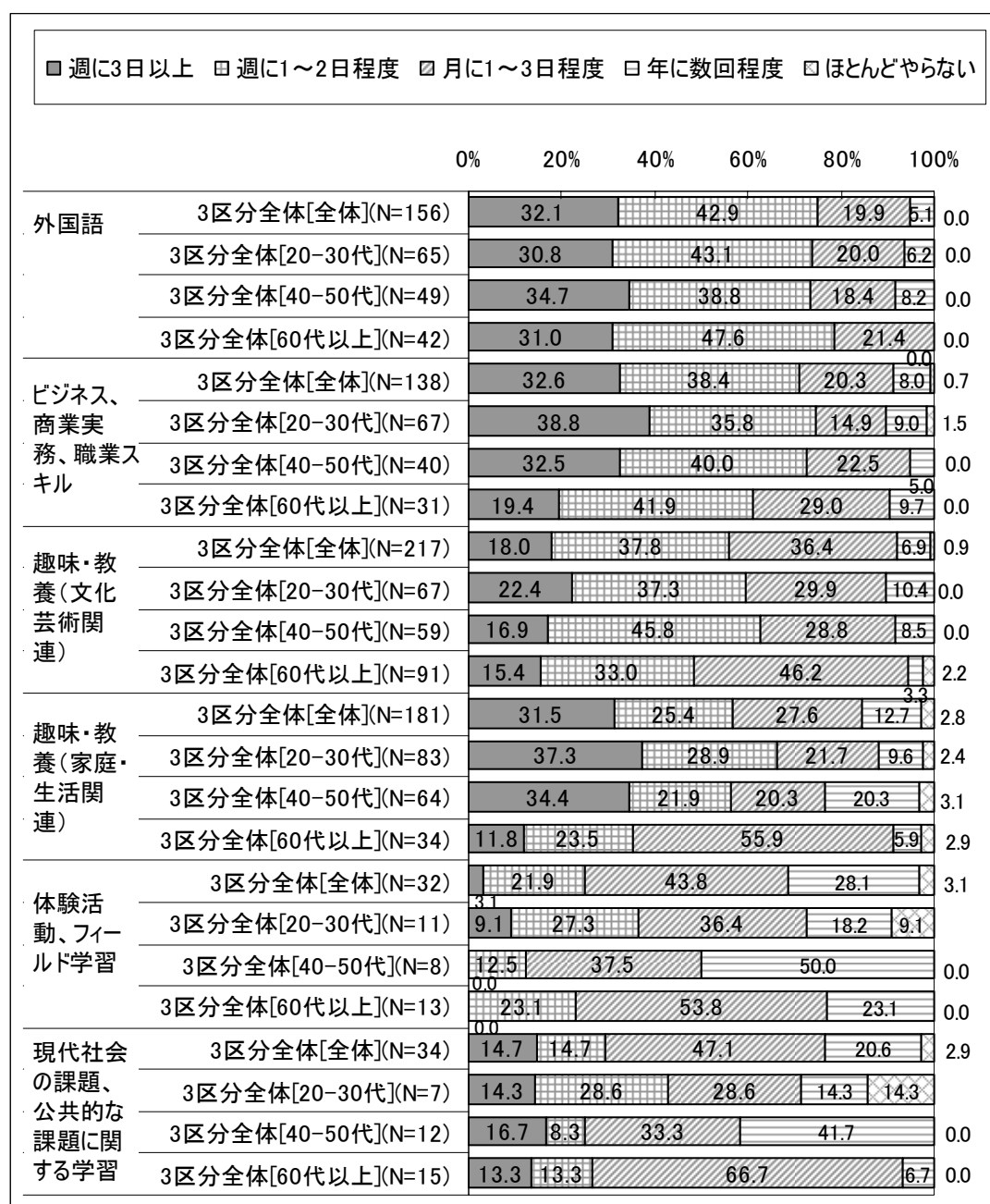
趣味・教養（文化芸術関連）に関して、その活動頻度を質問したところ、全体では、「週に1~2日程度」が最も多く、37.8%であった。年代別にみると、20-30代では「週に1~2日程度」が37.3%、40-50代では「週に1~2日程度」が45.8%、60代以上では「月に1~3日程度」が46.2%で最も多かった。

趣味・教養（家庭・生活関連）に関して、その活動頻度を質問したところ、全体では、「週に3日以上」が最も多く、31.5%であった。年代別にみると、20-30代及び40-50代では「週に3日以上」が最も多く、20-30代が37.3%、40-50代が34.4%であったのに対し、60代以上では「月に1~3回程度」が55.9%と最も多かった。

体験活動、フィールド学習に関して、その活動頻度を質問したところ、全体では、「月に1～3日程度」が最も多く、43.8%であった。年代別にみると、20～30代では「月に1～3日程度」が36.4%、40～50代では「年に数回程度」が50.0%、60代以上では「月に1～3日程度」が53.8%で最も多かった。

現代社会の課題、公共的な課題に関する学習に関して、その活動頻度を質問したところ、全体では、「月に1～3日程度」が最も多く、47.1%であった。年代別にみると、20～30代では「週に1～2回程度」及び「月に1～3日程度」が28.6%、40～50代では「年に数回程度」が41.7%、60代以上では「月に1～3日程度」が66.7%で最も多かった。

図表2-16.学ぶ頻度(年代別)



外国語について、地域規模別にみると、すべての地域で最も多かった回答は「週 1～2 日程度」であり、大都市群が 42.1%、中小規模都市群が 46.6%、農山漁村群が 39.0%であった。

ビジネス、商業実務、職業スキルについて、地域規模別にみると、大都市群及び農山漁村群では「週に 1～2 日程度」が最も多く、大都市群で 47.5%、農山漁村群で 40.0%であったのに対し、中小規模都市群では「週に 3 日以上」が 41.7%で最も多かった。

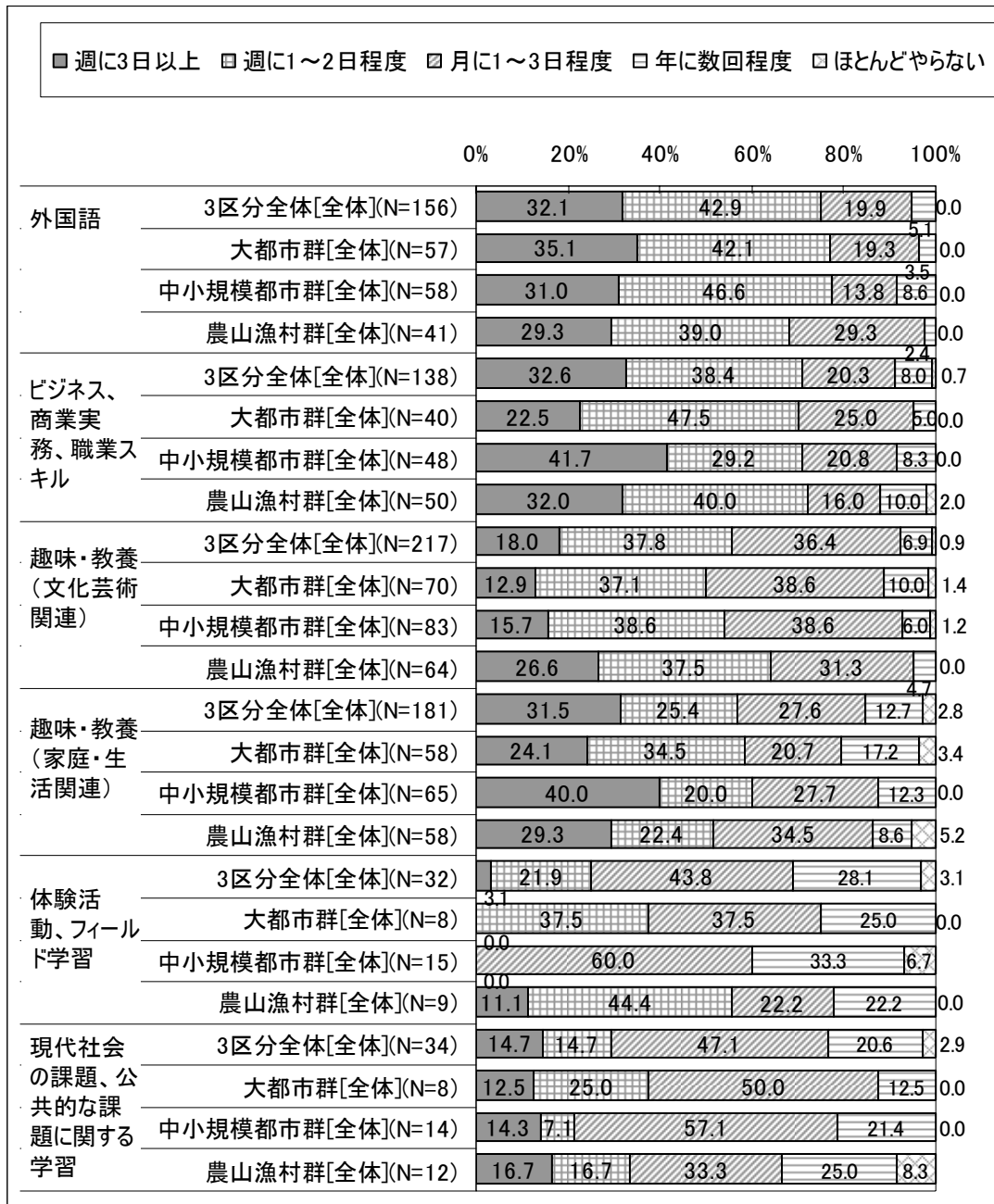
趣味・教養（文化芸術関連）について、地域規模別にみると、大都市群では「月に 1～3 日程度」が 38.6%、中小規模都市群では「週 1～2 日程度」及び「月に 1～3 日程度」が 38.6%、農山漁村群では「週 1～2 日程度」が 37.5%であった。

趣味・教養（家庭・生活関連）について、地域規模別にみると、最も回答が多かったのは、大都市群では「週に 1～2 に日程度」の 34.5%、中小規模都市群では「週に 3 日以上」の 40.0%、農山漁村群では「月に 1～3 日程度」の 34.5%であった。

体験活動、フィールド学習について、地域規模別にみると、大都市群では「週に 1～2 回程度」及び「月に 1～3 日程度」が 37.5%で最も多く、中小規模都市群では「月に 1～3 日程度」が 60.0%、農山漁村群では「週に 1～2 回程度」が 44.4%で最も多かった。

現代社会の課題、公共的な課題に関する学習について、地域規模別にみると、すべての地域で「月に 1～3 回程度」が最も多く、大都市群では 50.0%、中小規模都市群では 57.1%、農山漁村群では 33.3%であった。

図表2-17.学ぶ頻度(地域規模別)



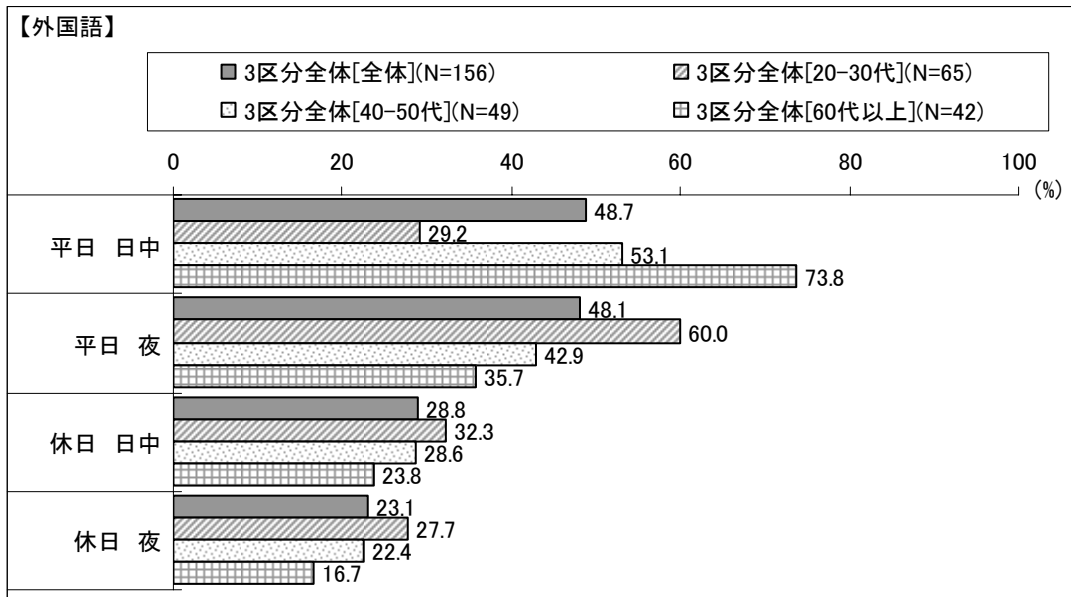
4) 活動時間

【外国語】

外国語に関して、その活動時間を質問したところ、全体では、「平日 日中」が最も多く、48.7%、次いで「平日 夜」が48.1%であった。

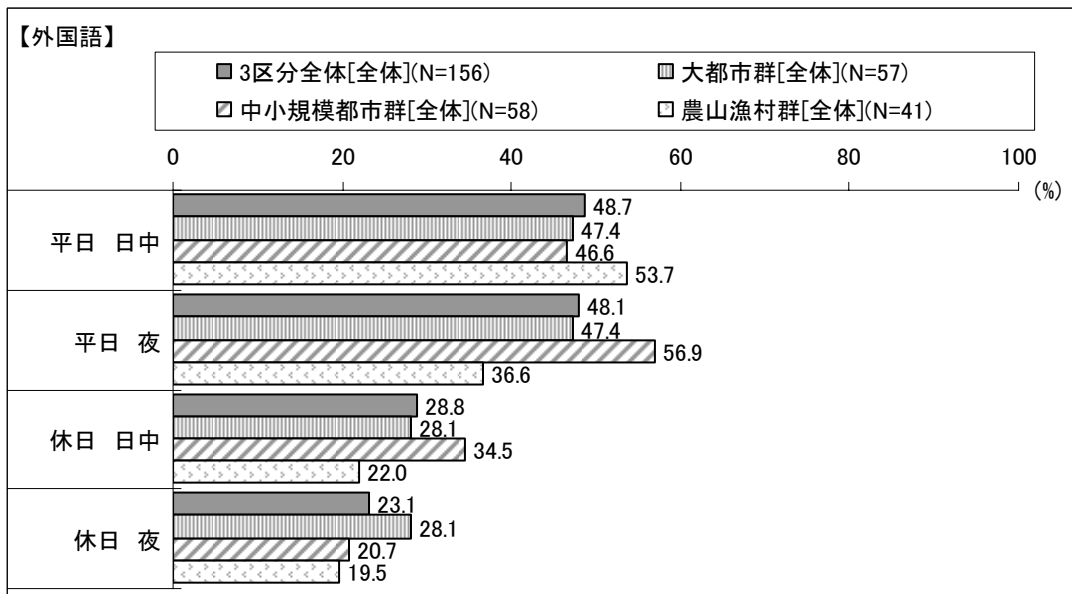
年代別にみると、20-30代では「平日 夜」が60.0%と最も多かったのに対し、40-50代及び、60代以上では「平日 日中」の回答が最も多く、40-50代が53.1%、60代以上では73.8%であった。

図表2-18.外国語を学ぶ時間(年代別)



地域規模別にみると、大都市群では「平日 日中」及び「平日 夜」の回答が最も多く、47.4%であった。一方、中小規模都市群では「平日 夜」が56.9%と最も多く、農山漁村群では「平日 日中」が53.7%であった。

図表2-19.外国語を学ぶ時間(地域規模別)

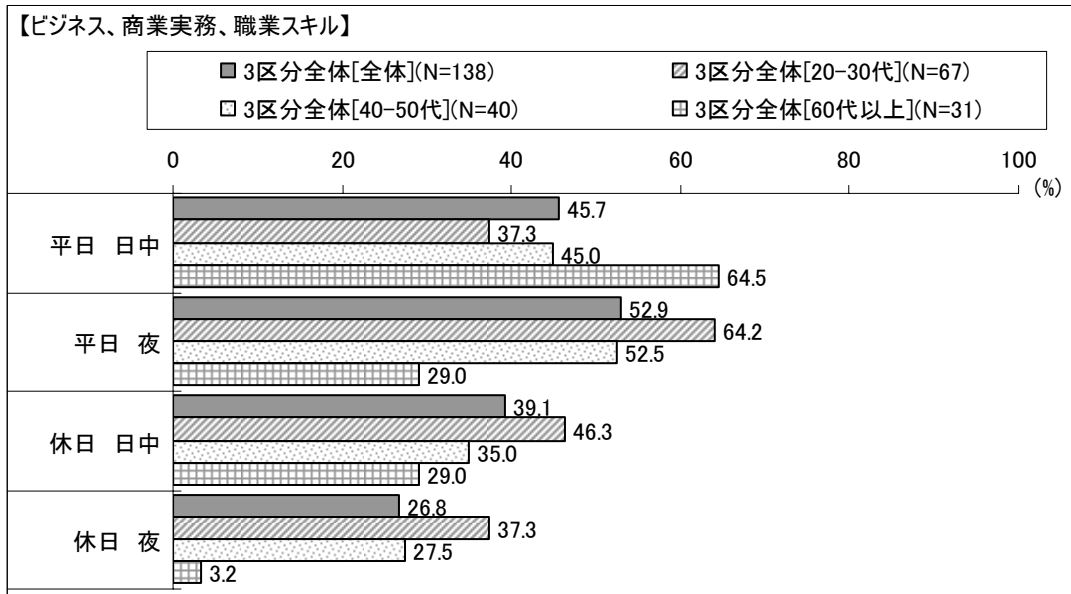


【ビジネス、商業実務、職業スキル】

ビジネス、商業実務、職業スキルに関して、その活動時間を質問したところ、全体では「平日 夜」が52.9%で最も多かった。

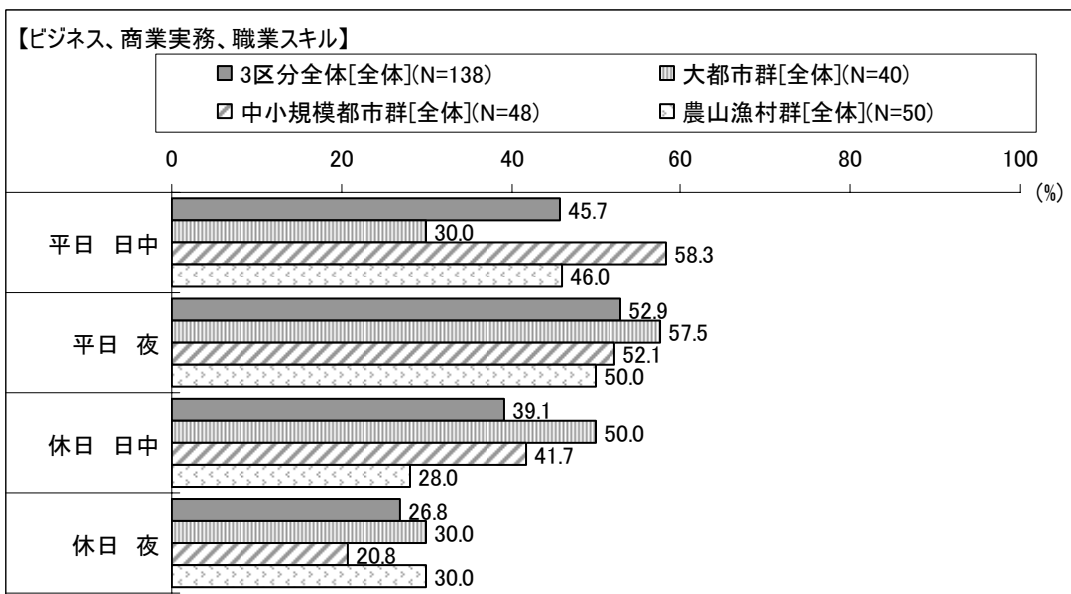
年代別にみると、20-30代及び40-50代では「平日 夜」が最も多く、20-30代が64.2%、40-50代が52.5%であった。60代以上では「平日 日中」の回答が最も多く、64.5%であった。

図表2-20.ビジネス、商業実務、職業スキルを学ぶ時間(年代別)



地域規模別にみると、大都市圏では「平日 夜」が57.5%と最も多く、中小規模都市圏では「平日 日中」が58.3%、農山漁村圏では「平日 夜」が50.0%で最も多かった。

図表2-21.ビジネス、商業実務、職業スキルを学ぶ時間(地域規模別)

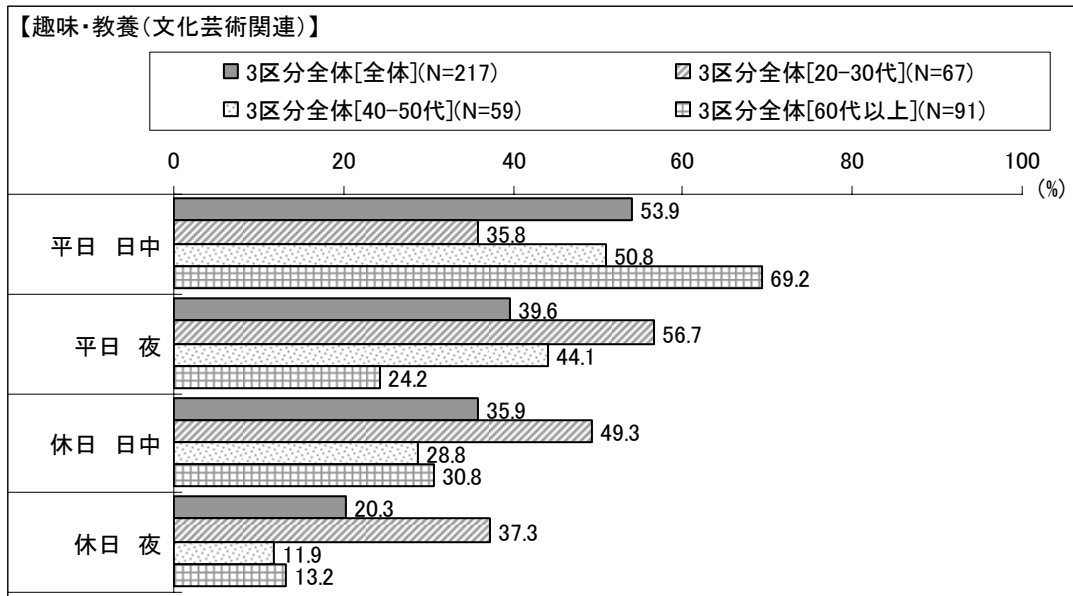


【趣味・教養（文化芸術関連）】

趣味・教養（文化芸術関連）に関して、その活動時間を質問したところ、全体では「平日 日中」が53.9%で最も多かった。

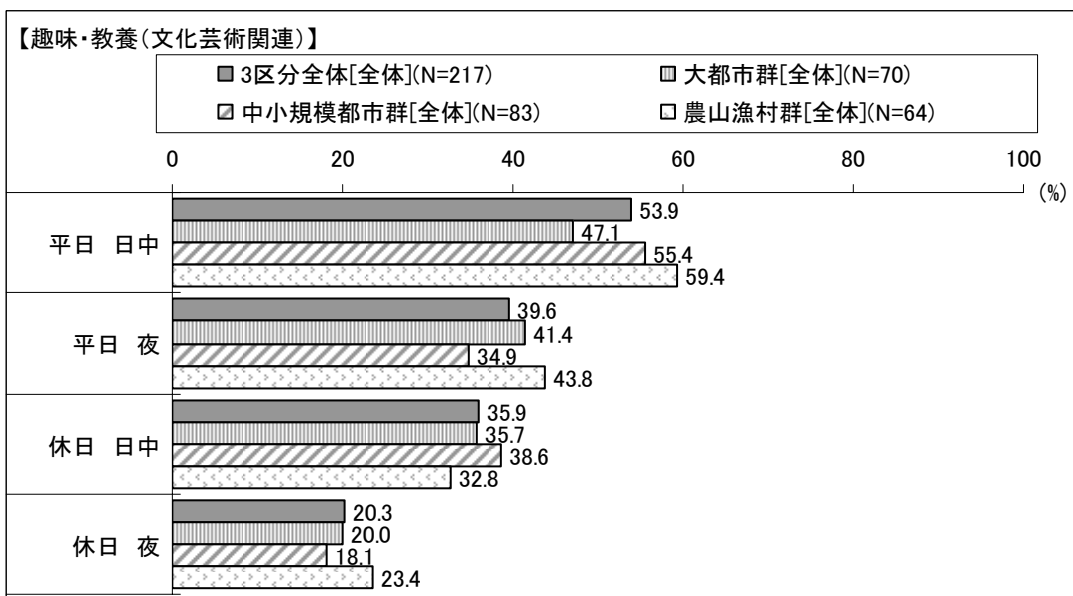
年代別にみると、20-30代では「平日 夜」が56.7%と最も多かったのに対し、40-50代では「平日 日中」が50.8%で最も多かった。60代以上でも最も多かった回答は、「平日 日中」の69.2%であった。

図表2-22.趣味・教養(文化芸術関連)を学ぶ時間(年代別)



地域規模別にみると、すべての地域において「平日 日中」の回答が最も多く、大都市群が47.1%、中小規模都市群が55.4%、農山漁村群が59.4%であった。

図表2-23.趣味・教養(文化芸術関連)を学ぶ時間(地域規模別)

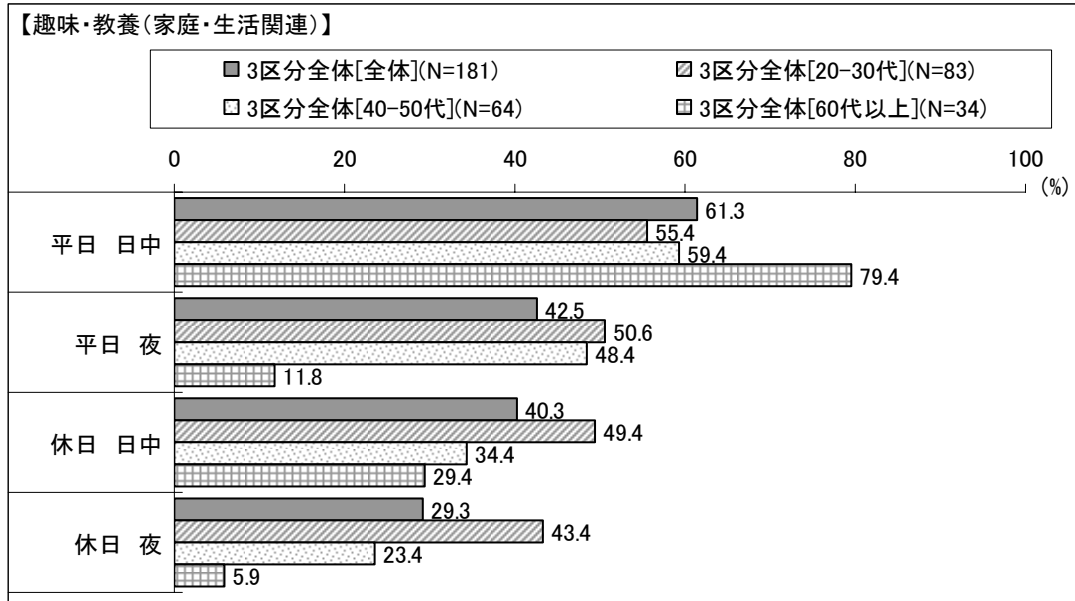


【趣味・教養（家庭・生活関連）】

趣味・教養（家庭・生活関連）に関して、その活動時間を質問したところ、全体では「平日 日中」が61.3%で最も多かった。

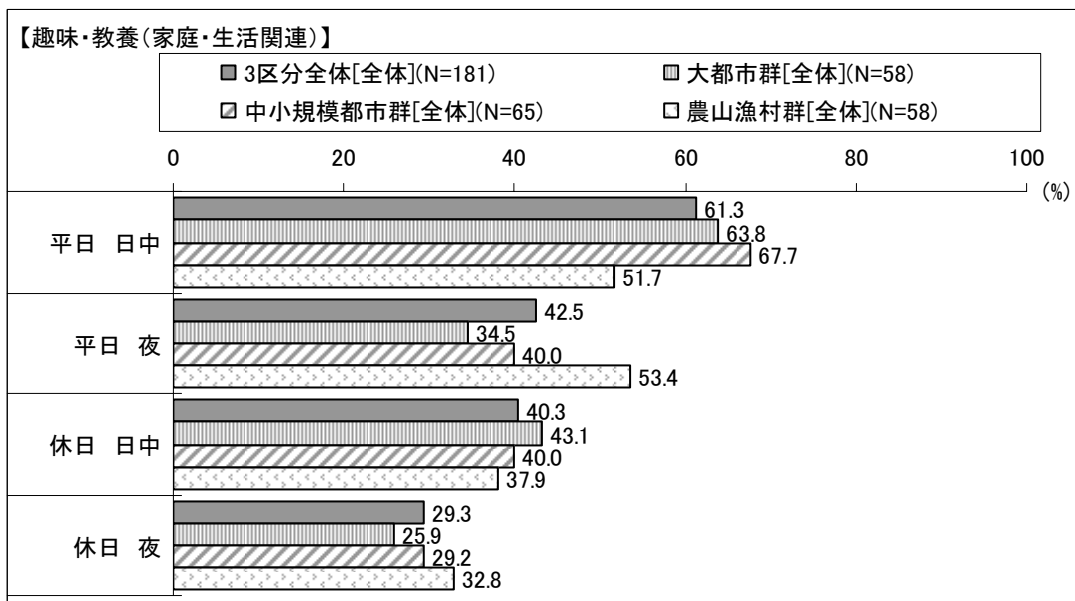
年代別にみると、すべての年代で「平日 日中」の回答が最も多かった。次いで多かった回答は、20-30代では「平日 夜」が50.6%であり、40-50代では「平日 夜」が48.4%、60代以上では「休日 日中」が29.4%であった。

図表2-24.趣味・教養(家庭・生活関連)を学ぶ時間(年代別)



地域規模別にみると、大都市群及び中小規模都市群で「平日 日中」の回答が最も多く、大都市群が63.8%、中小規模都市群が67.7%であった。一方、農山漁村群では「平日 夜」が53.4%で最も多かった。

図表2-25.趣味・教養(家庭・生活関連)を学ぶ時間(地域規模別)

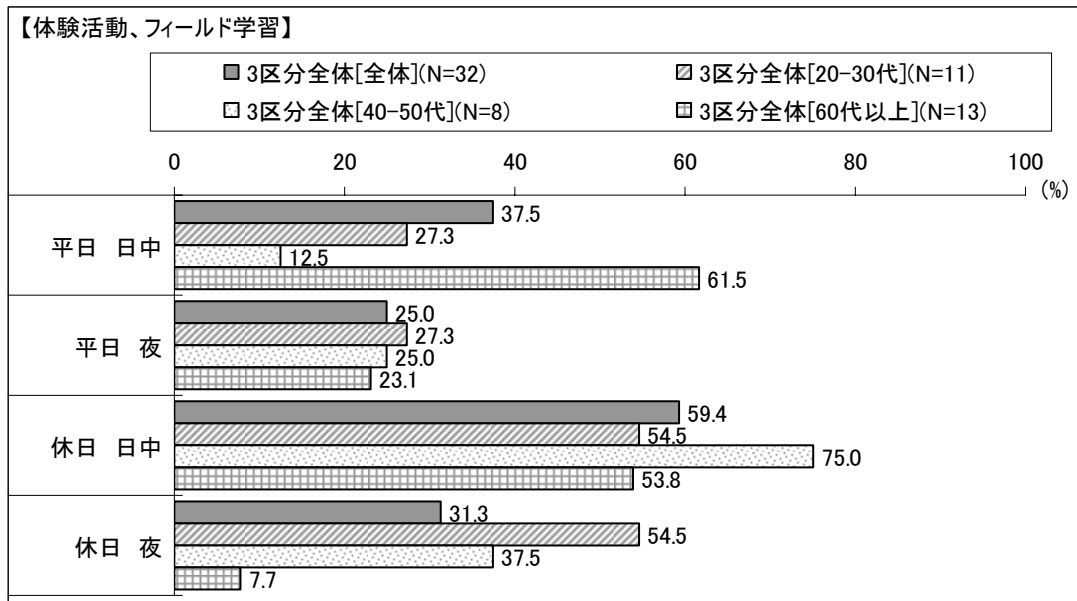


【体験活動、フィールド活動】

体験活動、フィールド活動に関して、その活動時間を質問したところ、全体では「休日 日中」が59.4%で最も多かった。

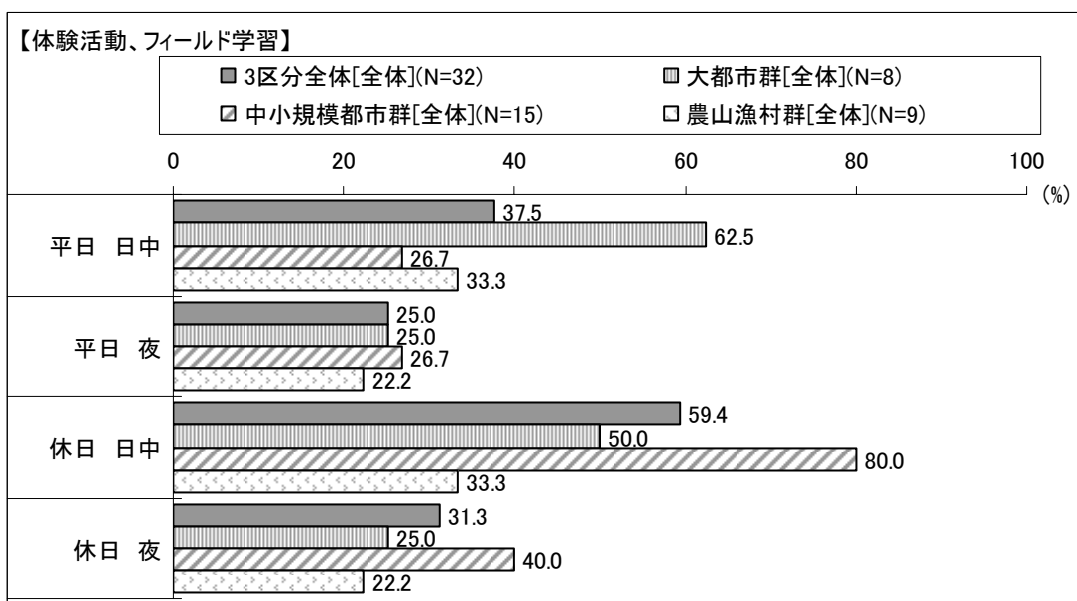
年代別にみると、20-30代については「休日 日中」及び「休日 夜」の回答が最も多く、54.5%であった。40-50代では「休日 日中」が75.0%で最も多かった。一方、60代以上では「平日 日中」が61.5%で最も多かった。

図表2-26.体験活動、フィールド活動を学ぶ時間(年代別)



地域規模別にみると、大都市群では「平日 日中」が62.5%と最も多く、中小規模都市群では「休日 日中」が80.0%で最も多かった。農山漁村群では「平日 日中」及び、「休日 日中」が33.3%で最も多い回答を得た。

図表2-27.体験活動、フィールド活動を学ぶ時間(地域規模別)

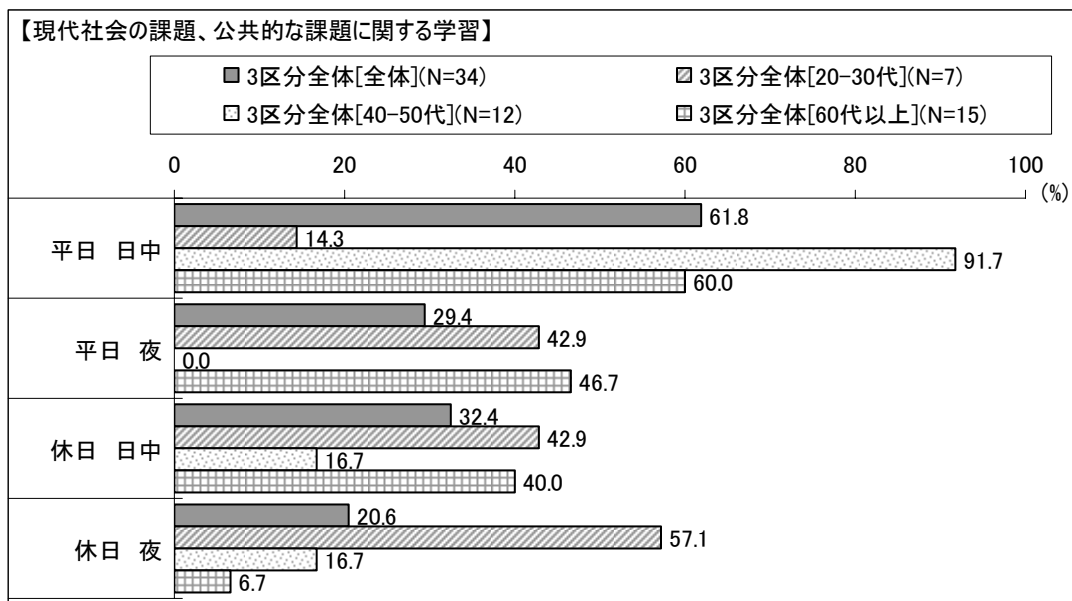


【現代社会の課題、公共的な課題に関する学習】

現代社会の課題、公共的な課題に関する学習に関して、その活動時間を質問したところ、全体では「平日 日中」が最も多く、61.8%であった。

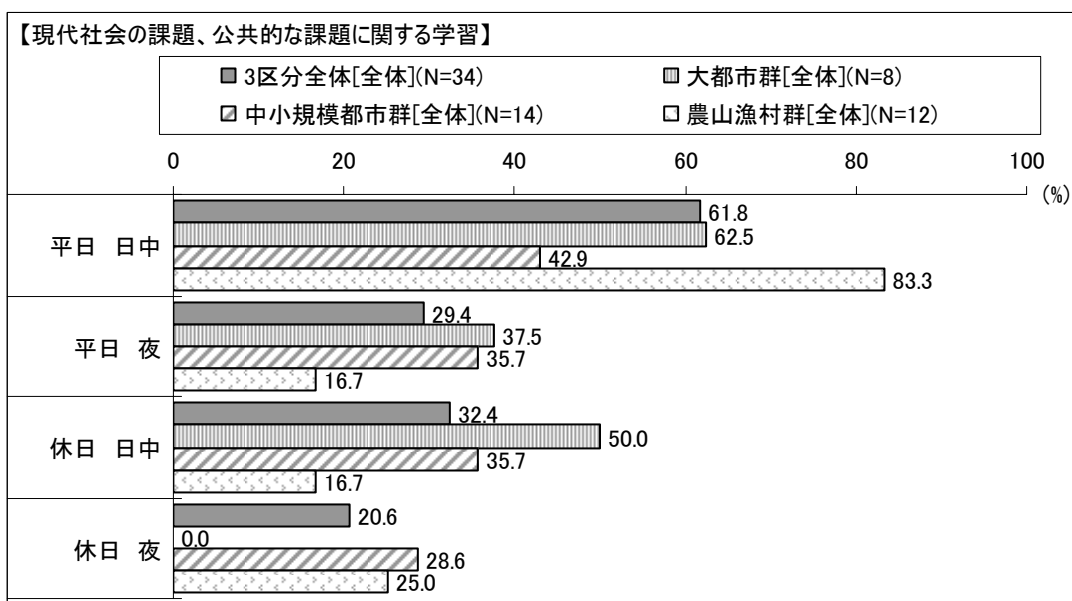
年代別にみると、20-30代については「休日 夜」が最も多く、57.1%、一方、40-50代では「平日 日中」が91.7%で最も多かった。また、60代以上でも「平日 日中」が最も多く、60.0%であった。

図表2-28.現代社会の課題、公共的な課題に関する学習を学ぶ時間(年代別)



地域規模別にみると、すべての地域で「平日 日中」が最も多く、大都市群が62.5%、中小規模都市群では42.9%、農山漁村群が83.3%であった。

図表2-29.現代社会の課題、公共的な課題に関する学習を学ぶ時間(地域規模別)



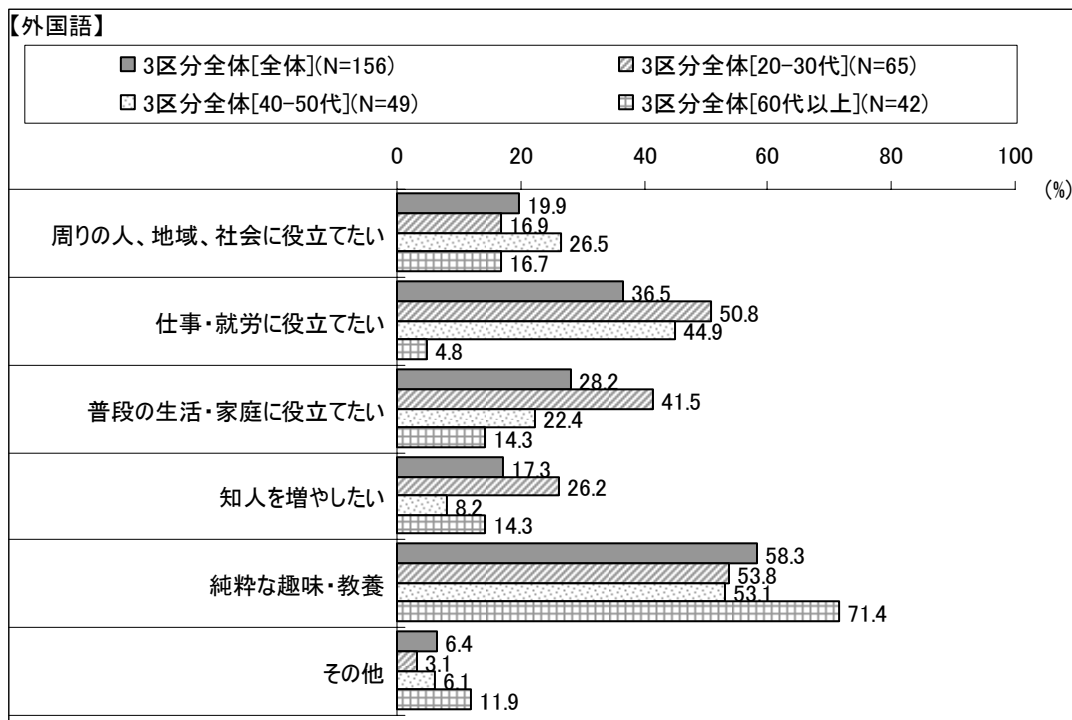
5) 活動理由

【外国語】

外国語に関して、その活動理由を質問したところ、全体では「純粋な趣味・教養」が最も多く、58.3%であった。

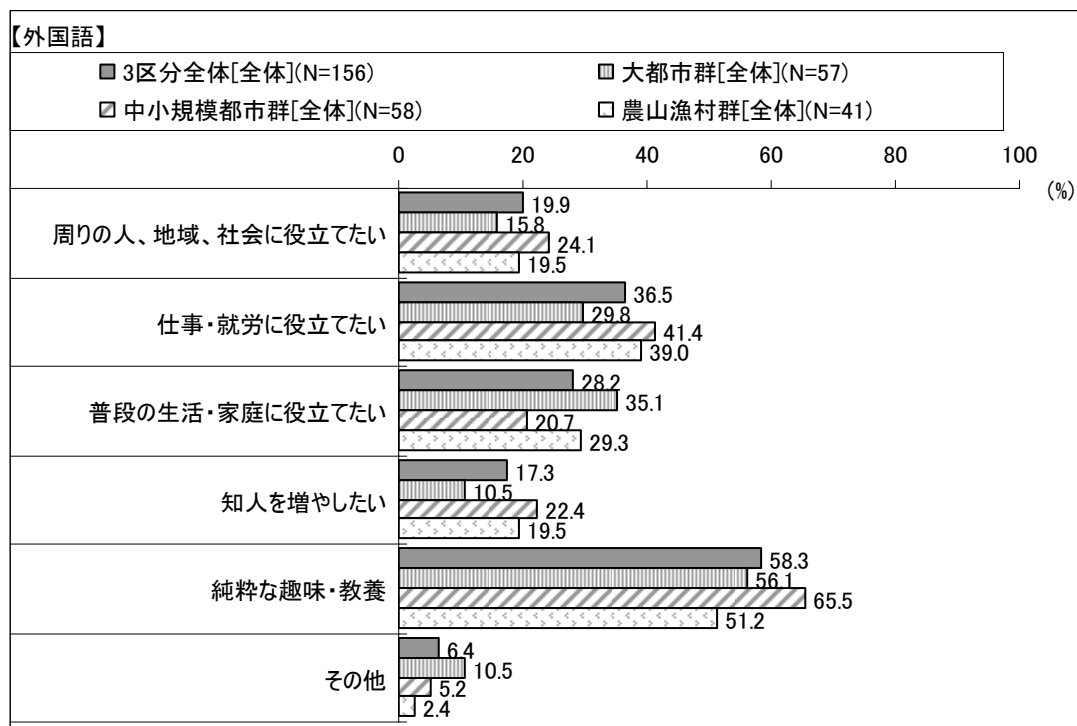
年代別にみると、すべての年代で「純粋な趣味・教養」が最も多く、20-30代が53.8%、40-50代が53.1%、60代以上が71.4%を示した。次いで多かった回答は、20-30代及び40-50代では「仕事・就労に役立てたい」であり、20-30代が50.8%、40-50代が44.9%であったが、60代以上は「周りの人、地域、社会に役立てたい」の16.7%であった。

図表2-30.外国語を学ぶ理由(年代別)



地域規模別にみると、すべての地域で「純粋な趣味・教養」が最も多く、大都市群が 56.1%、中小規模都市群では 65.5%、農山漁村群が 51.2%であった。

図表2-31.外国語を学ぶ理由(地域規模別)

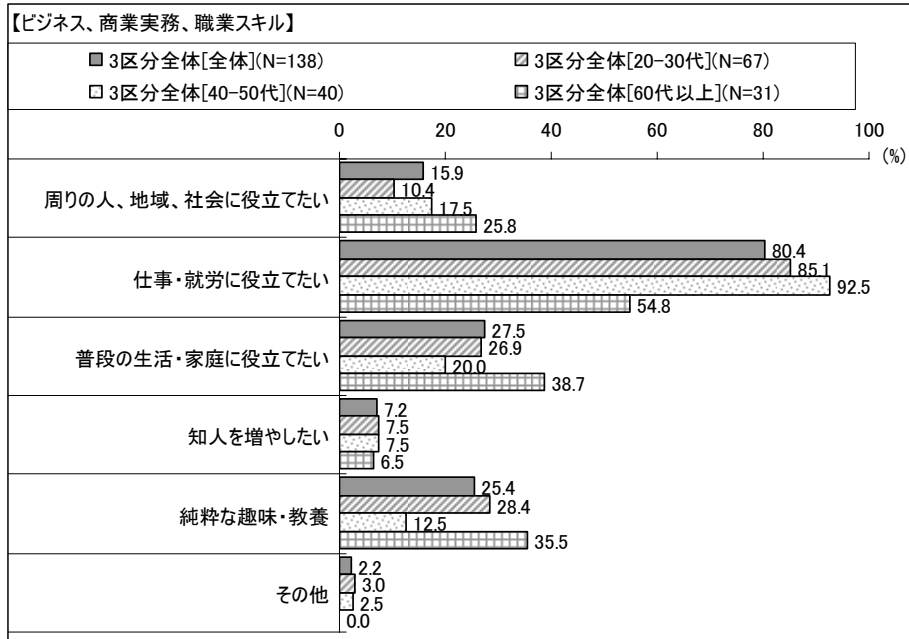


【ビジネス、商業実務、職業スキル】

ビジネス、商業実務、職業スキルに関して、その活動理由を質問したところ、全体では「仕事・就労に役立てたい」が最も多く、80.4%であった。

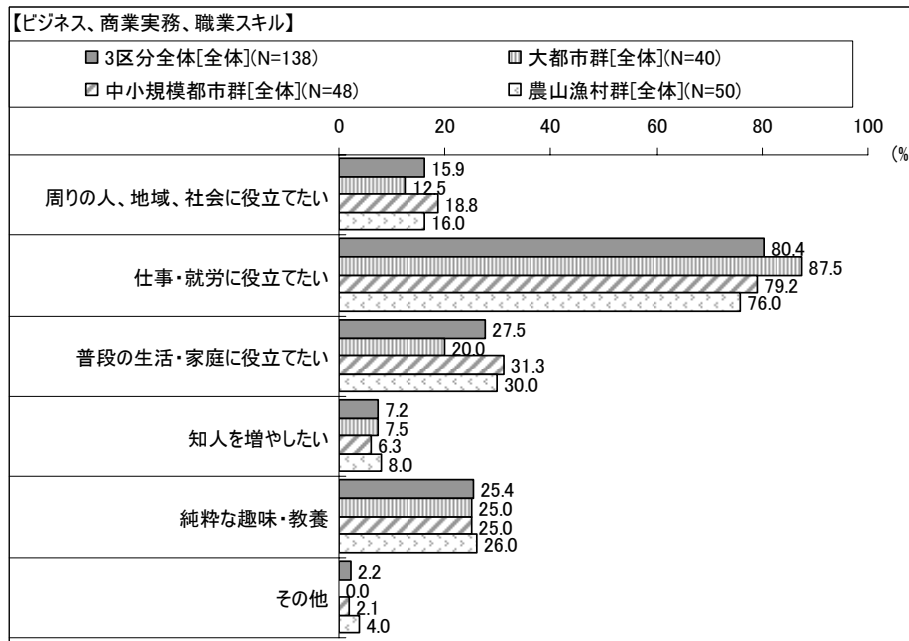
年代別にみると、すべての年代で「仕事・就労に役立てたい」が最も多く、20-30代が85.1%、40-50代が92.5%、60代以上が54.8%であった。

図表2-32.ビジネス、商業実務、職業スキルを学ぶ理由(年代別)



地域規模別にみると、すべての地域で「仕事・就労に役立てたい」が最も多く、大都市群が87.5%、中小規模都市群では79.2%、農山漁村群が76.0%であった。

図表2-33.ビジネス、商業実務、職業スキルを学ぶ理由(年代別)

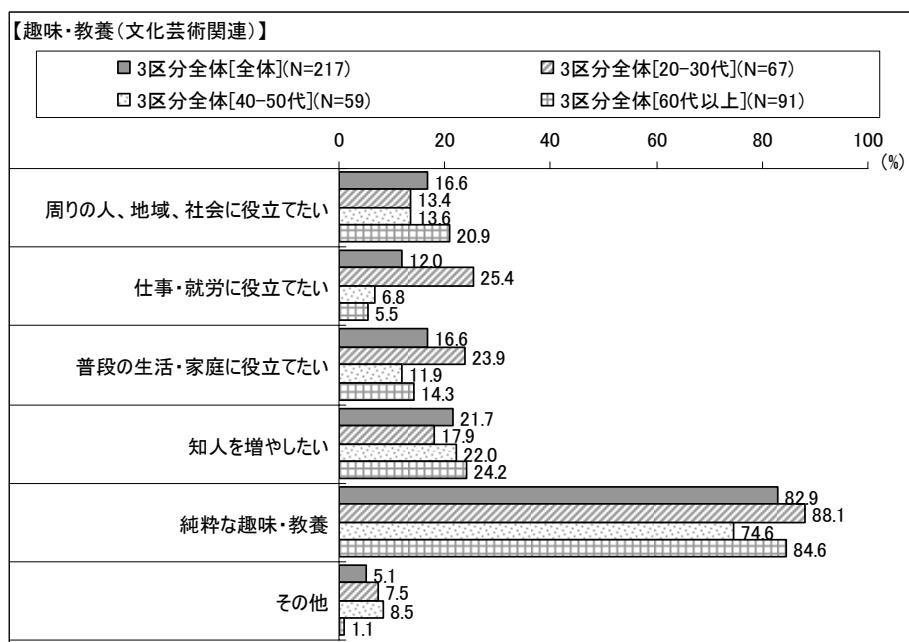


【趣味・教養（文化芸術関連）】

趣味・教養（文化芸術関連）に関して、その活動理由を質問したところ、全体では「純粋な趣味・教養」が最も多く、82.9%であった。

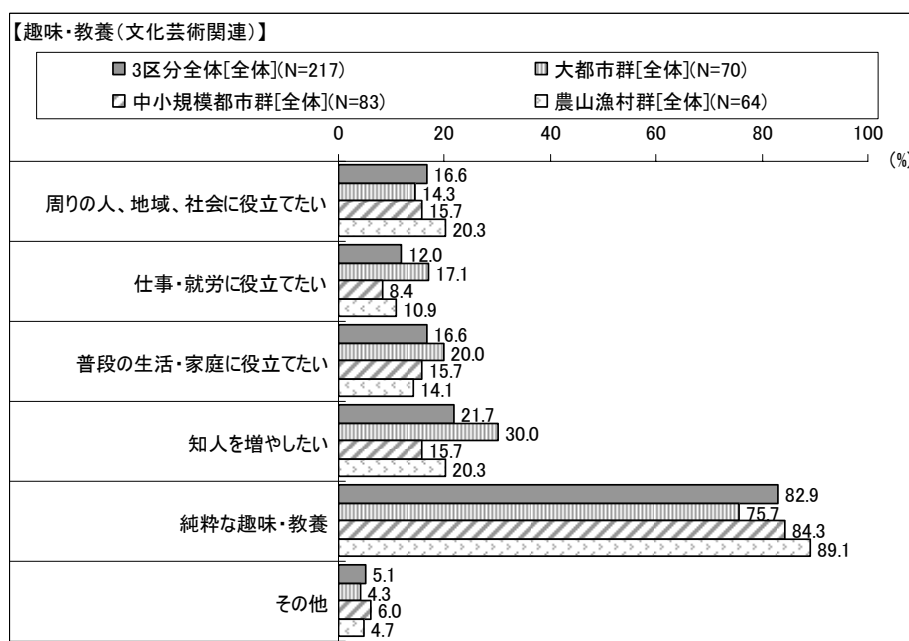
年代別にみると、すべての年代で「純粋な趣味・教養」が最も多かった。次いで多かった回答は、20-30代では「仕事・就労に役立てたい」が25.4%、40-50代では「知人を増やしたい」が22.0%、60代以上でも「知人を増やしたい」が24.2%であった。

図表2-34.趣味・教養(文化芸術関連)を学ぶ理由(年代別)



地域規模別にみると、すべての地域で「純粋な趣味・教養」が最も多く、大都市群が75.7%、中小規模都市群では84.3%、農山漁村群が89.1%であった。

図表2-35.趣味・教養(文化芸術関連)を学ぶ理由(地域規模別)

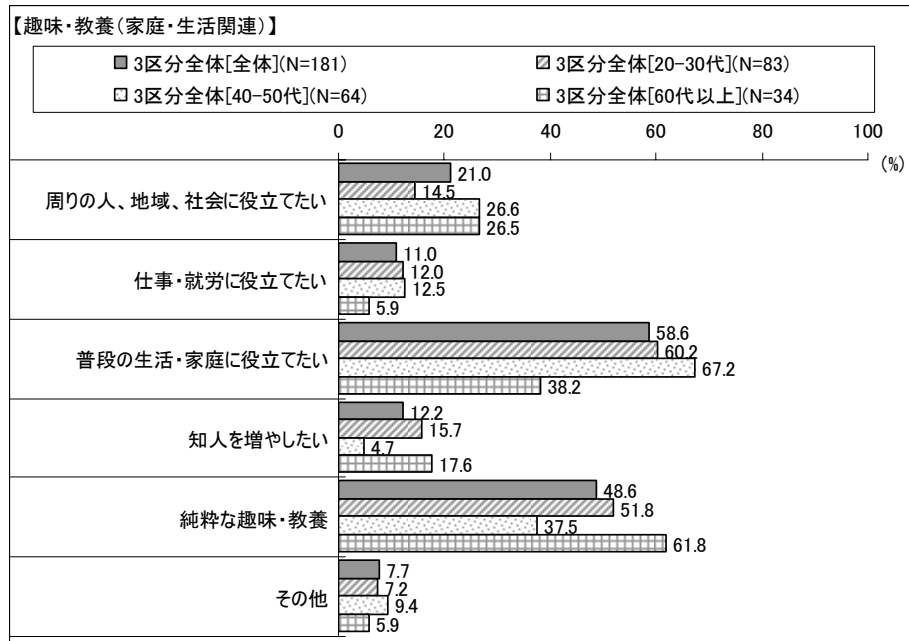


【趣味・教養（家庭・生活関連）】

趣味・教養（家庭・生活関連）に関して、その活動理由を質問したところ、全体では「普段の生活・家庭に役立てたい」が最も多く、58.6%であった。

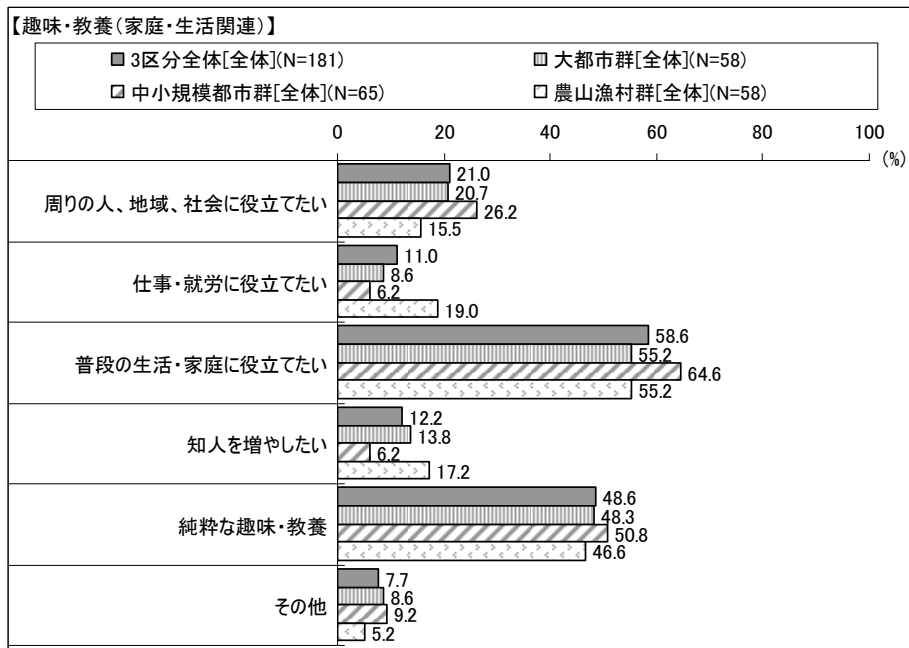
年代別に検討したところ、20-30代及び40-50代では「普段の生活・家庭に役立てたい」が最も多く、20-30代が60.2%、40-50代が67.2%であったのに対し、60代以上では「純粋な趣味・教養」が最も多く、61.8%であった。

図表2-36.趣味・教養(家庭・生活関連)を学ぶ理由(年代別)



地域規模別にみると、すべての地域で「普段の生活・家庭に役立てたい」が最も多く、大都市群が55.2%、中小規模都市群では64.6%、農山漁村群が55.2%であった。

図表2-37.趣味・教養(家庭・生活関連)を学ぶ理由(地域規模別)

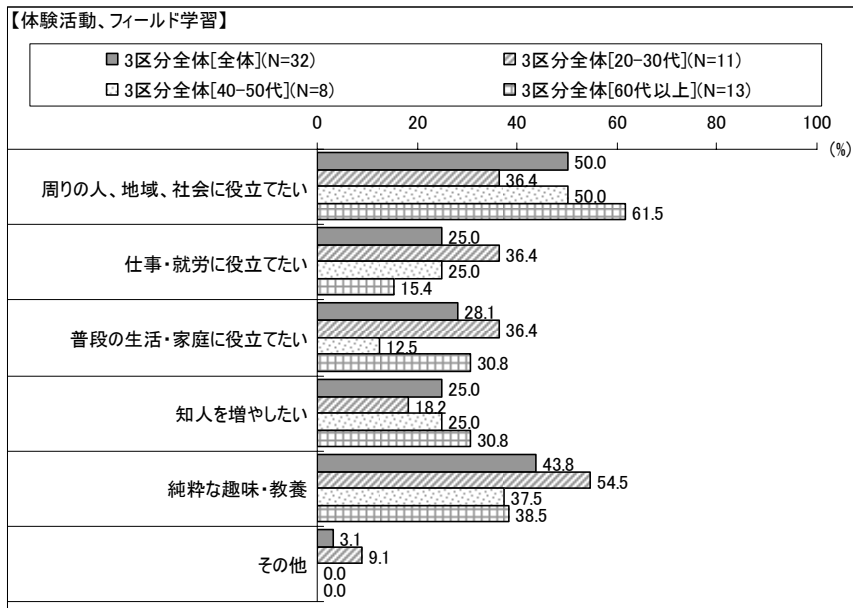


【体験活動、フィールド学習】

体験活動、フィールド学習に関して、その活動理由を質問したところ、全体では「周りの人、地域、社会に役立てたい」が50.0%と最も多かった。

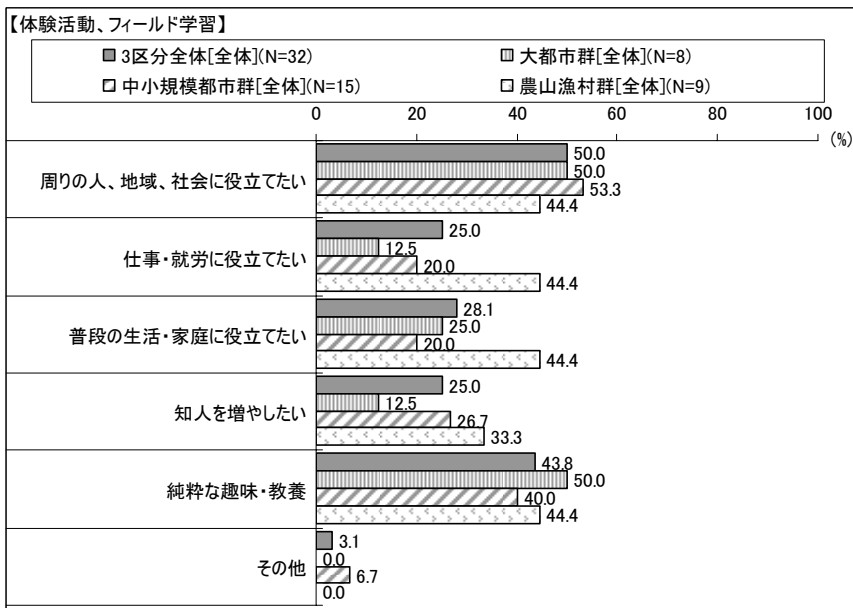
年代別にみると、20-30代では「純粋な趣味・教養」が54.5%で最も多かった。一方、40-50代及び60代以上では「周りの人、地域、社会に役立てたい」が最も多く、40-50代が50.0%、60代以上が61.5%であった。

図表2-38.体験活動、フィールド学習を学ぶ理由(年代別)



地域規模別にみると、すべての地域で「周りの人、地域、社会に役立てたい」が最も多かった。大都市圏では、次いで「純粋な趣味・教養」が多く、50.0%であった。また、農山漁村群では次いで「仕事・就労に役立てたい」、「普段の生活・家庭に役立てたい」、「純粋な趣味・教養」が多く、44.4%であった。

図表2-39.体験活動、フィールド学習を学ぶ理由(地域規模別)

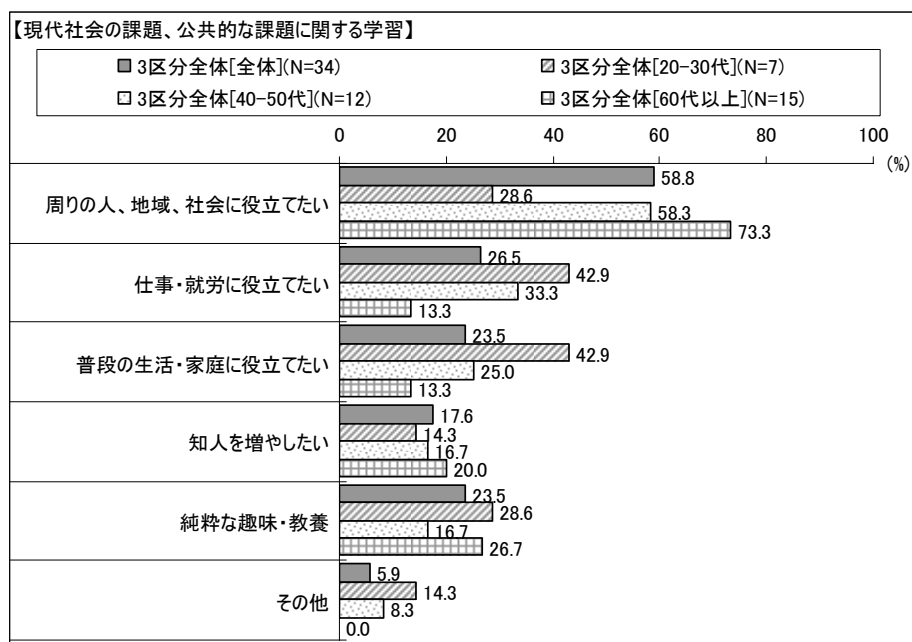


【現代社会の課題、公共的な課題に関する学習】

現代社会の課題、公共的な課題に関する学習に関して、その活動理由を質問したところ、全体では「周りの人、地域、社会に役立てたい」が58.8%と最も多かった。

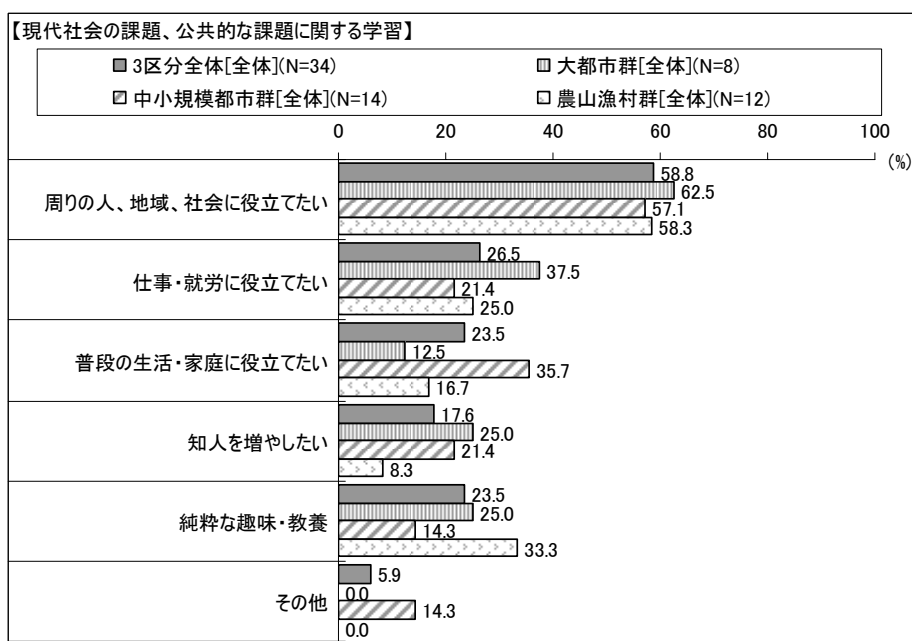
年代別にみると、20-30代では「仕事・就労に役立てたい」及び「普段の生活に役立てたい」が最も多く、42.9%であった。一方、40-50代及び60代以上では「周りの人、地域、社会に役立てたい」が最も多く、40-50代が58.3%、60代以上が73.3%であった。

図表2-40.現代社会の課題、公共的な課題に関する学習を学ぶ理由(年代別)



地域規模別にみると、すべての地域で「周りの人、地域、社会に役立てたい」が最も多く、大都市群では62.5%、中小規模都市群では57.1%、農山漁村群では58.3%であった。

図表2-41.現代社会の課題、公共的な課題に関する学習を学ぶ理由(地域規模別)



(3) 学習活動を社会に役立てる意志

対象者の学習活動を社会に役立てる意志は以下のとおりである。

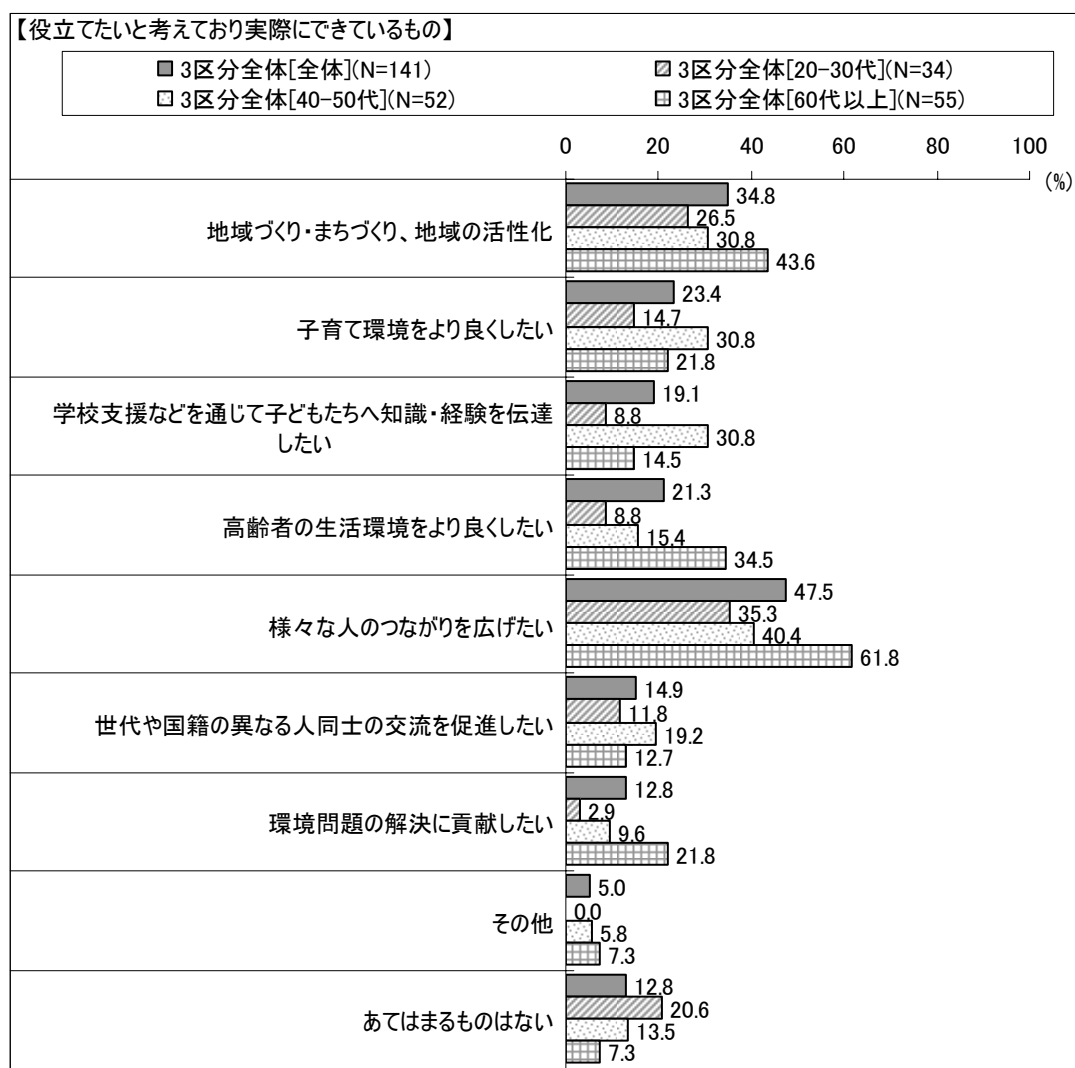
問 前問「(5)活動理由」で、「周りの人、地域、社会に役立てたい」に一つでも○をつけた方にお聞きします。
 具体的に、どのように役立てたいと考えていますか。また、それは実際に取り組んでいますか。以下の項目のうち、役立てたいと考えており実際に取り組んでいるもの、役立てたいと考えているが実際には取り組めていないものについて、それぞれ当てはまる番号すべてに○をつけてください。また、役立てたいと考えているが実際には取り組めていないものに○をつけた方は、その理由について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1) 役立てたいと考えており、実際にできているもの

学習活動を社会に役立てる意志のある人に対して、実際にできている取組について質問したところ、全体では「様々な人のつながりを広げたい」が最も多く、47.5%であった。

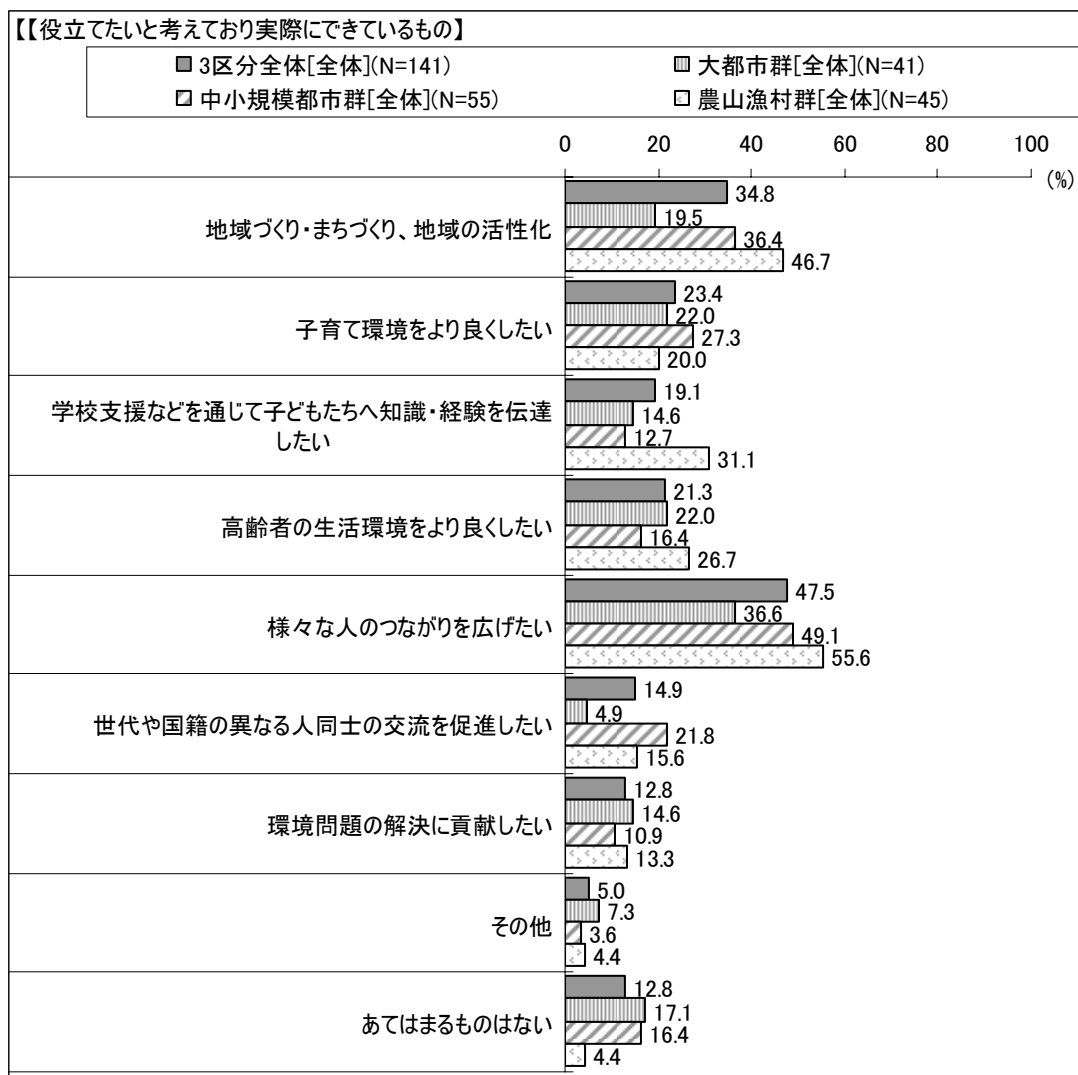
年代別にみると、すべての年代で「様々な人のつながりを広げたい」が最も多く、20-30代では35.3%、40-50代では40.4%、60代以上では61.8%であった。

図表2-42.役立てたいと考えており、実際にできているもの(年代別)



地域規模別にみると、すべての地域で「様々な人のつながりを広げたい」が最も多く、大都市群が36.6%、中小規模都市群が49.1%、農山漁村群が55.6%であった。

図表2-43. 役立てたいと考えており、実際にできているもの(地域規模別)

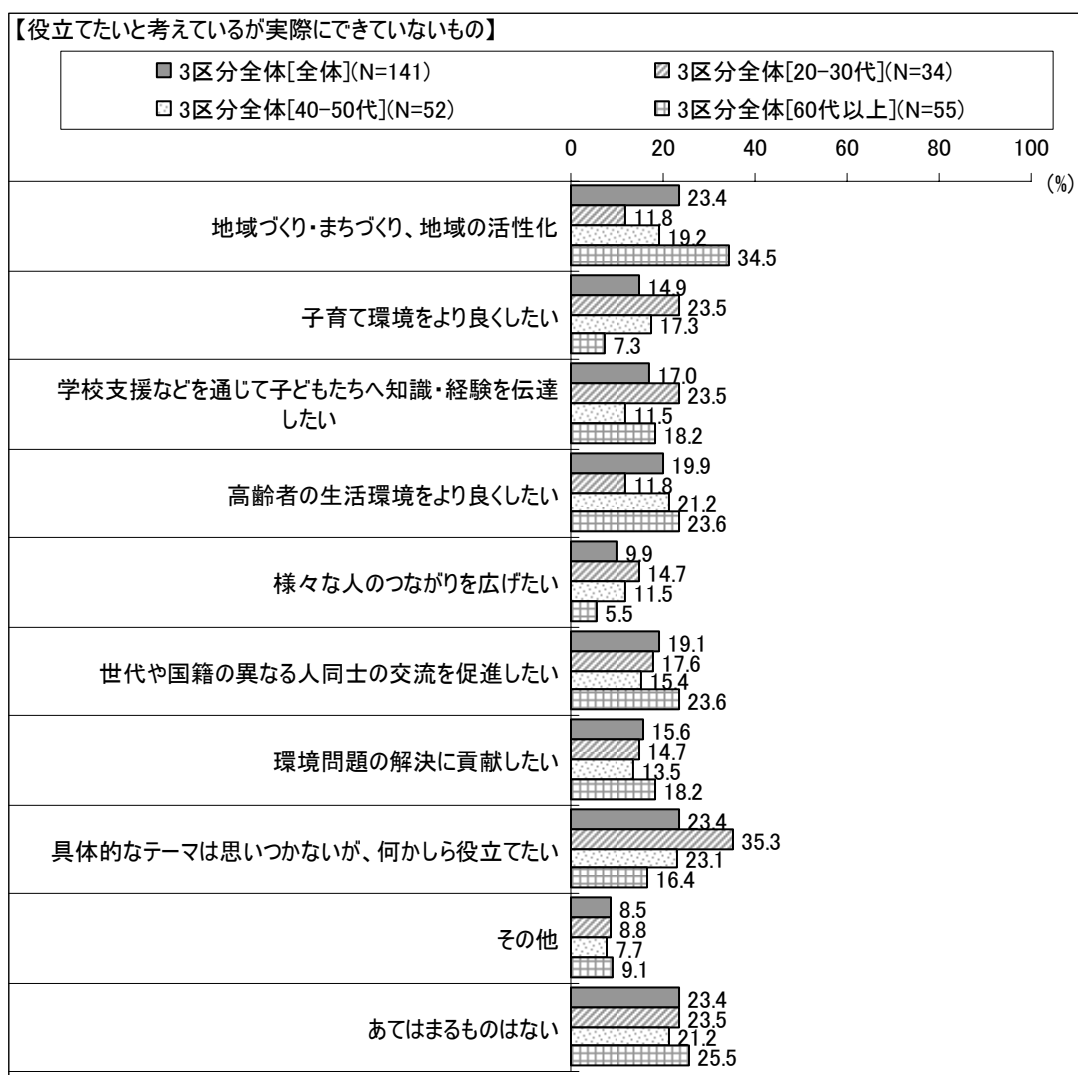


2) 役立てたいと考えているが、実際にできていないもの

学習活動を社会に役立てる意志のある人に対して、役立てたいが実際にはできていない取組について質問したところ、全体では「地域づくり・まちづくり、地域の活性化」及び「具体的なテーマは思いつかないが、何かしら役立てたい」が最も多く、23.4%であった。

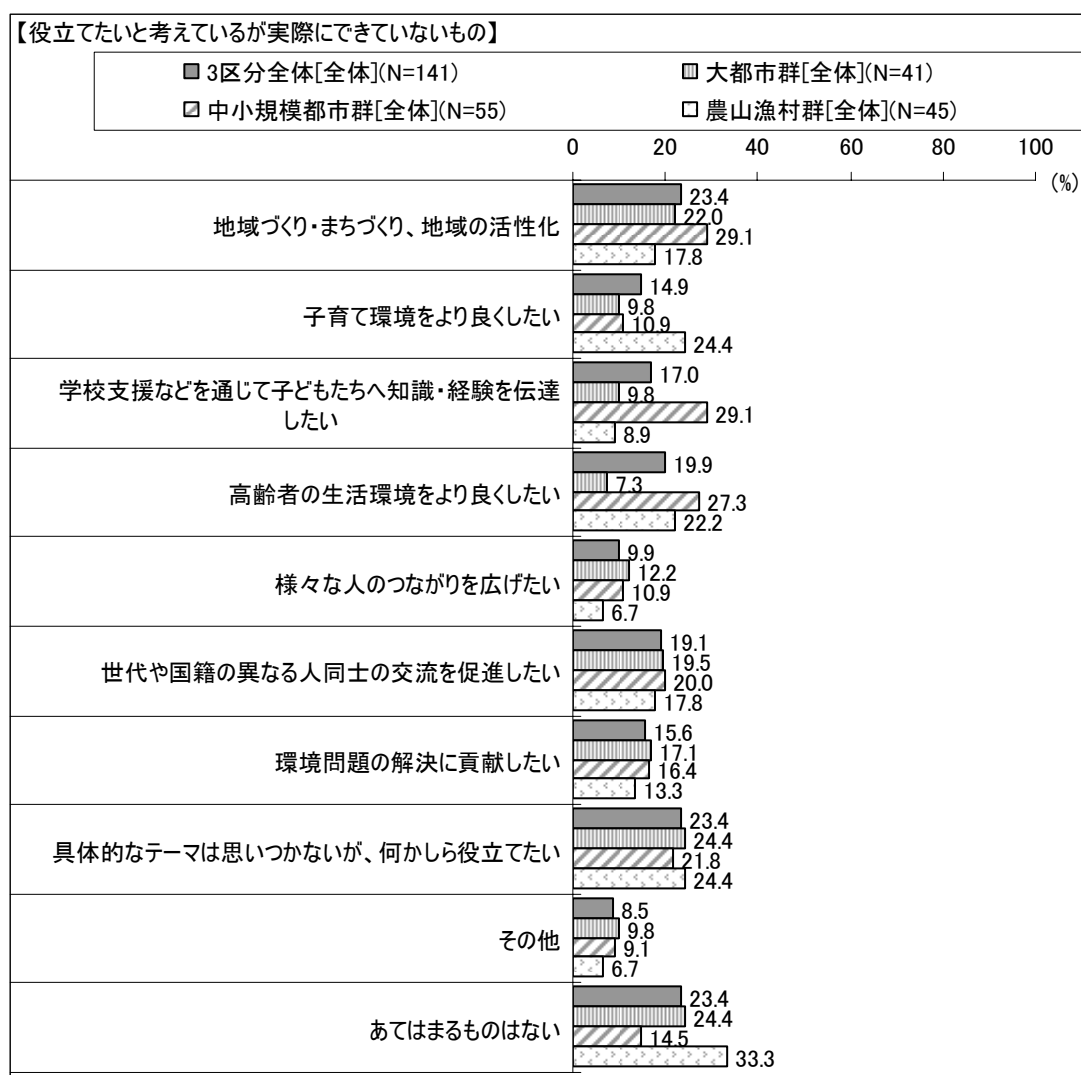
年代別にみると、20-30代及び40-50代では、「具体的なテーマは思いつかないが、何かしら役立てたい」が最も多く、次いで、20-30代では「子育て環境をより良くしたい」及び「学校支援などを通じて子どもたちへ知識・経験を伝達したい」が23.5%であった。40-50代では、次いで「高齢者の生活環境をより良くしたい」が21.2%であった。一方、60代以上では、「地域づくり・まちづくり、地域の活性化」が最も多く、34.5%であった。

図表2-44. 役立てたいと考えており、実際にできていないもの(年代別)



地域規模別にみると、大都市群では「具体的なテーマは思いつかないが、何かしら役立たい」が最も多く、次いで「地域づくり・まちづくり、地域の活性化」の22.0%であった。中小規模都市群では、「地域づくり・まちづくり、地域の活性化」及び、「学校支援などを通じて子どもたちへ知識・経験を伝達したい」が29.1%、農山漁村群では「あてはまるものはない」に次いで、「子育て環境をより良くしたい」と「具体的なテーマは思いつかないが、何かしら役立たい」が24.4%であった。

図表2-45.役立たいと考えており、実際にできていないもの(地域規模別)



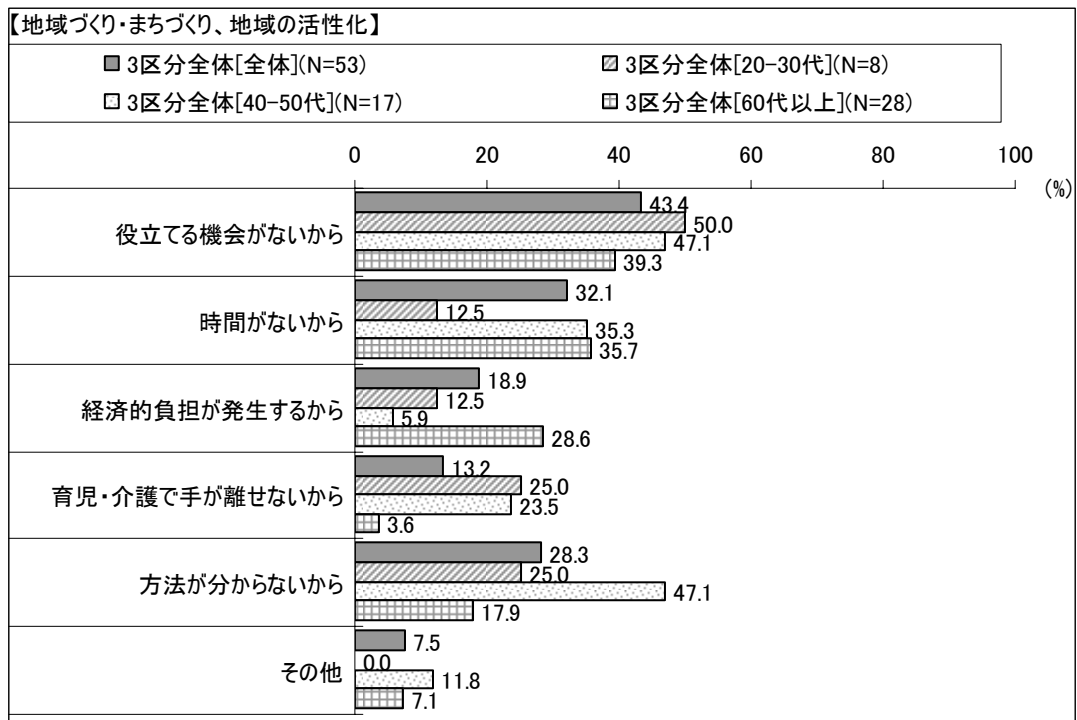
3) できていない理由

【地域づくり・まちづくり、地域の活性化】

地域づくり・まちづくり、地域の活性化に関して、実行できていない理由を質問したところ、全体では「役立てる機会がないから」が最も多く、43.4%であった。

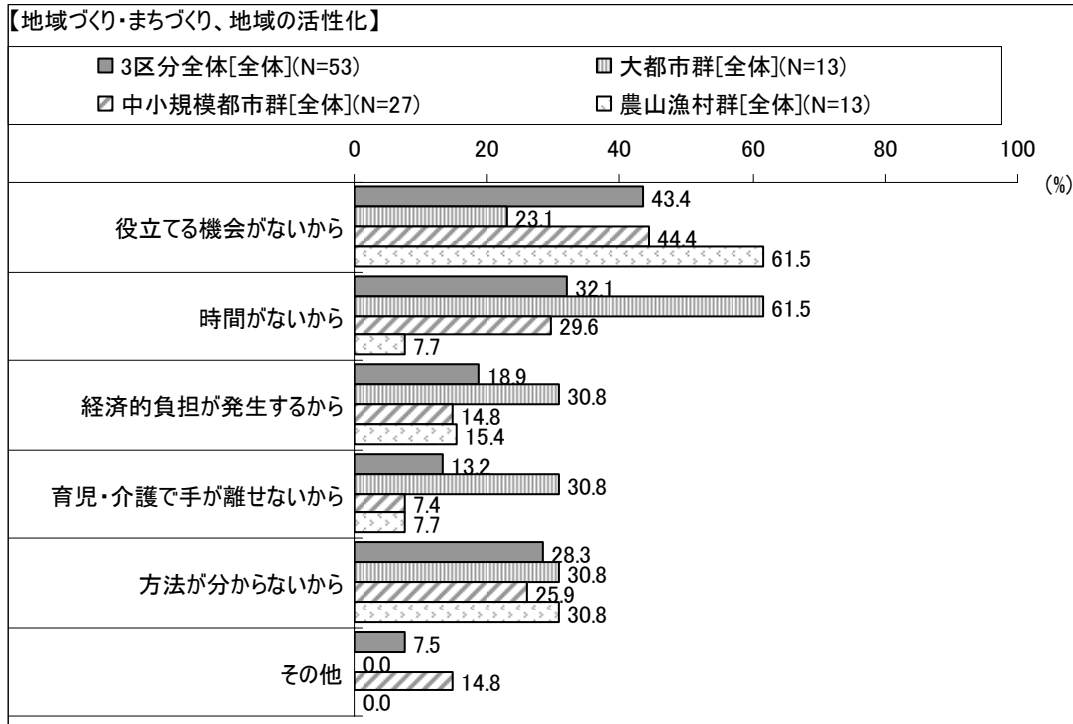
年代別にみると、すべての年代で「役立てる機会がないから」が最も多く、20-30代では50.0%、40-50代では47.1%、60代以上では39.3%であった。また、40-50代では、「方法が分からないから」も同じく47.1%であった。

図表2-46.学んだことを「地域づくり・まちづくり、地域の活性化」に役立てることができない理由(年代別)



地域規模別にみると、大都市群では「時間がないから」が最も多く、61.5%であった。一方、中小規模都市群及び農山漁村群では「役立てる機会がないから」が最も多く、中小規模都市群では44.4%、農山漁村群では61.5%であった。

図表2-47.学んだことを「地域づくり・まちづくり、地域の活性化」に役立てることができない理由(地域規模別)

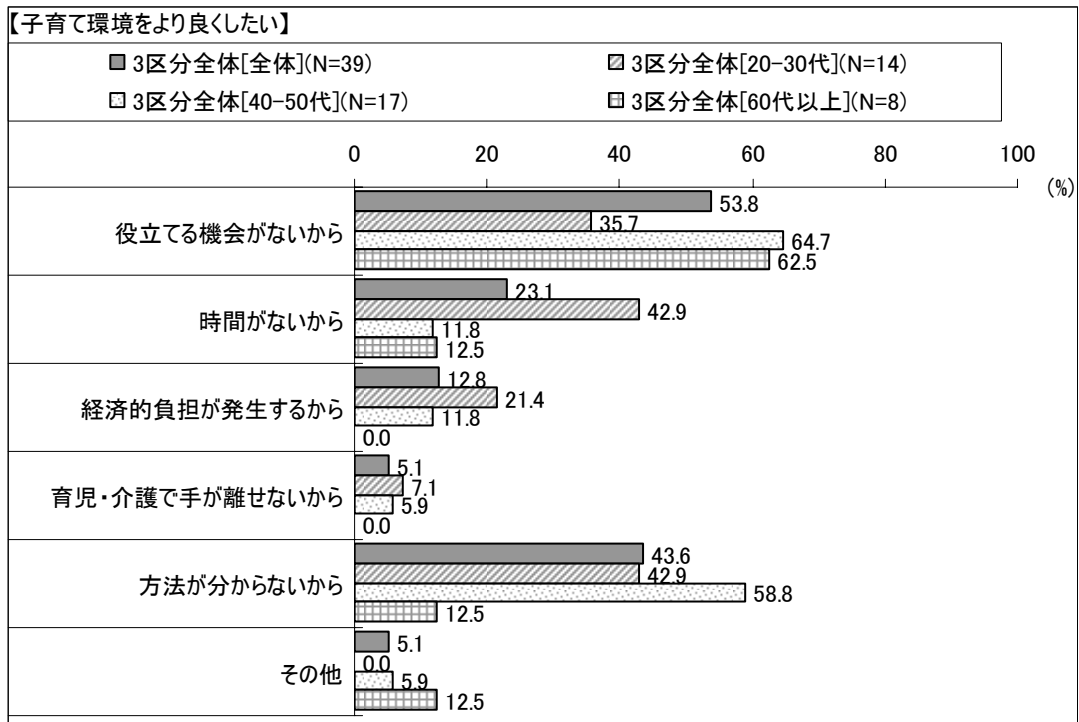


【子育て環境をより良くしたい】

子育て環境をより良くしたいに関して、実行できていない理由を質問したところ、全体では「役立てる機会がないから」が最も多く、53.8%であった。

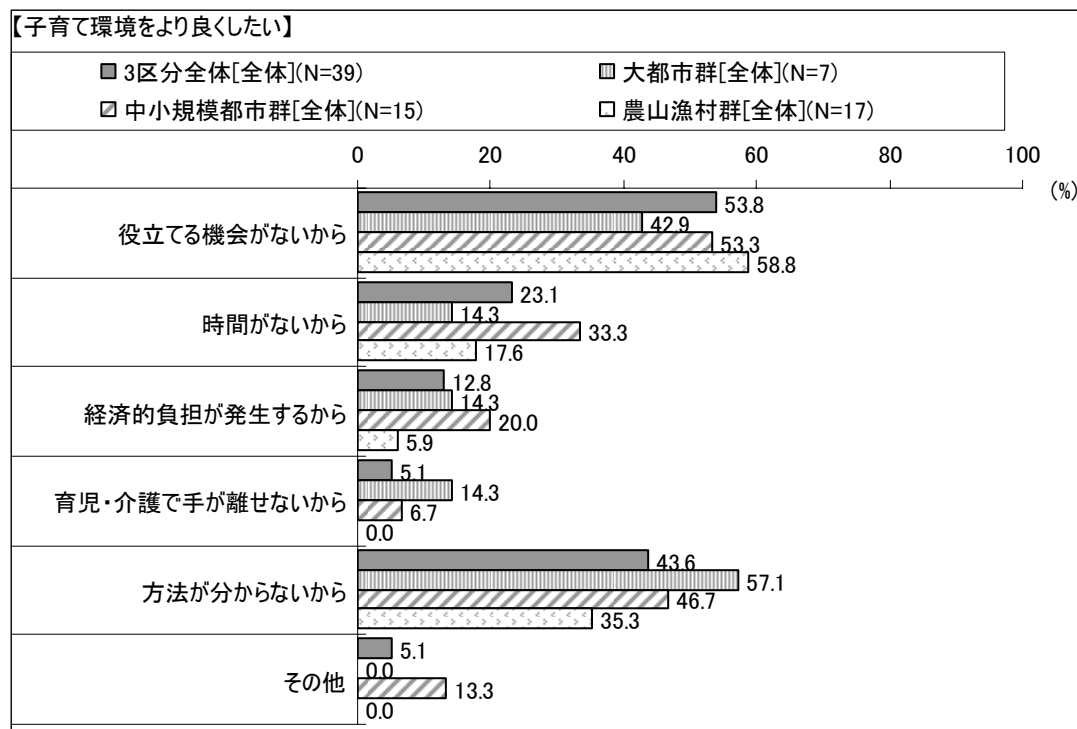
年代別にみると、20-30代では「時間がないから」及び「方法が分からないから」が42.9%で最も多かったのに対し、40-50代及び60代以上では「役立てる機会がないから」が最も多く、40-50代が64.7%、60代以上では62.5%であった。

図表2-48.学んだことを「子育て環境をより良くしたい」に役立てられない理由(年代別)



地域規模別にみると、大都市群では「方法が分からないから」が最も多く、57.1%であった。一方、中小規模都市群及び農山漁村群では「役立てる機会がないから」が最も多く、中小規模都市群では53.3%、農山漁村群では58.8%であった。

図表2-49.学んだことを「子育て環境をより良くしたい」に役立てられない理由(地域規模別)

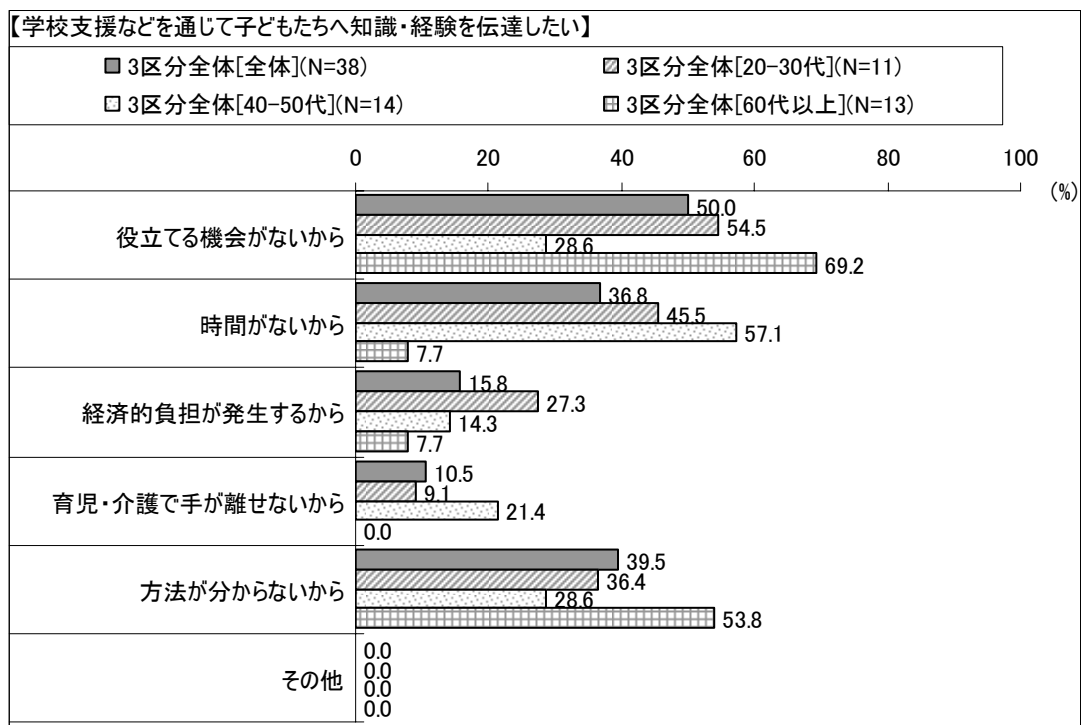


【学校支援などを通じて子どもたちへ知識・経験を伝達したい】

学校支援などを通じて子どもたちへ知識・経験を伝達したいに関して、実行できていない理由を質問したところ、全体では「役立てる機会がないから」が最も多く、50.0%であった。

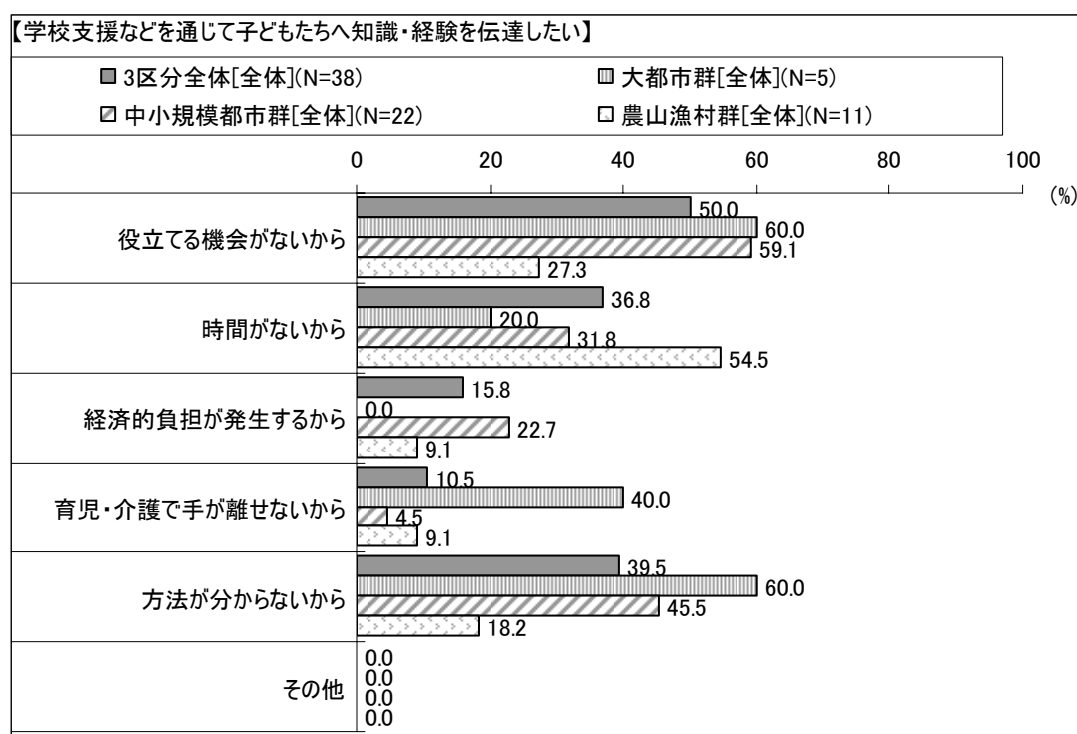
年代別に検討してみると、20-30代及び60代以上では「役立てる機会がないから」が最も多く、20-30代が54.5%、60代以上が69.2%であった。40-50代では「時間がないから」が最も多く57.1%であった。

図表2-50.学んだことを「学校支援などを通じて子どもたちへ知識・経験を伝達したい」に役立てられない理由
(地域規模別)



地域規模別にみると、大都市群では「役立てる機会がないから」及び「方法が分からないから」が最も多く、60.0%であった。中小規模都市群は、「役立てる機会がないから」が最も多く59.1%であった。一方、農山漁村群では「時間がないから」が最も多く54.5%であった。

**図表2-51.学んだことを「学校支援などを通じて子どもたちへ知識・経験を伝達したい」に役立てられない理由
(地域規模別)**

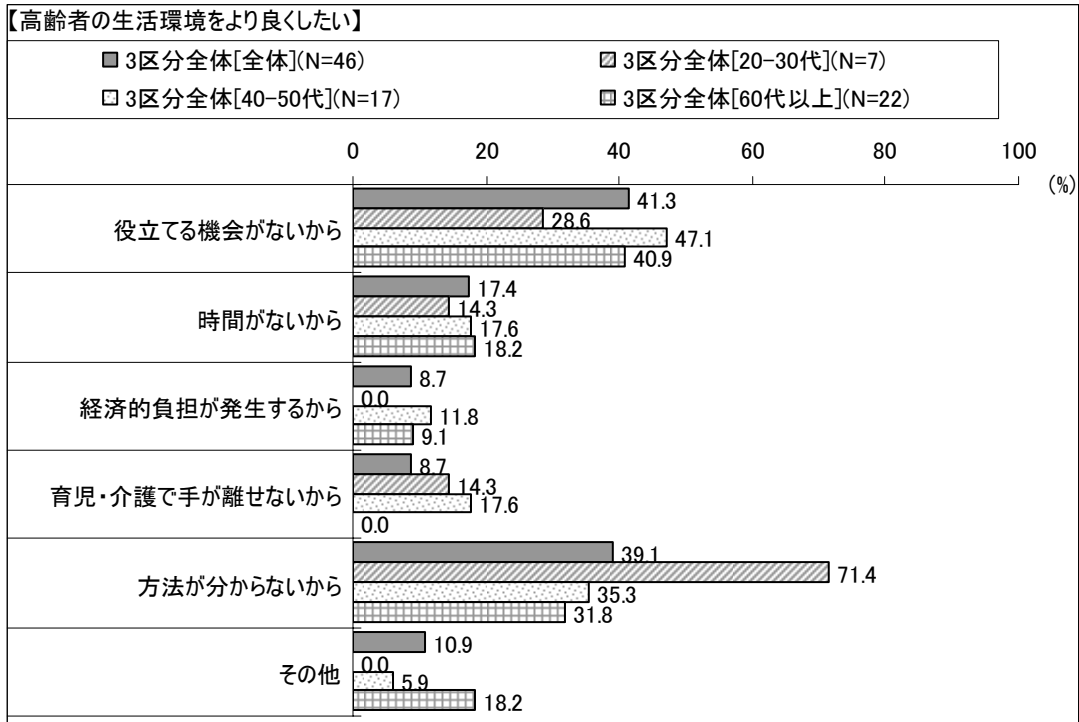


【高齢者の生活環境をより良くしたい】

高齢者の生活環境をより良くしたいに関して、実行できていない理由を質問したところ、全体では「役立てる機会がないから」が最も多く、41.3%であった。

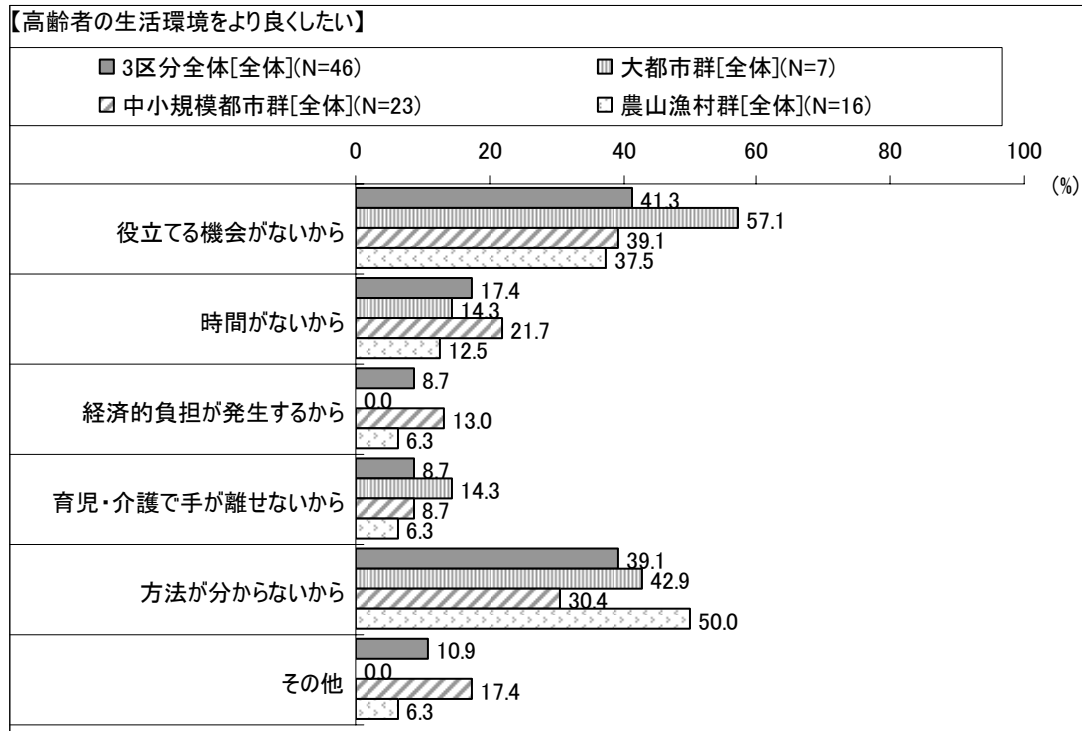
年代別にみると、20-30代では「方法が分からないから」が最も多く71.4%、40-50代及び60代以上では「役立てる機会がないから」が最も多く、40-50代が47.1%、60代以上が40.9%であった。

図表2-52.学んだことを「高齢者の生活環境をより良くしたい」に役立てられない理由(年代別)



地域規模別にみると、大都市群及び中小規模都市群では「役立つ機会がないから」が最も多く、大都市群が57.1%、中小規模都市群が39.1%であった。一方、農山漁村群では「方法が分からないから」が最も多く50.0%であった。

図表2-53.学んだことを「高齢者の生活環境をより良くしたい」に役立てられない理由(地域規模別)

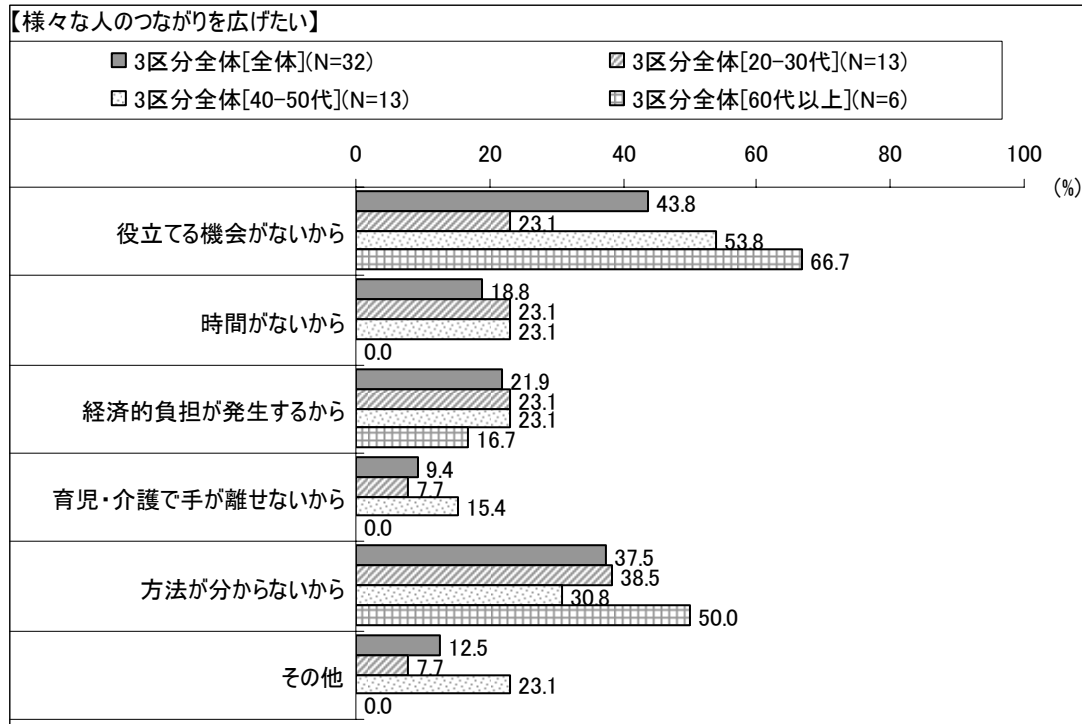


【様々な人のつながりを広げたい】

様々な人のつながりを広げたいに関して、実行できていない理由を質問したところ、全体では「役立てる機会がないから」が最も多く、43.8%であった。

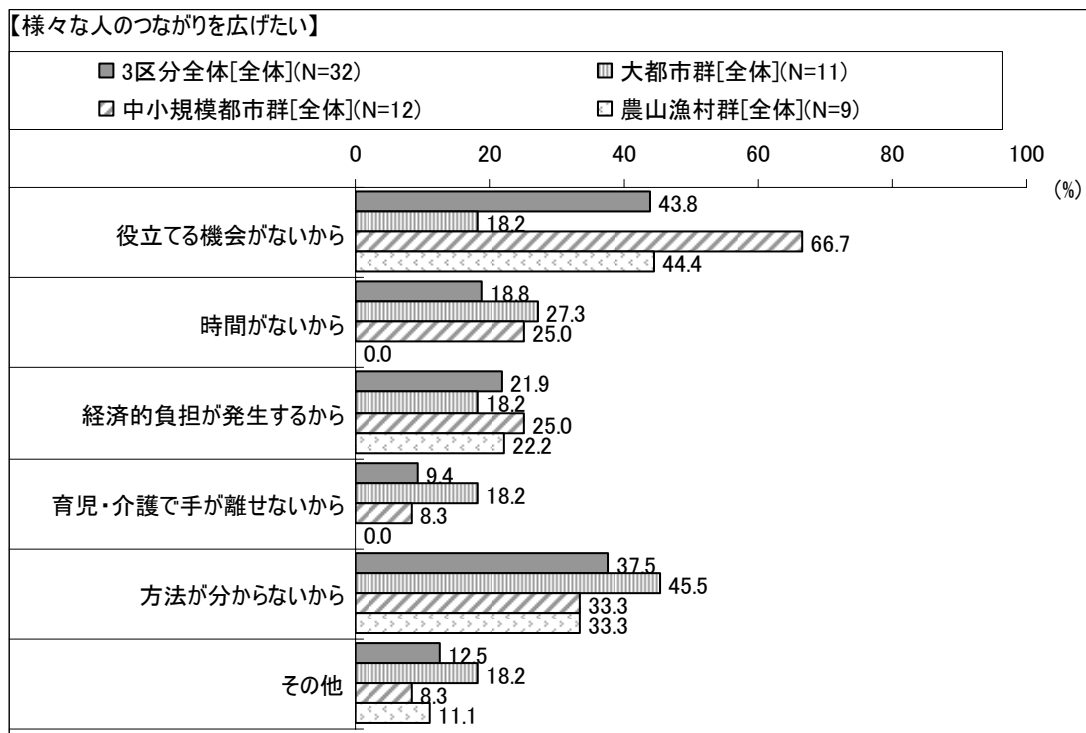
年代別にみると、20-30代では「方法が分からないから」が最も多く38.5%、40-50代及び60代以上では「役立てる機会がないから」が最も多く、40-50代が53.8%、60代以上が66.7%であった。

図表2-54.学んだことを「様々な人のつながりを広げたい」に役立てられない理由(年代別)



地域規模別にみると、大都市群では「方法が分からないから」が最も多く45.5%、40-50代及び60代以上では「役立てる機会がないから」が最も多く、40-50代が66.7%、60代以上が44.4%であった。

図表2-55.学んだことを「様々な人のつながりを広げたい」に役立てられない理由(地域規模別)

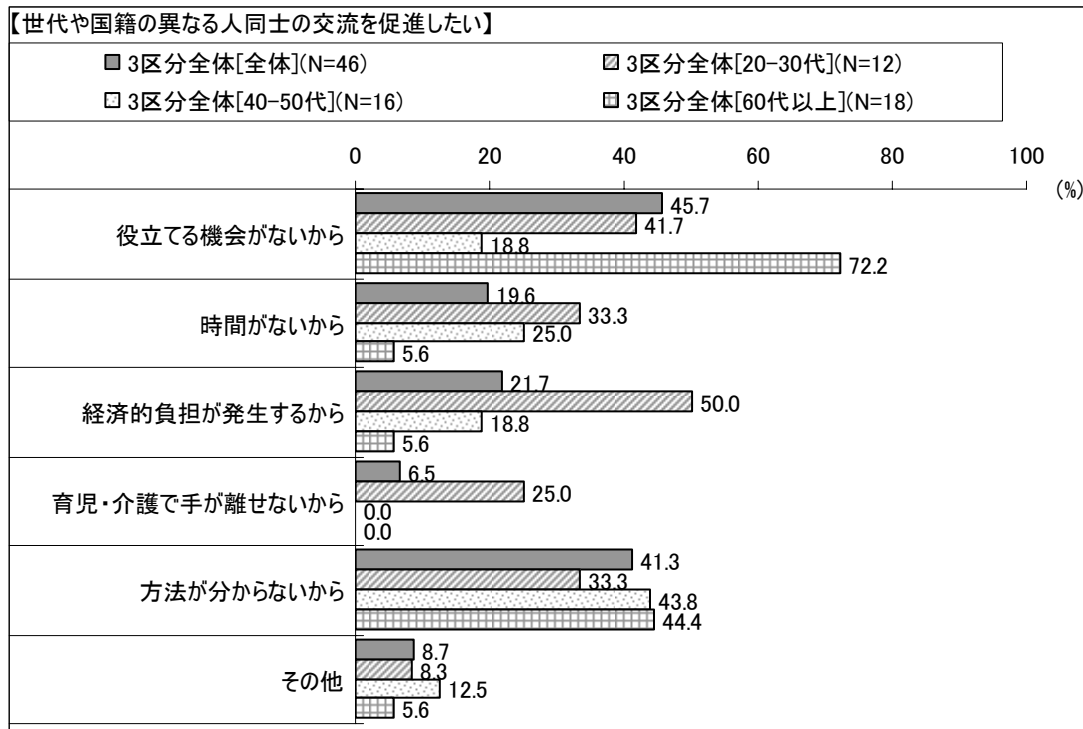


【世代や国籍の異なる人同士の交流を促進したい】

世代や国籍の異なる人同士の交流を促進したいに関して、実行できていない理由を質問したところ、全体では「役立てる機会がないから」が最も多く、45.7%であった。

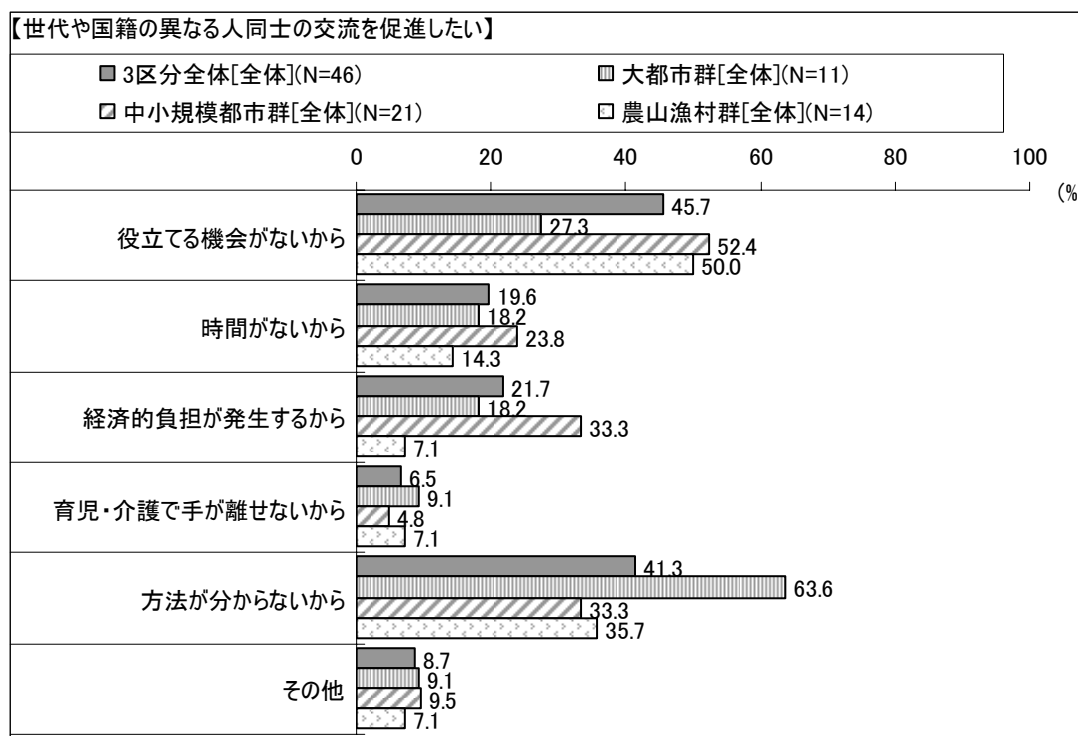
年代別にみると、20-30代では「経済的負担が発生するから」が最も多く50.0%、40-50代では「方法が分からないから」が最も多く43.8%、60代以上では「役立てる機会がないから」が最も多く72.2%であった。

図表2-56.学んだことを「世代や国籍の異なる人同士の交流を促進したい」に役立てられない理由(年代別)



地域規模別にみると、大都市群では「方法が分からないから」が最も多く 63.6%、中小規模都市群、農山漁村群では「役立つ機会がないから」が最も多く中小規模都市群が 52.4%、農山漁村群が 50.0%であった。

図表2-57.学んだことを「世代や国籍の異なる人同士の交流を促進したい」に役立てられない理由(地域規模別)

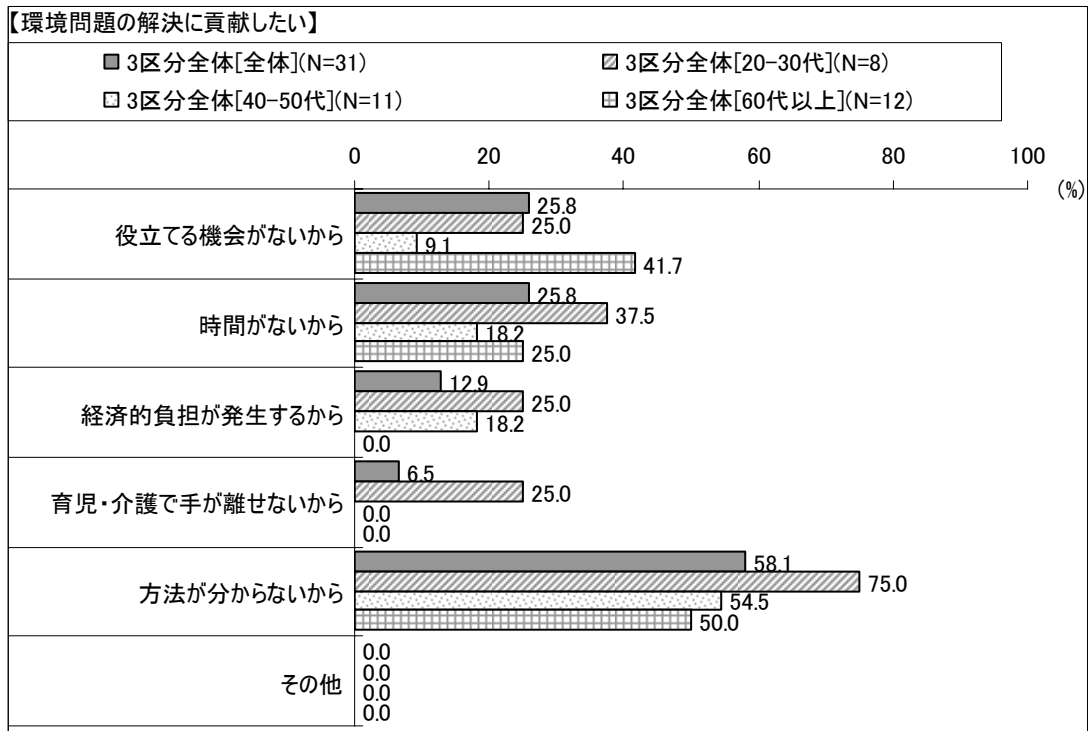


【環境問題の解決に貢献したい】

環境問題の解決に貢献したいに関して、実行できていない理由を質問したところ、全体では「方法がわからないから」が最も多く、58.1%であった。

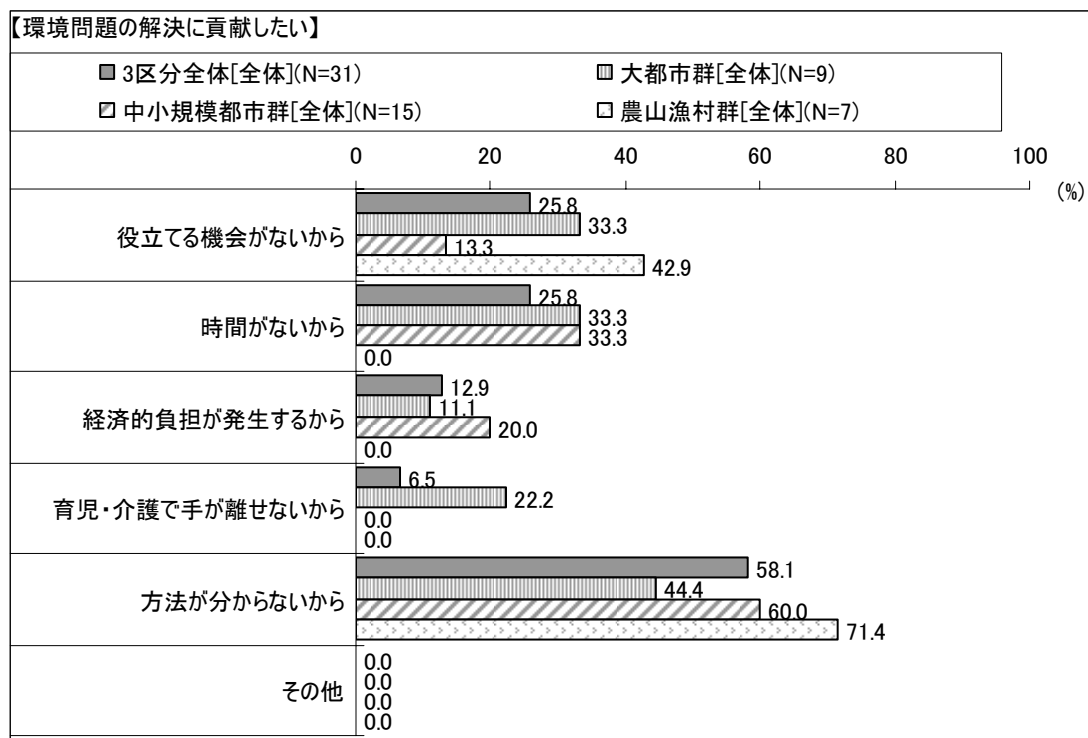
年代別にみると、すべての年代で「方法がわからないから」が最も多く、20-30代が75.0%、40-50代が54.5%、60代以上は50.5%であった。

図表2-58.学んだことを「環境問題の解決に貢献したい」に役立てられない理由(年代別)



地域規模別に検討すると、どの地域においても「方法が分からないから」が最も多く、大都市群が44.4%、中小規模都市群が60.0%、農山漁村群が71.4%であった。

図表2-59.学んだことを「環境問題の解決に貢献したい」に役立てられない理由(地域規模別)



(4) 学習活動の費用

対象者の学習活動の費用は、以下のとおりである。

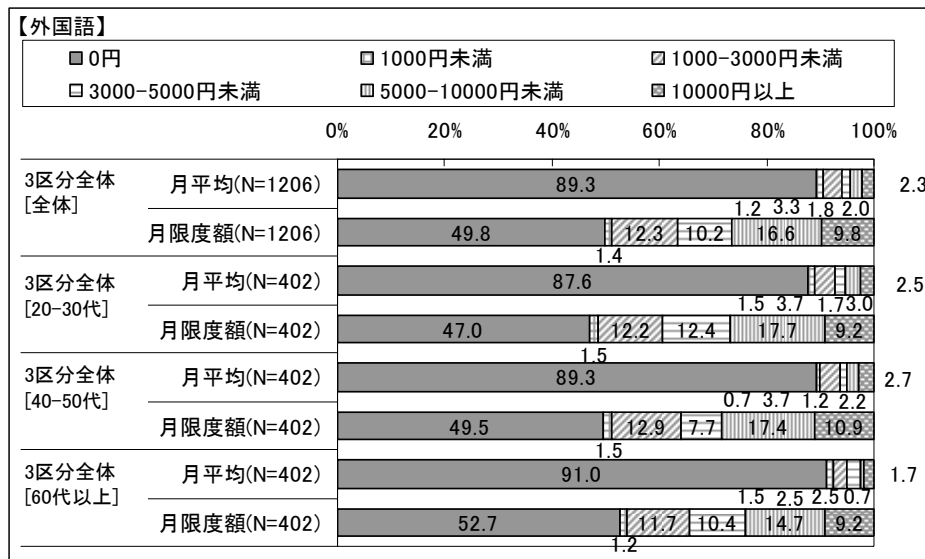
問 以下の1～6の学習活動について、各活動に対して普段どれくらい費用負担しているか(取り組んでいる方のみ)、また負担しても良いと感じる最高限度額(すべての方)を、それぞれ具体的にお書きください。

1) 平均的な費用負担額と負担限度額

①外国語

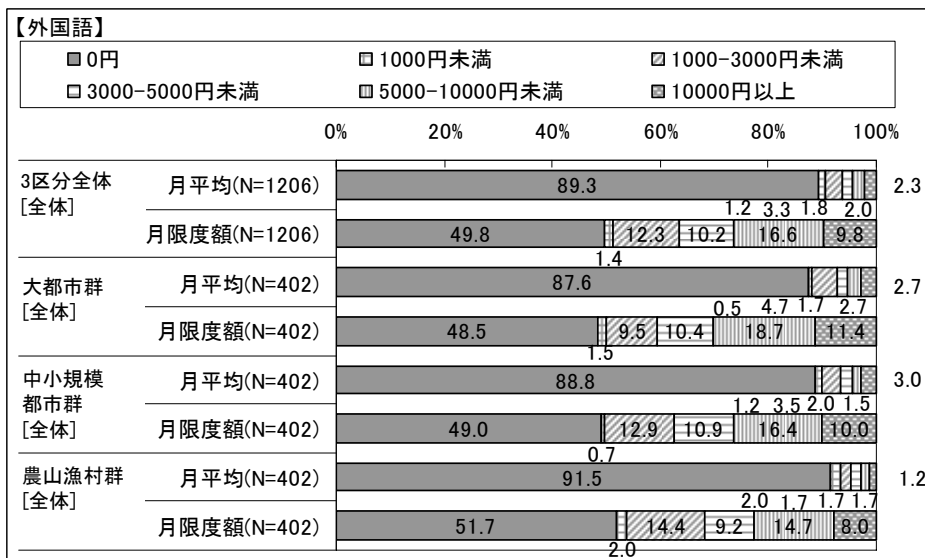
外国語の学習活動について、平均的な費用負担額と負担限度額を質問したところ、「0円」は全体の89.3%であったが、限度額については49.8%であった。年代別にみると、限度額について「0円」と回答する割合が最も高いのは60代以上で、52.7%であった。

図表2-60.外国語実施者の学習費用(年代別)



地域規模別にみると、限度額について「0円」と回答する割合が最も高いのは農山漁村群で、51.7%であった。

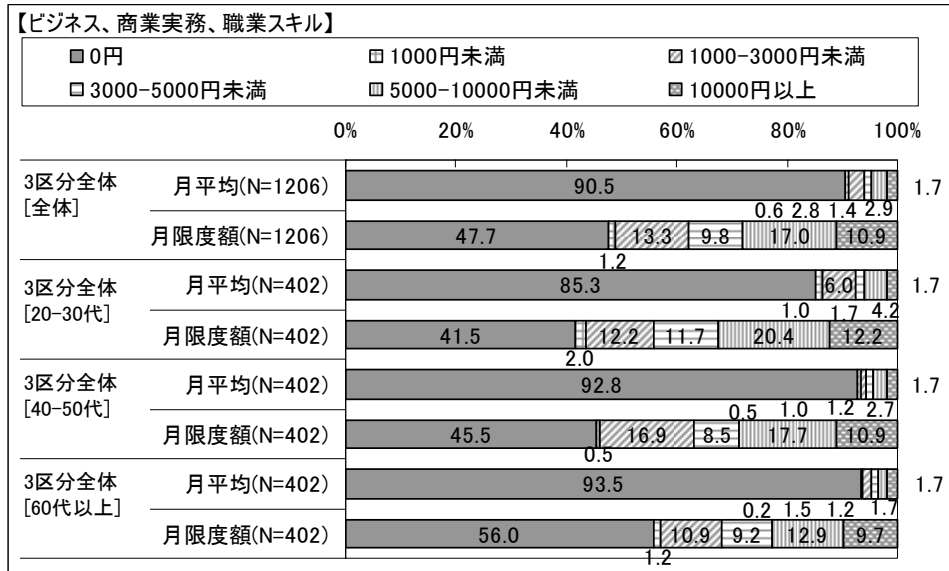
図表2-61.外国語実施者の学習費用(地域規模別)



②ビジネス、商業実務、職業スキル

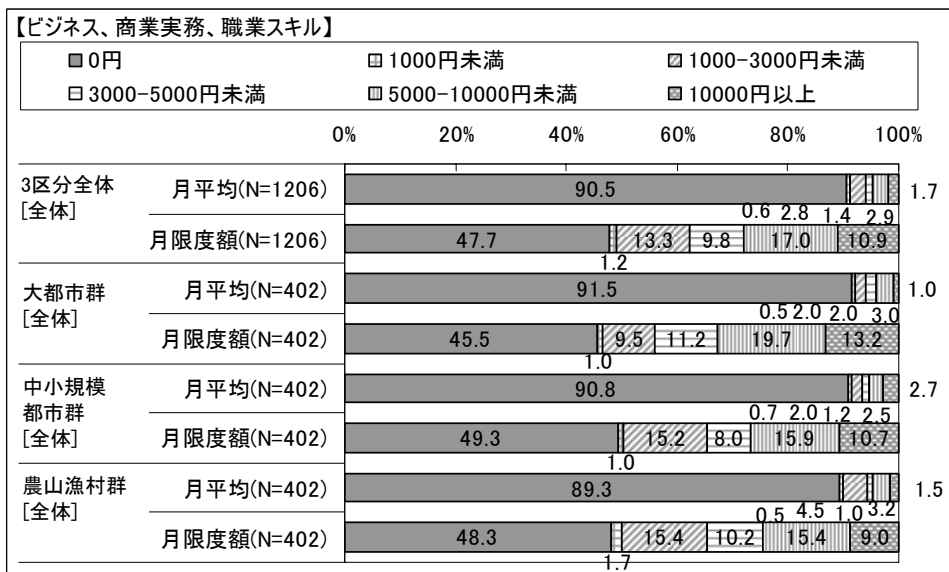
ビジネス、商業実務、職業スキルの学習活動について、平均的な費用負担額と負担限度額を質問したところ、「0円」は全体の90.5%であったが、限度額については47.7%であった。年代別にみると、限度額について「0円」と回答する割合が最も高いのは60代以上で、56.0%であった。

図表2-62.ビジネス、商業実務、職業スキル実施者の学習費用(年代別)



地域規模別にみると、限度額について「0円」と回答する割合が最も高いのは中小規模都市群で、49.3%であった。

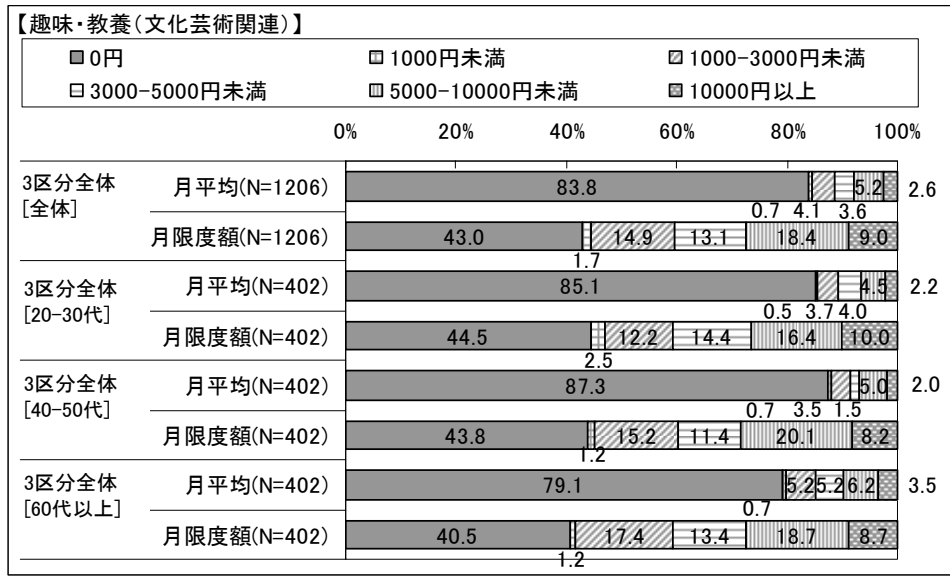
図表2-63.ビジネス、商業実務、職業スキル実施者の学習費用(地域規模別)



③趣味・教養(文化芸術関連)

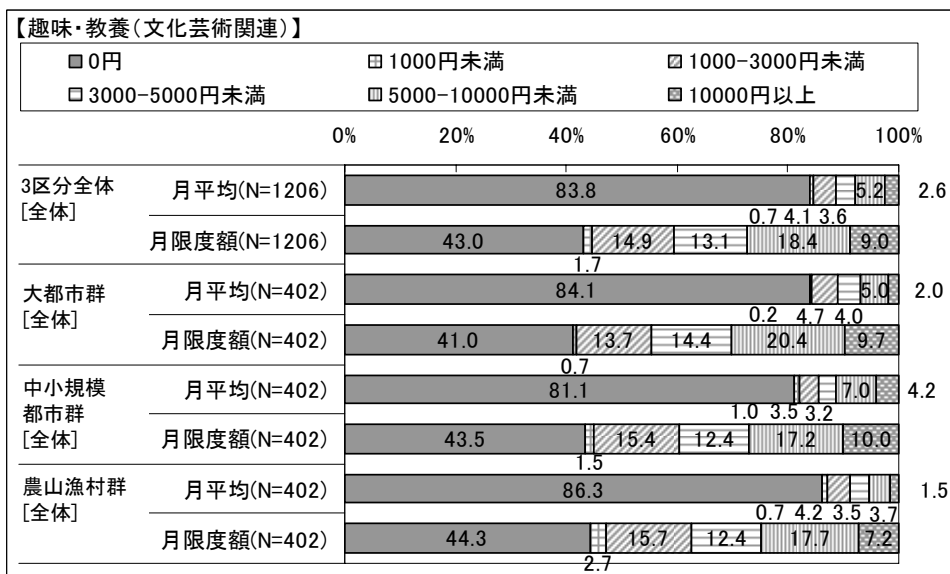
趣味・教養(文化芸術関連)の学習活動について、平均的な費用負担額と負担限度額を質問したところ、「0円」は全体の83.8%であったが、限度額については43.0%であった。年代別にみると、限度額について「0円」と回答する割合が最も高いのは20-30代で、44.5%であった。

図表2-64.趣味・教養(文化芸術関連)実施者の学習費用(年代別)



地域規模別にみると、限度額について「0円」と回答する割合が最も高いのは農山漁村群で、44.3%であった。

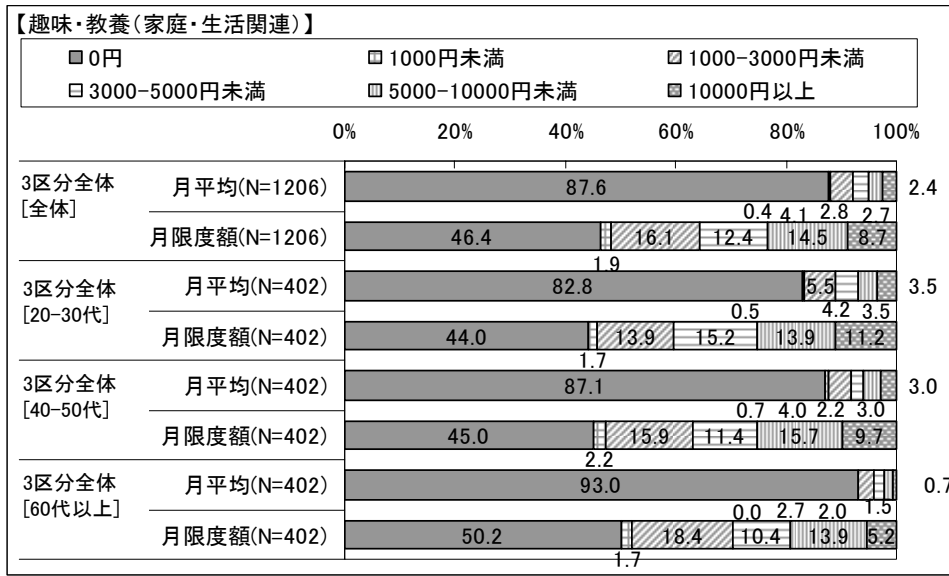
図表2-65.趣味・教養(文化芸術関連)実施者の学習費用(地域規模別)



④趣味・教養(家庭・生活関連)

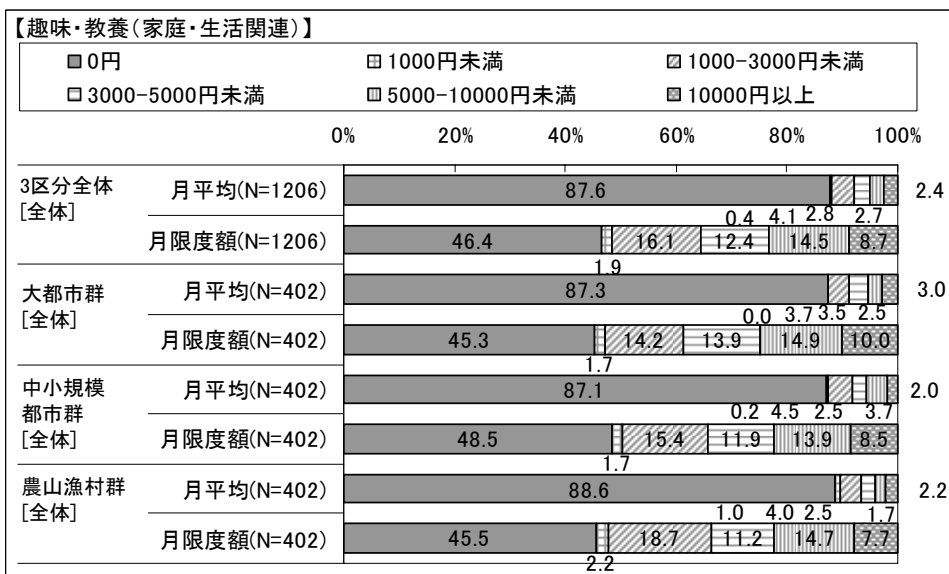
趣味・教養(家庭・生活関連)の学習活動について、平均的な費用負担額と負担限度額を質問したところ、「0円」は全体の87.6%であったが、限度額については46.4%であった。年代別にみると、限度額について「0円」と回答する割合が最も高いのは60代以上で、50.2%であった。

図表2-66.趣味・教養(家庭・生活関連)実施者の学習費用(年代別)



地域規模別にみると、限度額について「0円」と回答する割合が最も高いのは中小規模都市群で、48.5%であった。

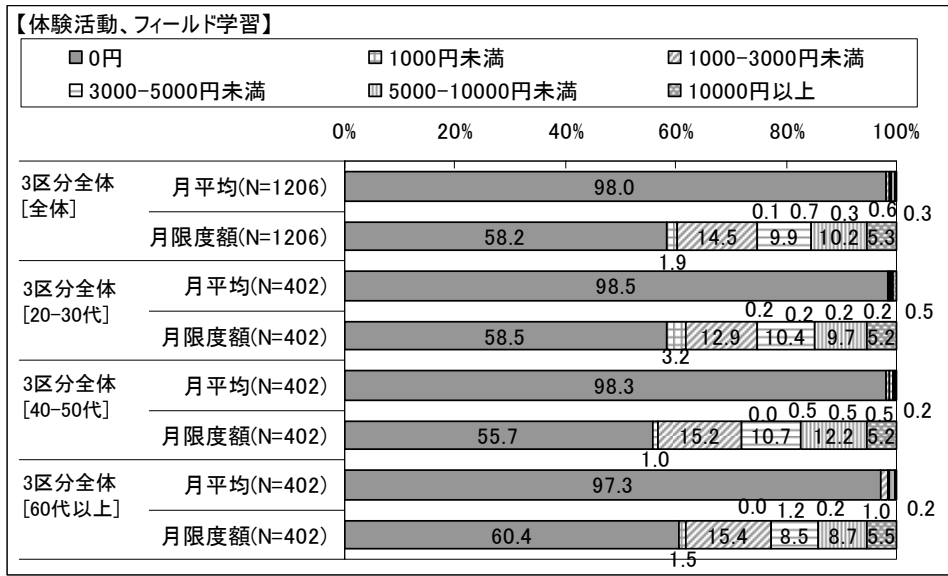
図表2-67.趣味・教養(家庭・生活関連)実施者の学習費用(地域規模別)



⑤体験活動、フィールド学習

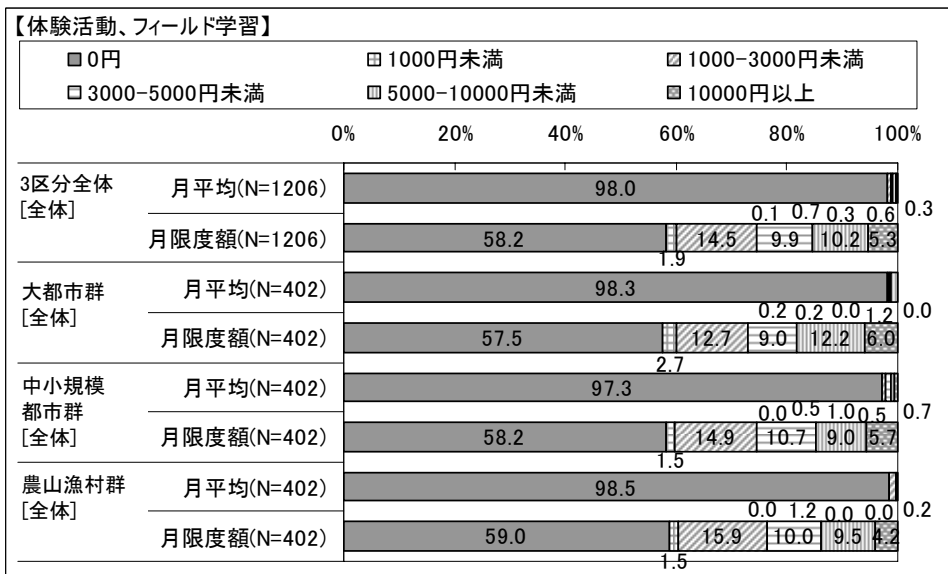
体験活動、フィールド学習の学習活動について、平均的な費用負担額と負担限度額を質問したところ、「0円」は全体の98.0%であったが、限度額については58.2%であった。年代別にみると、限度額について「0円」と回答する割合が最も高いのは60代以上で、60.4%であった。

図表2-68.体験活動、フィールド学習実施者の学習費用(年代別)



地域規模別にみると、限度額について「0円」と回答する割合が最も高いのは農山漁村都市群で、59.0%であった。

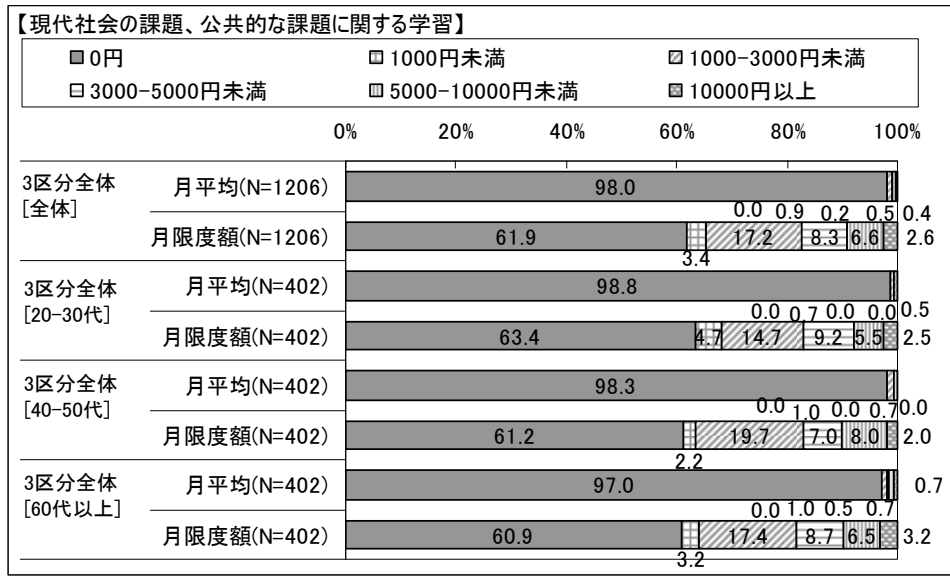
図表2-69.体験活動、フィールド学習実施者の学習費用(地域規模別)



⑥現代社会の課題、公共的な課題に関する学習

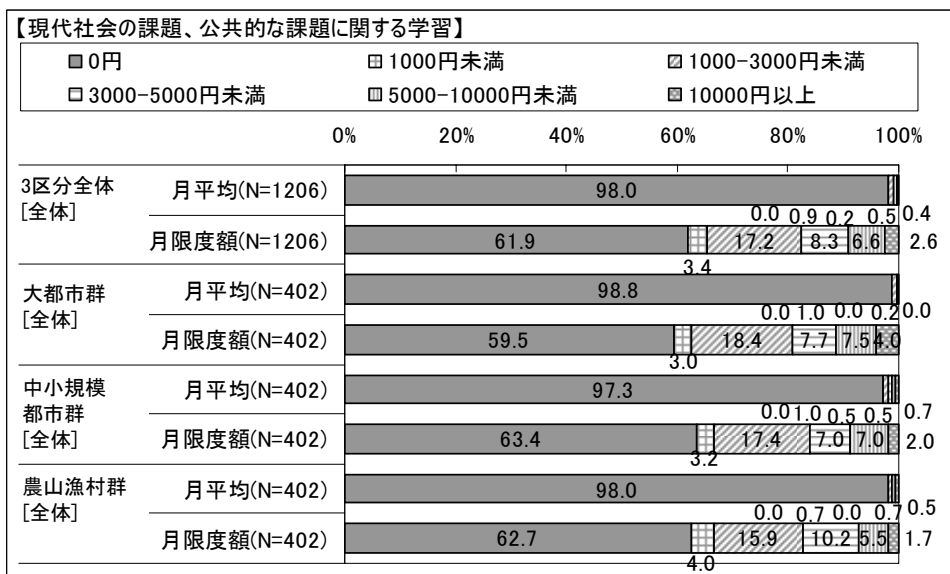
現代社会の課題、公共的な課題に関する学習の学習活動について、平均的な費用負担額と負担限度額を質問したところ、「0円」は全体の98.0%であったが、限度額については61.9%であった。年代別にみると、限度額について「0円」と回答する割合が最も高いのは20-30代で、63.4%であった。

図表2-70.現代社会の課題、公共的な課題に関する学習実施者の学習費用(年代別)



地域規模別にみると、限度額について「0円」と回答する割合が最も高いのは中小規模都市群で、63.4%であった。

図表2-71.現代社会の課題、公共的な課題に関する学習実施者の学習費用(地域規模別)



(5) やりたいができていない学習について

やりたいができていない学習については、以下のとおりである。

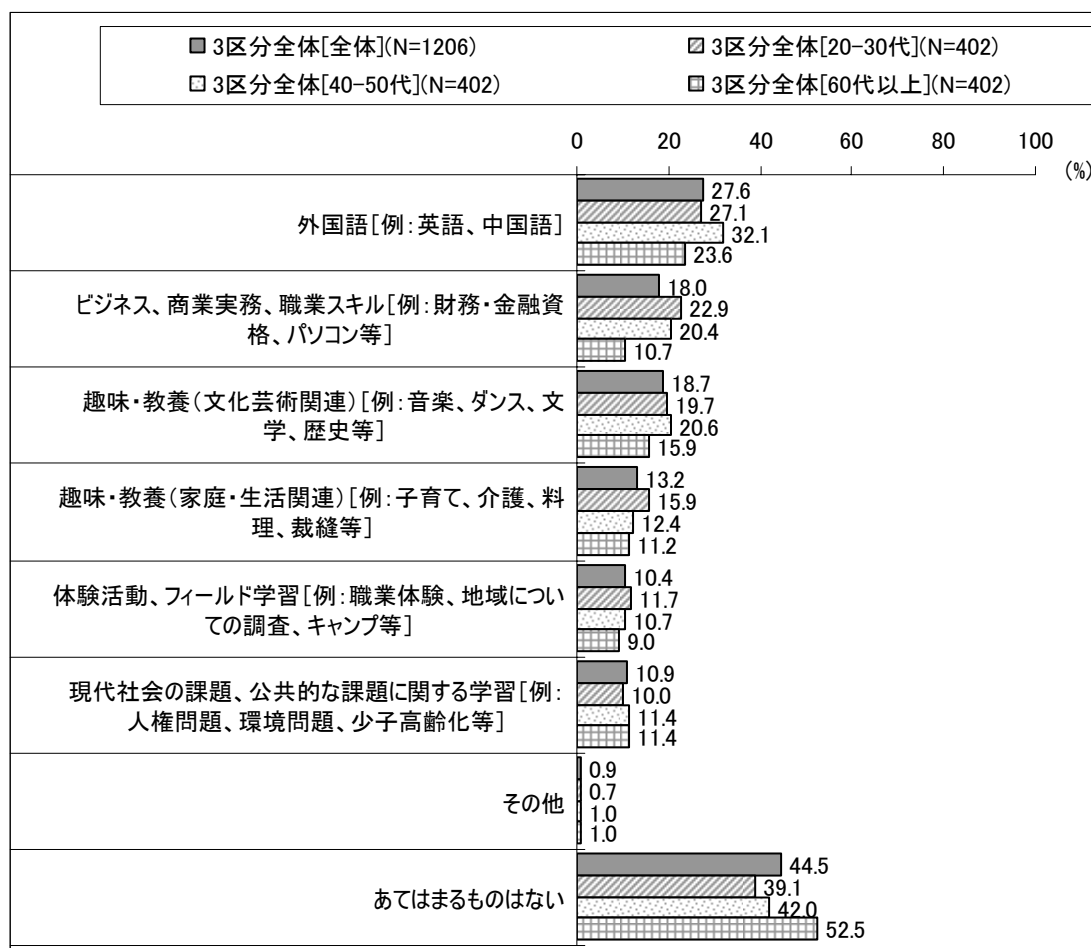
問 以下の1～6の学習活動のうち、関心があるにもかかわらず、活動できていない取組はありますか。当てはまる記号すべてに○をつけてください。また、○をつけた各活動に関し、活動できていない理由について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

1) やりたいができていない活動内容

関心はあるが活動できていない取組について質問したところ、全体では、「外国語」が最も多く27.6%であった。

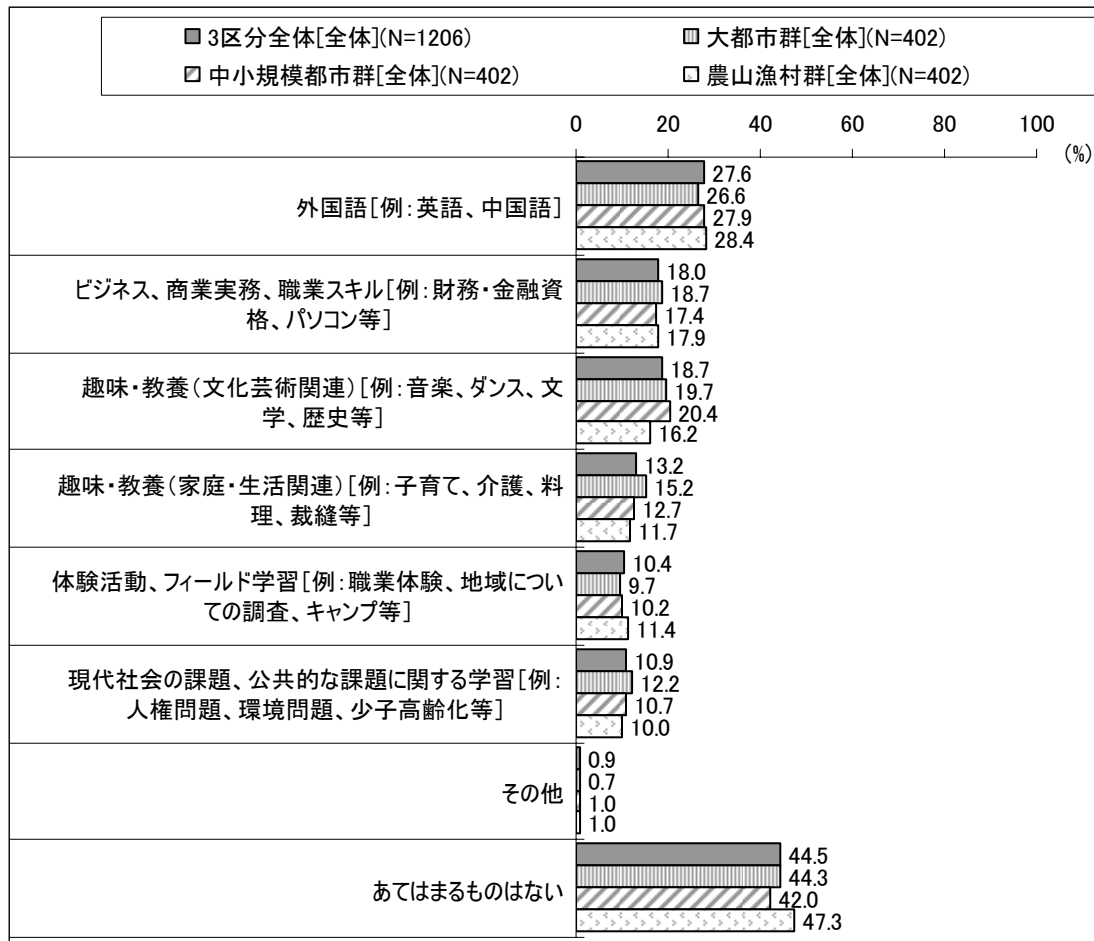
年代別にみると、すべての年代で「外国語」が最も多く、20-30代が27.1%、40-50代が32.1%、60代以上が23.6%であった。次いで多かった回答は、20-30代は「ビジネス、商業実務、職業スキル」で22.9%、40-50代、60代以上は「趣味・教養（文化芸術関連）」で40-50代が20.6%、60代以上が15.9%であった。

図表2-72.対象者がやりたいができていない活動内容(年代別)



地域規模別にみると、すべての地域で「外国語」が最も多く、20-30代が26.6%、40-50代が27.9%、60代以上が28.4%であった。次いで多かった回答は、大都市群、中小規模都市群は「趣味・教養（文化芸術関連）」で大都市群が19.7%、中小規模都市群が20.4%であった。農山漁村群は「ビジネス、商業実務、職業スキル」で17.9%であった。

図表2-73.対象者がやりたいができていない活動内容(地域規模別)



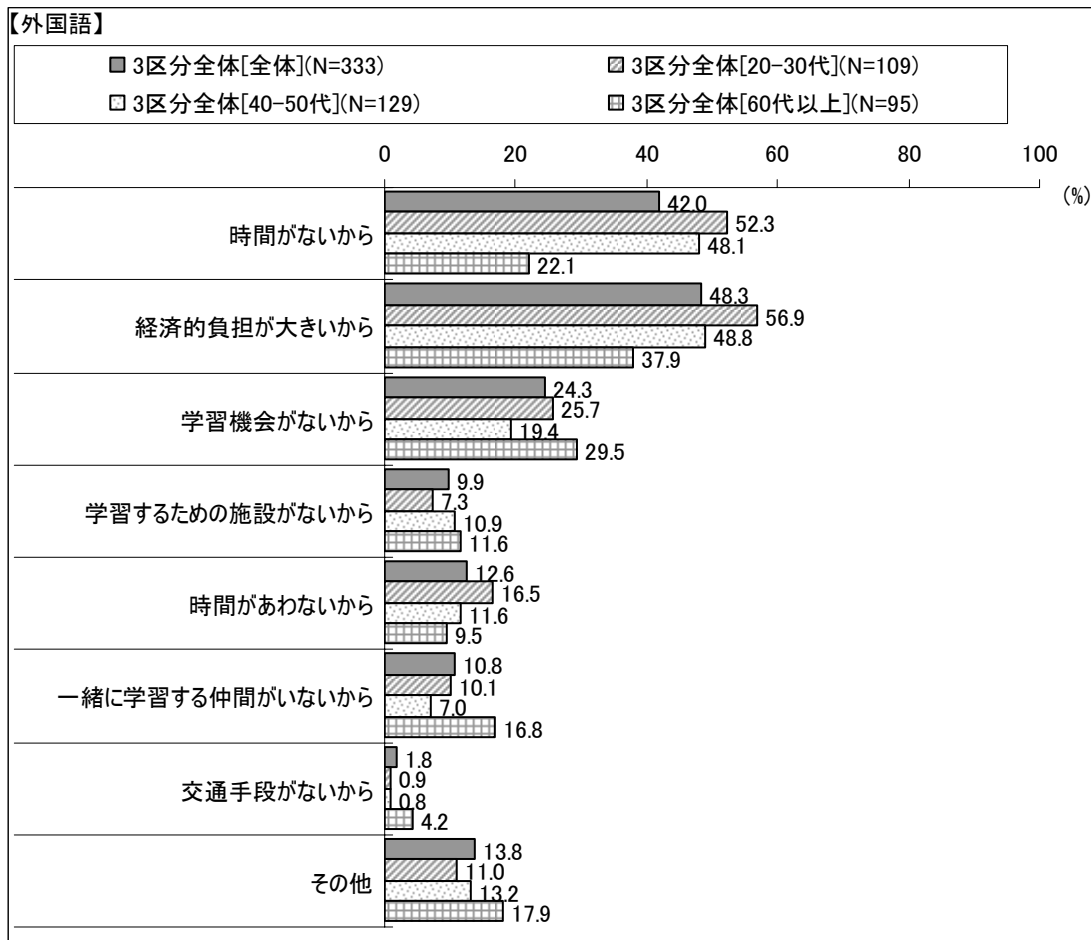
2) 活動できていない理由

【外国語】

外国語に関して、活動できていない理由を質問したところ、全体では「経済的負担が大きいから」が最も多く、48.3%であった。

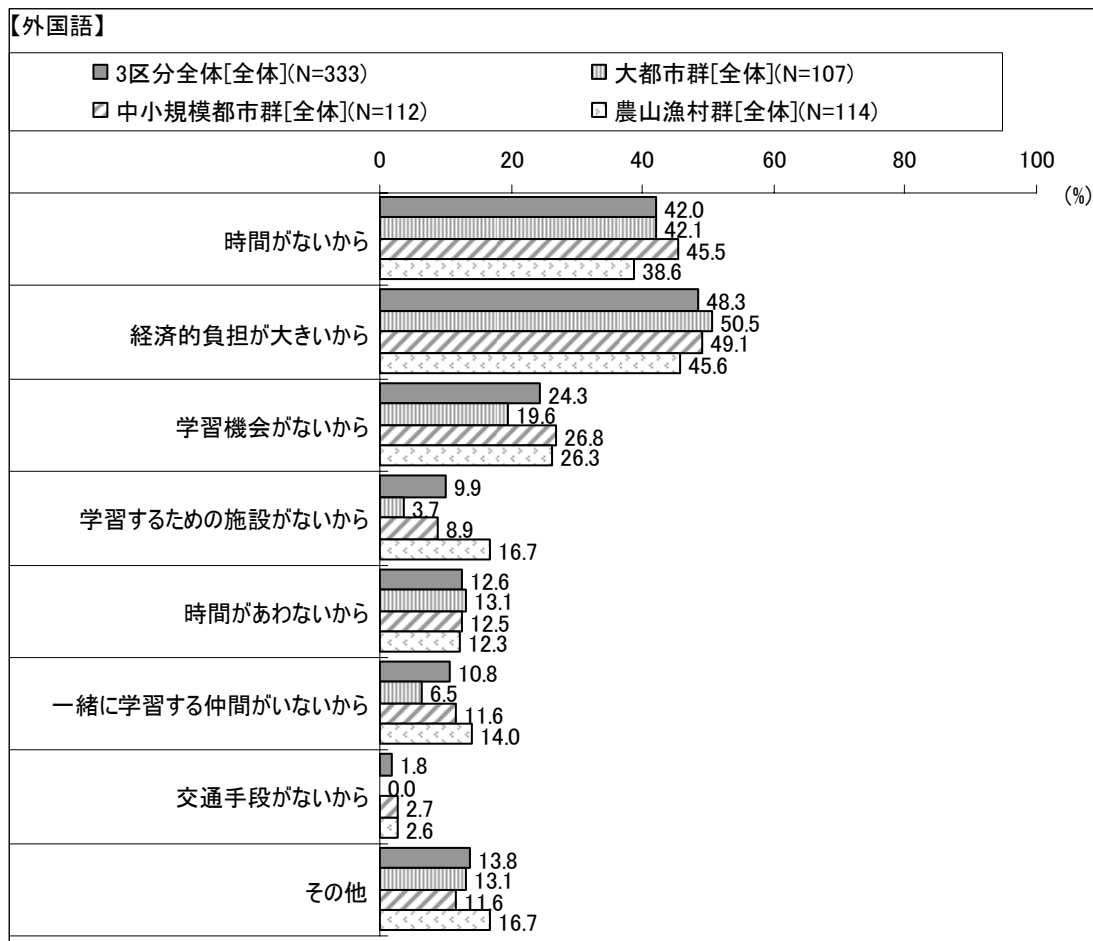
年代別にみると、すべての年代で「経済的負担が大きいから」が最も多く、20-30代が56.9%、40-50代が48.8%、60代以上が37.9%であった。次いで多かった回答は、20-30代、40-50代は「時間がないから」であり、20-30代が52.3%、40-50代が48.1%であった。60代以上は、次いで「学習機会がないから」が多く、29.5%であった。

図表2-74.外国語の学習について活動できていない理由(年代別)



地域規模別にみると、すべての地域で「経済的負担が大きいから」が最も多く、大都市群が50.5%、中小規模都市群が49.1%、農山漁村群が45.6%であった。

図表2-75.外国語の学習について活動できていない理由(地域規模別)

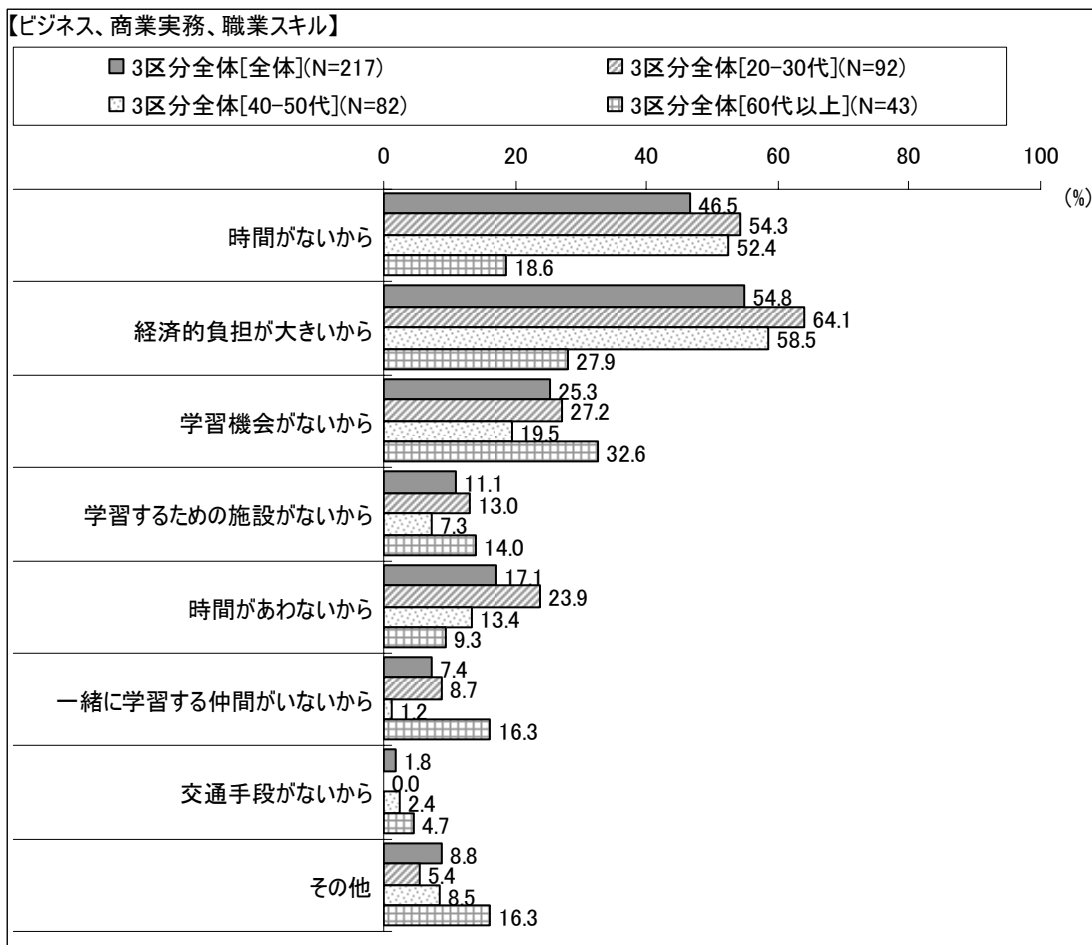


【ビジネス、商業実務、職業スキル】

ビジネス、商業実務、職業スキルに関して、活動できていない理由を質問したところ、全体では「経済的負担が大きいから」が最も多く、54.8%であった。

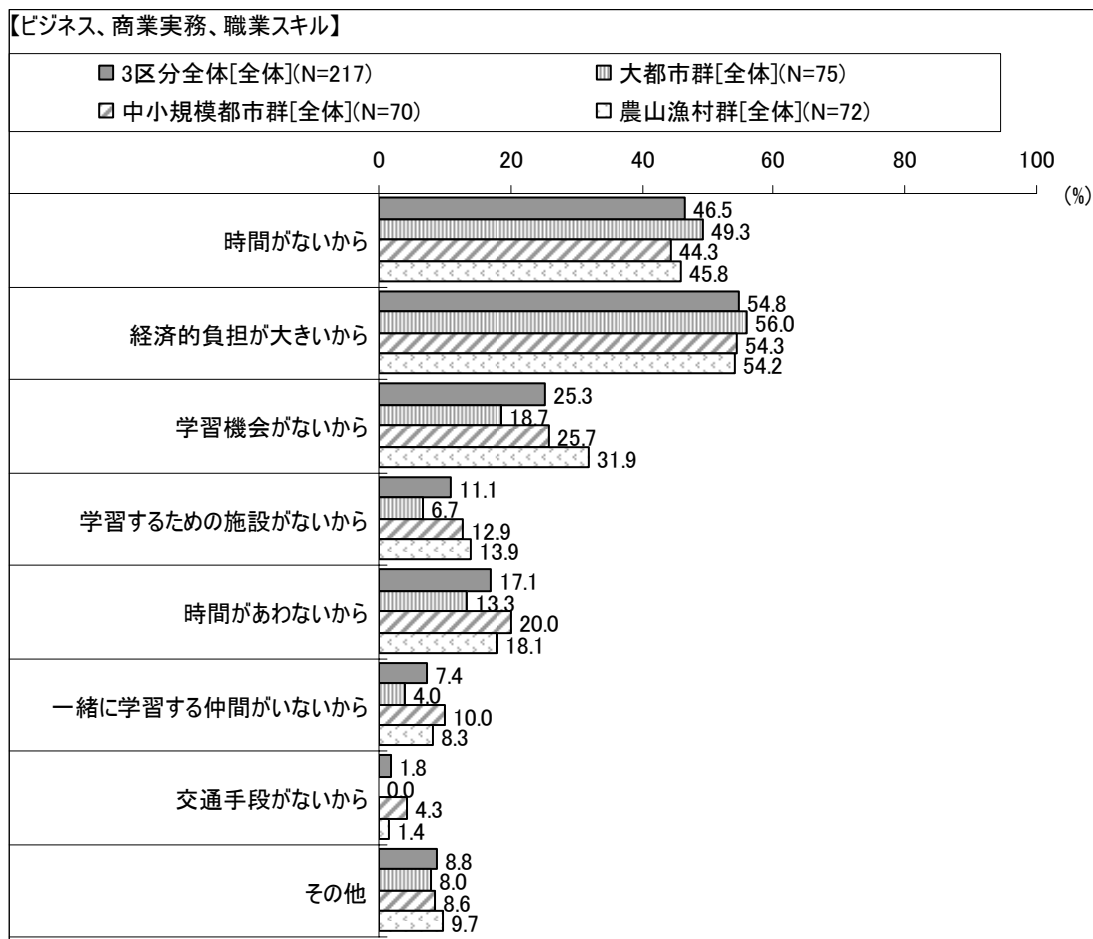
年代別にみると、20-30代、40-50代では、「経済的負担が大きいから」が最も多く、20-30代が64.1%、40-50代が58.5%であった。60代以上が37.9%では、「学習機会がないから」が最も多く、32.6%であった。次いで多かった回答は、20-30代、40-50代は「時間がないから」であり、20-30代が54.3%、40-50代が52.4%であった。60代以上は、次いで「経済的負担が大きいから」が多く、27.9%であった。

図表2-76.ビジネス、商業実務、職業スキルについて活動できていない理由(年代別)



地域規模別にみると、すべての地域で「経済的負担が大きいから」が最も多く、大都市群が56.0%、中小規模都市群が54.3%、農山漁村群が54.2%であった。

図表2-77.ビジネス、商業実務、職業スキルについて活動できていない理由(地域規模別)

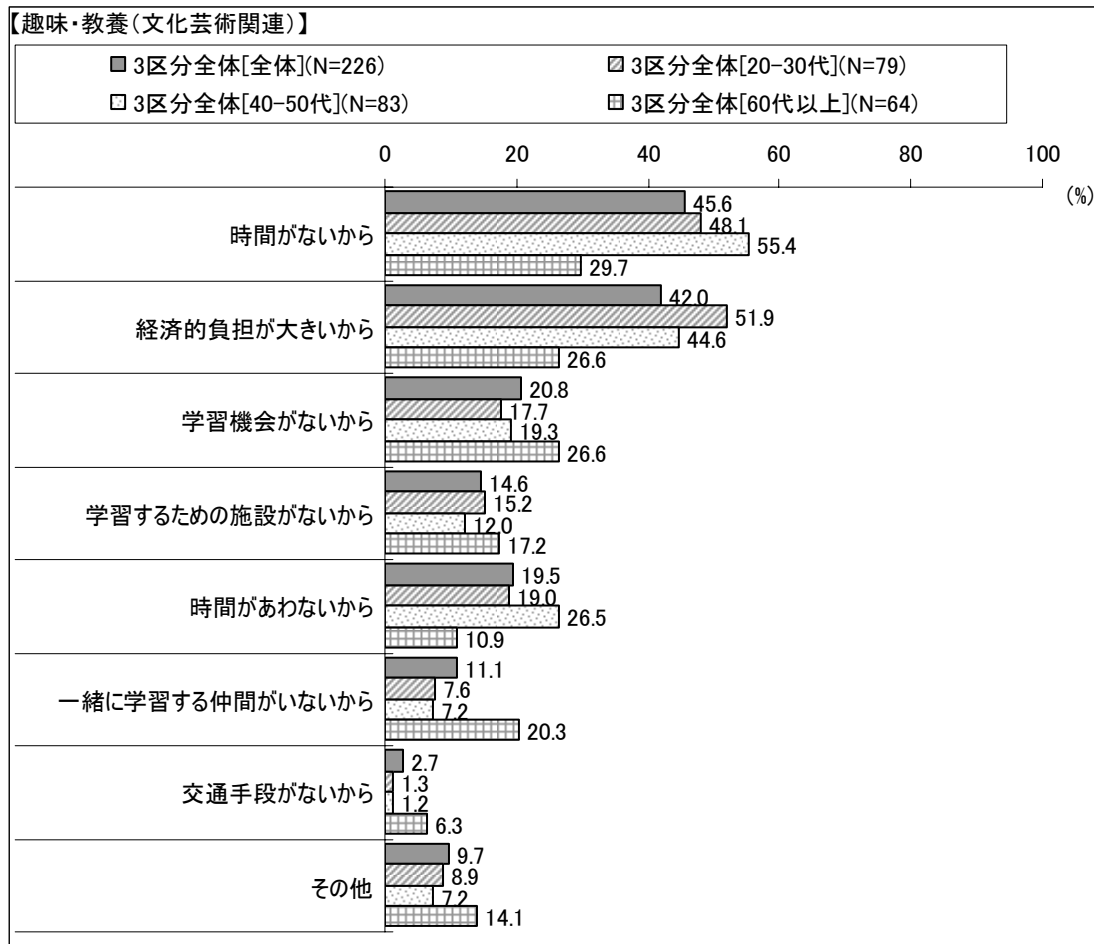


【趣味・教養（文化芸術関連）】

趣味・教養（文化芸術関連）に関して、活動できていない理由を質問したところ、全体では「時間がないから」が最も多く、45.6%であった。

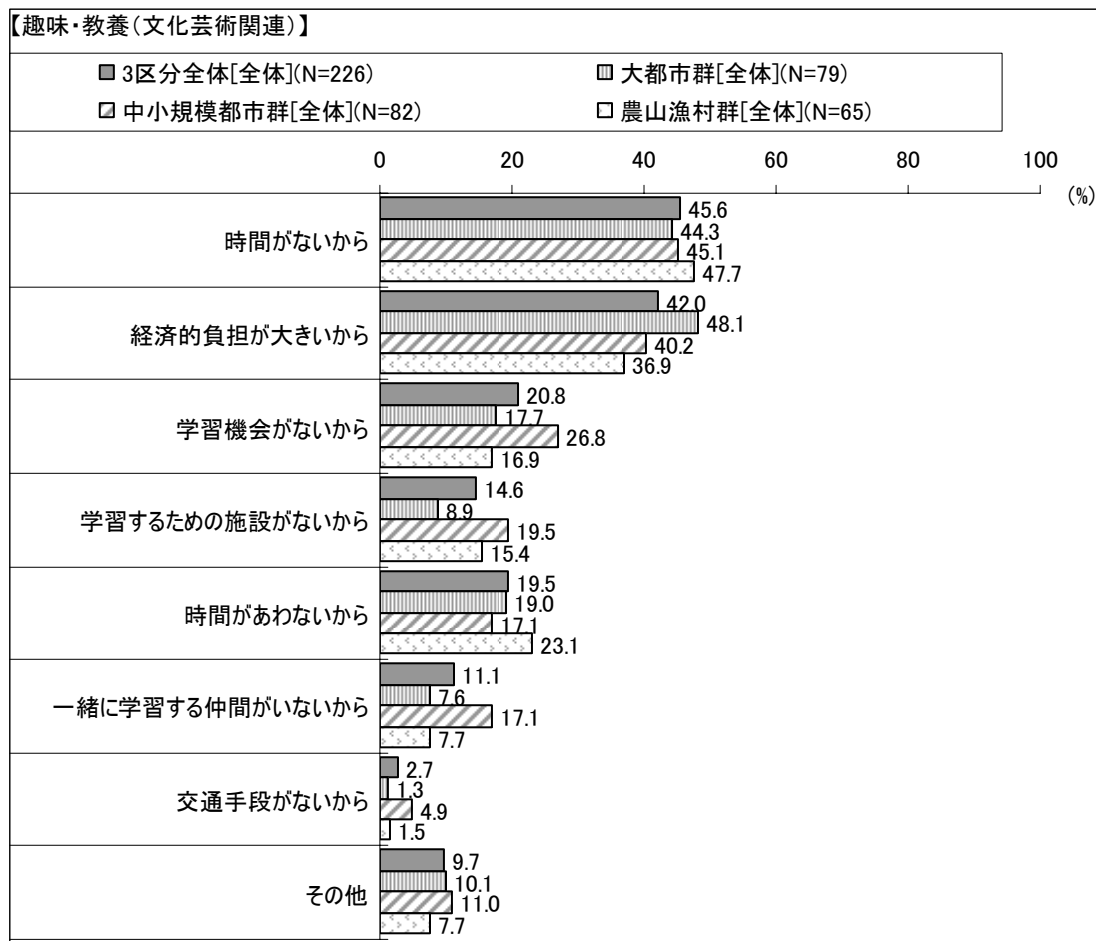
年代別にみると、20-30代は「経済的負担が大きいから」が最も多く、51.9%であった。40-50代、60代以上は「時間がないから」が最も多く、40-50代は55.4%、60代以上は29.7%であった。

図表2-78.趣味・教養(文化芸術関連)について活動できていない理由(年代別)



地域規模別にみると、大都市群は「経済的負担が大きいから」が最も多く、48.1%であった。中小規模都市群、農山漁村群は「時間がないから」が最も多く、中小規模都市群が45.1%、農山漁村群が47.7%であった。

図表2-79. 趣味・教養(文化芸術関連)について活動できていない理由(地域規模別)

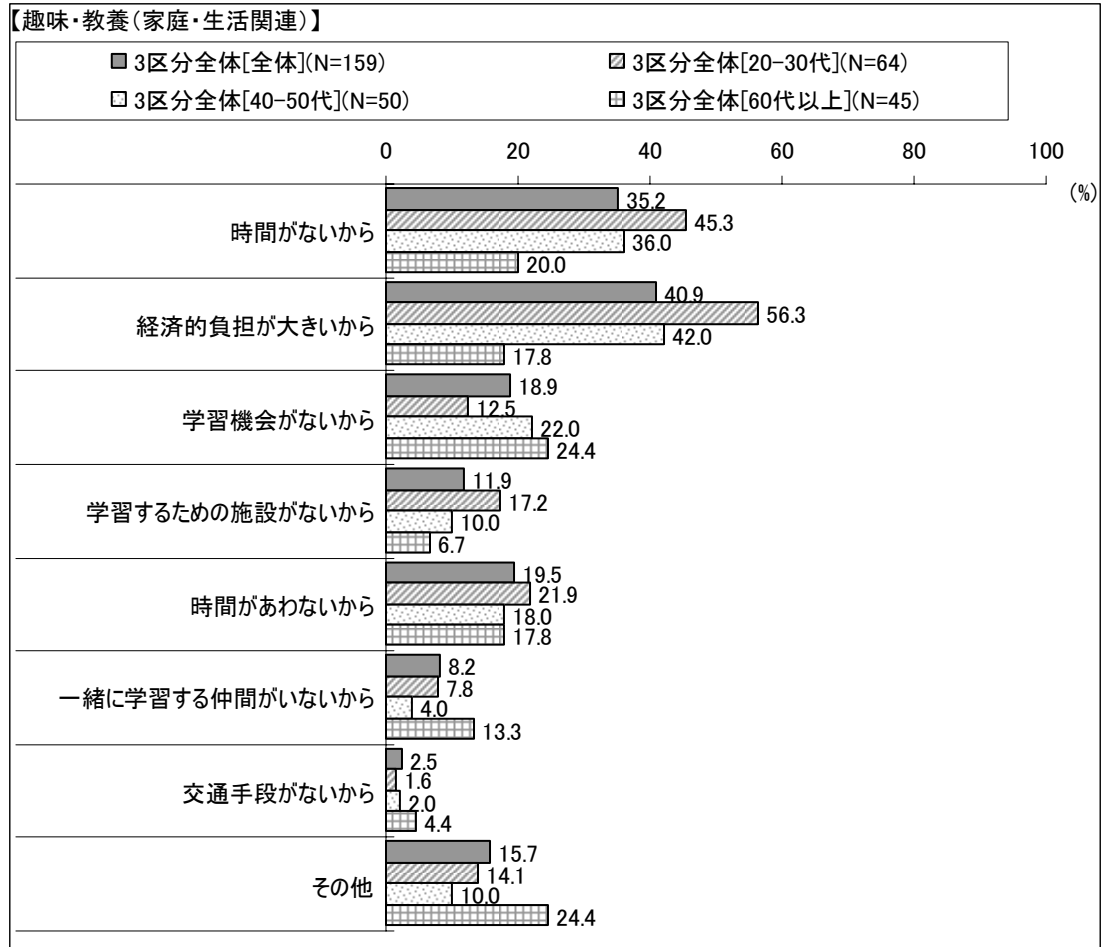


【趣味・教養（家庭・生活関連）】

趣味・教養（家庭・生活関連）に関して、活動できていない理由を質問したところ、全体では「経済的負担が大きいから」が最も多く、40.9%であった。

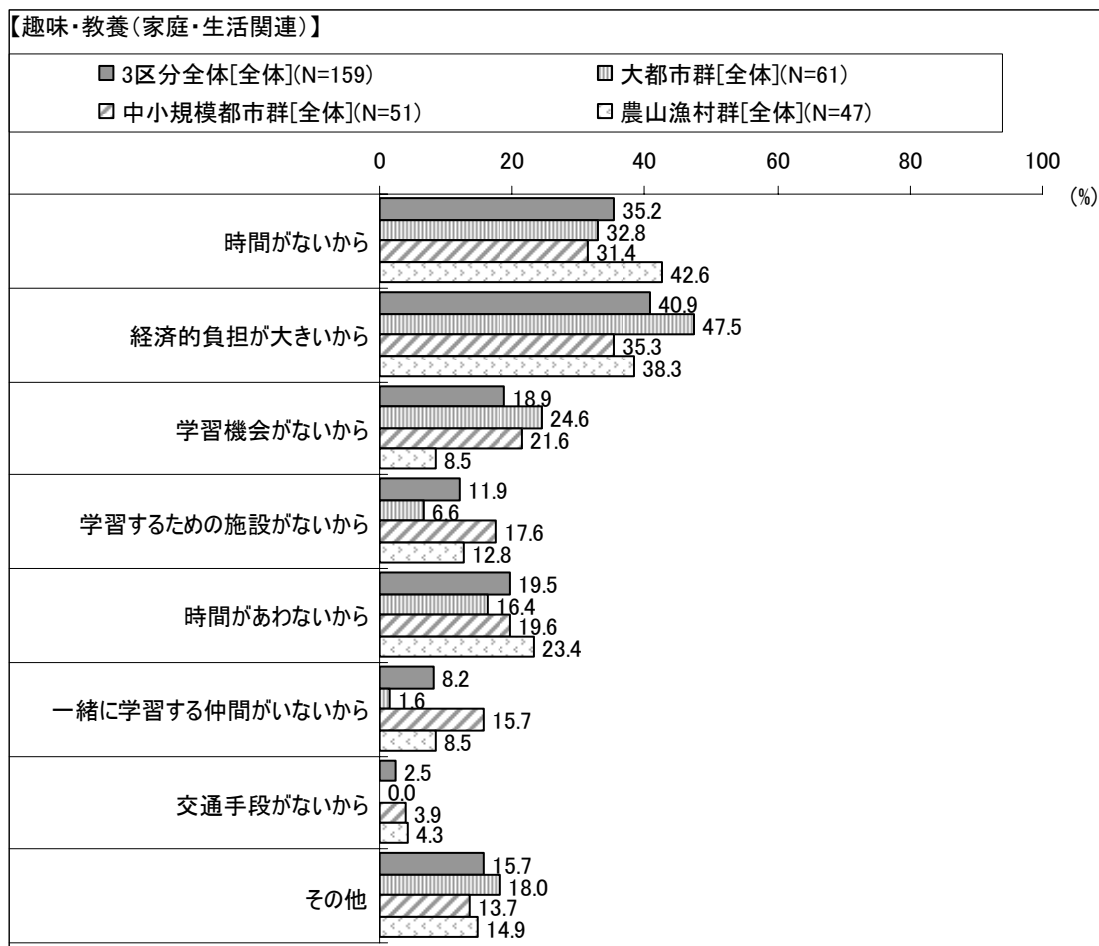
年代別にみると、20-30代、40-50代は「経済的負担が大きい」が最も多く、20-30代が56.3%、40-50代が42.0%であった。60代以上は、「学習機会がないから」が最も多く、24.4%であった。

図表2-80.趣味・教養(家庭・生活関連)について活動できていない理由(年代別)



地域規模別にみると、大都市群、中小規模都市群は「経済的負担が大きいから」が最も多く、大都市規模群が47.5%、中小規模都市群が35.3%であった。農山漁村群は「時間がないから」が最も多く、42.6%であった。

図表2-81.趣味・教養(家庭・生活関連)について活動できていない理由(地域規模別)

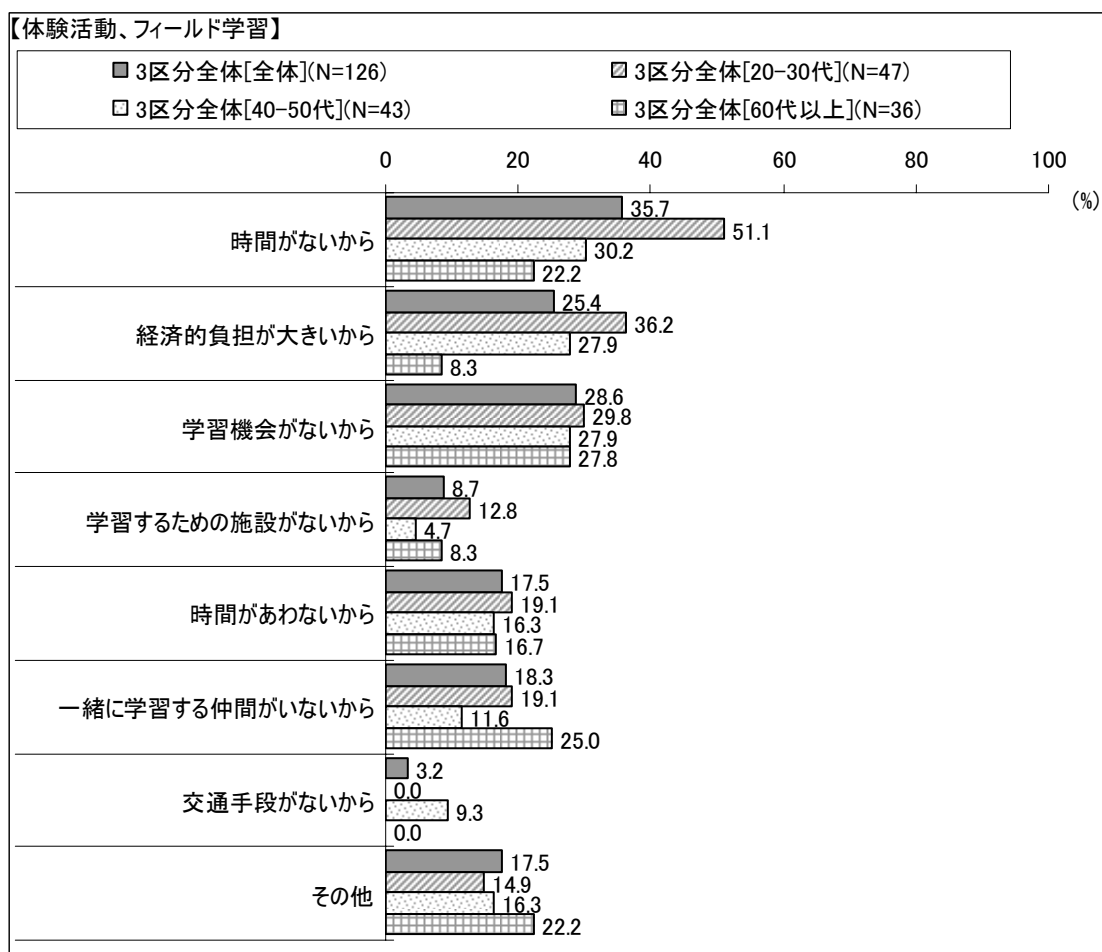


【体験活動、フィールド学習】

体験活動、フィールド学習に関して、活動できていない理由を質問したところ、全体では「時間がないから」が最も多く、35.7%であった。

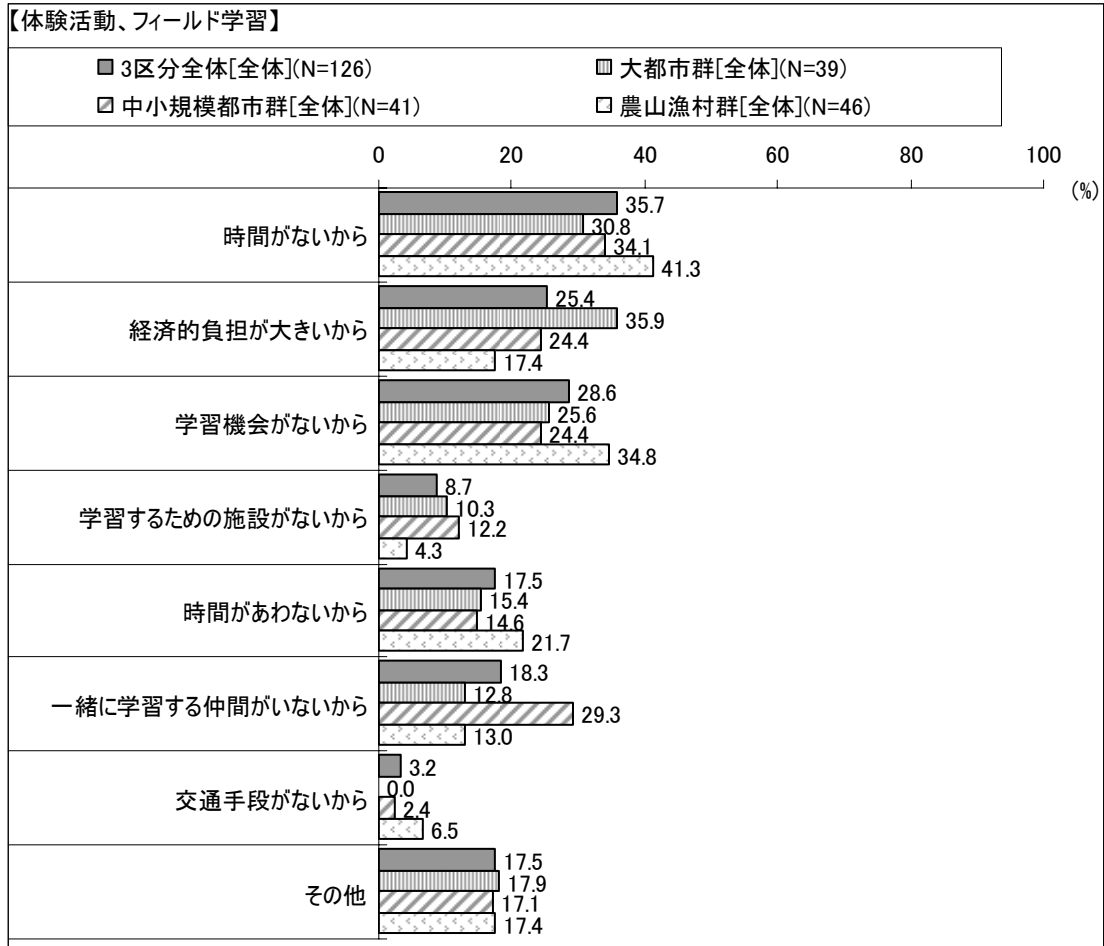
年代別にみると、20-30代、40-50代は「時間がないから」が最も多く、20-30代が51.1%、40-50代が30.2%であった。60代以上は「学習機会がないから」が最も多く、27.8%であった。次いで多かった回答は、20-30代が「経済的負担が大きいから」、40-50代が「経済的負担が大きいから」及び「学習機会がないから」、60代以上は「一緒に学習する仲間がないから」であった。

図表2-82.体験活動、フィールド学習について活動できていない理由(年代別)



地域規模別にみると、大都市群は「経済的負担が大きいから」が最も多く、35.9%であった。一方、中小規模都市群と農山漁村群は「時間がないから」が最も多く、それぞれ34.1%、41.3%であった。

図表2-83.体験活動、フィールド学習について活動できていない理由(地域規模別)

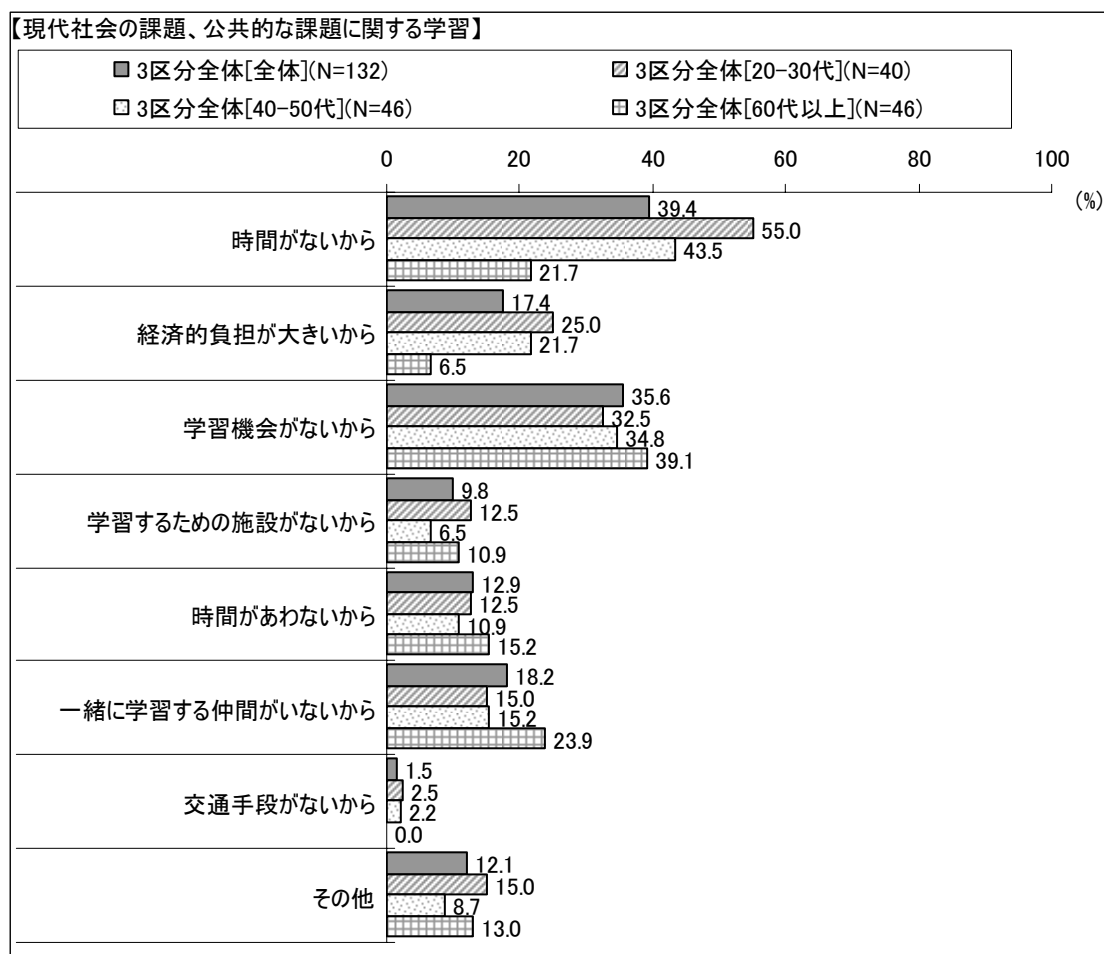


【現代社会の課題、公共的な課題に関する学習】

現代社会の課題、公共的な課題に関する学習に関して、活動できていない理由を質問したところ、全体では「時間がないから」が最も多く、39.4%であった。

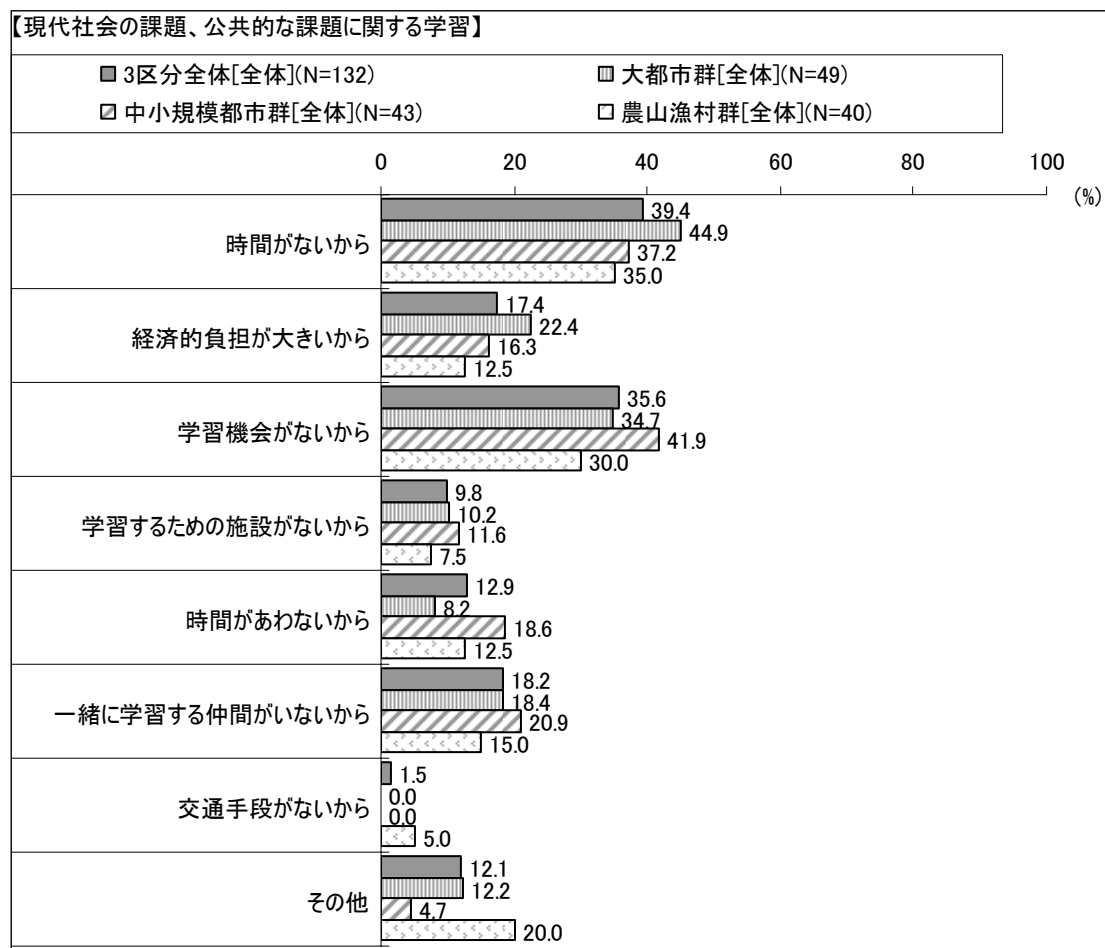
年代別にみると、20-30代、40-50代は「時間がないから」が最も多く、20-30代が55.0%、40-50代が43.5%であった。60代以上は「学習機会がないから」が最も多く、39.1%であった。次いで多かった回答は、20-30代、40-50代が「学習機会がないから」、60代以上は「一緒に学習する仲間がないから」であった。

図表2-84.現代社会の課題、公共的な課題に関する学習について活動できていない理由(年代別)



地域規模別にみると、大都市群は「時間がないから」が最も多く 44.9%、中小規模都市群は「学習機会がないから」が最も多く 41.9%、農山漁村群は「時間がないから」が最も多く 35.0%であった。

図表2-85.現代社会の課題、公共的な課題に関する学習について活動できていない理由(地域規模別)



(6) 社会教育施設等の認知度

社会教育施設等の認知度については、以下のとおりである。

問 あなたの居住している市区町村にある施設についてお聞きます。

1) 認知度

(1) あなたは、居住している市区町村にある以下の施設についてどの程度知っていますか。また、各施設を身近に感じますか。a～dそれぞれについて、もっとも当てはまる番号一つに○をつけてください。

社会教育施設について、どの程度知っているか質問したところ、「施設の具体的な役割・活動内容を知っている」との回答は、公民館が39.8%、図書館が65.1%、博物館が25.4%、生涯学習センターが18.0%であった。

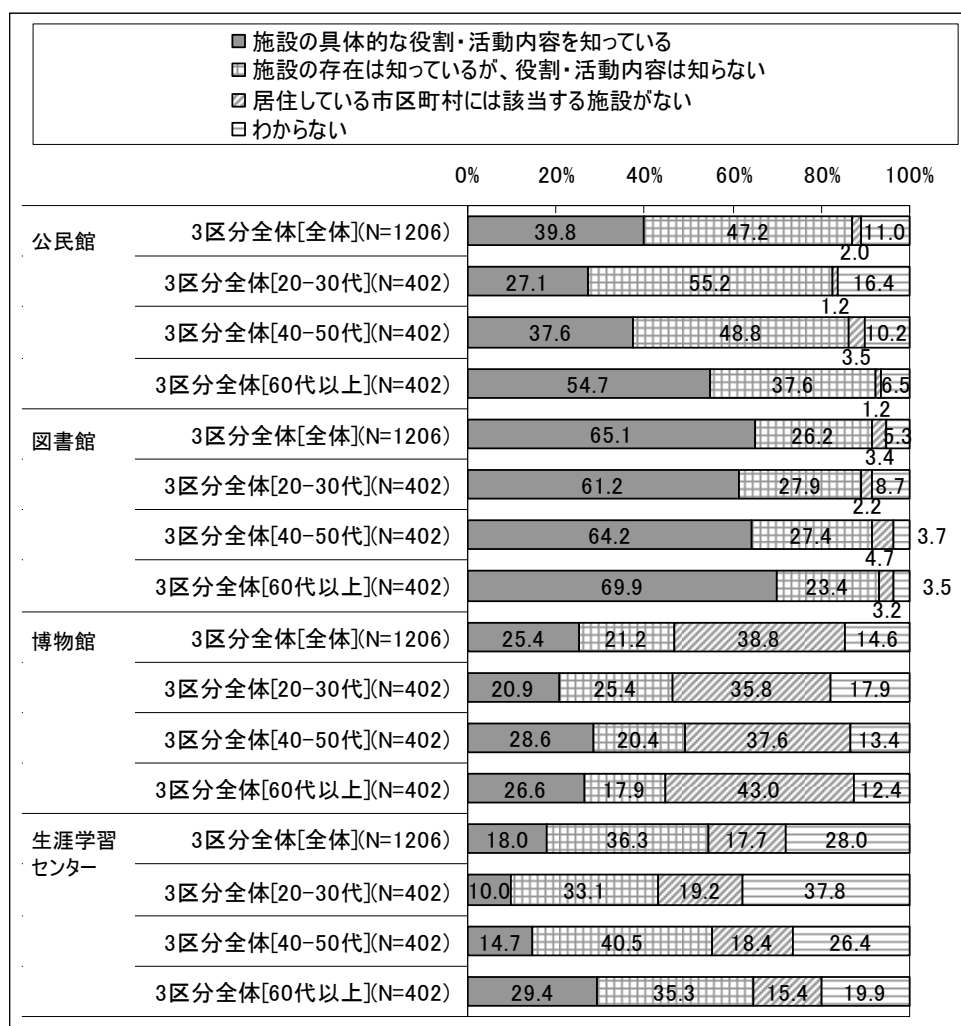
年代別にみると、公民館については、「施設の具体的な役割・活動内容を知っている」との回答は、年齢が高くなるほど多くなる傾向にあり、60代以上は54.7%であった。

図書館については、「施設の具体的な役割・活動内容を知っている」との回答は、年齢が高くなるほど多くなる傾向にあり、60代以上は69.9%であった。

博物館については、「施設の具体的な役割・活動内容を知っている」との回答は、40-50代が最も高く28.6%であった。

生涯学習センターについては、「施設の具体的な役割・活動内容を知っている」との回答は、年齢が高くなるほど多くなる傾向にあり、60代以上は29.4%であった。

図表2-86.社会教育施設等の認知状況(年代別)



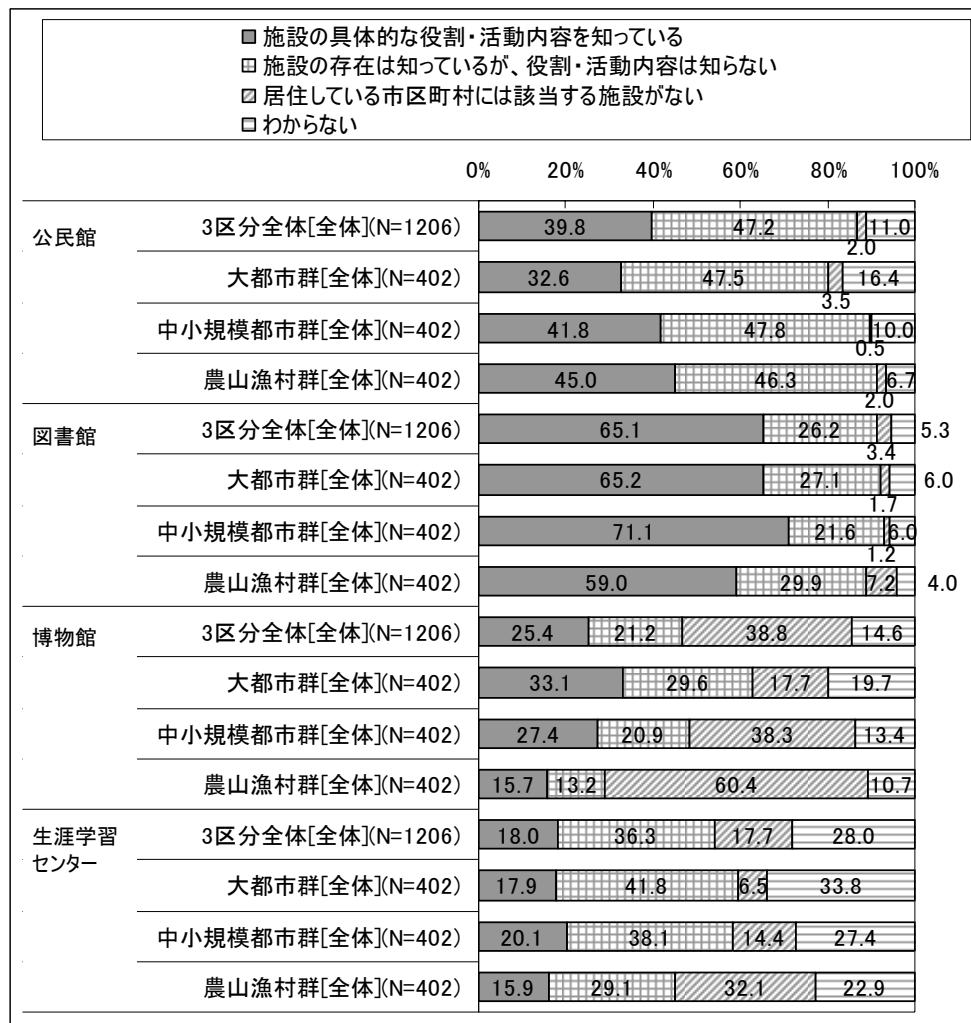
地域規模別にみると、公民館については、「施設の具体的な役割・活動内容を知っている」との回答は、地域規模が小さくなるほど多くなる傾向にあり、農山漁村群は45.0%であった。

図書館については、「施設の具体的な役割・活動内容を知っている」との回答は、中小規模都市群がもっと多く、71.1%であった。

博物館については、「施設の具体的な役割・活動内容を知っている」との回答は、地域規模が大きくなるほど多くなる傾向にあり、大都市群は33.1%であった。

生涯学習センターについては、「施設の具体的な役割・活動内容を知っている」との回答は、中小規模都市群が最も多く20.1%であった。

図表2-87.社会教育施設等の認知状況(地域規模別)



2) 使用頻度

社会教育施設について、どの程度の頻度で使用しているかを質問したところ、全体では、「ほぼ毎月使用している」と回答する割合が最も高いのは図書館で 20.6%、次いで公民館の 8.7%であった。

年代別にみると、公民館は、年齢が高くなるほど使用頻度が高まる傾向にあり、60代以上は「ほぼ毎月使用する」が 14.1%であった。図書館は、年齢が高くなるほど使用頻度が高まる傾向にあり、60代以上は 23.9%であった。

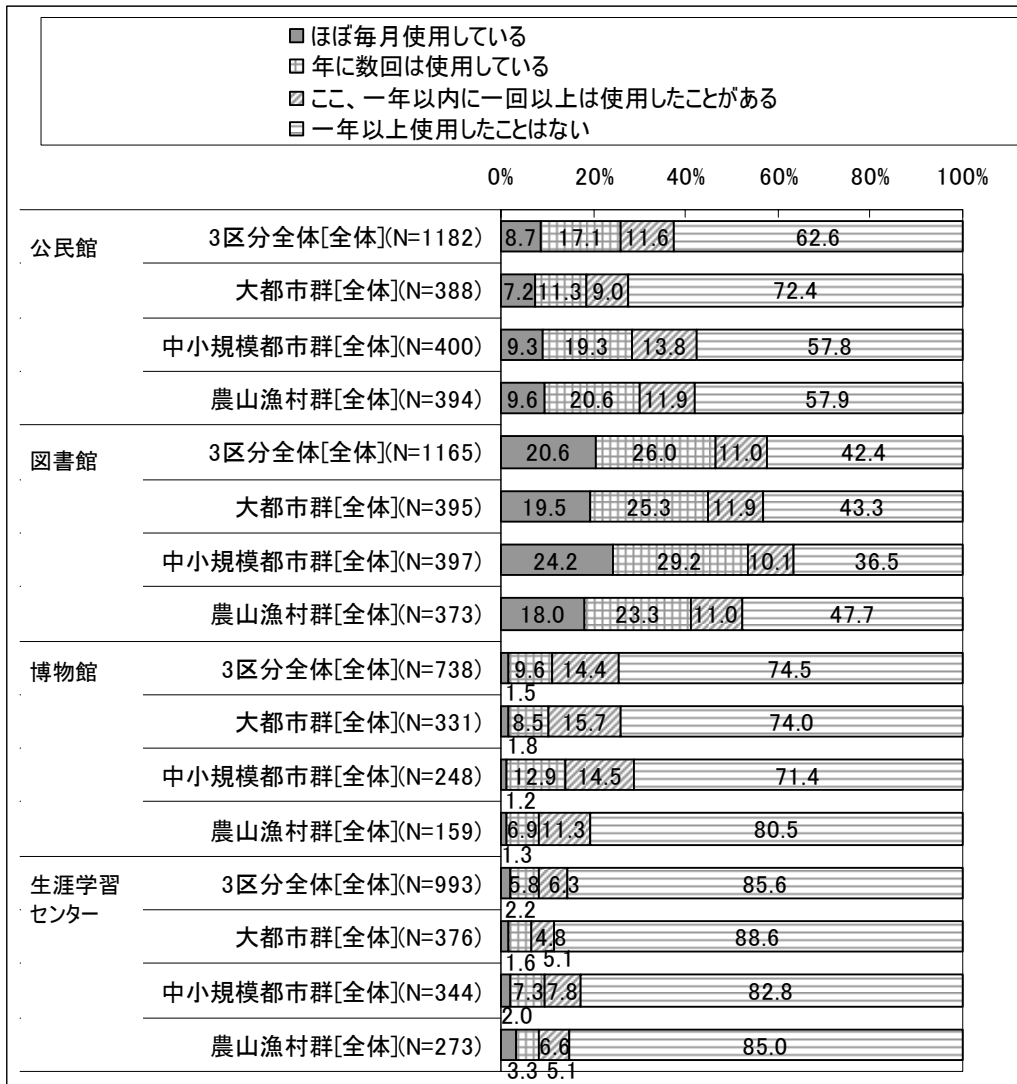
図表2-88.社会教育施設等の使用頻度(年代別)



地域規模別にみると、公民館は、「一年以上使用したことはない」と回答する割合は、大都市群が最も高く、72.4%であった。

図書館、博物館は、「一年以上使用したことはない」と回答する割合は、農山漁村群が最も高く、図書館が47.7%、博物館が80.5%であった。

図表2-89.社会教育施設等の使用頻度(地域規模別)



3) 身近に感じるか

会教育施設について、どの程度身近に感じるかを質問したところ、全体では「とても身近に感じる」と回答する割合が最も高いのは図書館で28.2%、次いで公民館の13.7%であった。

年代別にみると、公民館は、年齢が高くなるほど身近に感じる傾向にあり、60代以上は「とても身近に感じる」が19.6%、「ある程度身近に感じる」が37.8%であった。

図書館は、40-50代で「とても身近に感じる」と回答する割合が高く、31.1%であった。

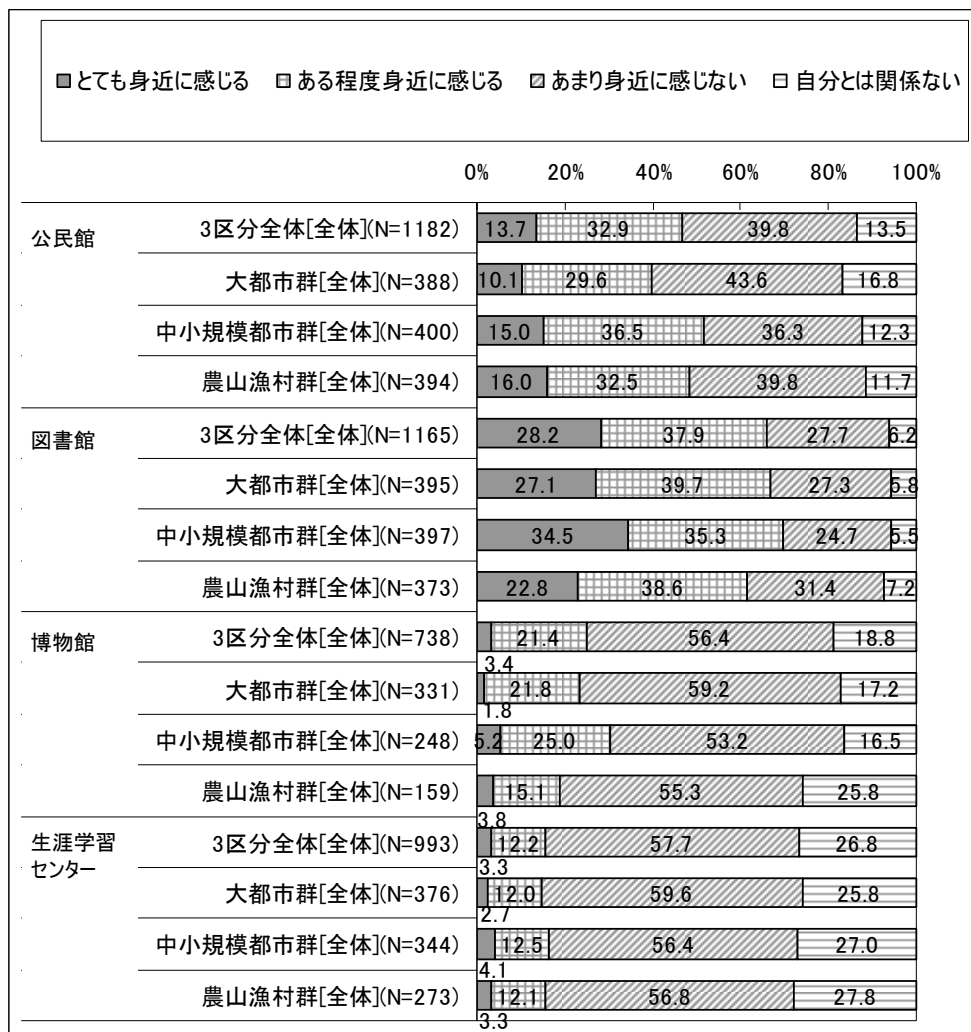
図表2-90.社会教育施設等の身近に感じる程度(年代別)



地域規模別にみると、公民館は、「とても身近に感じる」と回答する割合は、農山漁村郡が最も高く 16.0%、次いで中小規模都市群の 15.0%、大都市群の 10.1%であった。

図書館、博物館は、「とても身近に感じる」と回答する割合は、中小規模都市群が最も高く 34.5%、次いで大都市群の 27.1%、農山漁村群の 22.8%であった。

図表2-91.社会教育施設等の身近に感じる程度(地域規模別)



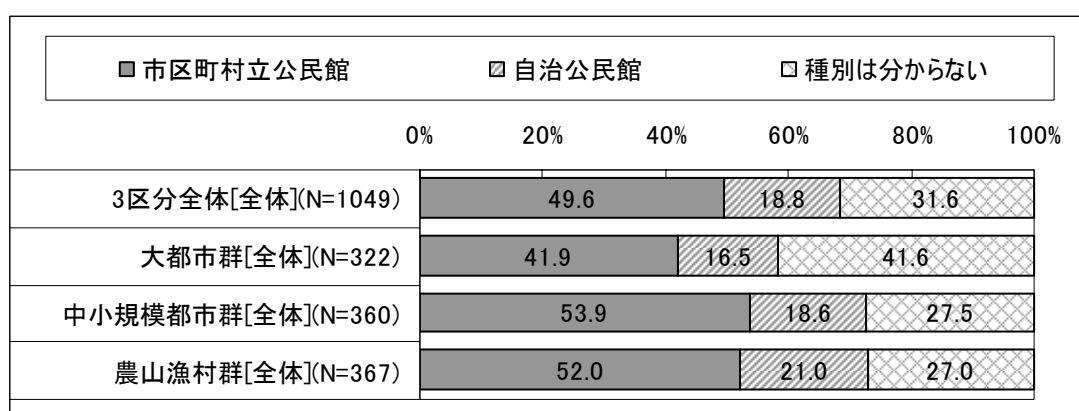
4) 公民館の種別

(2) (1)で「a. 公民館」に○をつけた方にお聞きます。居住している市区町村にある公民館の種別は何ですか。もっとも当てはまる番号一つに○をつけてください。

居住している市区町村にある公民館の種別を質問したところ、全体では「市区町村立公民館」が最も多く 49.6%であった。「自治公民館」は 18.8%、「種別は分からない」は 31.6%であった。

地域規模別にみると、「市区町村立公民館」と回答する割合が最も高いのは中小規模都市群、「自治公民館」と回答する割合が最も高いのは農山漁村群、「種別は分からない」と回答する割合が最も高いのは大都市群であった。

図表2-92.居住する市区町村にある公民館の種別(地域規模別)



(7) 社会教育施設等が提供する学習機会

問 あなたは、公民館、図書館、博物館、生涯学習センターを利用してどのような活動をしていますか。各施設について、当てはまる記号すべてに○をつけてください。また、○をつけた各活動に関し、活動頻度、平均的な費用負担額、満足度それぞれについて、当てはまる番号一つに○をつけてください。

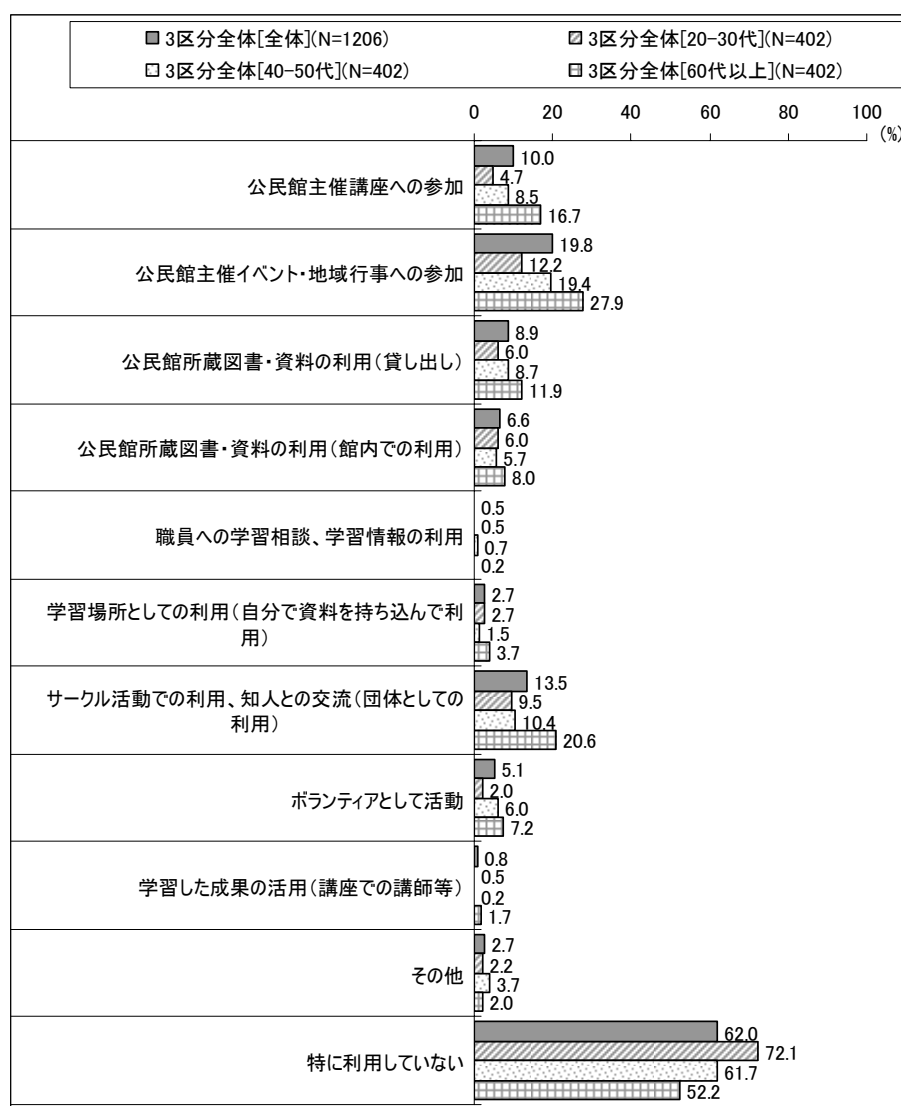
1) 活動内容

①公民館

公民館を利用して行う学習活動について質問したところ、全体では、「公民館主催イベント・地域行事への参加」が最も多く 19.8%であった。次いで「サークル活動での利用、知人との交流」が多く、13.5%であった。

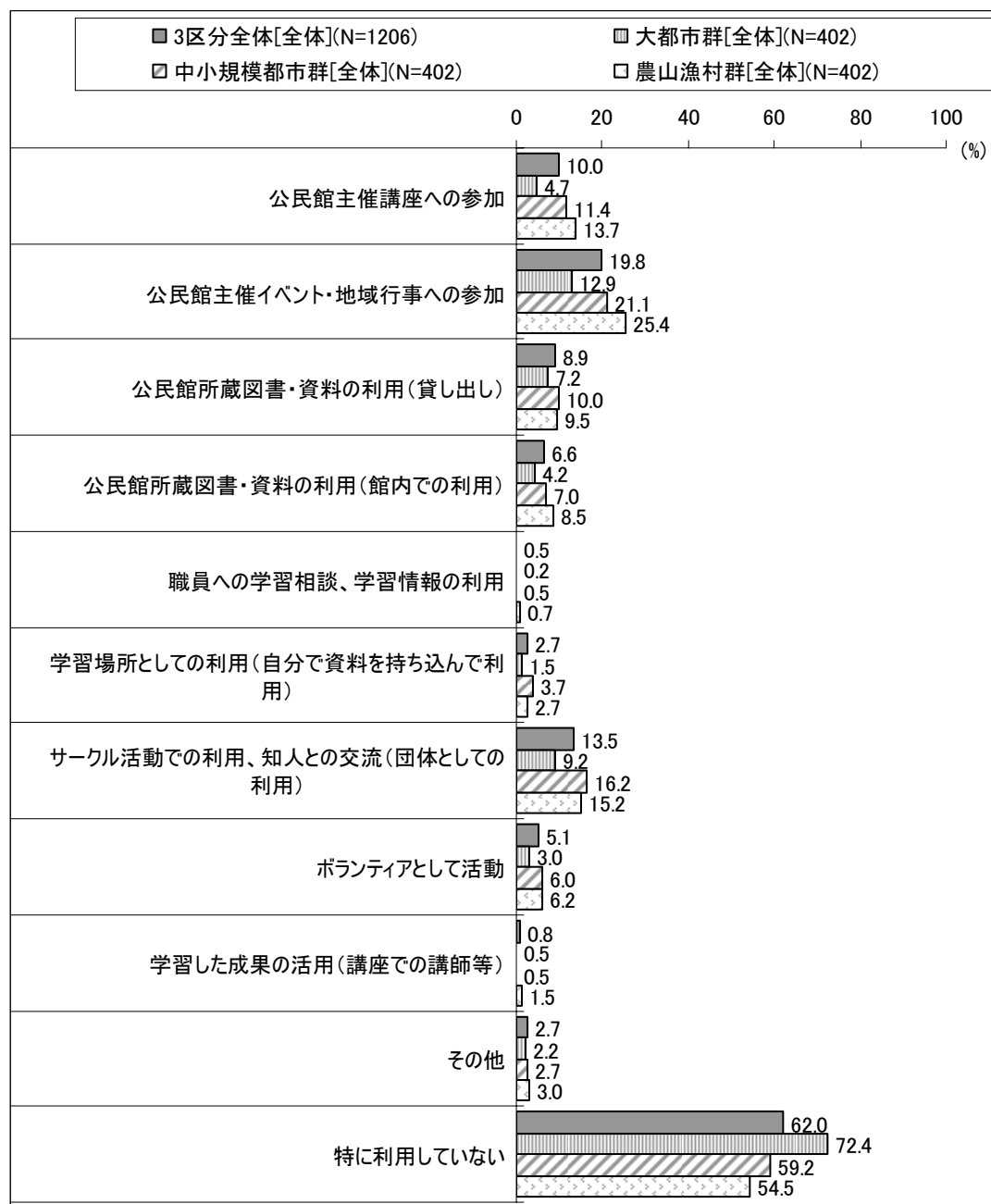
年代別にみると、すべての年代において、「公民館主催イベント・地域行事への参加」が最も多く、20-30代で12.2%、40-50代で19.4%、60代以上で27.9%であり、次いで「サークル活動での利用、知人との交流」が多く、20-30代で9.5%、40-50代で10.4%、60代以上で20.6%であった。

図表2-93. 公民館を利用して行う活動(年代別)



地域規模別にみると、すべての地域において、「公民館主催イベント・地域行事への参加」が最も多く、大都市群で12.9%、中小規模都市群で21.1%、農山漁村群で25.4%であり、次いで「サークル活動での利用、知人との交流」が多く、大都市群で9.2%、中小規模都市群で16.2%、農山漁村群で15.2%であった。

図表2-94.公民館を利用して行う活動(地域規模別)

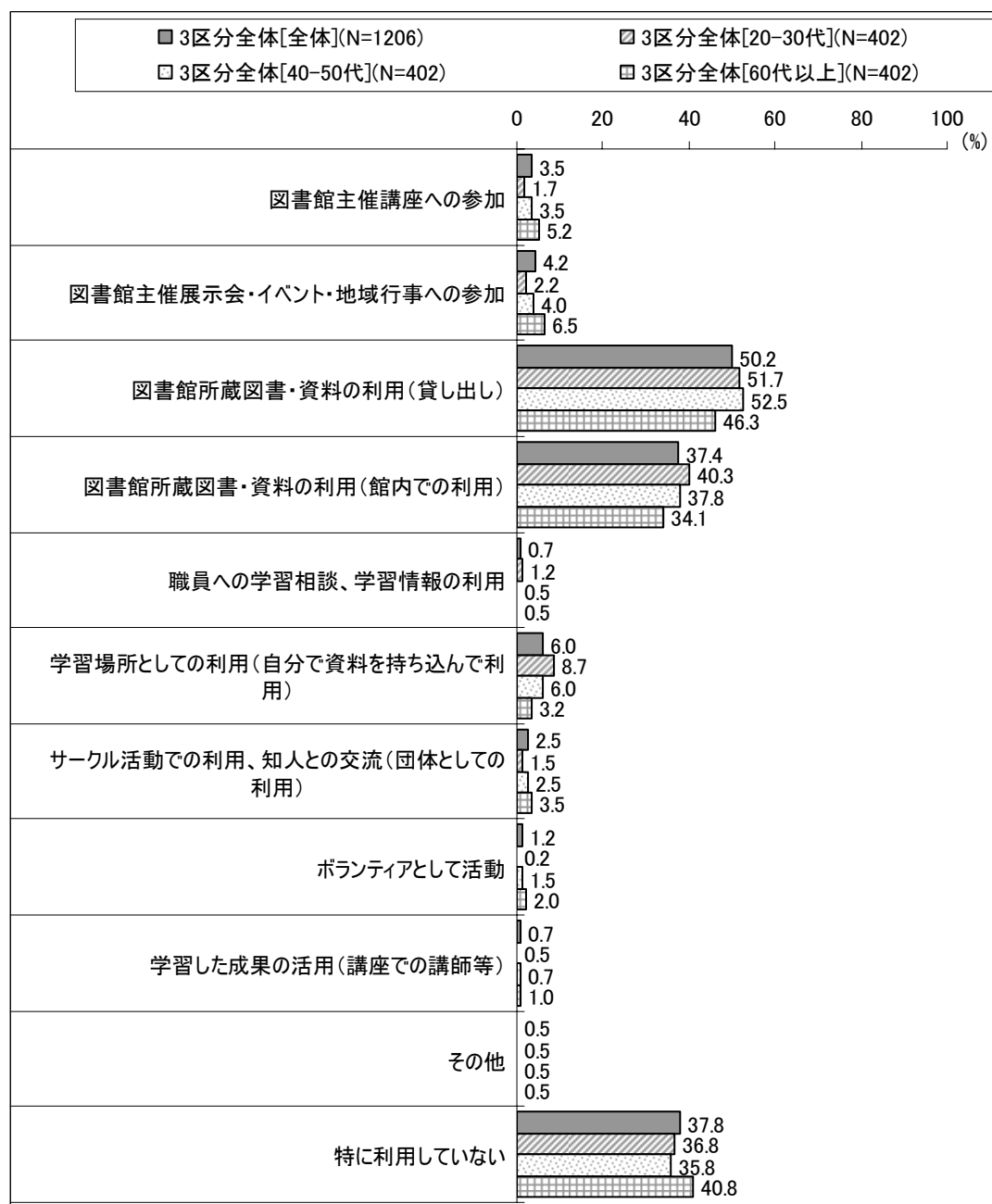


②図書館

図書館を利用して行う学習活動について質問したところ、全体では、「図書館所蔵図書・資料の利用（貸し出し）」が最も多く 50.2%であった。次いで「図書館所蔵図書・資料の利用（館内での利用）」が多く、37.4%であった。

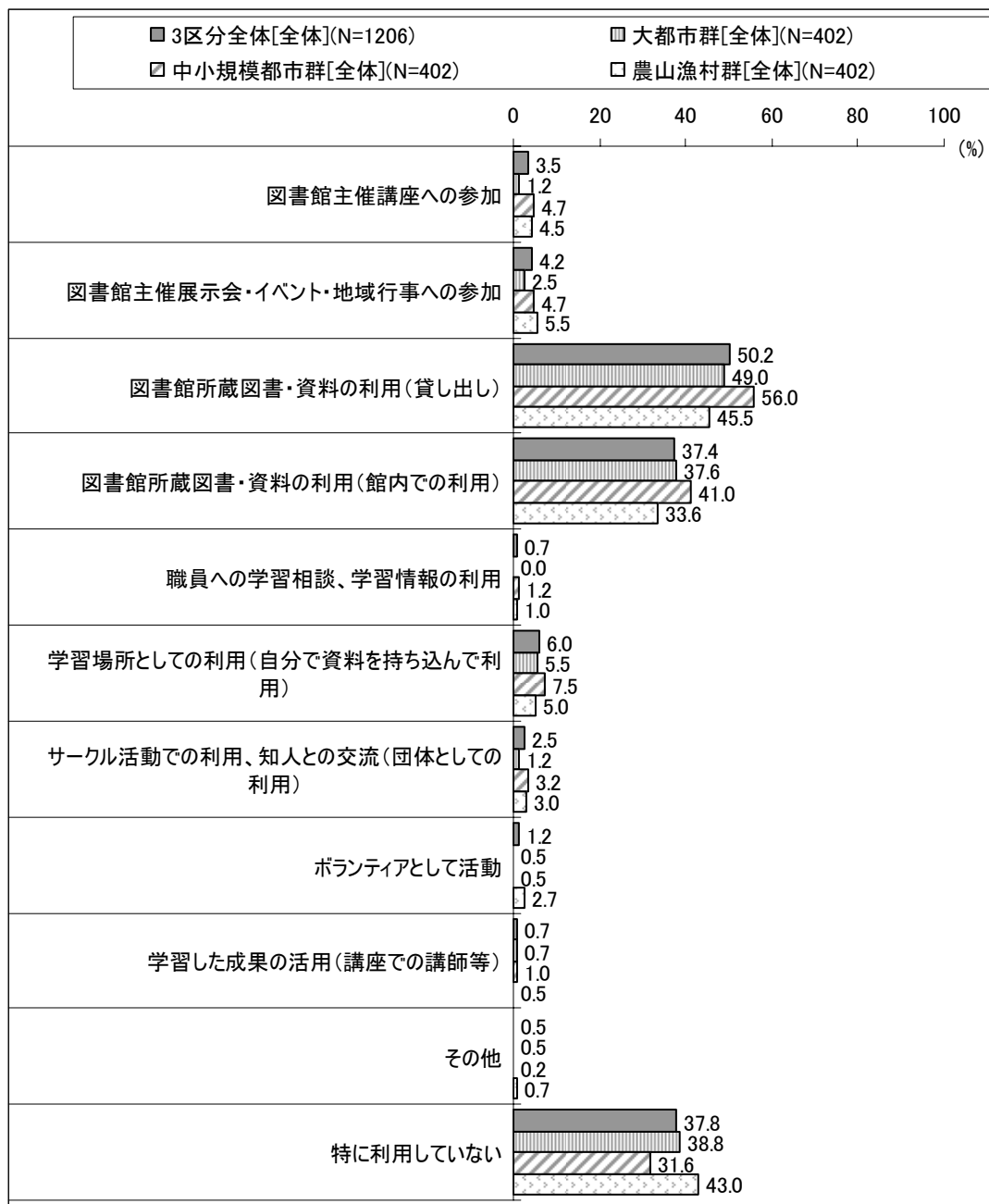
年代別にみると、すべての年代において、「図書館所蔵図書・資料の利用（貸し出し）」が最も多く、20-30代で 51.7%、40-50代で 52.5%、60代以上で 46.3%であり、次いで「図書館所蔵図書・資料の利用（館内での利用）」が多く、20-30代で 40.3%、40-50代で 37.8%、60代以上で 34.1%であった。

図表2-95.図書館を利用して行う活動(年代別)



地域規模別にみると、すべての地域において、「図書館所蔵図書・資料の利用（貸し出し）」が最も多く、大都市群で49.0%、中小規模都市群で56.0%、農山漁村群で45.5%であり、次いで「図書館所蔵図書・資料の利用（館内での利用）」が多く、大都市群で37.6%、中小規模都市群で41.0%、農山漁村群で33.6%であった。

図表2-96.図書館を利用して行う活動(地域規模別)

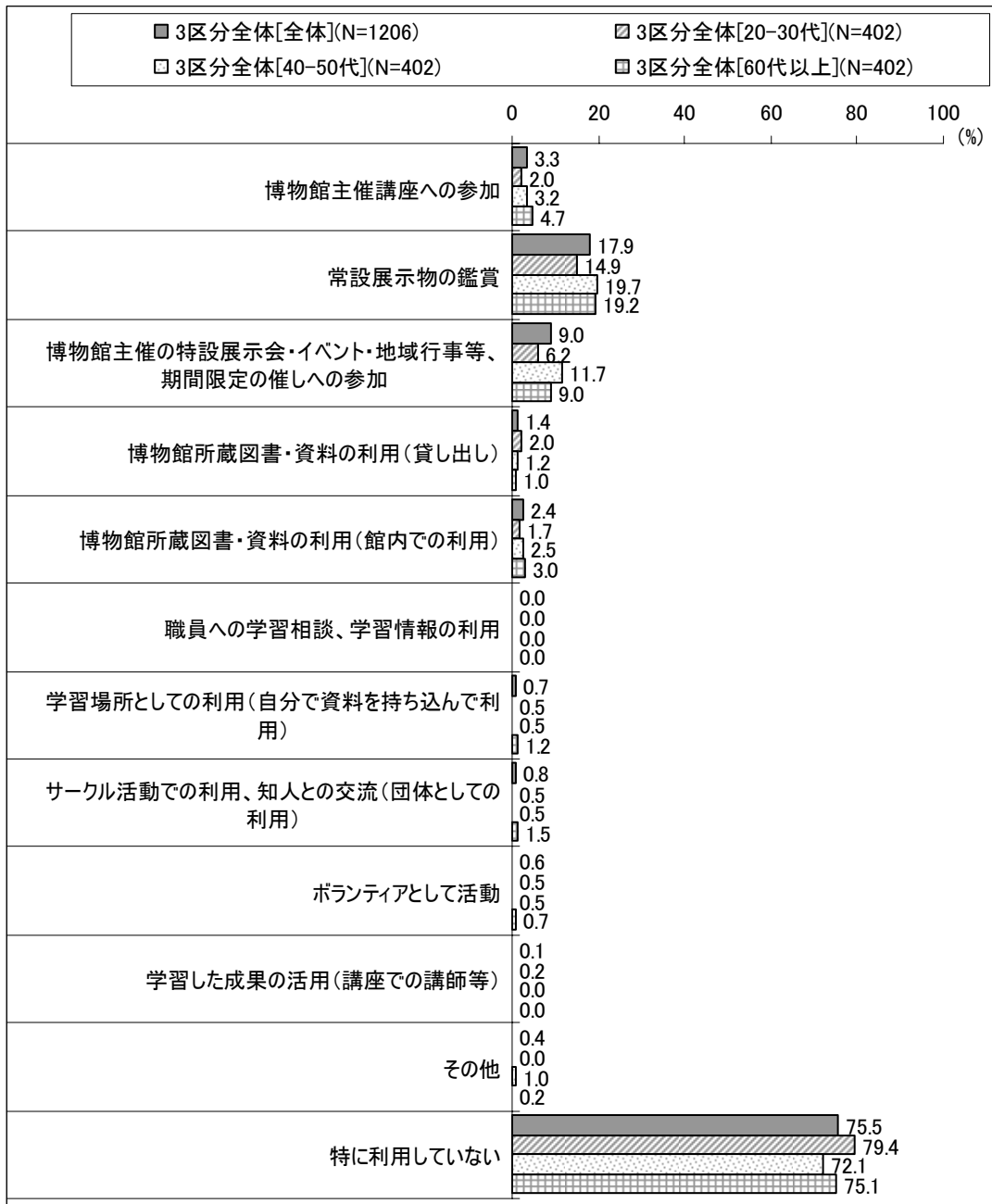


③博物館

博物館を利用して行う学習活動について質問したところ、全体では、「常設展示物の鑑賞」が最も多く 17.9%であった。次いで「博物館主催の特設展示会・イベント・地域行事等、期間限定の催しへの参加」が多く、9.0%であった。

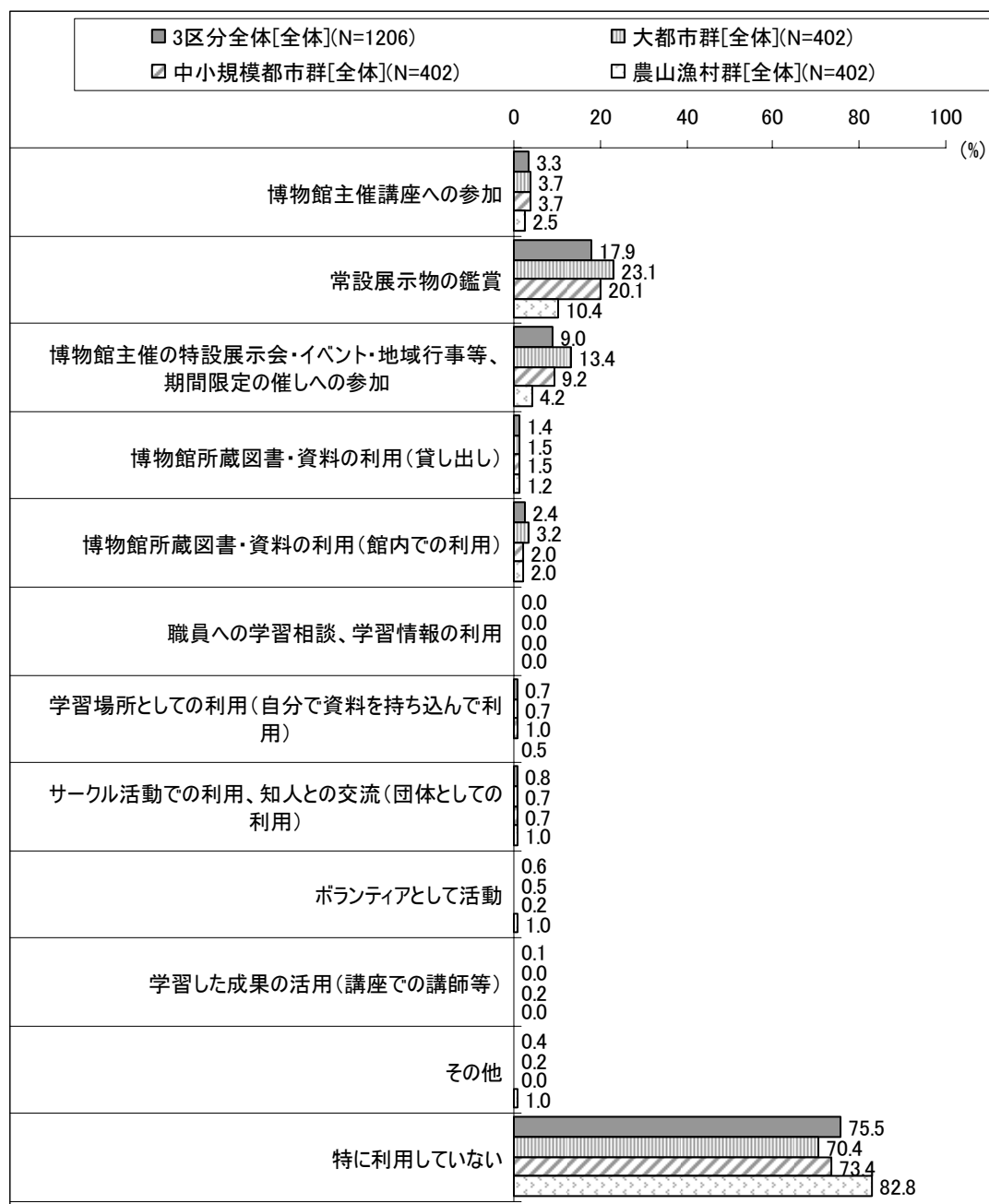
年代別にみると、すべての年代において、「常設展示物の鑑賞」が最も多く、20-30代で14.9%、40-50代で19.7%、60代以上で19.2%であり、次いで「博物館主催の特設展示会・イベント・地域行事等、期間限定の催しへの参加」が多く、20-30代で6.2%、40-50代で11.7%、60代以上で9.0%であった。

図表2-97.博物館を利用して行う活動(年代別)



地域規模別にみると、すべての地域において、「常設展示物の鑑賞」が最も多く、大都市群で23.1%、中小規模都市群で20.1%、農山漁村群で10.4%であり、次いで「博物館主催の特設展示会・イベント・地域行事等、期間限定の催しへの参加」が多く、大都市群で13.4%、中小規模都市群で9.2%、農山漁村群で4.2%であった。

図表2-98.博物館を利用して行う活動(地域規模別)

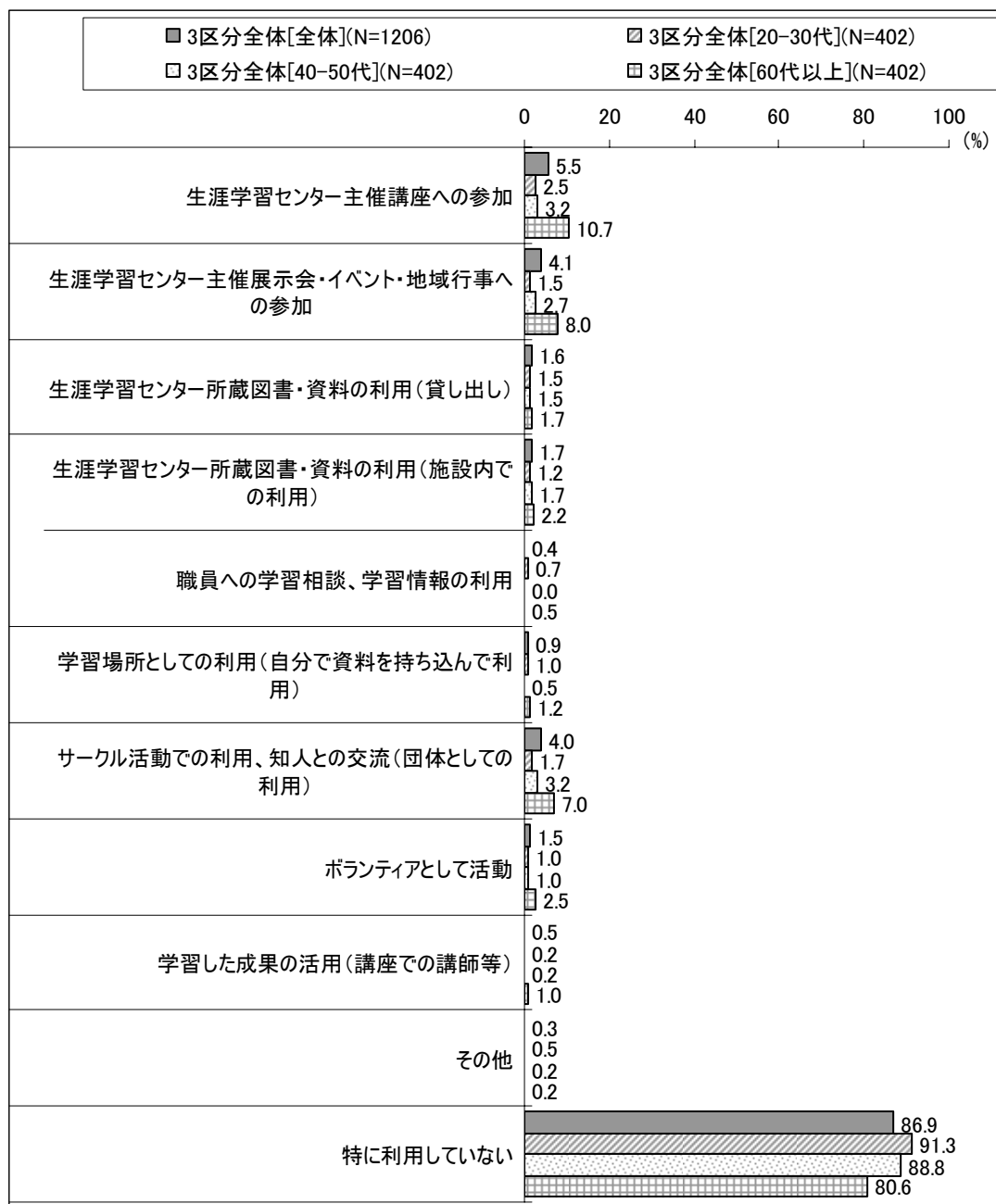


④生涯学習センター

生涯学習センターを利用して行う学習活動について質問したところ、全体では、「生涯学習センター主催講座への参加」が最も多く5.5%であった。次いで「生涯学習センター主催展示会・イベント・地域行事への参加」が多く、4.1%であった。

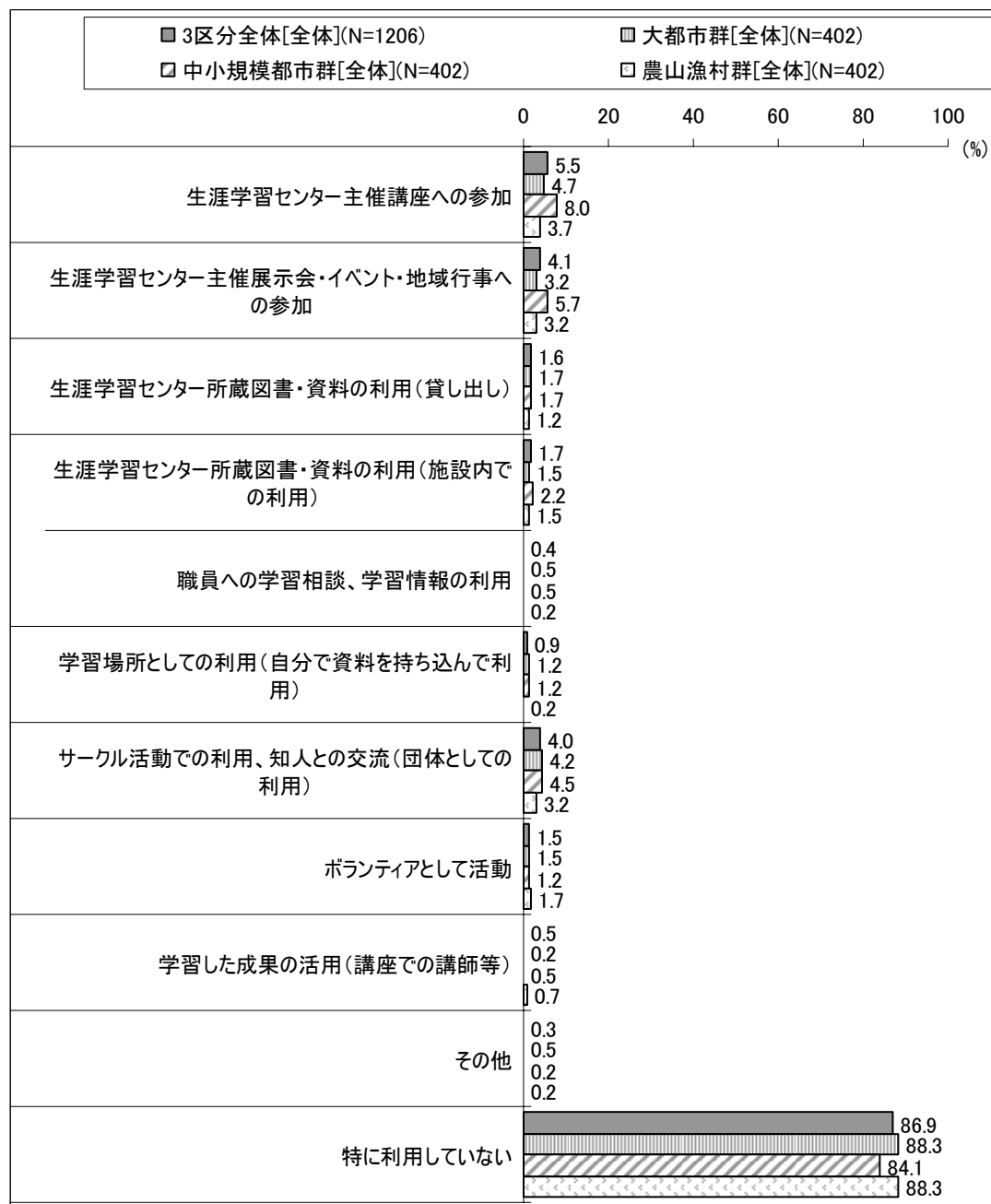
年代別にみると、すべての年代において、「生涯学習センター主催講座への参加」が最も多く、20-30代で2.5%、40-50代で3.2%、60代以上で10.7%であった。40-50代は、「サークル活動での利用、知人との交流（団体としての利用）」も同じく3.2%であった。

図表2-99.生涯学習センターの学習施設を利用して行う活動(年代別)



地域規模別にみると、すべての地域において、「生涯学習センター主催講座への参加」が最も多く、大都市群で 4.7%、中小規模都市群で 8.0%、農山漁村群で 3.7%であった。次いで大都市群は「サークル活動での利用、知人との交流（団体としての利用）」が多く 4.2%、中小規模都市群は「生涯学習センター主催展示会・イベント・地域行事への参加」が多く 5.7%、農山漁村群は「生涯学習センター主催展示会・イベント・地域行事への参加」、「サークル活動での利用、知人との交流（団体としての利用）」が多く 3.2%であった。

図表2-100.生涯学習センターを利用して行う活動(地域規模別)

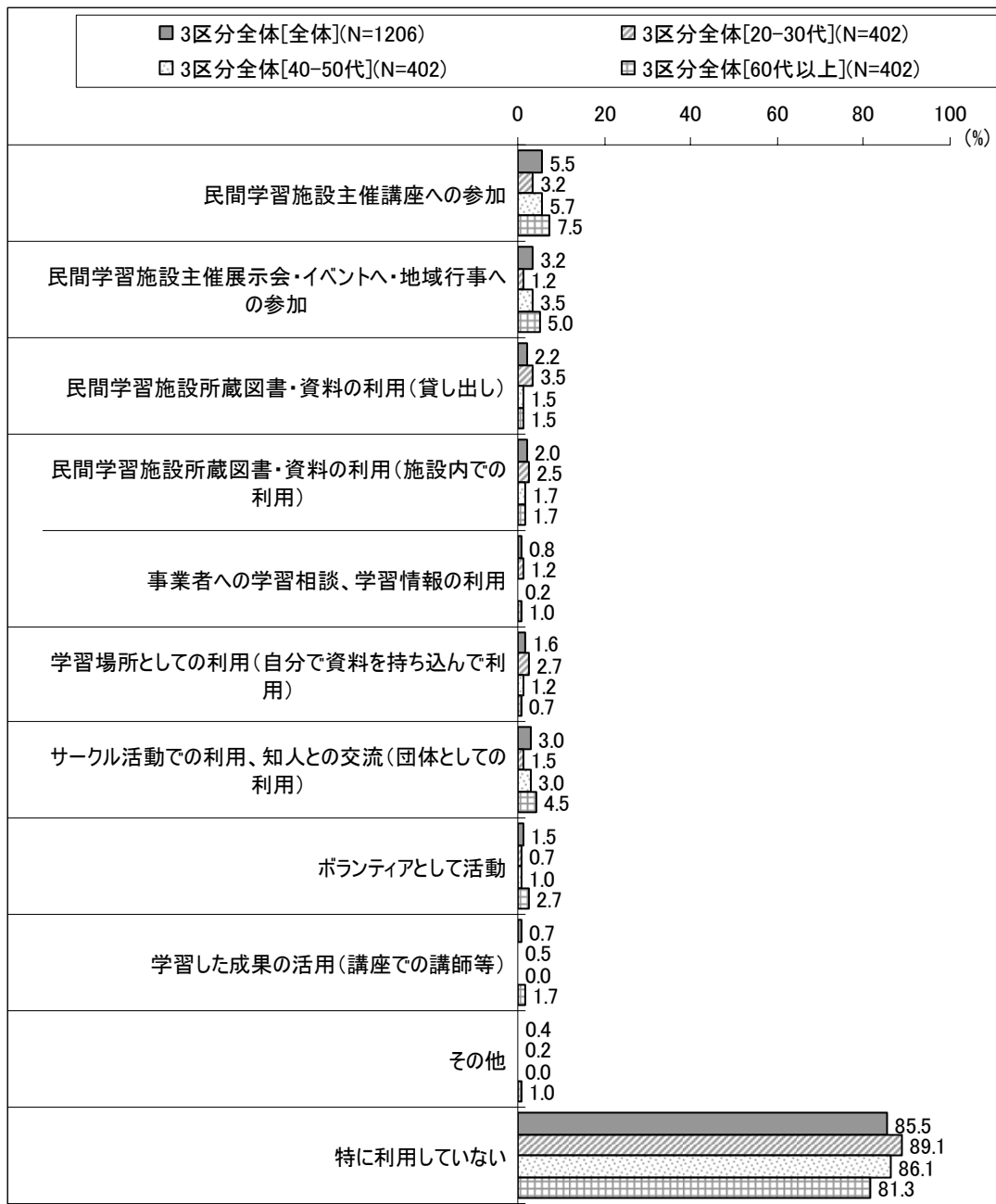


⑤民間の学習施設

民間の学習施設を利用して行う学習活動について質問したところ、全体では、「民間学習施設主催講座への参加」が最も多く5.5%であった。次いで「民間学習施設主催展示会・イベントへ・地域行事への参加」が多く、3.2%であった。

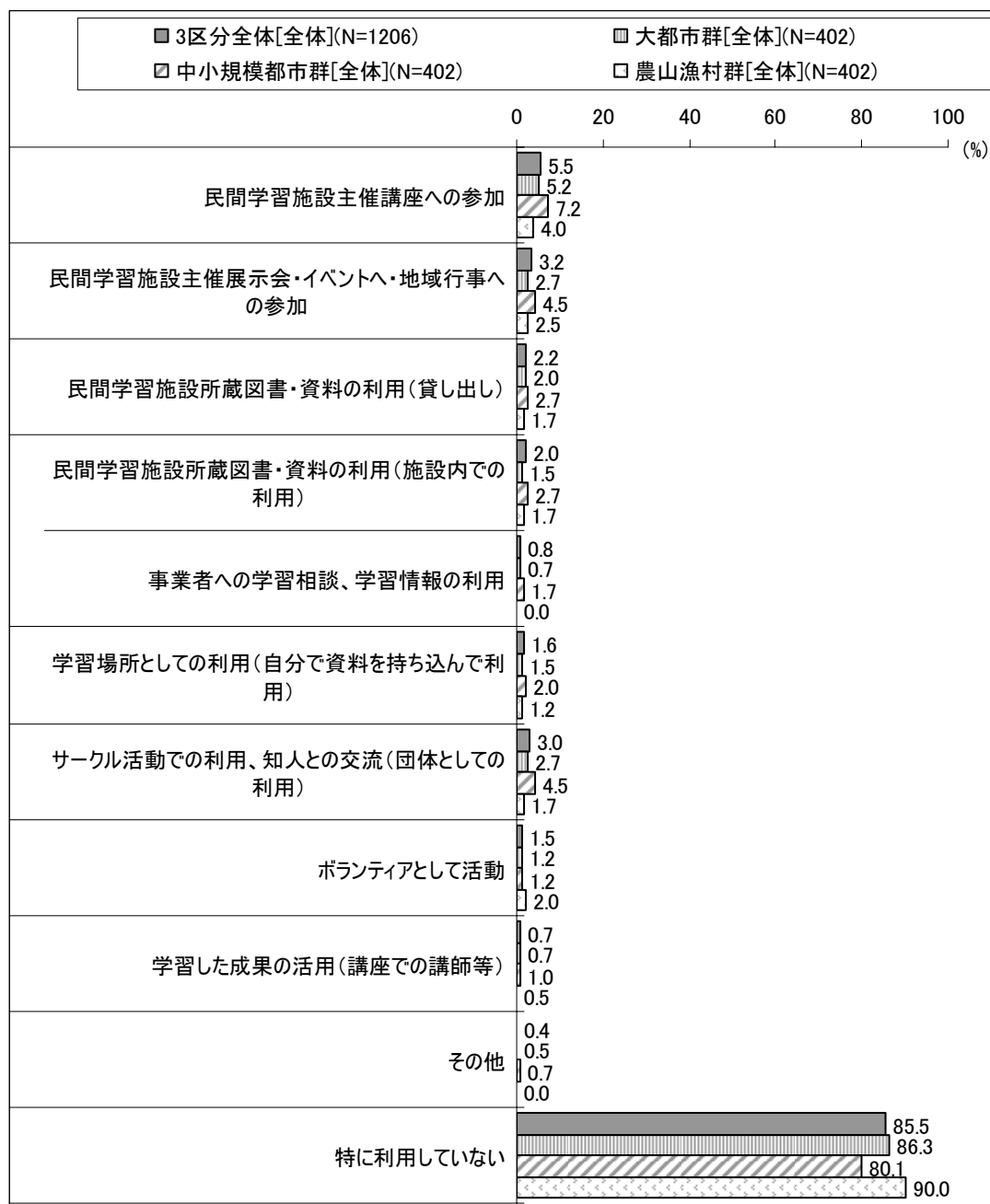
年代別にみると、20-30代は「民間学習施設所蔵図書・資料の利用（貸し出し）」が最も多く3.5%、40-50代、60代以上は「民間学習施設主催講座への参加」が最も多く、40-50代は5.7%、60代以上は7.5%であった。次いで20-30代は「民間学習施設主催講座への参加」が多く3.2%、40-50代、60代以上は「民間学習施設主催展示会・イベントへ・地域行事への参加」が最も多く、40-50代は3.5%、60代以上は5.0%であった。

図表2-101. 民間の学習施設の学習施設を利用して行う活動(年代別)



地域規模別にみると、すべての地域において、「民間学習施設主催講座への参加」が最も多く、大都市群で 5.2%、中小規模都市群で 7.2%、農山漁村群で 4.0%であった。次いで大都市群、中小規模都市群は「民間学習施設主催展示会・イベントへ・地域行事への参加」「サークル活動での利用、知人との交流（団体としての利用）」が多く、大都市群は 2.7%、中小規模都市群は 4.5%であった。農山漁村群は、次いで「民間学習施設主催展示会・イベントへ・地域行事への参加」が多く、2.5%であった。

図表2-102. 民間の学習施設の学習施設を利用して行う活動(地域規模別)



(8) 社会教育施設等への要望

1) 要望

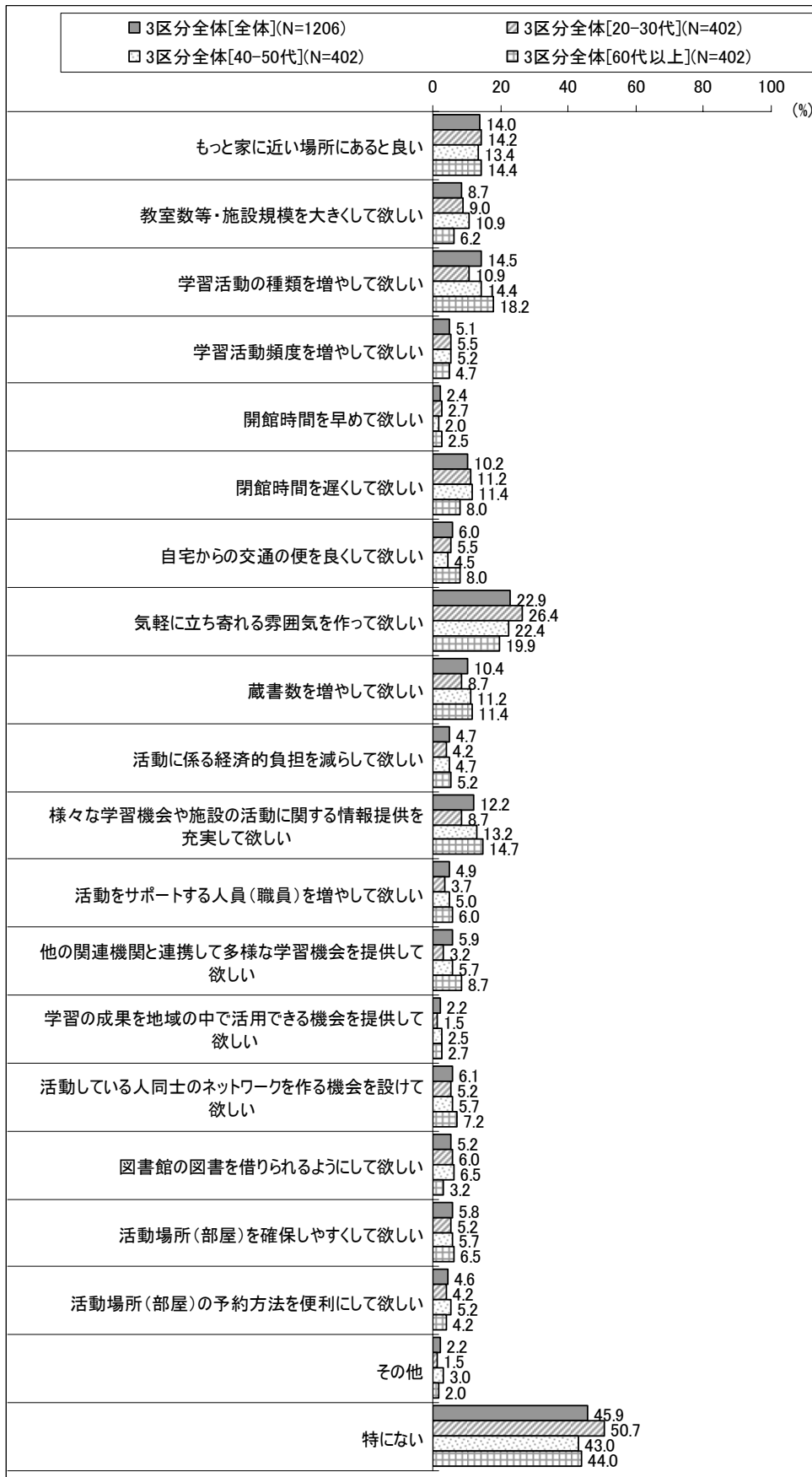
問 あなたは、以下の各施設について、どのような要望がありますか。a～d それぞれについて、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

①公民館

公民館への要望について質問したところ、全体では「気軽に立ち寄れる雰囲気を作って欲しい」が最も多く、22.9%であった。

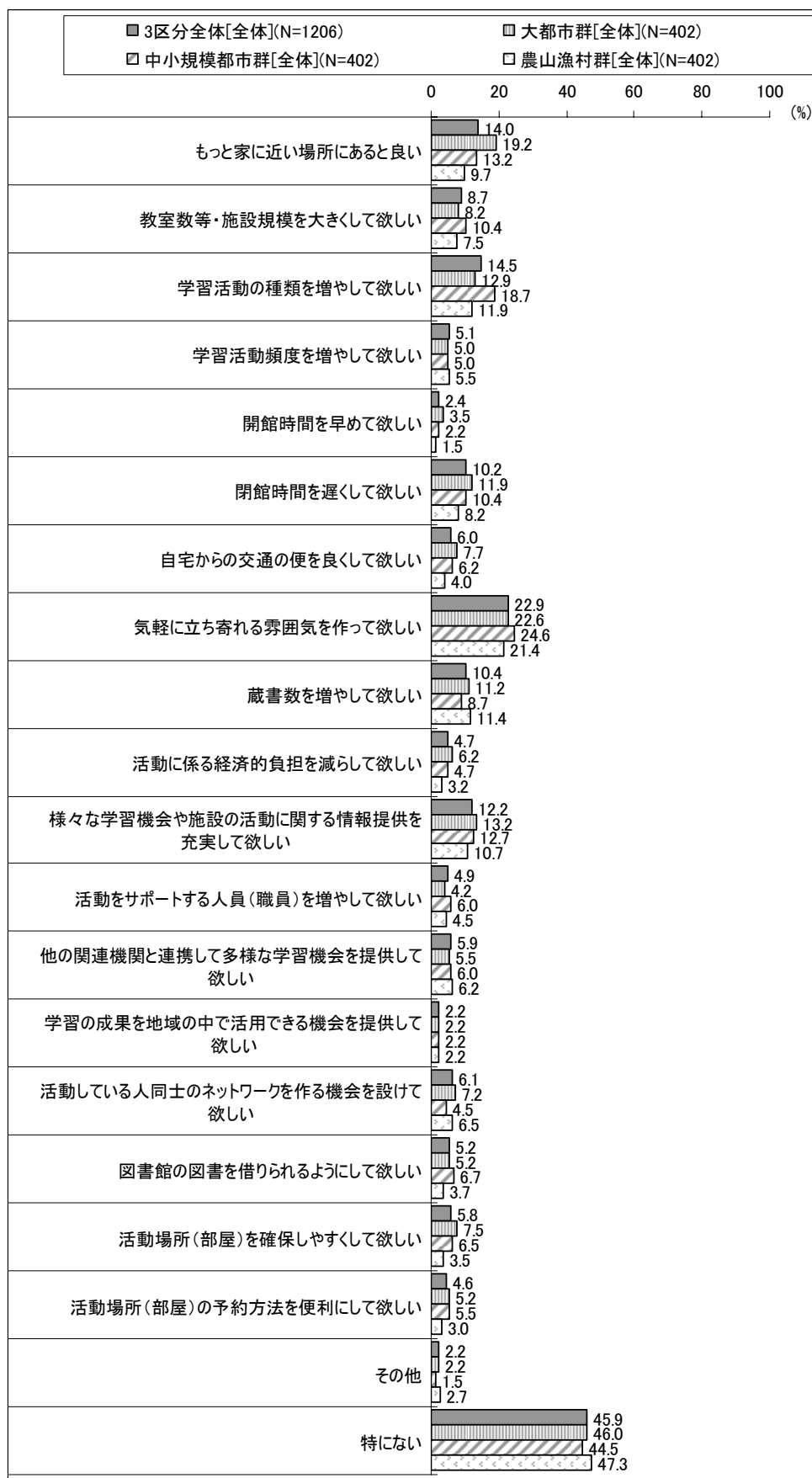
年代別にみると、すべての年代で「気軽に立ち寄れる雰囲気を作って欲しい」が最も多く、20-30代が26.4%、40-50代が22.4%、60代以上が19.9%であった。次いで多かった回答は、20-30代は「もっと家の近くにあると良い」、40-50代、60代以上は「学習の種類を増やして欲しい」であった。

図表2-103. 公民館への要望(年代別)



地域規模別にみると、すべての地域で「気軽に立ち寄れる雰囲気を作って欲しい」が最も多く、大都市群が22.6%、中小規模都市群が24.6%、農山漁村群が21.4%であった。次いで多かった回答は、大都市群は「もっと家の近くにあると良い」、中小規模都市群、農山漁村群は「学習の種類を増やして欲しい」であった。

図表2-104. 公民館への要望(地域規模別)

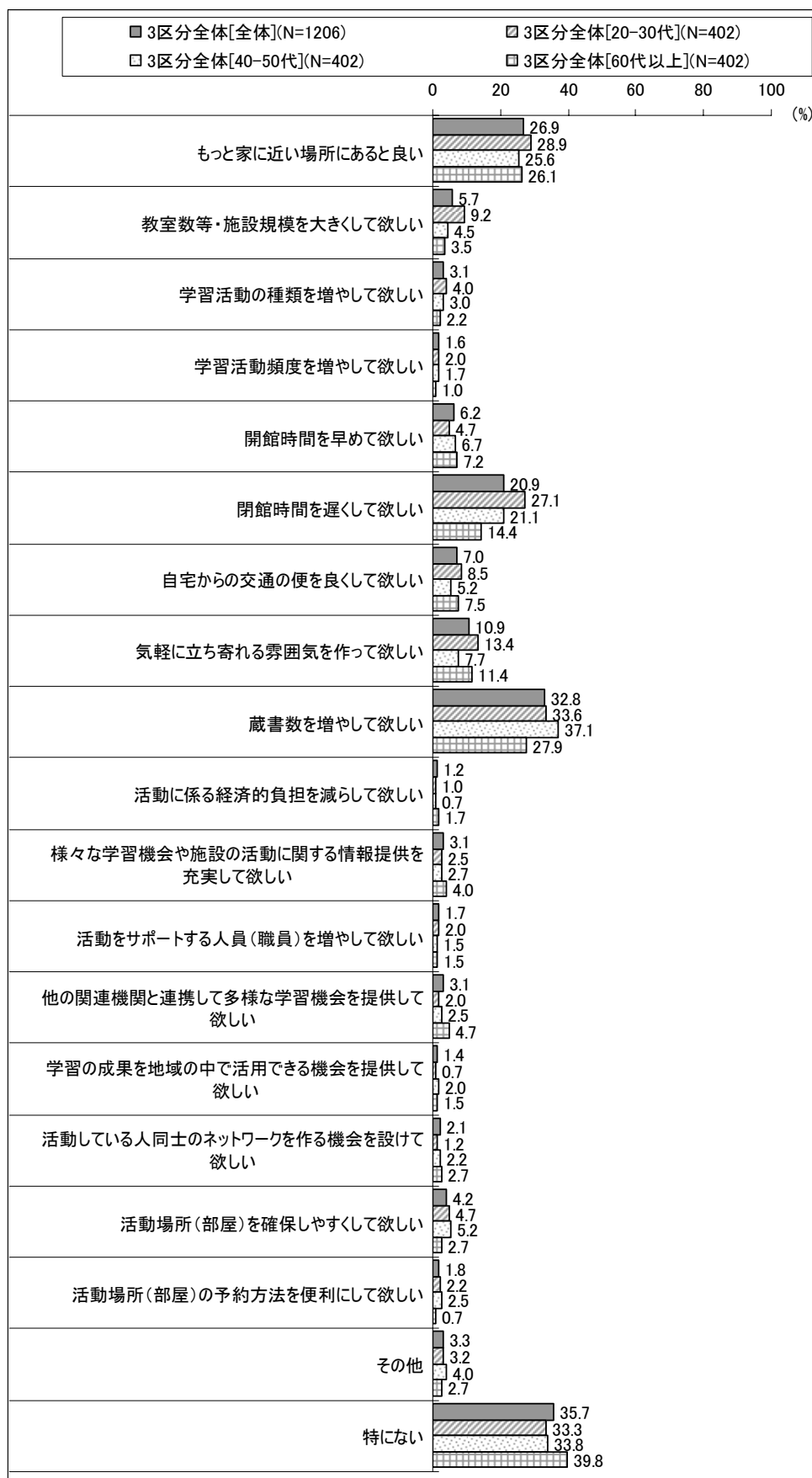


②図書館

図書館への要望について質問したところ、全体では「蔵書数を増やして欲しい」が最も多く、32.8%であった。

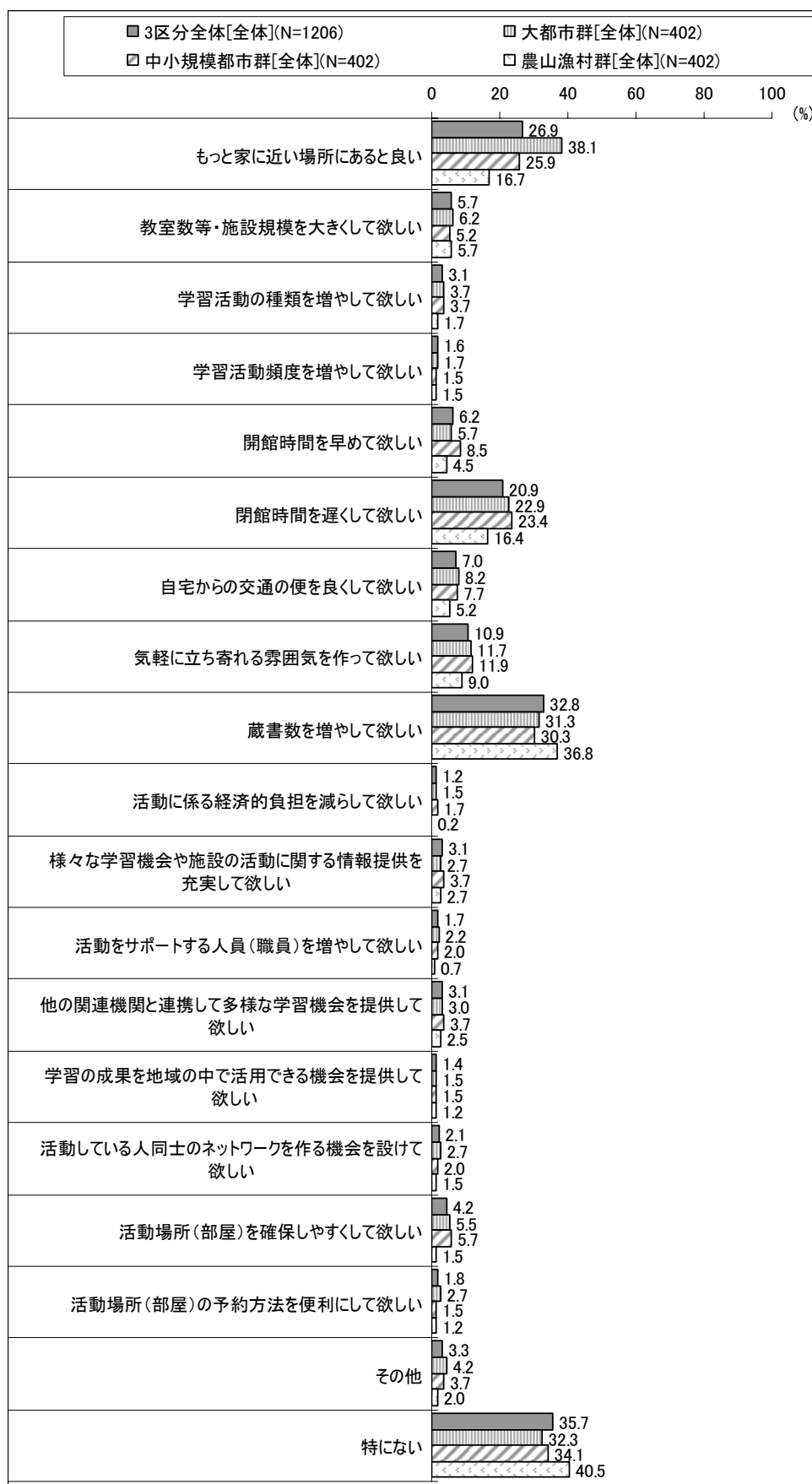
年代別にみると、すべての年代で「蔵書数を増やして欲しい」が最も多く、20-30代が33.6%、40-50代が37.1%、60代以上が27.9%であった。次いで多かった回答は、すべての年代で「もっと家の近くにあると良い」であった。

図表2-105. 図書館への要望(年代別)



地域規模別にみると、大都市群は「もっと家の近くにあると良い」が最も多く 38.1%、次いで「蔵書数を増やして欲しい」が 31.3%であった。中小規模都市群、農山漁村群は「蔵書数を増やして欲しい」が最も多く、中小規模都市群は 30.3%、農山漁村群は 36.8%であり、次いで「もっと家の近くにあるとよい」が多く、中小規模都市群は 25.9%、農山漁村群は 16.7%であった。

図表2-106. 図書館への要望(地域規模別)

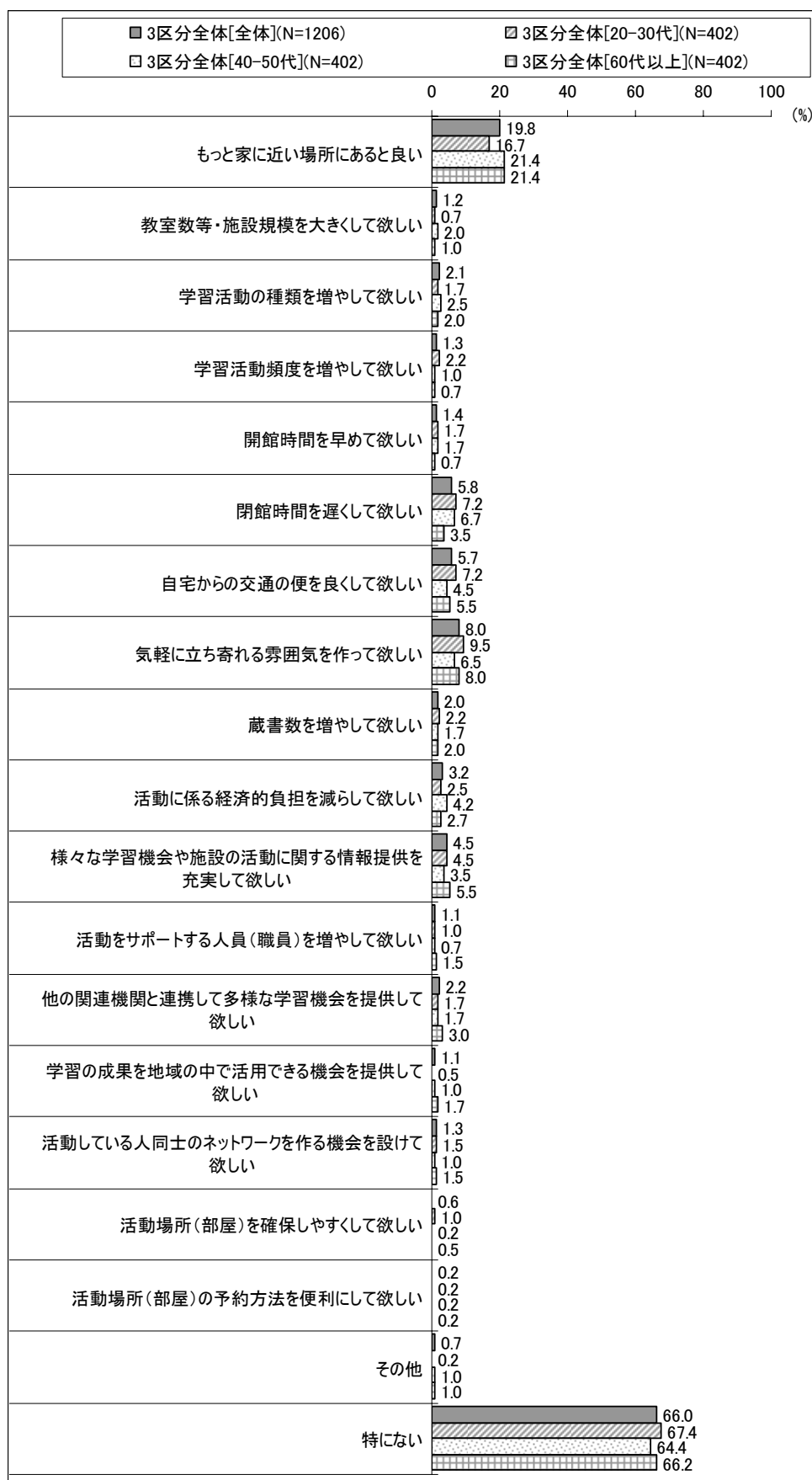


③博物館

博物館への要望について質問したところ、全体では「もっと家に近い場所にあると良い」が最も多く、19.8%であった。

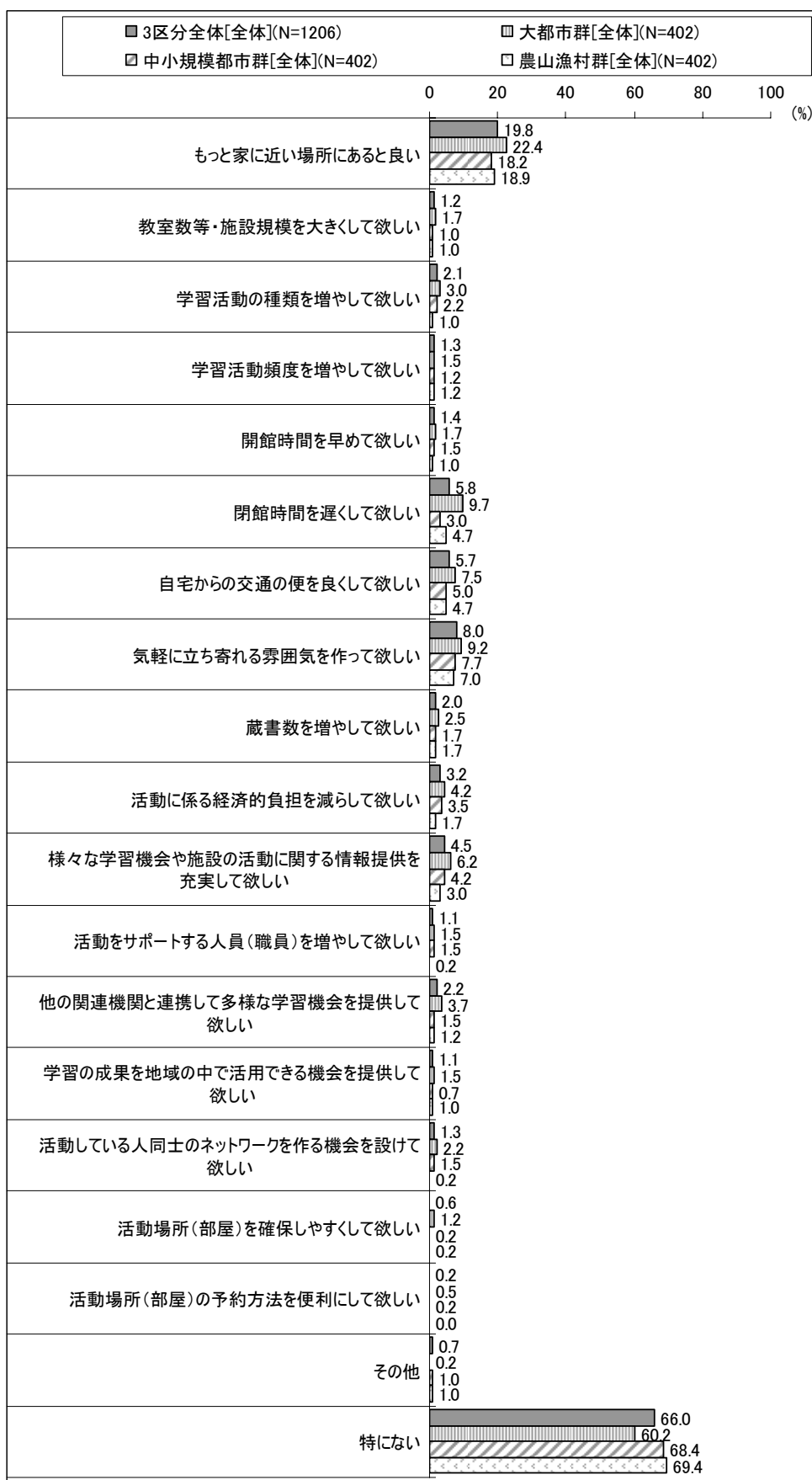
年代別にみると、すべての年代で「もっと家に近い場所にあると良い」が最も多く、20-30代が16.7%、40-50代が21.4%、60代以上が21.4%であった。次いで多かった回答は、20-30代が「気軽に立ち寄れる雰囲気を作って欲しい」、40-50代が「閉館時間を遅くして欲しい」、60代以上は「気軽に立ち寄れる雰囲気を作って欲しい」であった。

図表2-107. 博物館への要望(年代別)



地域規模別にみると、すべての地域で「もっと家の近くにあると良い」が最も多く、大都市群は22.4%、中小規模都市群は18.2%、農山漁村群は18.9%であった。次いで回答が多かったのは、大都市群は「閉館時間を遅くして欲しい」の9.7%、中小規模都市群は「気軽に立ち寄れる雰囲気を作ってほしい」の7.7%、農山漁村群は「気軽に立ち寄れる雰囲気を作ってほしい」の7.0%であった。

図表2-108. 博物館への要望(地域規模別)

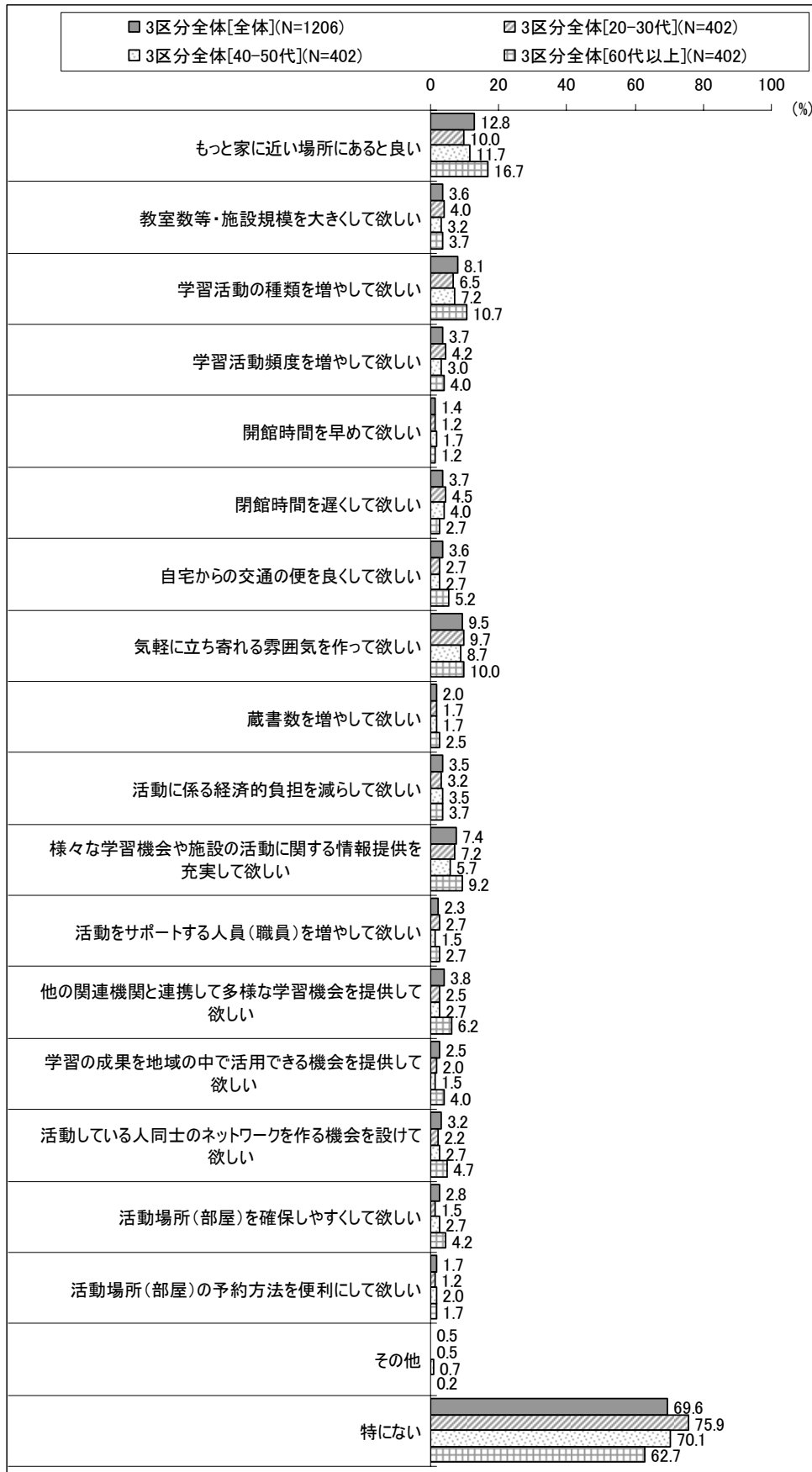


④生涯学習センター

生涯学習センターへの要望について質問したところ、全体では「もっと家に近い場所があると良い」が最も多く、12.8%であった。

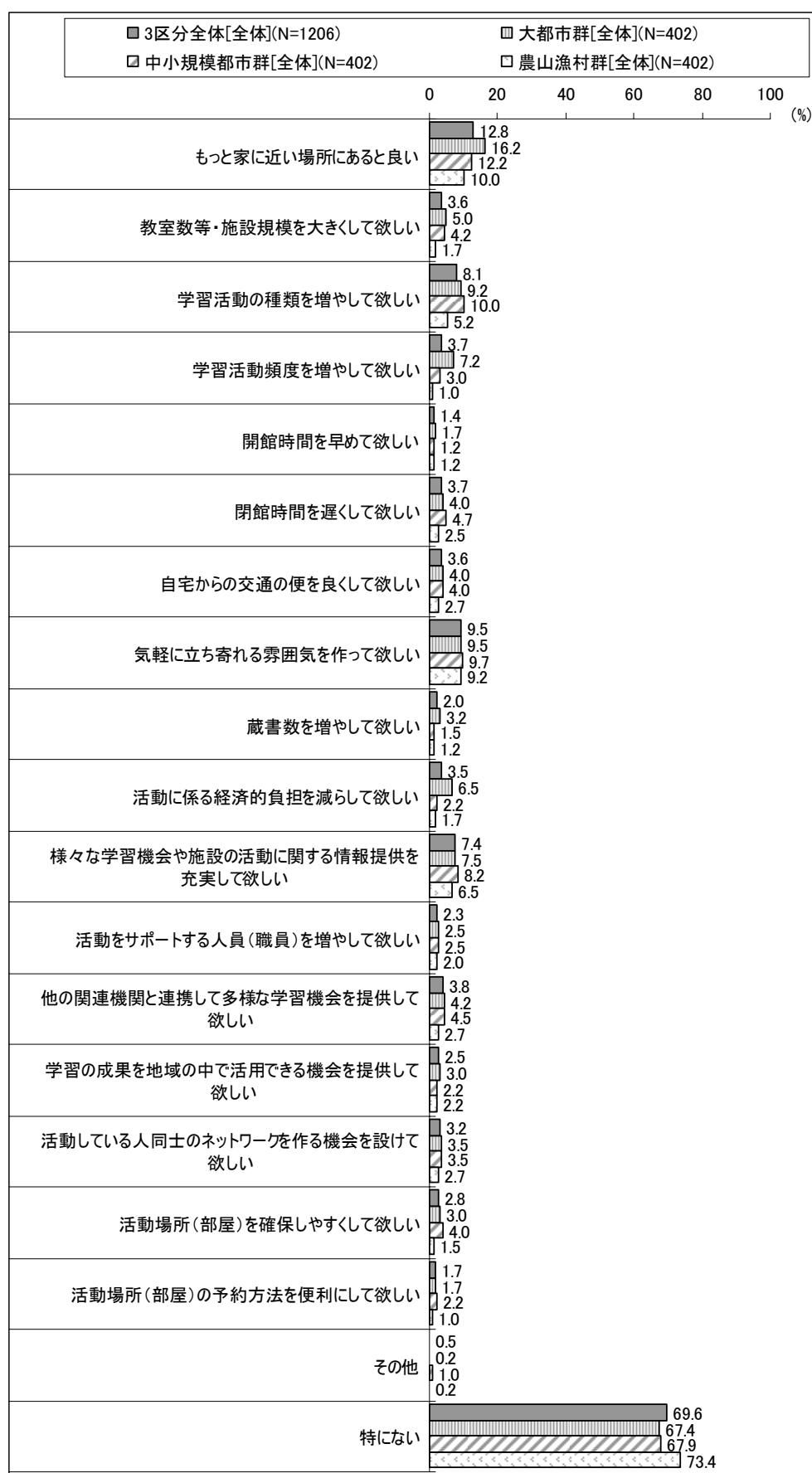
年代別にみると、すべての年代で「もっと家に近い場所があると良い」が最も多く、20-30代が10.7%、40-50代が11.7%、60代以上が16.7%であった。次いで多かった回答は、20-30代が「気軽に立ち寄れる雰囲気を作って欲しい」の9.7%、40-50代は「気軽に立ち寄れる雰囲気を作って欲しい」の8.7%、60代以上は「学習活動の種類を増やして欲しい」の10.7%であった。

図表2-109.生涯学習センターへの要望(年代別)



地域規模別にみると、すべての地域で「もっと家の近くにあると良い」が最も多く、大都市群は16.2%、中小規模都市群は12.2%、農山漁村群は10.0%であった。次いで回答が多かったのは、大都市群は「気軽に立ち寄れる雰囲気を作って欲しい」の9.5%、中小規模都市群は「学習活動の種類を増やして欲しい」の10.0%、農山漁村群は「気軽に立ち寄れる雰囲気を作ってほしい」の9.2%であった。

図表2-110.生涯学習センターへの要望(地域規模別)



(9) 社会教育の専門職員への期待

1) 専門職員への期待

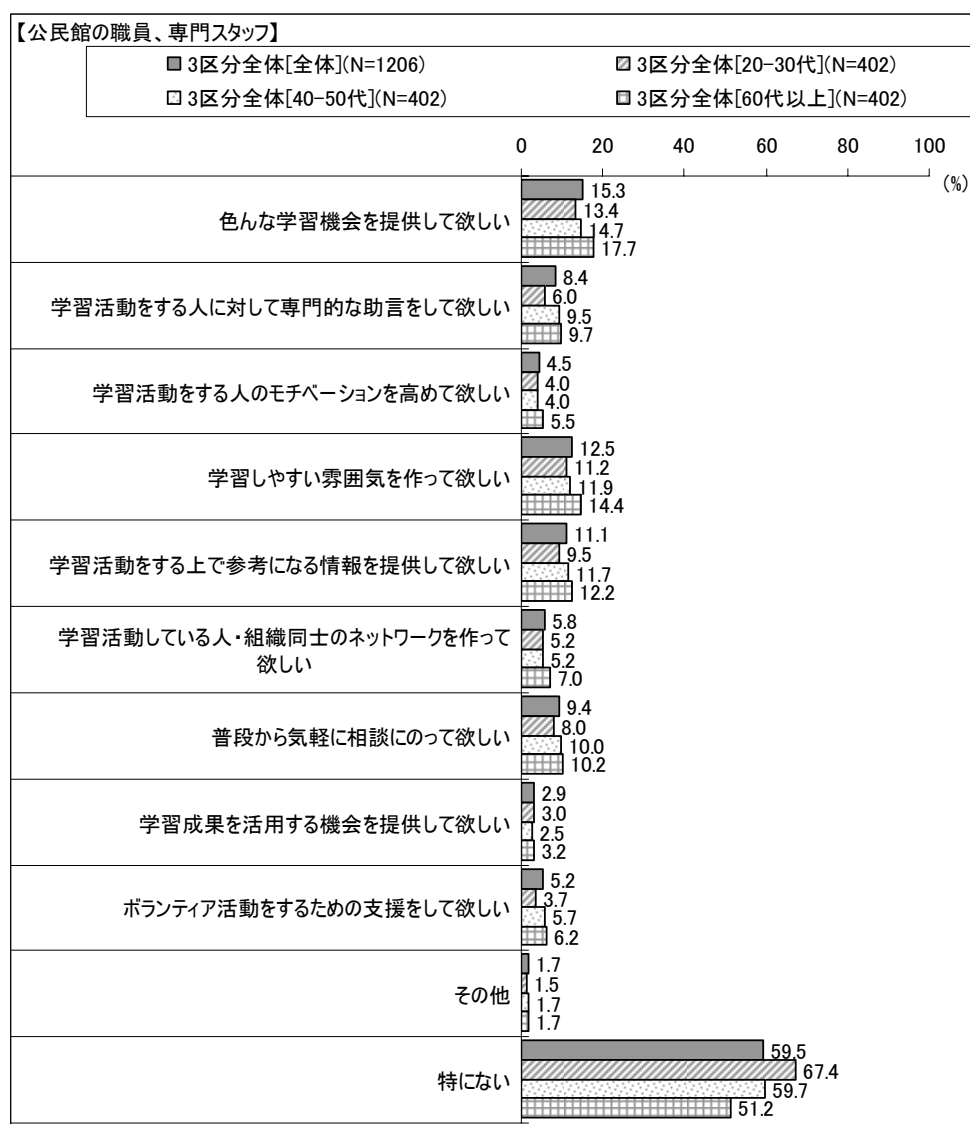
問 あなたは、以下の各施設の職員や専門スタッフについて、どのようなことを期待しますか。a～d それぞれについて、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

①公民館

公民館の職員、専門スタッフへの期待について質問したところ、全体では「色々な学習機会を提供して欲しい」が最も多く、15.3%であった。

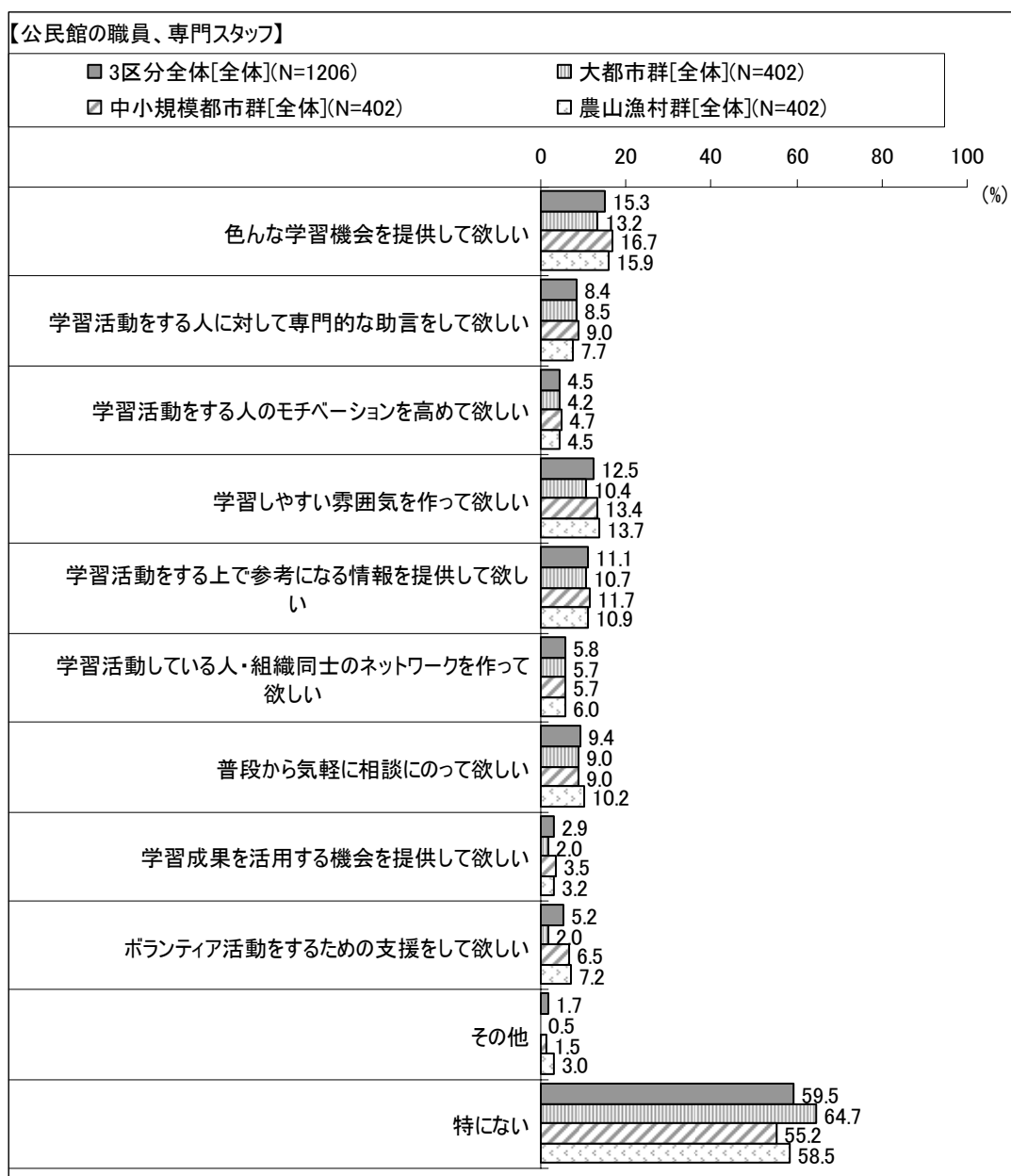
年代別にみると、すべての年代で「色々な学習機会を提供して欲しい」が最も多く、20-30代が13.4%、40-50代が14.7%、60代以上が17.7%であった。次いで多かった回答は、「学習しやすい雰囲気を作って欲しい」で、20-30代は11.2%、40-50代は11.9%、60代以上は14.4%であった。

図表2-111. 公民館の職員、専門スタッフへの期待(年代別)



地域規模別にみると、すべての地域で「色んな学習機会を提供して欲しい」が最も多く、大都市群は 13.2%、中小規模都市群は 16.7%、農山漁村群は 15.9%であった。次いで多かった回答は、「学習しやすい雰囲気を作って欲しい」で、20-30代は 10.4%、40-50代は 13.4%、60代以上は 13.7%であった。

図表2-112. 公民館の職員、専門スタッフへの期待(地域規模別)

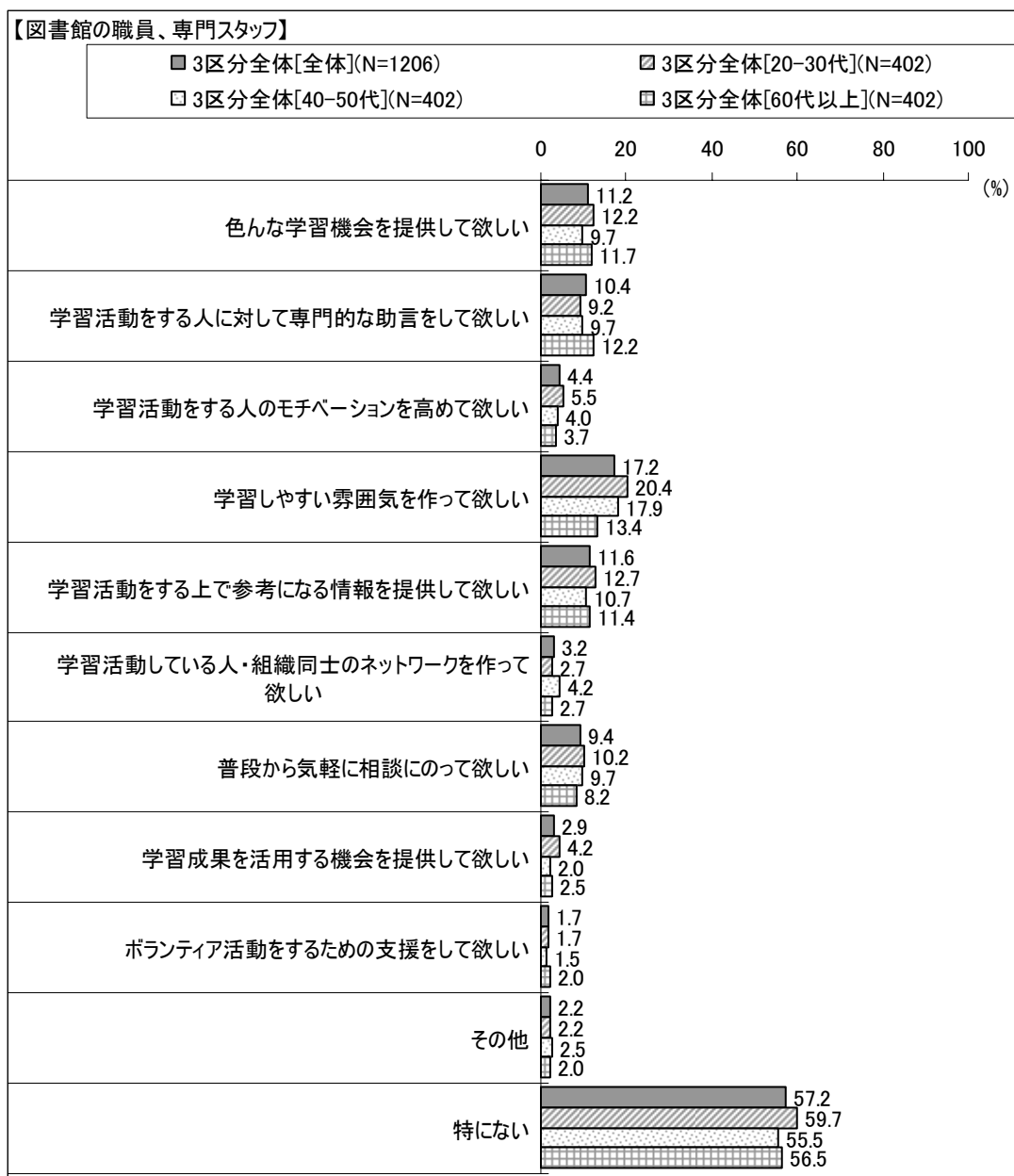


②図書館

図書館の職員、専門スタッフへの期待について質問したところ、全体では「学習しやすい雰囲気を作って欲しい」が最も多く、17.2%であった。

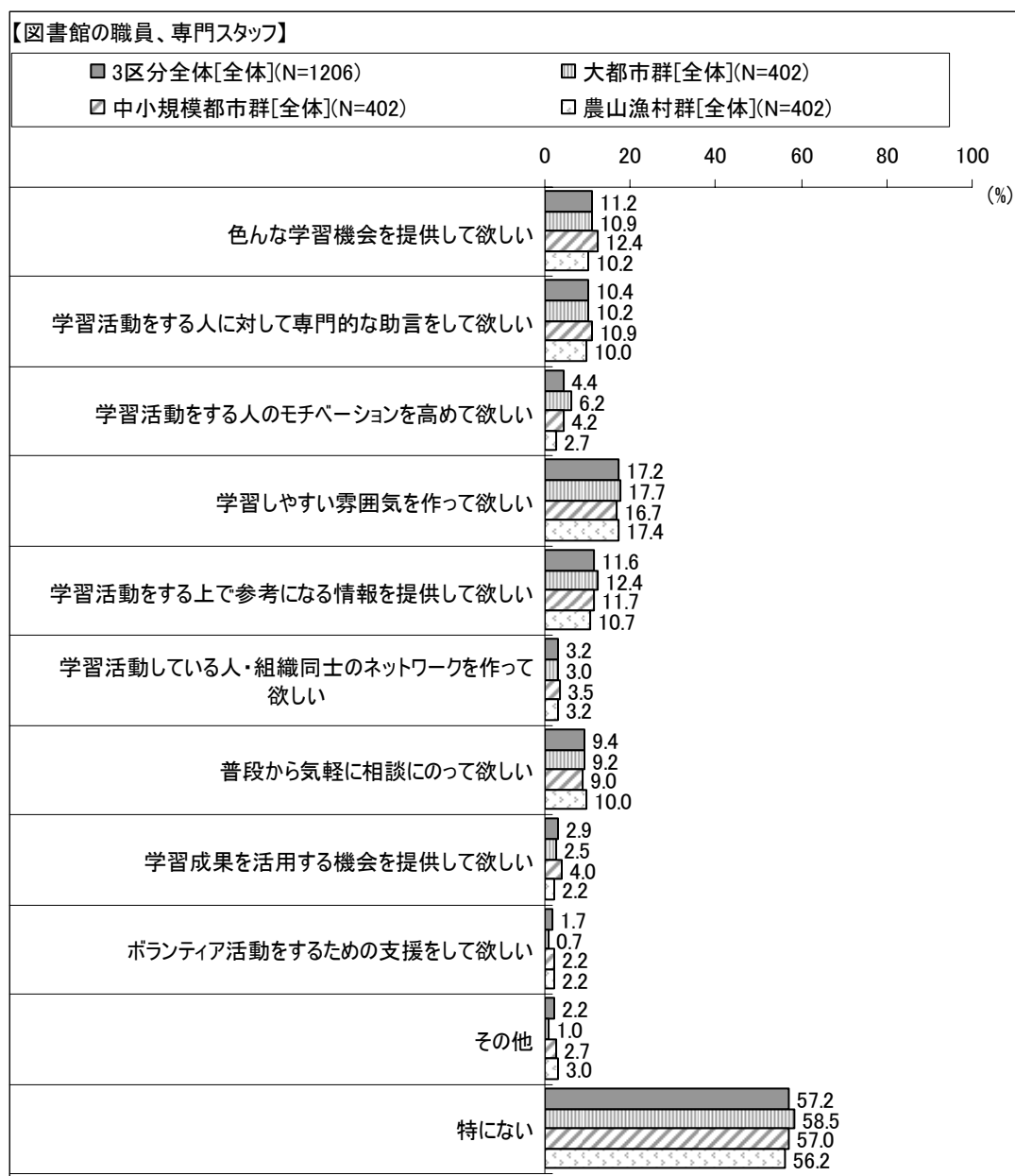
年代別にみると、すべての年代で「学習しやすい雰囲気を作ってほしい」が最も多く、20-30代が20.4%、40-50代が17.9%、60代以上が13.4%であった。次いで多かった回答は、20-30代では「学習する上で参考となる情報を提供して欲しい」の12.7%で、40-50代では「学習する上で参考となる情報を提供して欲しい」の10.7%、60代以上では「学習活動をする人に対して専門的な助言をして欲しい」の12.2%であった。

図表2-113. 図書館の職員、専門スタッフへの期待(年代別)



地域規模別にみると、すべての地域で「学習しやすい雰囲気を作って欲しい」が最も多く、大都市群が17.7%、中小規模都市群が16.7%、農山漁村が17.4%であった。次いで多かった回答は、20-30代では「学習する上で参考となる情報を提供して欲しい」の12.4%で、中小規模都市群では「色んな学習機会を提供して欲しい」の12.4%、農山漁村群では「学習する上で参考となる情報を提供して欲しい」の10.7%であった。

図表2-114. 図書館の職員、専門スタッフへの期待(地域規模別)

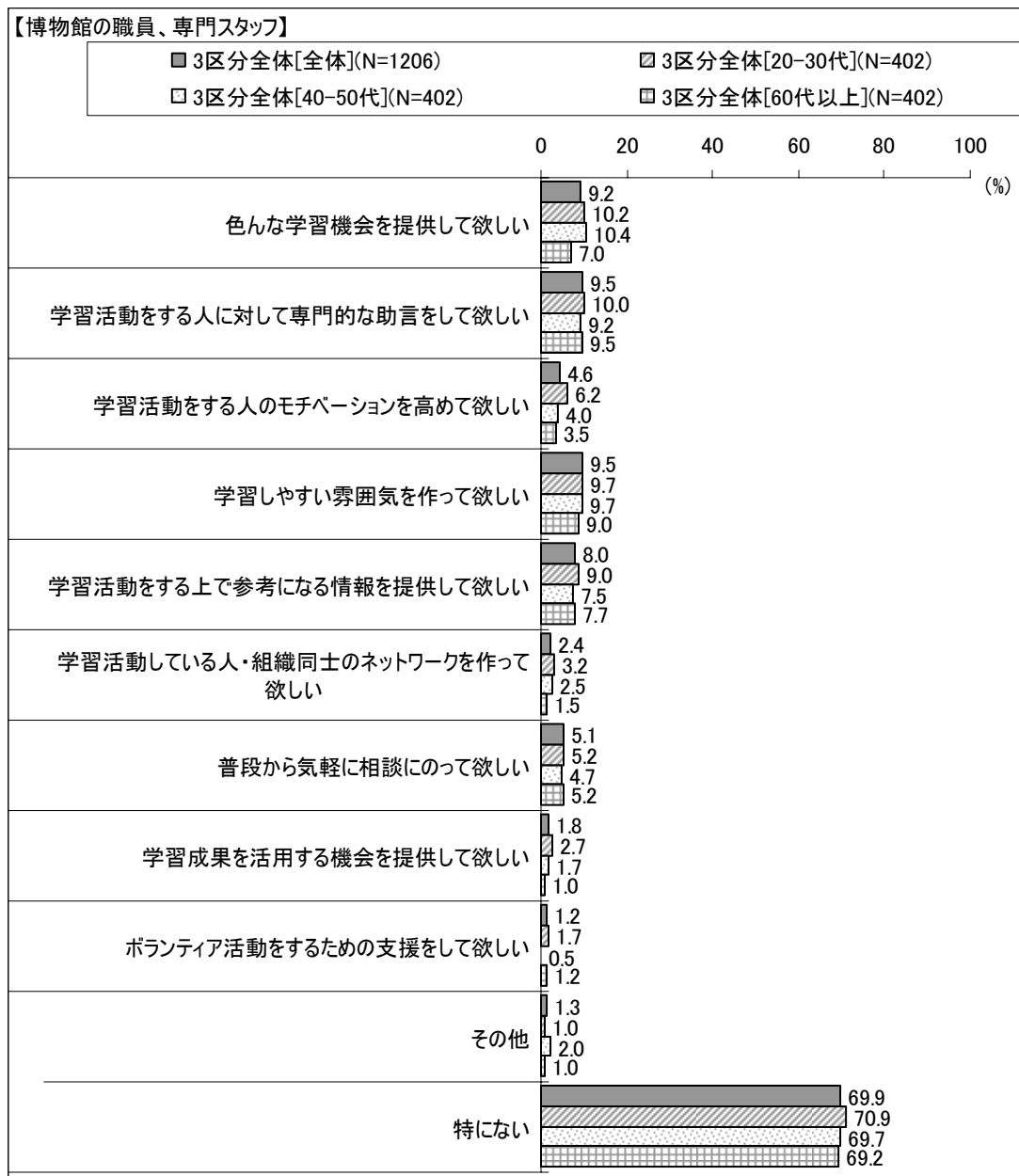


③博物館

博物館の職員、専門スタッフへの期待について質問したところ、全体では「学習活動をする人に対して専門的な助言をして欲しい」、「色んな学習機会を提供して欲しい」が最も多く9.5%であった。

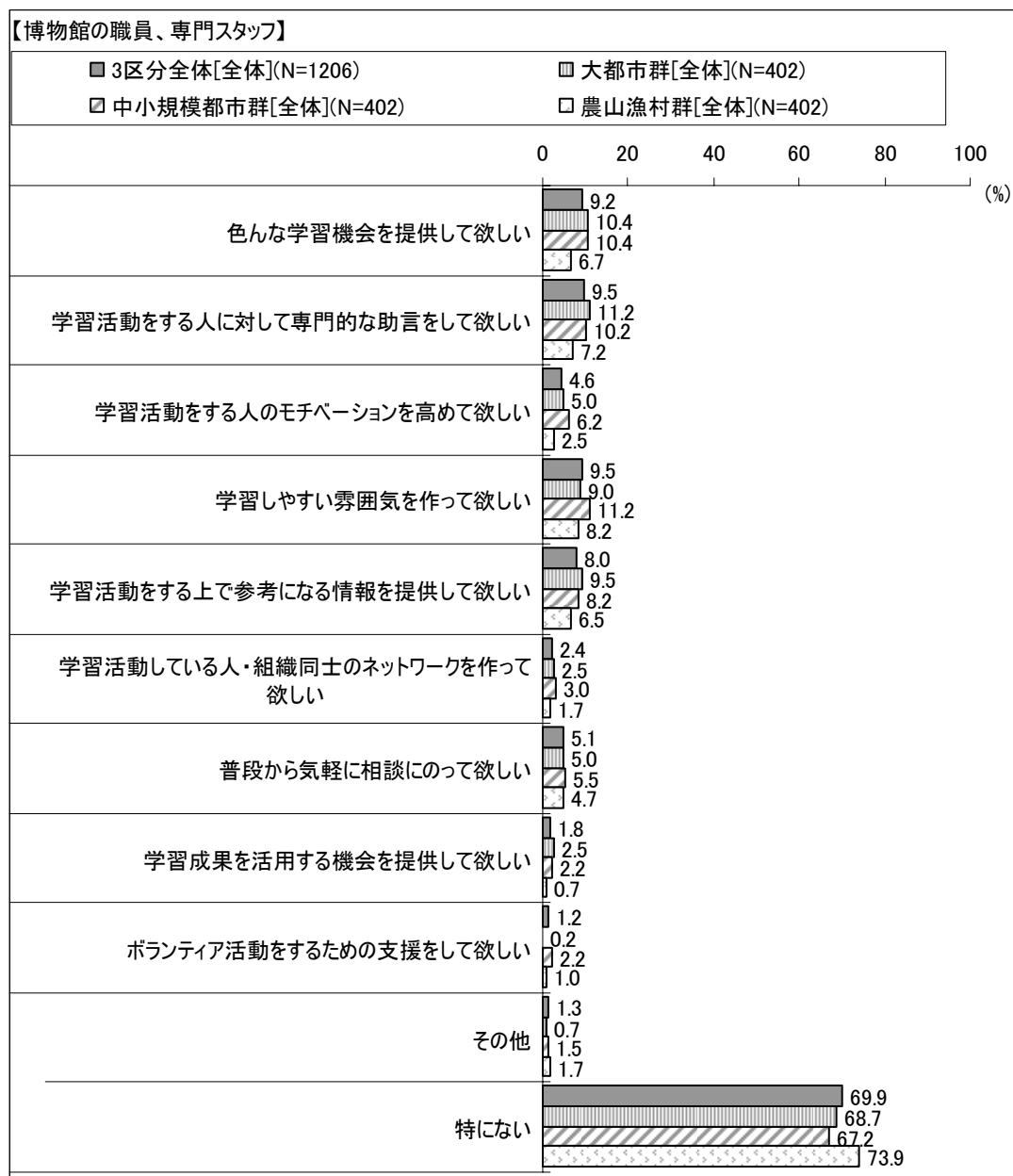
年代別にみると、20-30代は「色んな学習機会を提供して欲しい」が最も多く10.2%、次いで「学習活動をする人に対して専門的な助言をして欲しい」の10.0%であった。40-50代は「色んな学習機会を提供して欲しい」が最も多く10.4%、次いで「学習しやすい雰囲気を作りたい」の9.7%であった。60代以上は「学習活動をする人に対して専門的な助言をして欲しい」が最も多く9.5%、次いで「学習しやすい雰囲気を作りたい」の9.0%であった。

図表2-115. 博物館の職員、専門スタッフへの期待(年代別)



地域規模別にみると、大都市群は「学習活動をする人に対して専門的な助言をして欲しい」が最も多く 11.2%、次いで「色々な学習機会を提供して欲しい」の 10.4%であった。中小規模都市群は「学習しやすい雰囲気を作って欲しい」が最も多く 11.2%、次いで「色々な学習機会を提供して欲しい」の 10.4%であった。農山漁村群は「学習しやすい雰囲気を作って欲しい」が最も多く 8.2%、次いで「学習活動をする人に対して専門的な助言をして欲しい」の 7.2%であった。

図表2-116. 博物館の職員、専門スタッフへの期待(地域規模別)

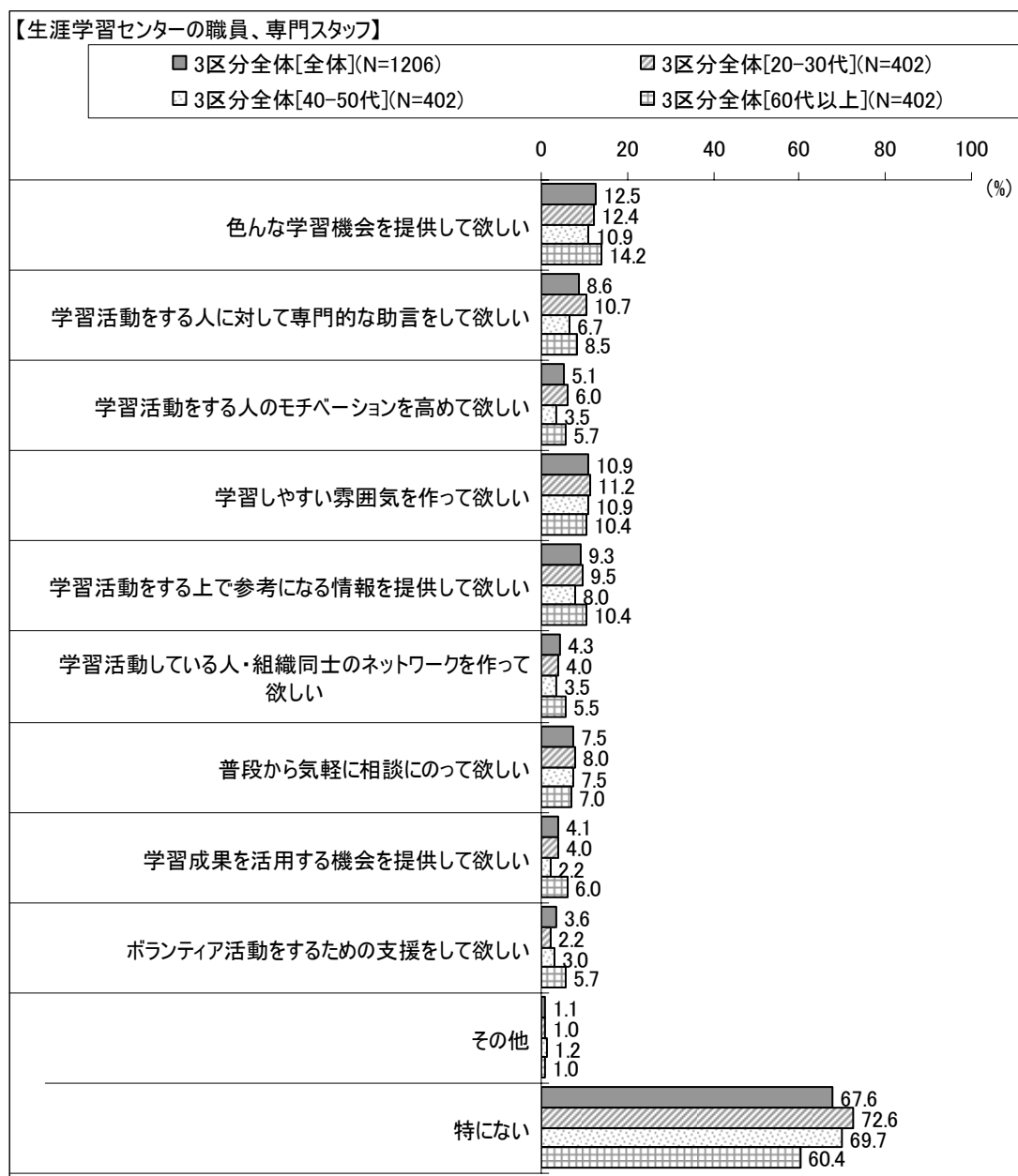


④生涯学習センター

生涯学習センターの職員、専門スタッフへの期待について質問したところ、全体では「色々な学習機会を提供して欲しい」が最も多く12.5%であった。

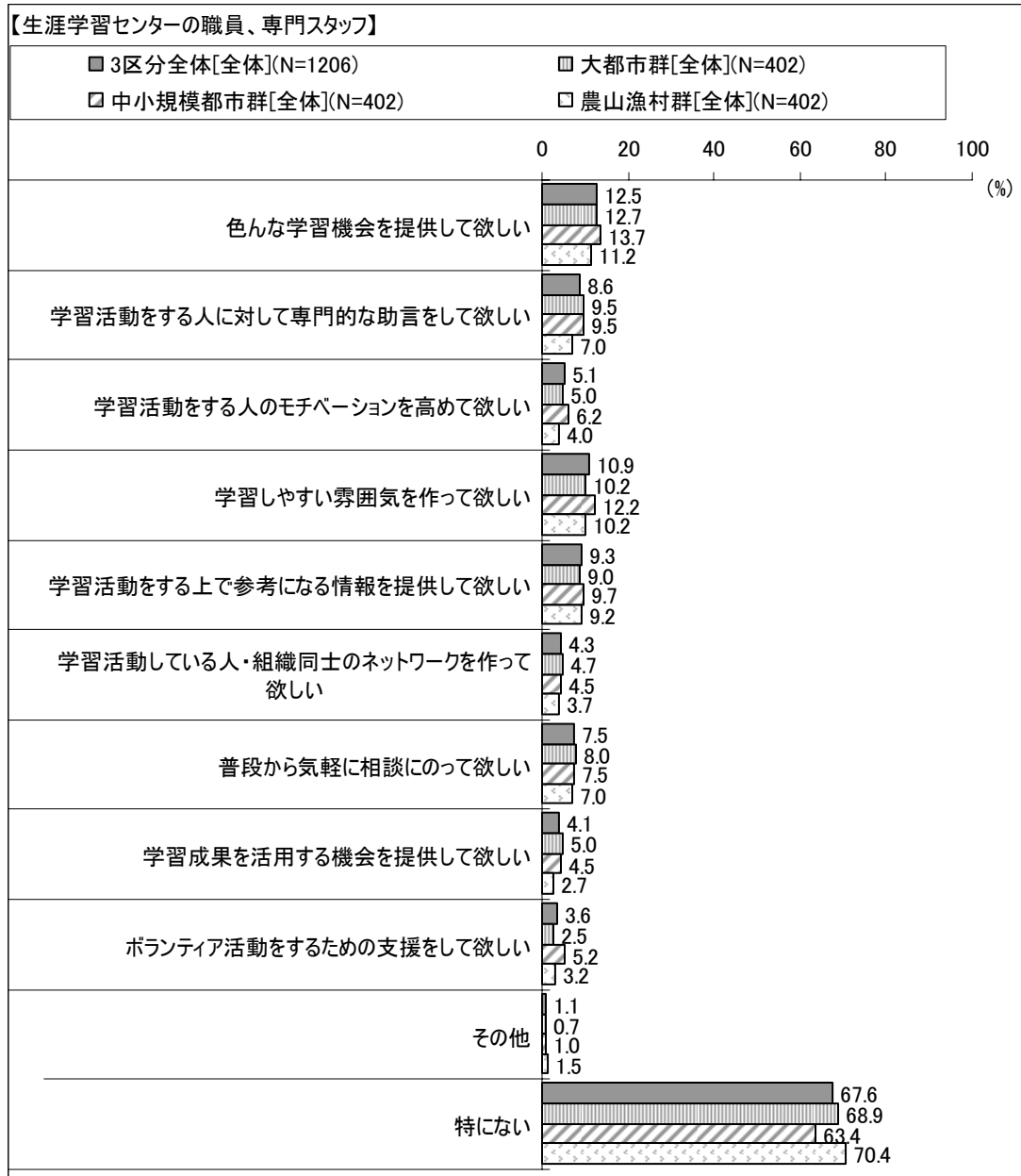
年代別にみると、20-30代は「色々な学習機会を提供して欲しい」が最も多く12.4%、40-50代は「色々な学習機会を提供して欲しい」及び「学習しやすい雰囲気を作って欲しい」が最も多く10.9%、60代以上は「色々な学習機会を提供して欲しい」が最も多く14.2%であった。次いで多かった回答は、20-30代では「学習しやすい雰囲気を作ってほしい」の11.2%、40-50代では「学習する上で参考となる情報を提供して欲しい」の8.0%、60代以上では「学習する上で参考となる情報を提供して欲しい」の10.4%であった。

図表2-117.生涯学習センターの職員、専門スタッフへの期待(年代別)



地域規模別にみると、すべての地域において「色んな学習機会を提供して欲しい」が最も多く、大都市群は 12.7%、中小規模都市群は 13.7%、農山漁村群は 11.2%であった。次いで、「学習しやすい雰囲気を作って欲しい」が多く、大都市群は 10.2%、中小規模都市群は 12.2%、農山漁村群は 10.2%であった。

図表2-118.生涯学習センターの職員、専門スタッフへの期待(地域規模別)



(10) 社会教育施設への要望

1) 提供して欲しい学習内容

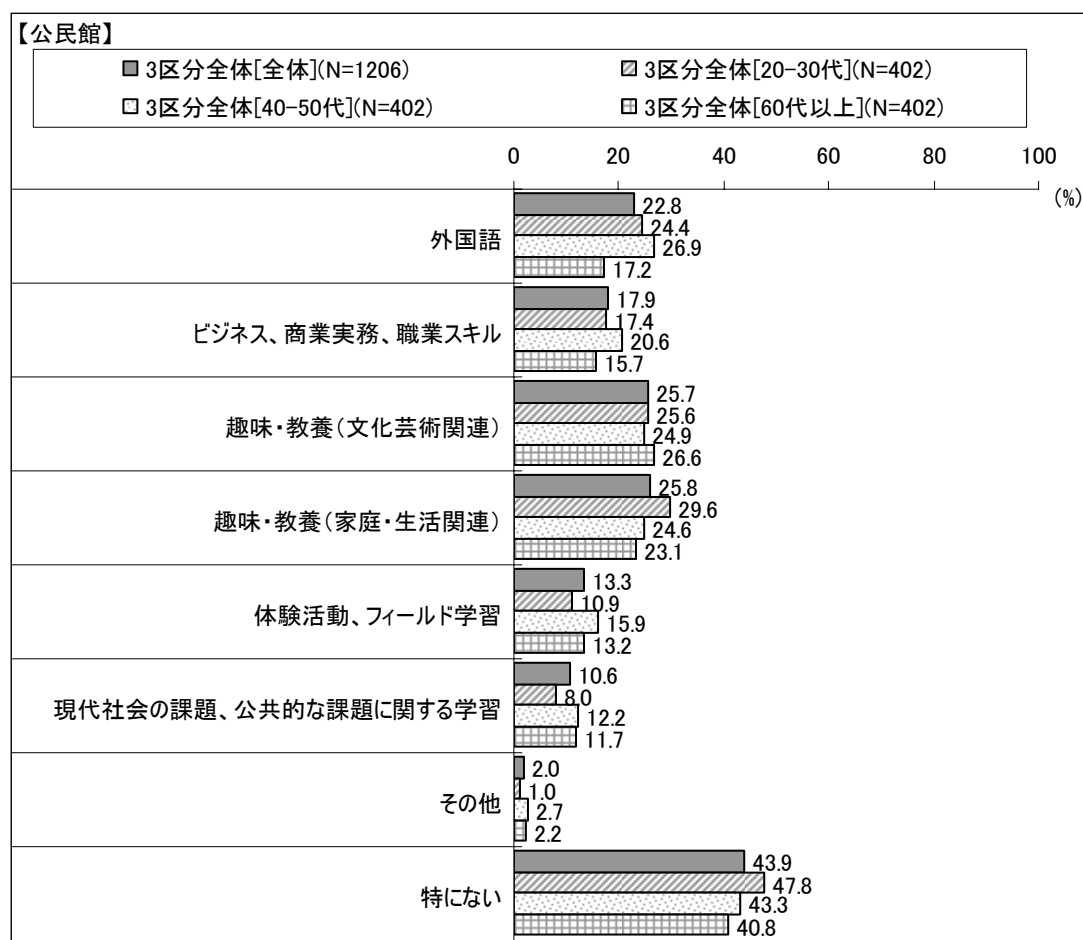
問 あなたは今後、公民館、図書館、博物館、生涯学習センターに、どのような学習機会を提供して欲しいと思いますか。当てはまる記号すべてに○をつけてください。また、6 に○をつけた場合は、具体的な内容をお書きください。

①公民館

公民館で提供して欲しい学習内容について質問したところ、全体では「趣味・教養（家庭・生活関連）」が最も多く25.8%、次いで「趣味・教養（文化芸術関連）」が25.7%であった。

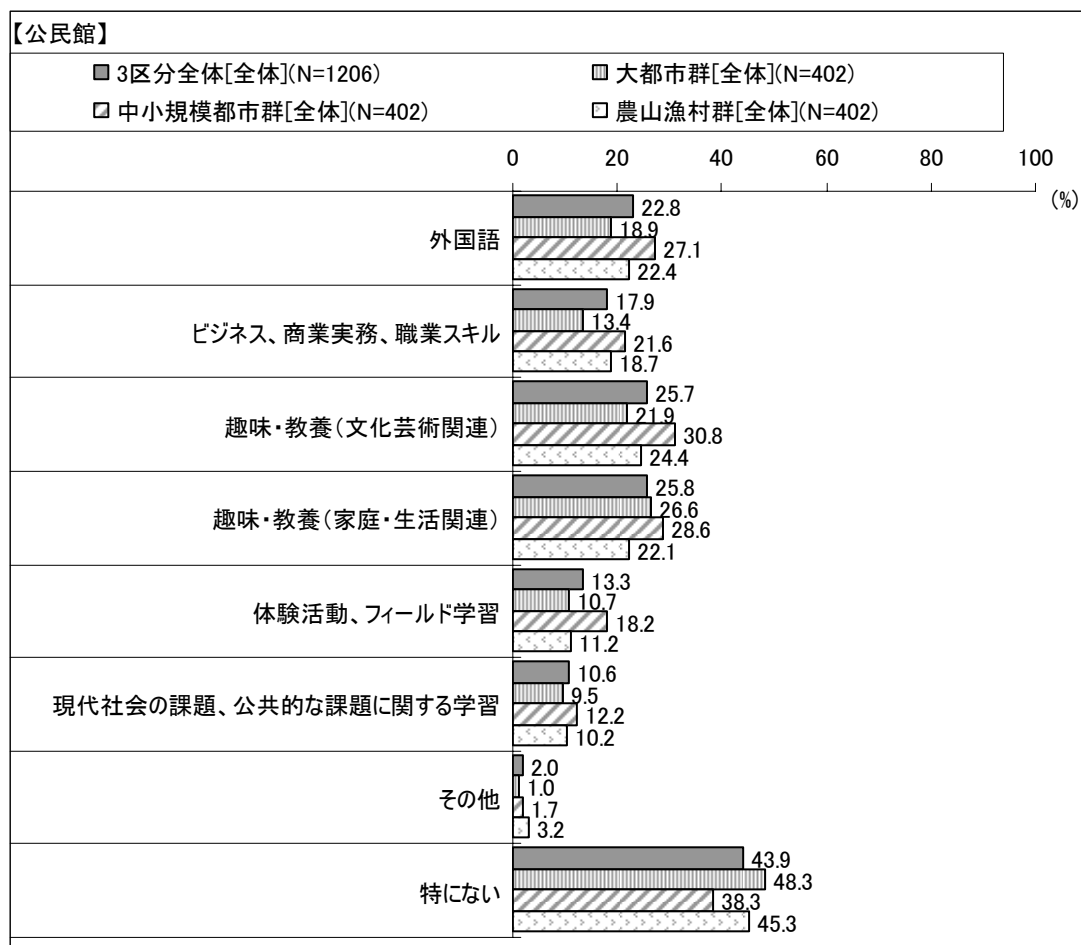
年代別にみると、20-30代は「趣味・教養（家庭・生活関連）」が最も多く29.6%、次いで「趣味・教養（文化芸術関連）」の25.6%であった。40-50代は、「外国語」が最も多く26.9%、次いで「趣味・教養（文化芸術関連）」の24.9%であった。60代以上は、「趣味・教養（文化芸術関連）」が最も多く26.6%、次いで「趣味・教養（家庭・生活関連）」の23.1%であった。

図表2-119. 公民館に提供してほしい学習内容(年代別)



地域規模別にみると、大都市群は「趣味・教養（家庭・生活関連）」が最も多く 26.6%、次いで「趣味・教養（文化芸術関連）」が 21.9%であった。中小規模都市群は、「趣味・教養（文化芸術関連）」が最も多く 30.8%、次いで「趣味・教養（家庭・生活関連）」が 28.6%であった。農山漁村群は「趣味・教養（文化芸術関連）」が最も多く 24.4%、次いで「外国語」が 22.4%であった。

図表2-120. 公民館に提供してほしい学習内容(地域規模別)

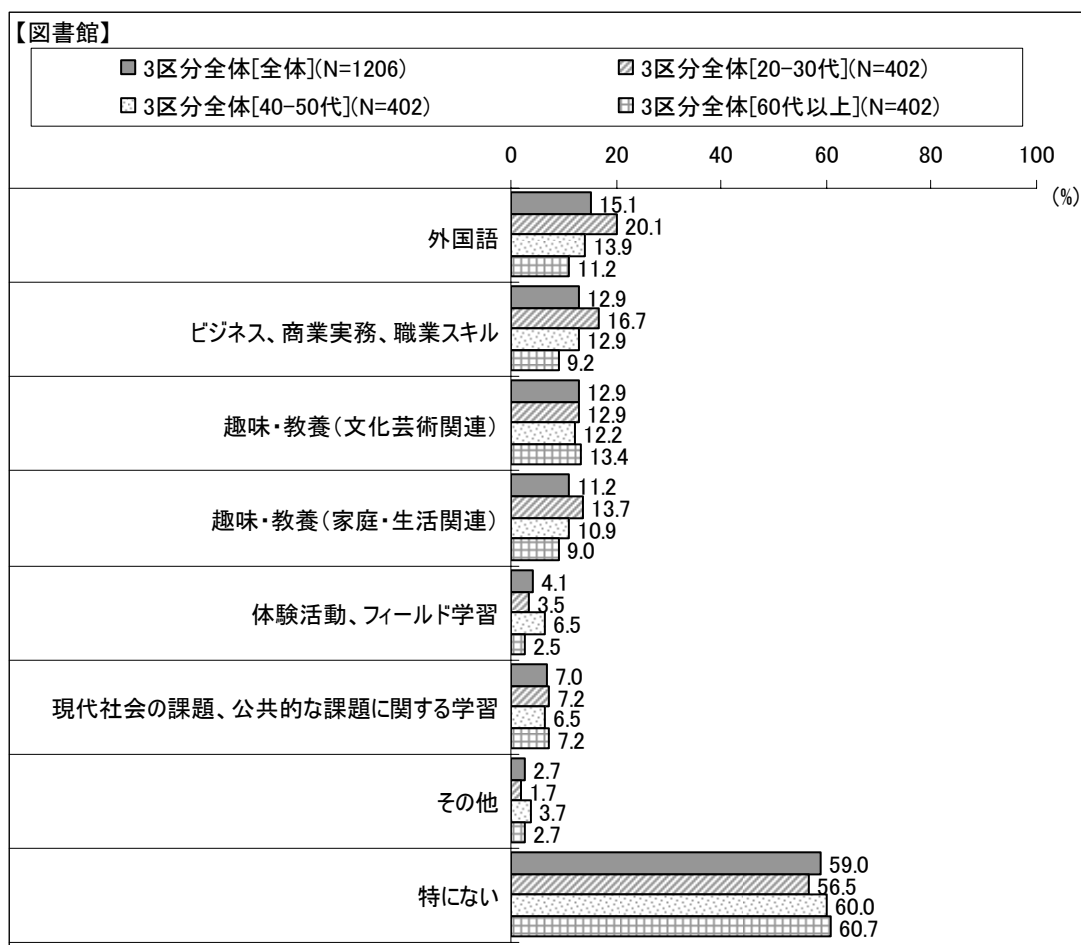


②図書館

図書館で提供して欲しい学習内容について質問したところ、全体では「外国語」が最も多く15.1%であった。

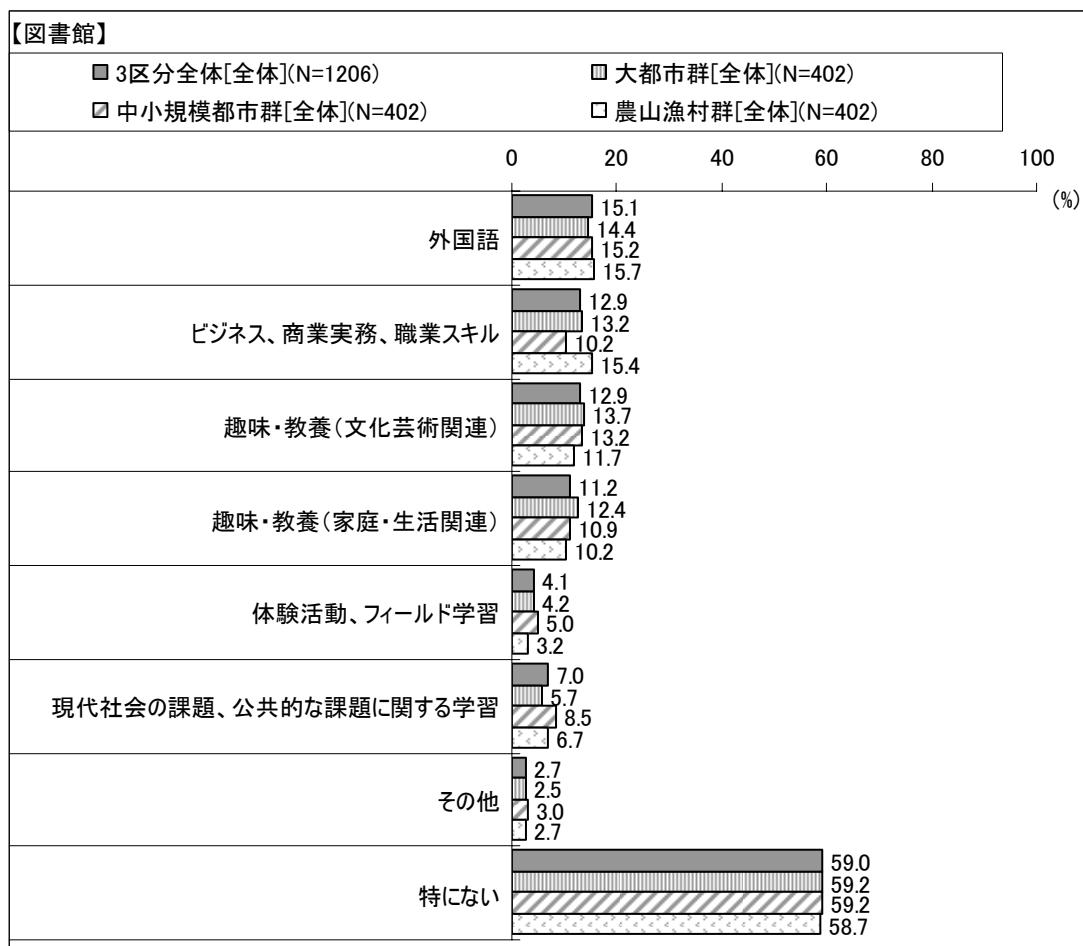
年代別にみると、20-30代は「外国語」が最も多く20.1%、次いで「ビジネス、商業実務、職業スキル」の16.7%であった。40-50代は、「外国語」が最も多く13.9%、次いで「ビジネス、商業実務、職業スキル」の12.9%であった。60代以上は、「趣味・教養（文化芸術関連）」が最も多く13.4%、次いで「外国語」の11.2%であった。

図表2-121. 図書館に提供してほしい学習内容(年代別)



地域規模別にみると、すべての地域で「外国語」が最も多く、大都市群は 14.4%、中小規模都市群は 15.2%、農山漁村群は 15.7%であった。次いで多かった回答は、大都市群、中小規模都市群は「趣味・教養（文化芸術関連）」で、大都市群が 13.7%、中小規模都市群が 13.2%であり、農山漁村群は「ビジネス、商業実務、職業スキル」の 15.4%であった。

図表2-122. 図書館に提供してほしい学習内容(地域規模別)

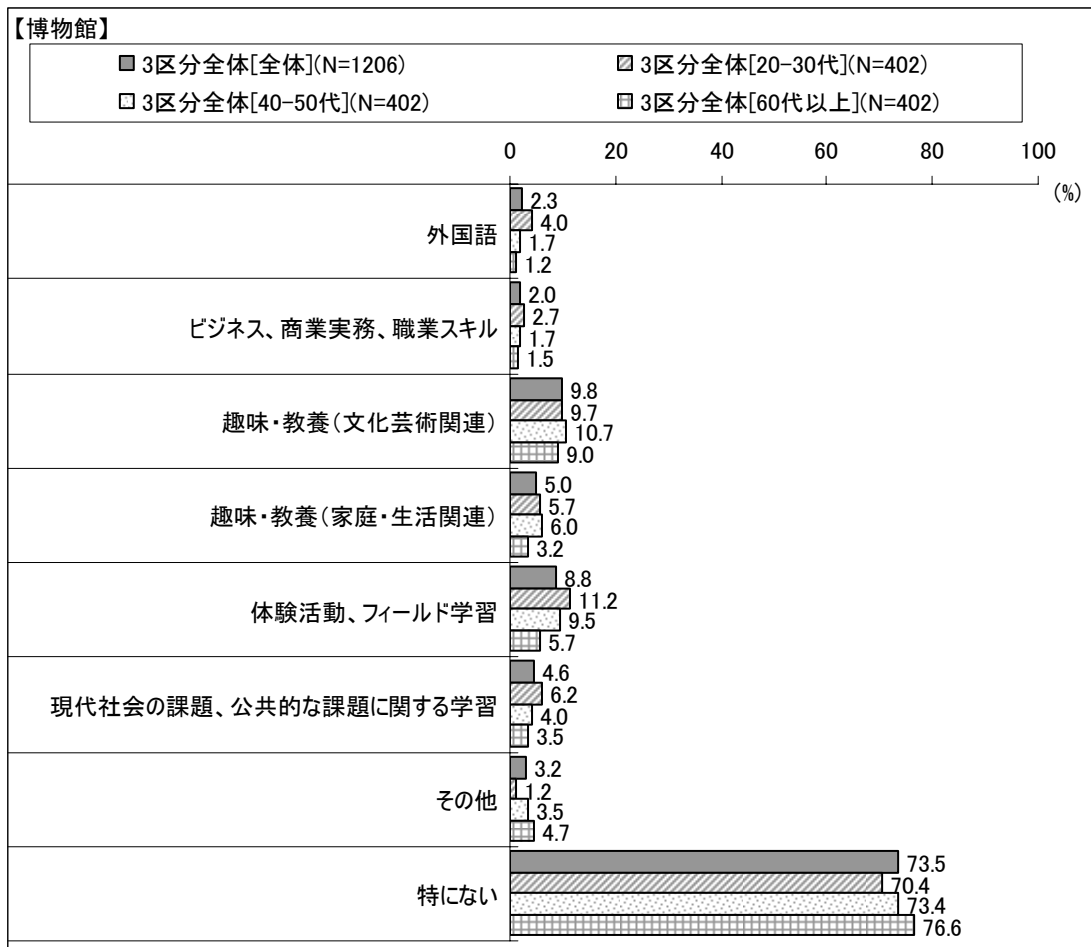


③博物館

博物館で提供して欲しい学習内容について質問したところ、全体では「趣味・教養（文化芸術関連）」が最も多く9.8%であった。

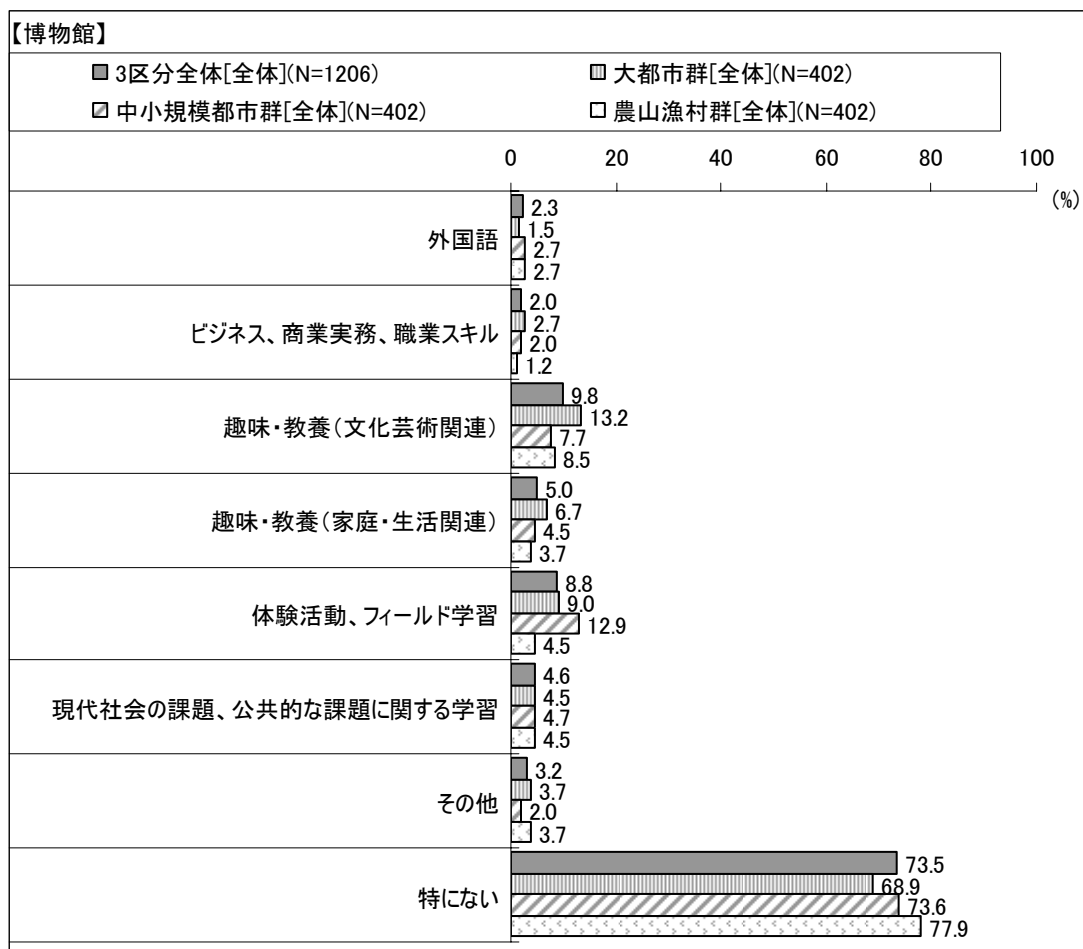
年代別にみると、20-30代は「体験活動、フィールドワーク学習」が最も多く11.2%、次いで「趣味・教養（文化芸術関連）」の9.7%であった。40-50代、60代以上は、「趣味・教養（文化芸術関連）」が最も多く、40-50代が10.7%、60代以上が9.0%、次いで「体験活動、フィールドワーク学習」が多く、40-50代は9.5%、60代以上は5.7%であった。

図表2-123. 博物館に提供してほしい学習内容(年代別)



地域規模別にみると、大都市群は「趣味・教養（文化芸術）」が最も多く13.2%、次いで「体験活動、フィールドワーク学習」が9.0%であった。中小規模都市群は、「体験活動、フィールドワーク学習」が最も多く12.9%、次いで「趣味・教養（文化芸術）」が7.7%であった。農山漁村群は「趣味・教養（文化芸術関連）」が最も多く8.5%、次いで「体験活動、フィールドワーク学習」、「現代社会の課題、公共的な課題に関する学習」が4.5%であった。

図表2-124. 博物館に提供してほしい学習内容(地域規模別)

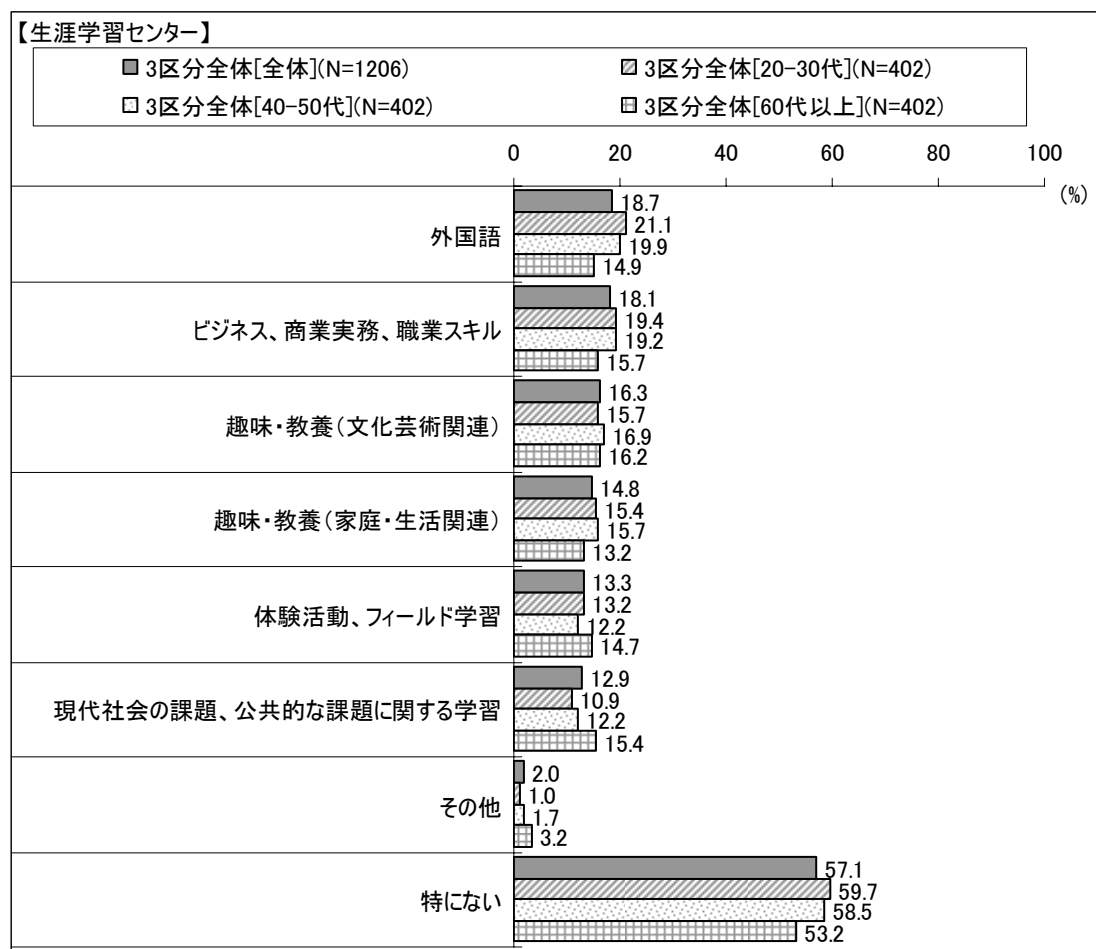


④生涯学習センター

生涯学習センターで提供して欲しい学習内容について質問したところ、全体では「外国語」が最も多く 18.7%であった。

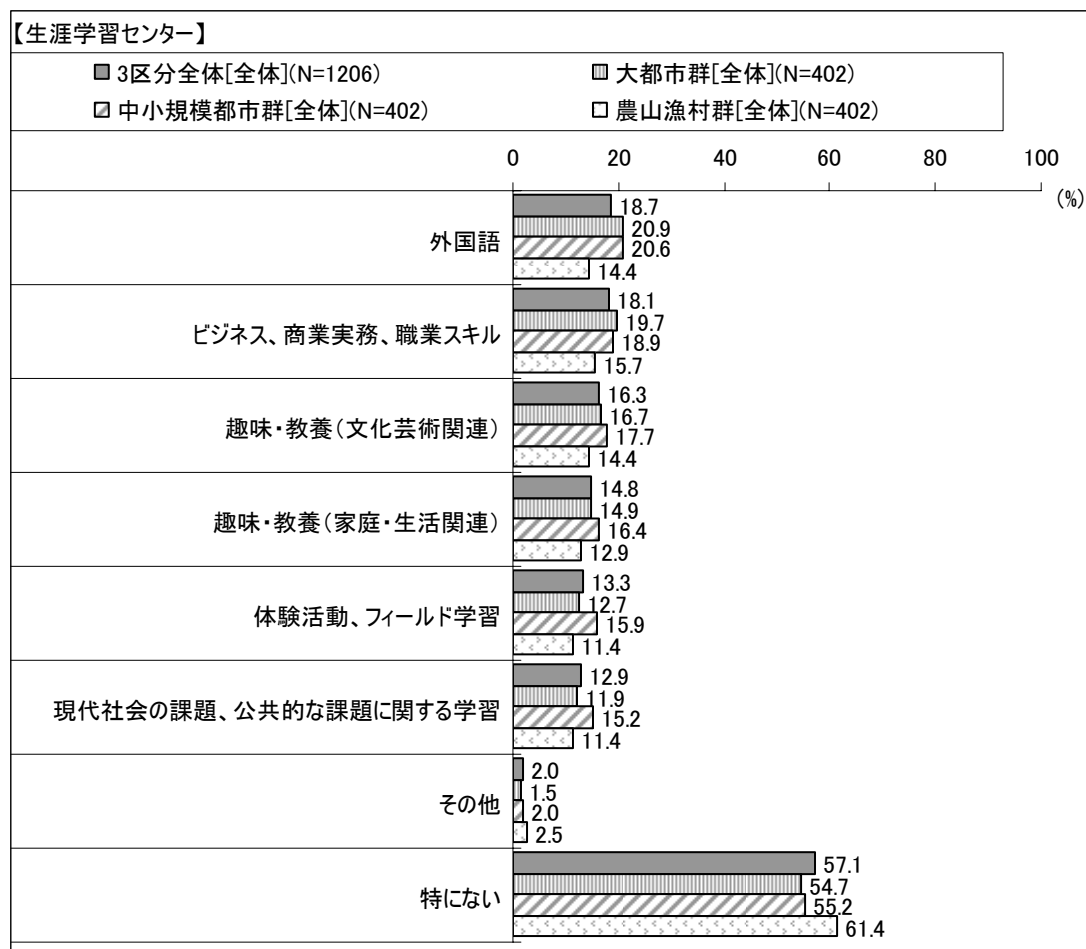
年代別にみると、20-30代は「外国語」が最も多く 21.1%、次いで「ビジネス、商業実務、職業スキル」の 19.4%であった。40-50代は「外国語」が最も多く 19.9%、次いで「ビジネス、商業実務、職業スキル」の 19.2%であった。60代以上は、「趣味・教養（文化芸術関連）」が最も多く 16.2%、次いで「ビジネス、商業実務、職業スキル」の 15.7%であった。

図表2-125.生涯学習センターに提供してほしい学習内容(年代別)



地域規模別にみると、大都市群は「外国語」が最も多く 20.9%、次いで「ビジネス、商業実務、職業スキル」が 19.7%であった。中小規模都市群は、「外国語」が最も多く 20.6%、次いで「ビジネス、商業実務、職業スキル」が 18.9%であった。農山漁村群は「ビジネス、商業実務、職業スキル」が最も多く 15.7%、次いで「外国語」、「趣味・教養（文化芸術関連）」が 14.4%であった。

図表2-126.生涯学習センターに提供してほしい学習内容(地域規模別)



(11) 学習に関する相談や情報提供等

日ごろ学習したいと考えている内容など(学習ニーズ)、及び学習活動に関する情報に関しては、以下のとおりである。

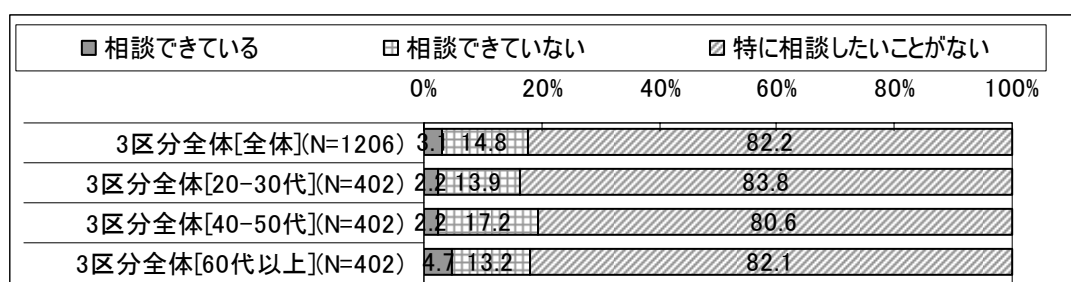
1) 相談状況

問 あなたは、日ごろ学習したいと考えている内容等(学習ニーズ)を、地域の行政機関や社会教育施設へ相談することがありますか。
 (1) これまで、地域の行政機関や社会教育施設へ相談したいことがあった際に、十分に相談できていますか。もっとも当てはまる番号一つに○をつけてください。

地域の行政機関や社会教育施設へ相談したいことがあった際に、十分に相談できているかを質問したところ、全体では「相談できている」が3.1%、「相談できていない」が14.3%、「特に相談したいことがない」82.2%であった。

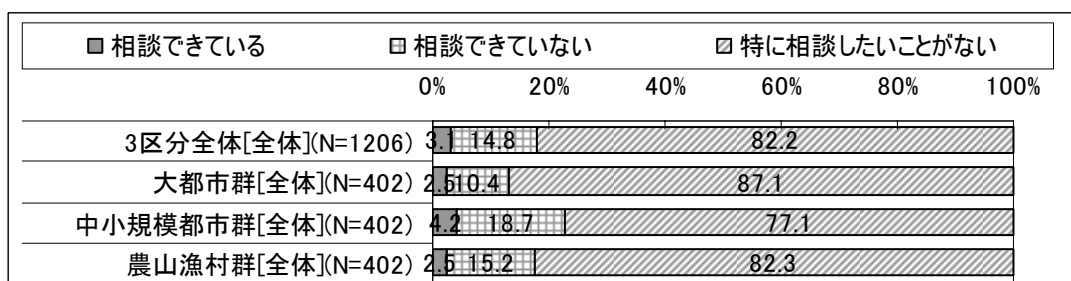
年代別にみると、「相談できている」の回答が最も多いのは60代以上で4.7%、「相談できていない」の回答が最も多いのは40-50代で17.2%であった。

図表2-127. 地域の行政機関や社会教育施設への相談状況(年代別)



地域規模別にみると、「相談できている」の回答が最も多いのは中小規模都市群で4.2%、「相談できていない」の回答が最も多いのは中小規模都市群で18.7%であった。

図表2-128. 地域の行政機関や社会教育施設への相談状況(地域規模別)



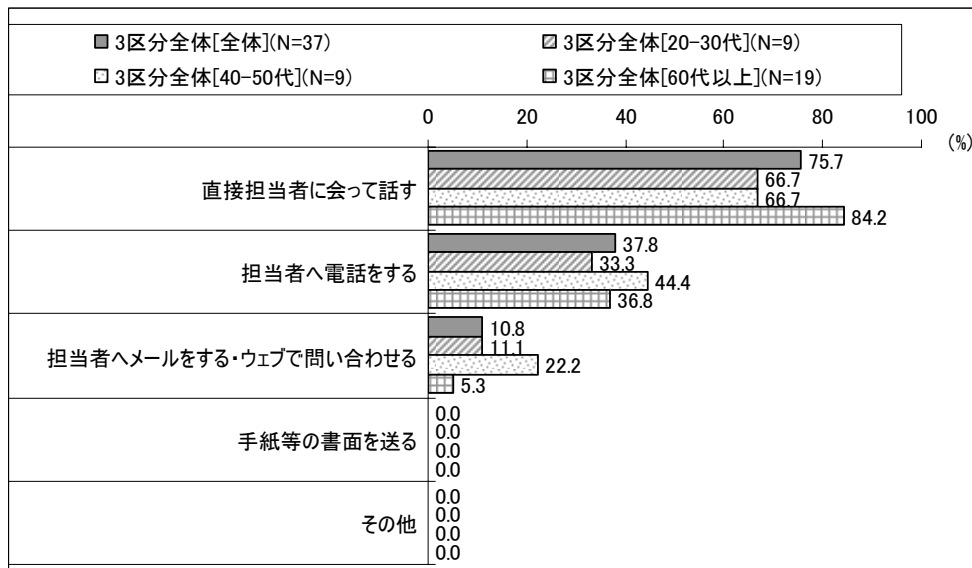
2) 相談方法

(2) (1)で 1 に○をつけた方にお聞きします。どのように相談しましたか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

「相談できている」と回答した対象者に対して、その相談方法を質問したところ、全体では「直接担当者に会って話す」が最も多く 75.7%であった。

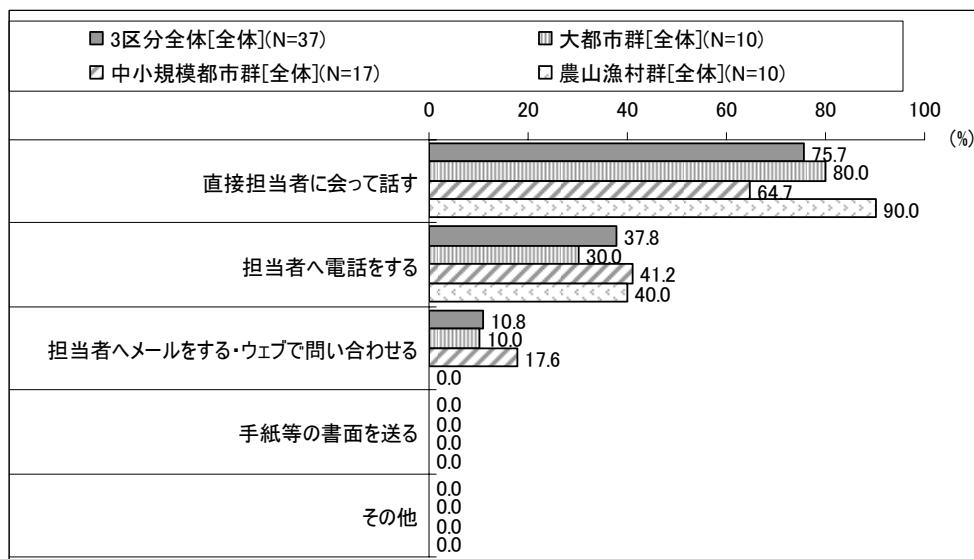
年代別にみると、すべての年代において「直接担当者に会って話す」が最も多く、20-30代は 66.7%、30-40代は 66.7%、60代以上は 84.2%であった。

図表2-129. 相談方法(年代別)



地域規模別にみると、すべての地域において「直接担当者に会って話す」が最も多く、大都市圏では 80.0%、中小規模都市圏では 64.7%、農山漁村群では 90.0%であった。

図表2-130. 相談方法(地域規模別)



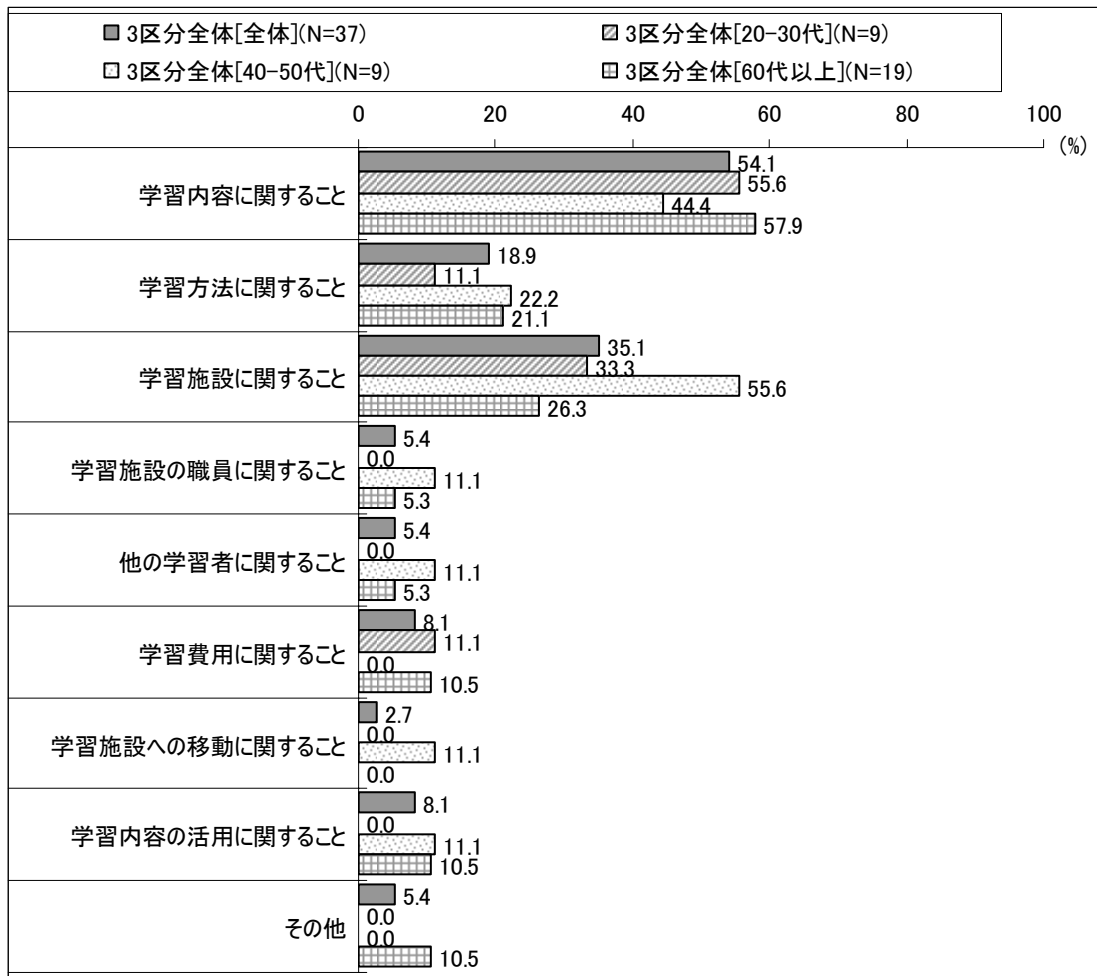
3) 相談内容

(3) (1)で1に○をつけた方にお聞きます。どのような内容を相談しましたか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

「相談できている」と回答した対象者に対して、その相談内容を質問したところ、全体では、「学習内容に関すること」が最も多く、54.1%であった。

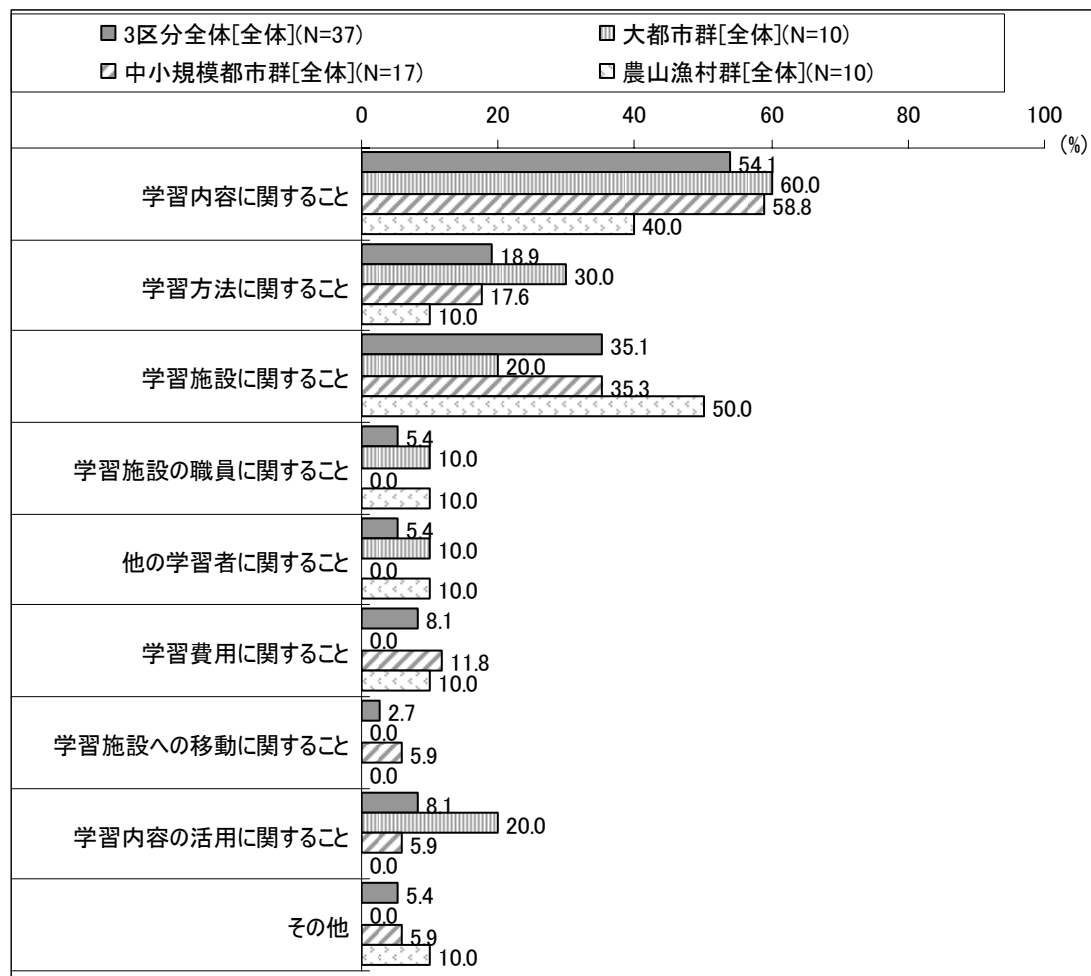
年代別にみると、20-30代は「学習内容に関すること」が最も多く55.6%、40-50代は「学習施設に関すること」が最も多く55.6%、60代以上は「学習内容に関すること」が最も多く57.9%であった。

図表2-131. 相談内容(年代別)



地域規模別にみると、大都市群、中小規模都市群では「学習内容に関すること」が最も多く、大都市群は60.0%、中小規模都市群では58.8%であった。農山漁村群では「学習施設に関すること」が最も多く、50.0%であった。

図表2-132. 相談内容(地域規模別)



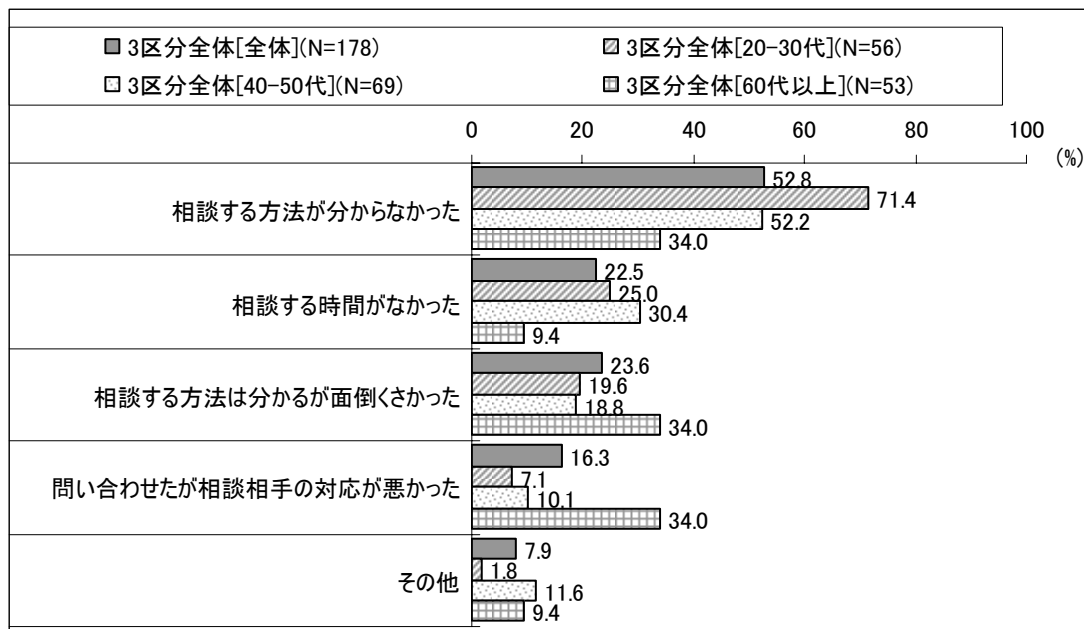
4) 相談しない理由

(4) (1)で2に○をつけた方にお聞きます。相談しなかった理由は何ですか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

「相談できていない」と回答した対象者に対して、相談しなかった理由を質問したところ、全体では「相談する方法が分からなかった」が最も多く 52.8%であった。

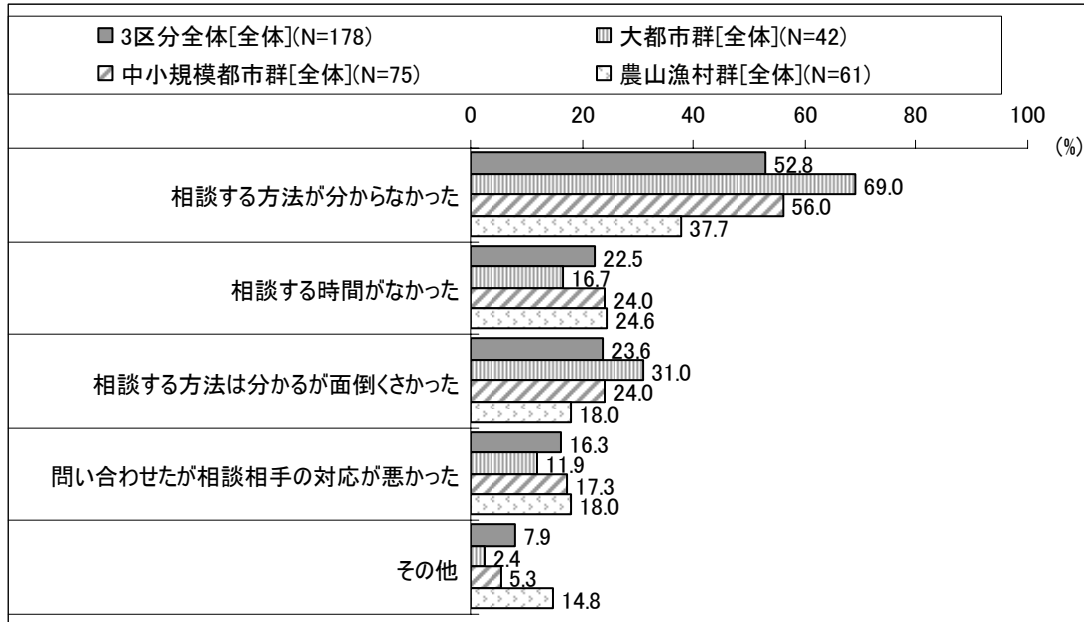
年代別にみると、20-30代、40-50代は「相談する方法が分からなかった」が最も多く、20-30代は71.4%、40-50代は52.2%であった。60代以上は、「相談する方法が分からなかった」、「相談する方法は分かるが面倒くさかった」、「問い合わせたが相談相手の対応が悪かった」がいずれも34.0%であった。

図表2-133. 相談しない理由(年代別)



地域規模別にみると、すべての地域において「相談する方法が分からなかった」が最も多く、大都市群は 69.0%、中小規模都市群は 56.0%、農山漁村群は 37.7%であった。

図表2-134. 相談しない理由(地域規模別)



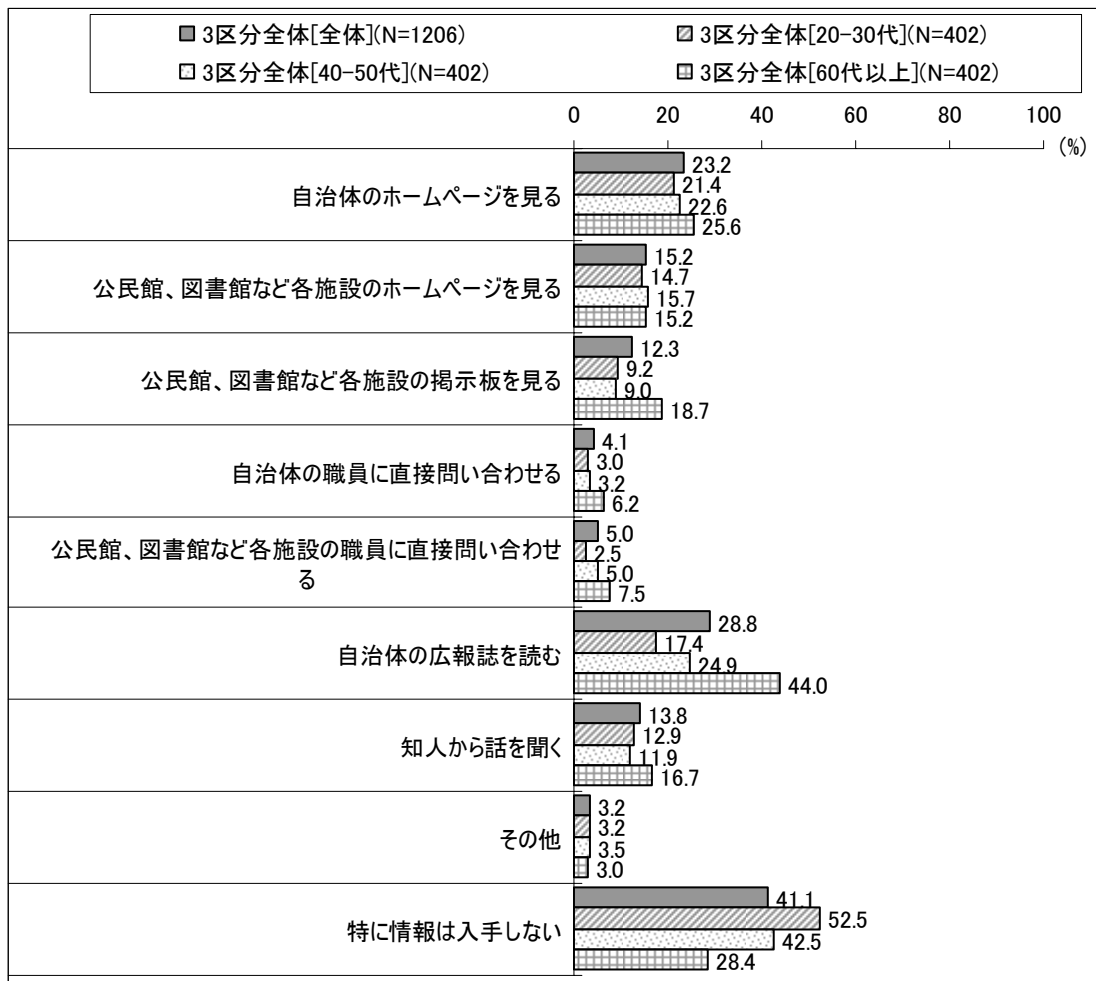
5) 情報の入手方法

問 あなたは、日ごろ学習活動に関する情報を、どのように入手していますか。
 (1) 情報の入手方法について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

学習活動に関する情報の入手方法について質問したところ、全体では「自治体の広報誌を読む」が最も多く、28.8%であった。

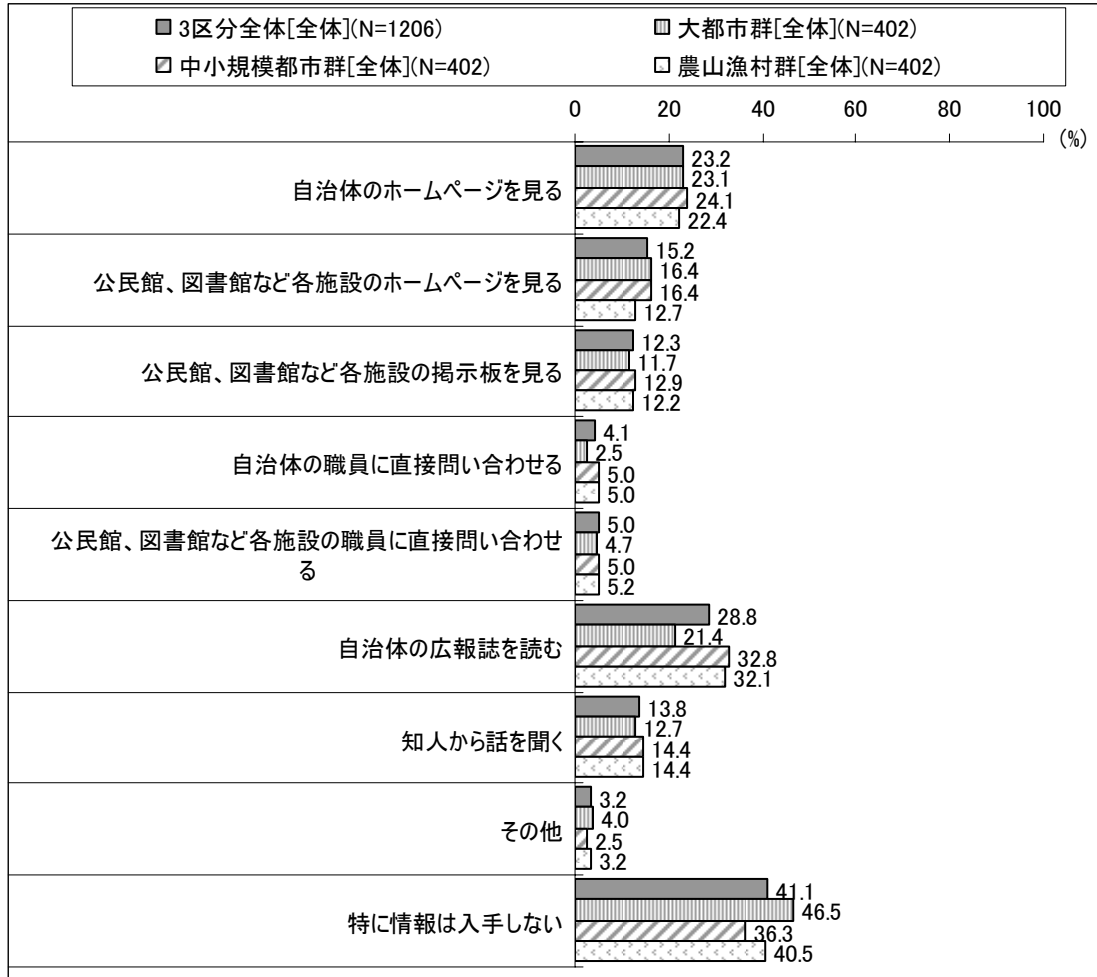
年代別にみると、20-30代は「自治体のホームページを見る」が最も多く、21.4%であった。30-40代、60代以上は「自治体の広報誌を読む」が最も多く、30-40代は24.9%、60代以上は44.0%であった。

図表2-135. 学習活動に関する情報の入手方法(年代別)



地域規模別にみると、大都市群は「自治体のホームページを見る」が最も多く 23.1%であった。中小規模都市群、農山漁村群は「自治体の広報誌を見る」が最も多く、中小規模都市群は 32.8%、農山漁村群は 32.1%であった。

図表2-136. 学習活動に関する情報の入手方法(地域規模別)



6) 情報量

(2) (1)で 1～7 に一つでも○をつけた方にお聞きします。入手できている情報量は十分ですか。あてはまる番号一つに○をつけてください。

入手している情報に関して、その情報量が十分であるかを質問したところ、全体では、「情報量は十分」が 20.7%、「情報量は不十分」が 36.8%、「どちらともいえない」が 42.5%であった。

年代別にみると、「情報量は十分」と回答する割合が最も高いのは 60 代以上で 26.4%、「情報量は不十分」と回答する割合が最も高いのは 20-30 代で 42.4%であった。

図表2-137. 入手している情報の充足度(年代別)

	■ 情報量は十分	□ 情報量は不十分	▨ どちらともいえない
	0%	20%	40%
3区分全体[全体](N=710)	20.7	36.8	42.5
3区分全体[20-30代](N=191)	18.3	42.4	39.3
3区分全体[40-50代](N=231)	15.6	38.5	45.9
3区分全体[60代以上](N=288)	26.4	31.6	42.0

地域規模別にみると、「情報量は十分」と回答する割合が最も高いのは大都市群で 22.8%、「情報量は不十分」と回答する割合が最も高いのは中小規模都市群で 37.9%であった。

図表2-138. 入手している情報の充足度(地域規模別)

	■ 情報量は十分	□ 情報量は不十分	▨ どちらともいえない
	0%	20%	40%
3区分全体[全体](N=710)	20.7	36.8	42.5
大都市群[全体](N=215)	22.8	34.4	42.8
中小規模都市群[全体](N=256)	19.9	37.9	42.2
農山漁村群[全体](N=239)	19.7	37.7	42.7

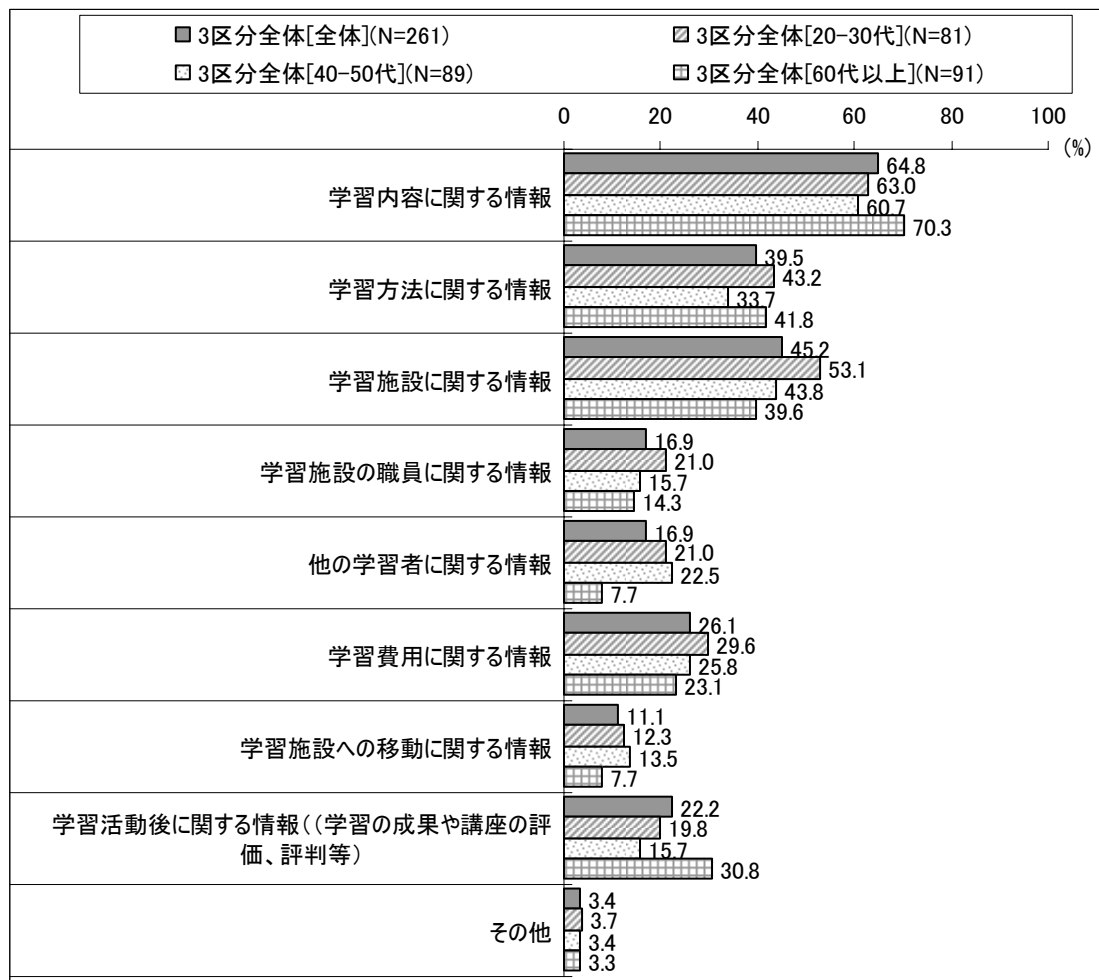
7) 不十分な情報の内容

(3) (2)で2に○をつけた方にお聞きします。どのような情報が不十分ですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

「情報量は不十分である」と回答した対象者に対し、不十分だと感じる情報の内容について質問したところ、全体では「学習内容に関する情報」が最も多く64.8%であった。

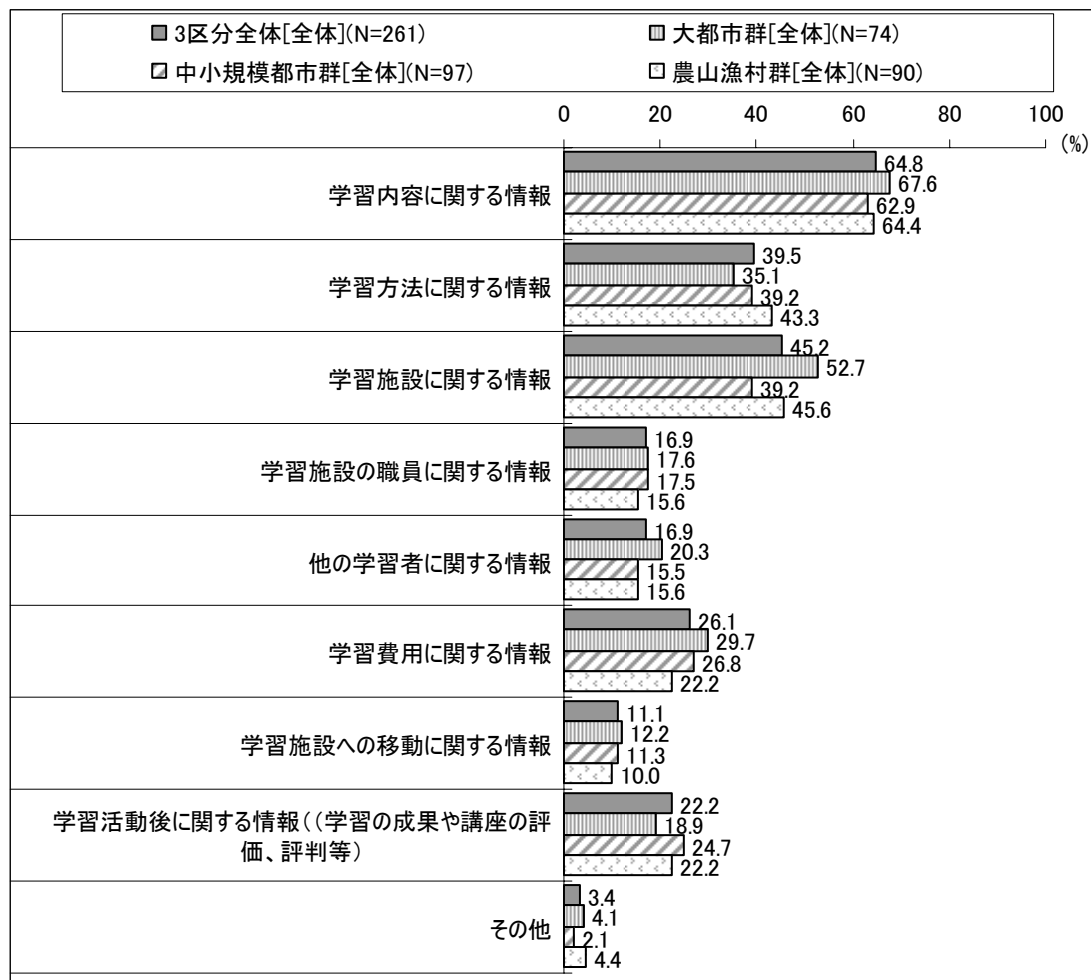
年代別にみると、すべての年代で「学習内容に関する情報」が最も多く、20-30代は63.0%、40-50代は60.7%、60代以上は70.3%であった。

図表2-139. 不十分な情報の内容(年代別)



地域別にみると、すべての地域において「学習内容に関する情報」が最も多く、大都市群は67.6%、中小規模都市群は62.9%、農山漁村群は64.4%であった。

図表2-140. 不十分な情報の内容(地域規模別)



2.2 特定地域における社会教育の現状と住民の学習ニーズ

(1) A市の例

1) A市の地域概要と社会教育の現状

①地域の概要

項目	状況
人口規模	約 700,000 人（平成 23 年 2 月 1 日現在）
財政規模	歳出総額：約 2400 億円（平成 22 年度） 財政力指数：0.78（平成 20 年度）
面積（人口密度）	約 790 平方キロメートル、人口密度：900 人/km ²
生涯学習計画、 社会教育計画	策定していない
教育振興計画、 教育基本計画	平成 11 年度策定
市の特徴	地方の中核拠点都市であり、政令指定都市である。古くから公民館施策に注力してきた。

②社会教育施設の状況

館種	館数（市区町村立）	館数（市区町村内）	備考
公民館	44	44	分室 7 館含む
図書館	10	11	
博物館	2	28	
生涯学習センター	0	1	

※他に、男女共同参画関連センター：2、福祉交流プラザ：11、コミュニティハウス：76、勤労者福祉センター：1、視聴覚ライブラリー：1、環境学習センター：1がある。

公民館で提供された学習機会は以下のとおり（平成 21 年度）。

区分	活動実績	利用回数	利用人数
主催講座	1,197	10,035	252,663
クラブ講座	2,608	60,129	594,449
貸室使用	—	25,921	430,967
図書・見学	—	8,896	54,114

2) 住民の学習状況及びニーズ

①基本属性

回答者の属性は以下のとおりである。

a. 性別・年齢

回答者の性別及び年齢は、全 404 名のうち 20-30 代が男性 67 名、女性 80 名の計 147 名、40-50 代が男性 67 名、女性 79 名の計 146 名、60 代以上が男性 67 名、女性 44 名の計 111 名である。

図表2-141. 対象者の性別・年齢

		男性	女性	合計
20-30 代	(人)	67	80	147
	(%)	45.6	54.4	100.0
40-50 代	(人)	67	79	146
	(%)	45.9	54.1	100.0
60 代以上	(人)	67	44	111
	(%)	60.4	39.6	100.0

②学習活動の内容

学習活動の内容は以下のとおりである。

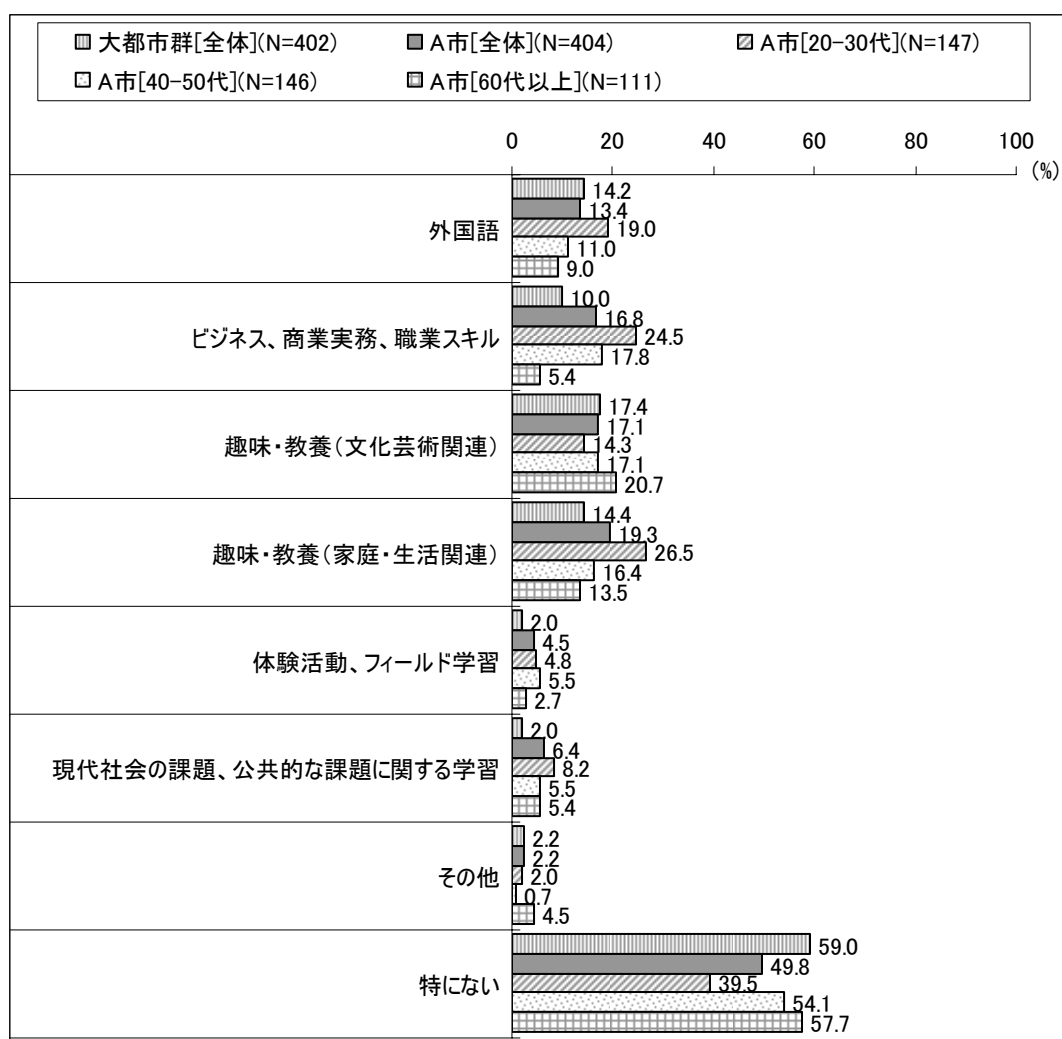
問 以下の 1～6 の学習活動のうち、あなたが実際に取り組んでいる活動はありますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。また、取り組んでいる各活動に関し、活動場所、活動頻度、活動時間、活動理由それぞれについて、当てはまる番号すべてに○をつけてください。(学習活動内容と活動場所の()には、具体的な内容をお書きください)

a. 取り組んでいる学習活動

取り組んでいる学習活動内容について質問したところ、A市全体では、「趣味・教養（家庭・生活関連）」が最も多く、19.3%であった。

年代別にみると、20-30代では「趣味・教養（家庭・生活関連）」が最も多く、26.5%であった。40-50代では「ビジネス、商業実務、職業スキル」が17.8%で最も多く、一方、60代以上では「趣味・教養（文化芸術関連）」が最も多く、20.7%であった。

図表2-142. 取り組んでいる学習活動内容(A市)



③学習活動を社会に役立てる意志

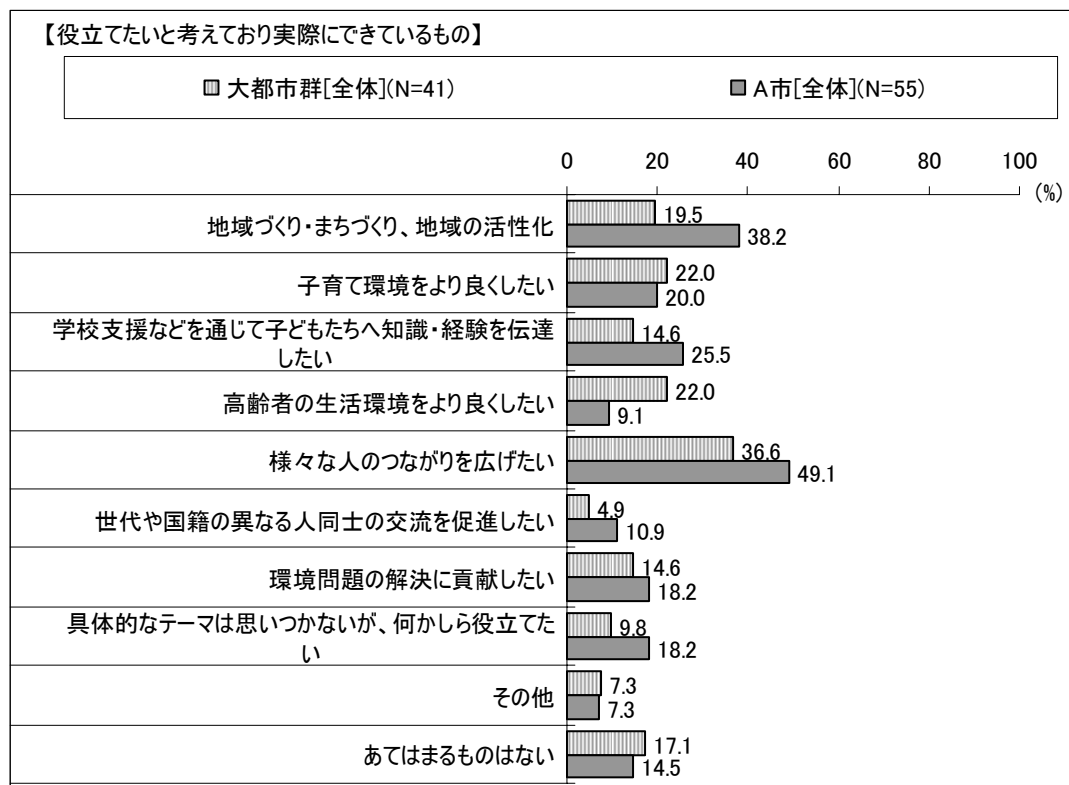
対象者の学習活動を社会に役立てる意志は以下のとおりである。

問 前問「(5)活動理由」で、「周りの人、地域、社会に役立てたい」に一つでも○をつけた方にお聞きます。
 具体的に、どのように役立てたいと考えていますか。また、それは実際に取り組んでいますか。以下の項目のうち、役立てたいと考えており実際に取り組んでいるもの、役立てたいと考えているが実際には取り組めていないものについて、それぞれ当てはまる番号すべてに○をつけてください。また、役立てたいと考えているが実際には取り組めていないものに○をつけた方は、その理由について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

a. 役立てたいと考えており、実際にできているもの

学習活動を社会に役立てる意志のある人に対して、実際にできている取組について質問したところ、A市全体では、「様々な人のつながりを広げたい」が49.1%で最も多く、次いで「地域づくり・まちづくり、地域の活性化」が38.2%であった。

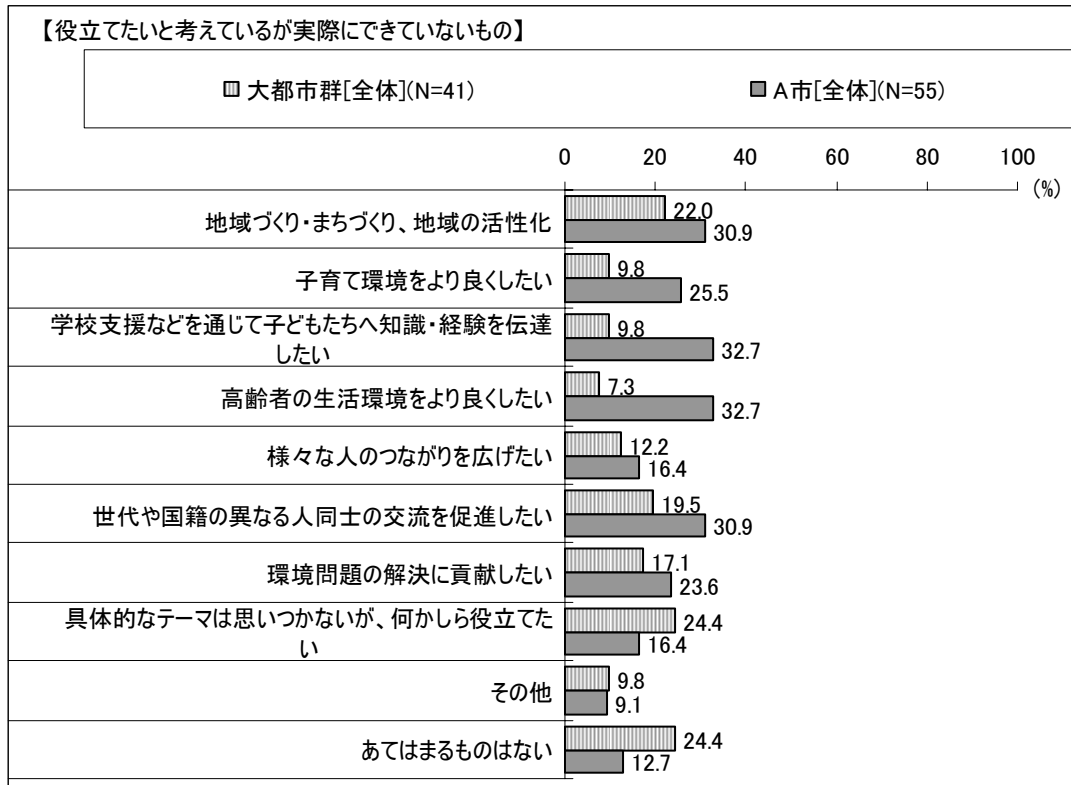
図表2-143. 役立てたいと考えており、実際にできているもの(A市)



b. 役立たいと考えているが、実際にできていないもの

学習活動を社会に役立てる意志のある人に対して、役立たいが実際にはできていない取組について質問したところ、A市全体では、「学校支援などを通じて子どもたちへ知識・経験を伝えたい」、「高齢者の生活環境をより良くしたい」が最も多く、32.7%であった。

図表2-144. 役立たいと考えており、実際にできていないもの(A市)



④社会教育施設等の認知度

社会教育施設等の認知度については、以下のとおりである。

問 あなたの居住している市区町村にある施設についてお聞きます。

a. 認知度

(1) あなたは、居住している市区町村にある以下の施設についてどの程度知っていますか。また、各施設を身近に感じますか。a～dそれぞれについて、もっとも当てはまる番号一つに○をつけてください。

社会教育施設について、どの程度知っているか質問したところ、「施設の具体的な役割・活動内容を知っている」との回答は、A市全体では、公民館が42.6%、図書館が65.8%、博物館が30.9%、生涯学習センターが18.6%であった。

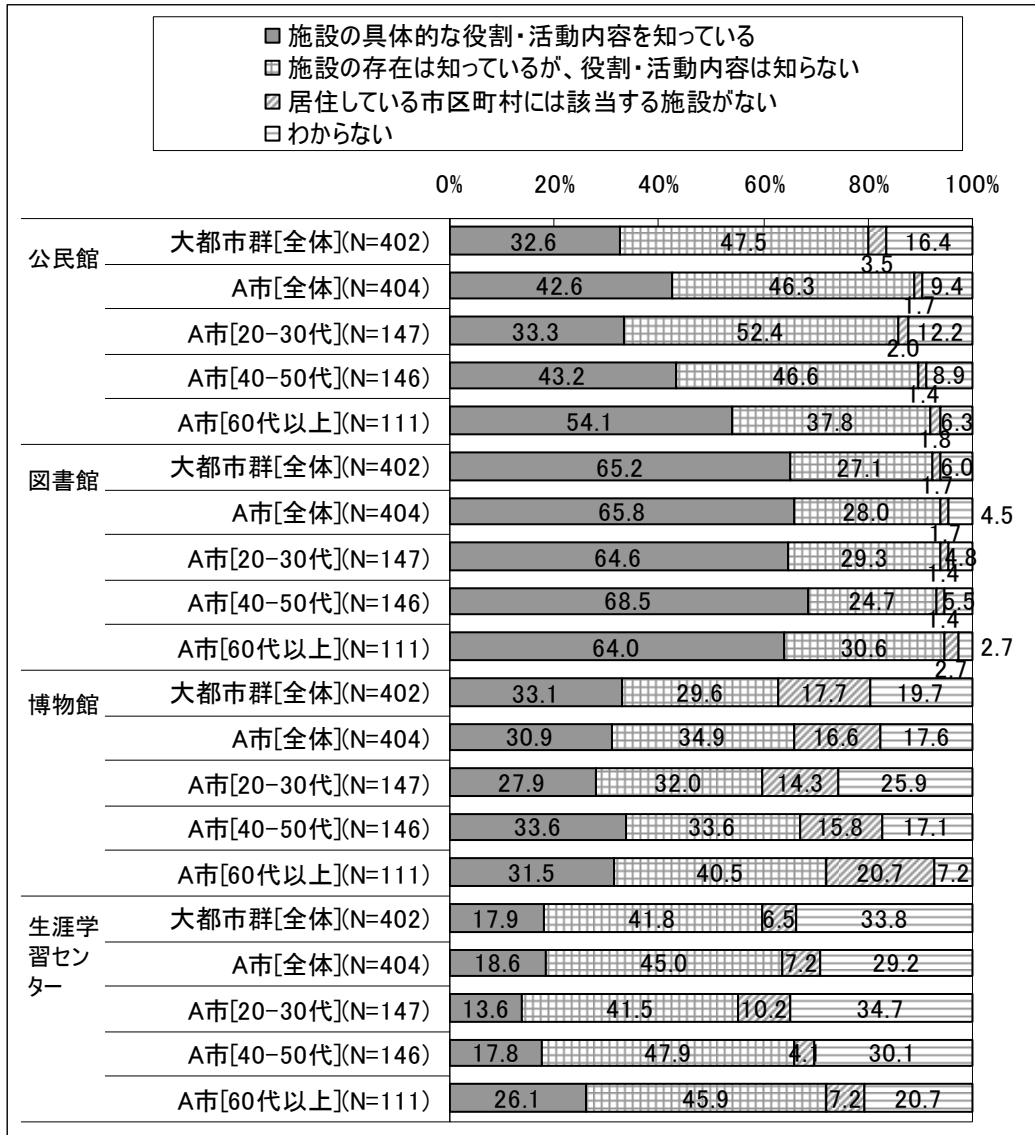
年代別にみると、公民館については、「施設の具体的な役割・活動内容を知っている」との回答は、年齢が高くなるほど多くなる傾向にあり、60代以上は54.1%であった。

図書館については、「施設の具体的な役割・活動内容を知っている」との回答は、40-50代が最も多く68.5%であった。

博物館については、「施設の具体的な役割・活動内容を知っている」との回答は、40-50代が最も多く、33.6%であった。

生涯学習センターについては、「施設の具体的な役割・活動内容を知っている」との回答は、年齢が高くなるほど多くなる傾向にあり、60代以上は26.1%であった。

図表2-145. 社会教育施設等の認知状況(A市)



b. 使用頻度

社会教育施設について、どの程度の頻度で使用しているかを質問したところ、A市全体では、「ほぼ毎月使用している」と回答する割合が最も高いのは図書館で22.4%、次いで公民館の10.1%であった。

年代別にみると、公民館は、年齢が高くなるほど使用頻度が高まる傾向にあり、60代以上は「ほぼ毎月使用する」が16.5%であった。

図表2-146. 社会教育施設等の使用頻度(A市)



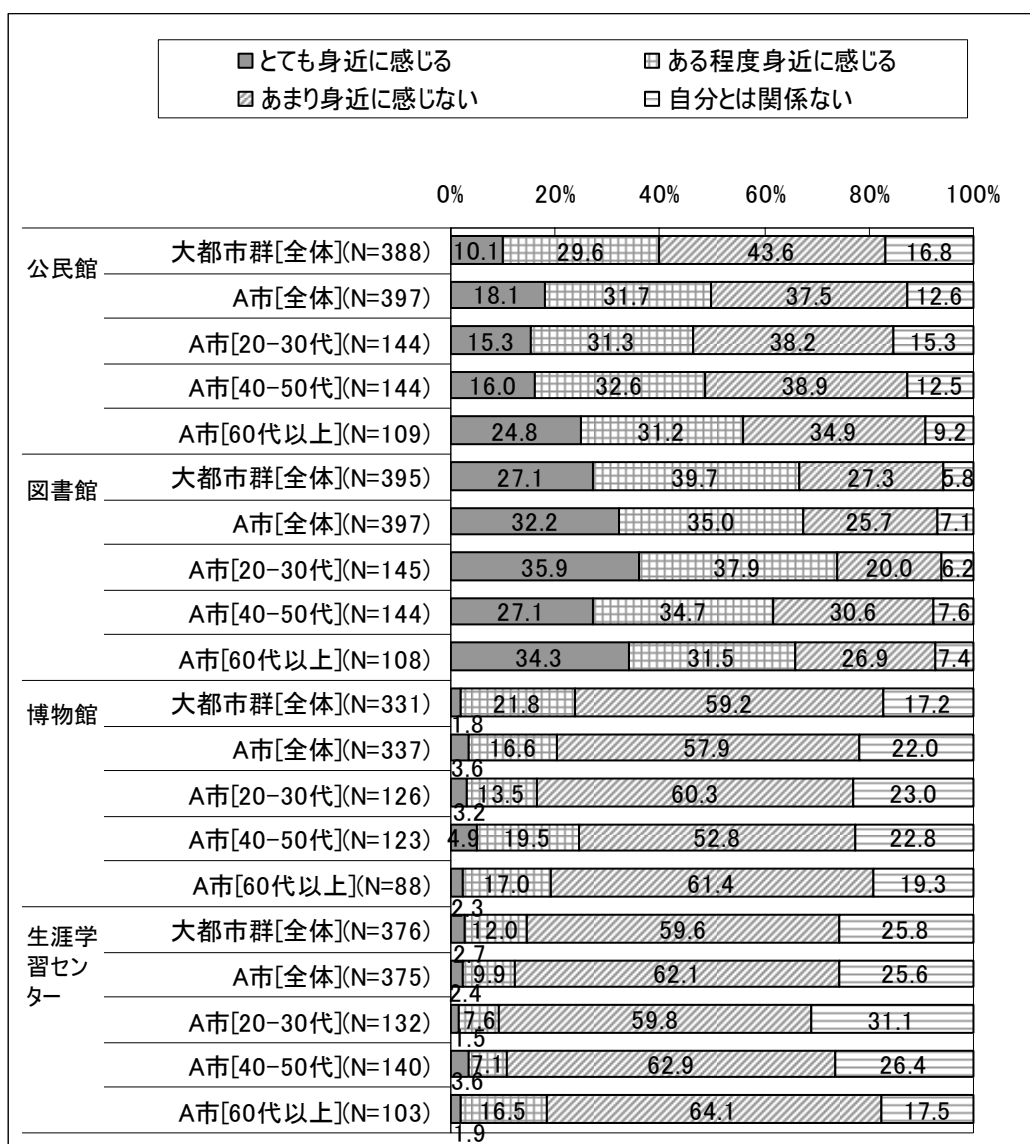
c. 身近に感じるか

社会教育施設について、どの程度身近に感じるかを質問したところ、A市全体では「とても身近に感じる」と回答する割合が最も高いのは図書館で32.2%、次いで公民館の18.1%であった。

年代別にみると、公民館は、年齢が高くなるほど身近に感じる傾向にあり、60代以上は「とても身近に感じる」が24.8%、「ある程度身近に感じる」が31.2%であった。

図書館は、20-30代で「とても身近に感じる」と回答する割合が高く、35.9%であった。

図表2-147. 社会教育施設等の身近に感じる程度(A市)



⑤社会教育施設等への要望

a. 要望

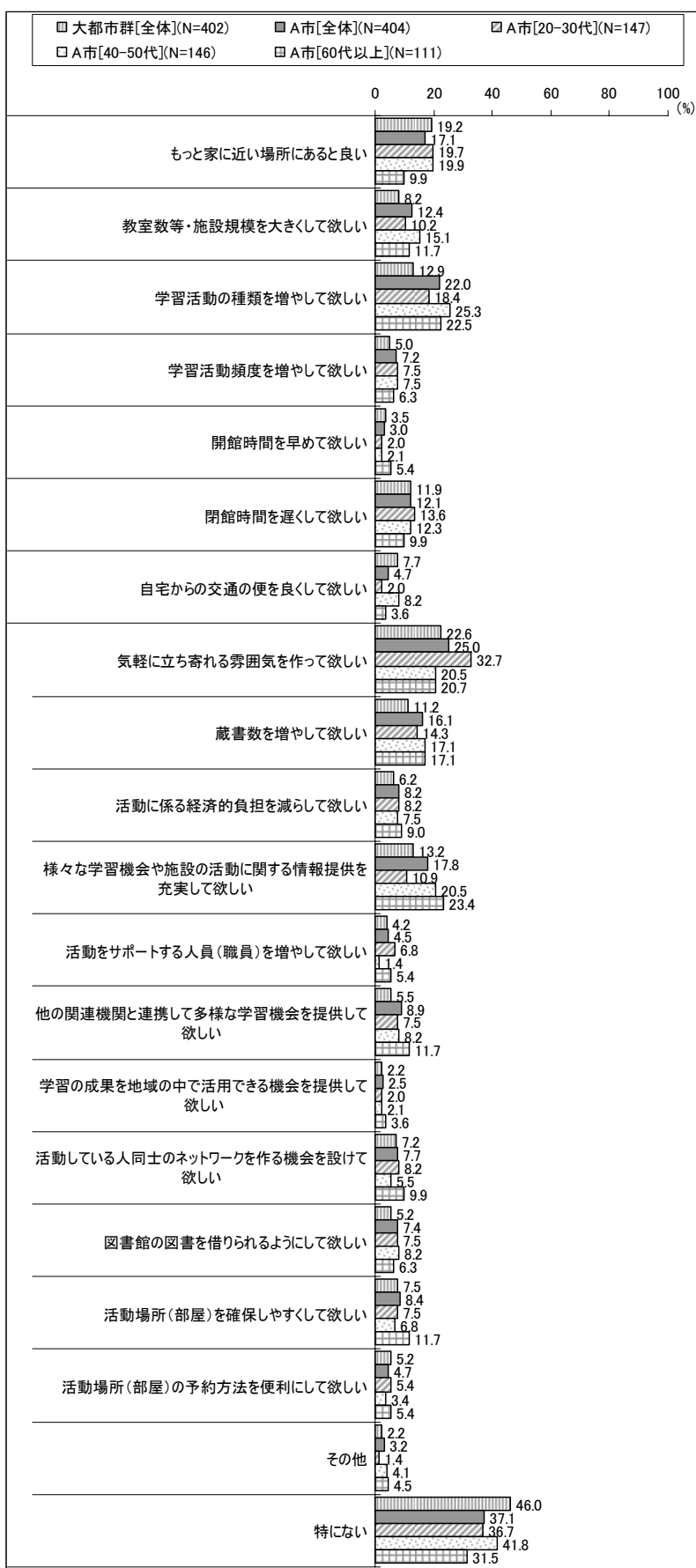
問 あなたは、以下の各施設について、どのような要望がありますか。a～d それぞれについて、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

公民館

公民館への要望について質問したところ、A市全体では「気軽に立ち寄れる雰囲気を作って欲しい」が最も多く、25.0%であった。

年代別にみると、20-30代は「気軽に立ち寄れる雰囲気を作って欲しい」が最も多く、32.7%であった。40-50代は「学習活動の種類を増やして欲しい」が最も多く、25.3%であった。60代以上は「様々な学習機会や施設の活動に関する情報提供を充実して欲しい」が最も多く、23.4%であった。

図表2-148. 公民館への要望(A市)

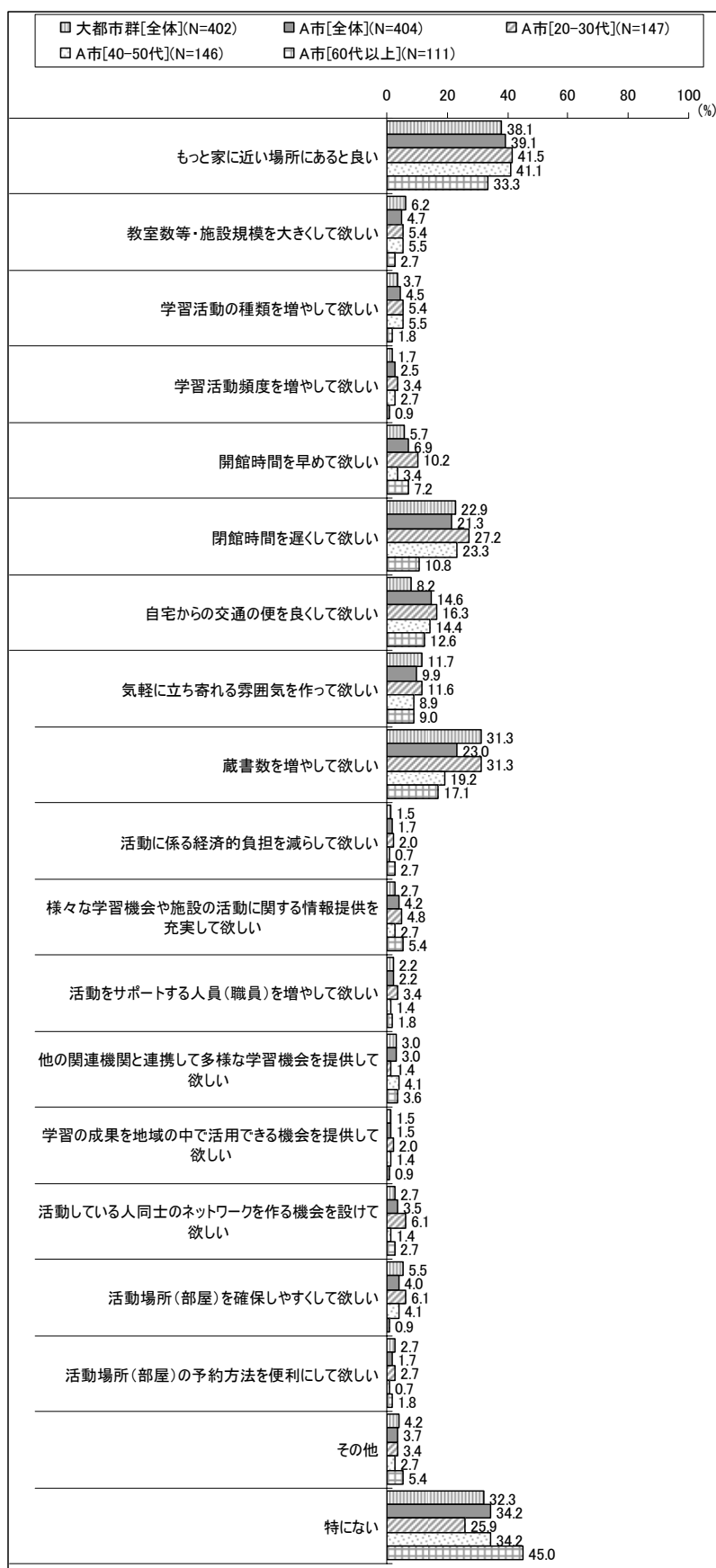


図書館

図書館への要望について質問したところ、A市全体では「もっと家の近くにあると良い」が最も多く、39.1%であった。

年代別にみると、すべての年代で「もっと家の近くにあると良い」が最も多く、20-30代が41.5%、40-50代が41.1%、60代以上が33.3%であった。次いで多かった回答は、20-30代は「蔵書数を増やして欲しい」で31.3%、40-50代は「閉館時間を遅くして欲しい」で23.3%、60代以上は「蔵書数を増やして欲しい」で17.1%であった。

図表2-149. 図書館への要望(A市)

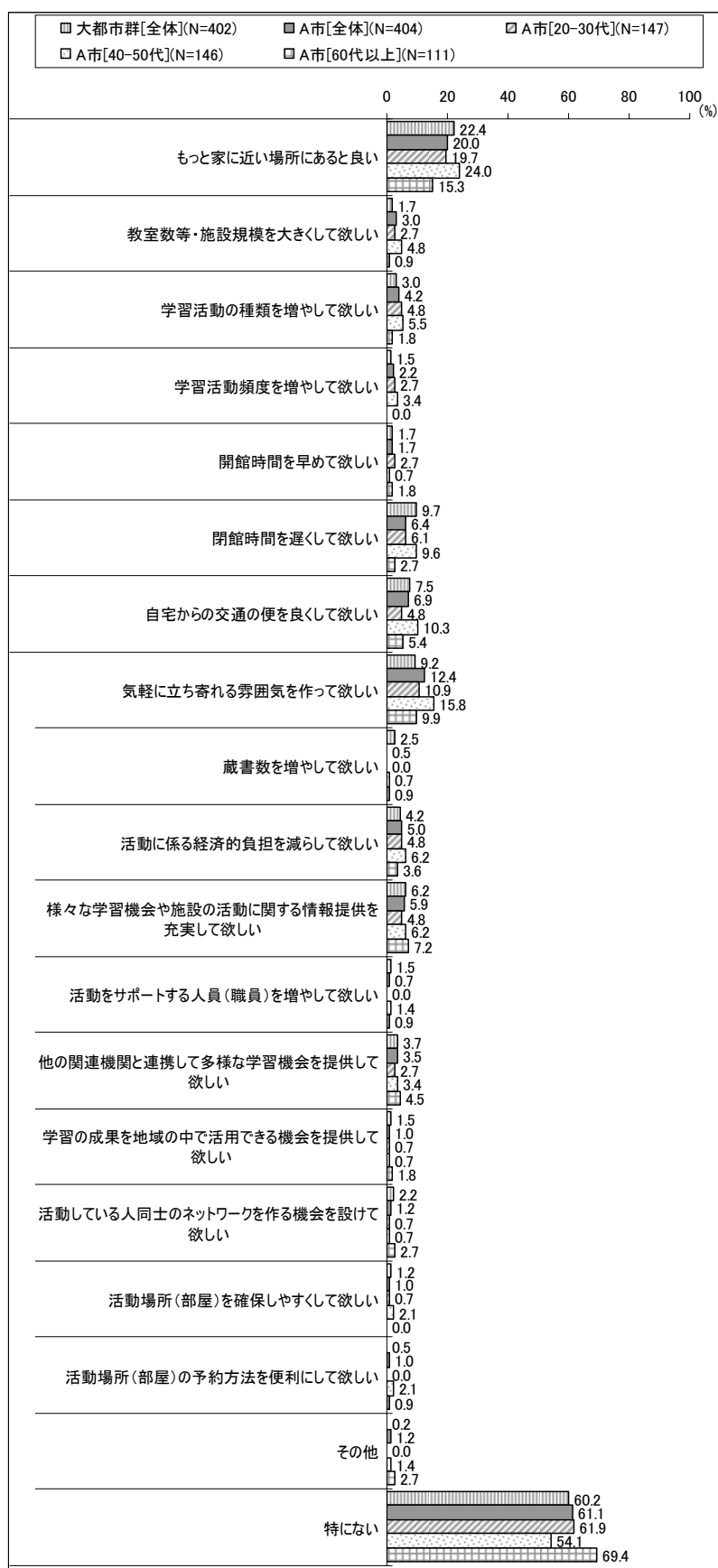


博物館

博物館への要望について質問したところ、A市全体では「もっと家に近い場所にあると良い」が最も多く、20.0%であった。

年代別にみると、すべての年代で「もっと家に近い場所にあると良い」が最も多く、20-30代が19.7%、40-50代が24.0%、60代以上が15.3%であった。次いで多かった回答は、すべての年代で「気軽に立ち寄れる雰囲気を作って欲しい」で、20-30代が10.9%、40-50代が15.8%、60代以上が9.9%であった。

図表2-150. 博物館への要望(A市)

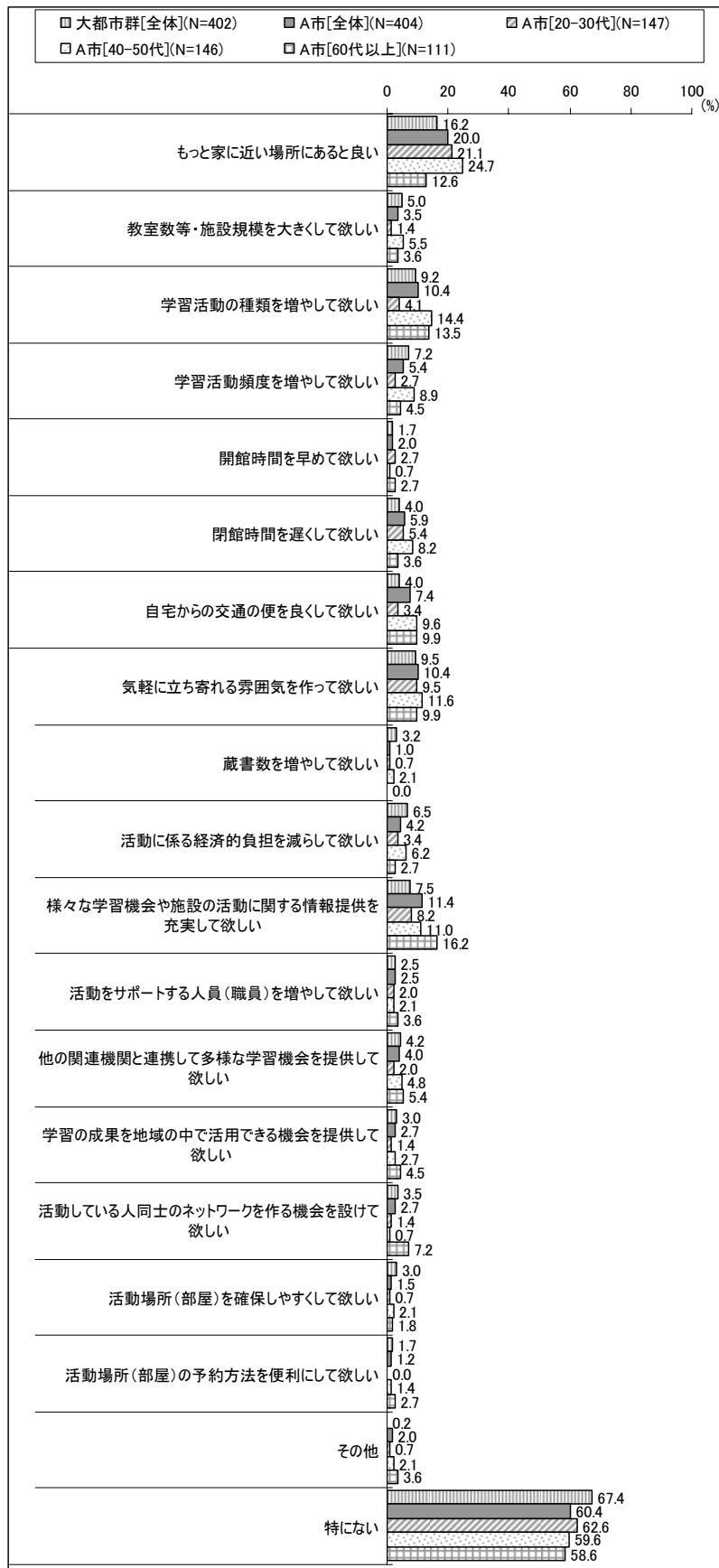


生涯学習センター

生涯学習センターへの要望について質問したところ、A市全体では「もっと家に近い場所にあると良い」が最も多く、20.0%であった。

年代別にみると、20-30代、40-50代は「もっと家に近い場所にあると良い」が最も多く、20-30代が21.1%、40-50代が24.7%であった。60代以上は「様々な学習機会や施設の活動に関する情報提供を充実して欲しい」が最も多く、16.2%であった。次いで多かった回答は、20-30代が「気軽に立ち寄れる雰囲気を作って欲しい」の9.5%、40-50代、60代以上は「学習の種類を増やして欲しい」で40-50代は14.4%、60代以上は13.5%であった。

図表2-151.生涯学習センターへの要望(A市)



⑥学習に関する相談や情報提供等

日ごろ学習したいと考えている内容など（学習ニーズ）、及び学習活動に関する情報に関しては、以下のとおりである。

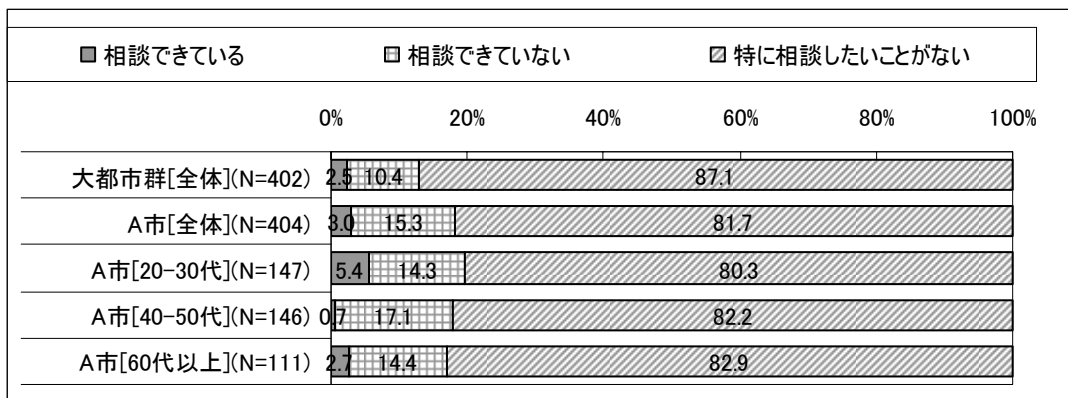
a. 相談状況

問 あなたは、日ごろ学習したいと考えている内容等（学習ニーズ）を、地域の行政機関や社会教育施設へ相談することがありますか。
 (1) これまで、地域の行政機関や社会教育施設へ相談したいことがあった際、十分に相談できていますか。もっとも当てはまる番号一つに○をつけてください。

地域の行政機関や社会教育施設へ相談したいことがあった際に、十分に相談できているかを質問したところ、A市全体では「相談できている」が3.0%、「相談できていない」が15.3%、「特に相談したいことがない」81.7%であった。

年代別にみると、「相談できている」の回答が最も多いのは20-30代で5.4%、「相談できていない」の回答が最も多いのは40-50代で17.1%であった。

図表2-152. 地域の行政機関や社会教育施設への相談状況(A市)



(2) B市の例

1) B市の地域概要と社会教育の現状

①地域の概要

項目	状況
人口規模	約 240,000 人 (平成 23 年 2 月 1 日現在)
財政規模	歳出総額：約 800 億円 (平成 20 年度) 財政力指数：0.77 (平成 20 年度)
面積 (人口密度)	約 980 平方キロメートル 人口密度：約 250 人/km ²
生涯学習計画、 社会教育計画	平成 18 年度から 10 年間の計画とする基本構想を策定
教育振興計画、 教育基本計画	
市の特徴	古くは城下町。豊かな自然環境を有し、県の基幹都市として発展

②社会教育施設の状況

館種	館数 (市区町村立)	館数 (市区町村内)	備考
公民館	35	35	
図書館	10	11	
博物館	16	27	
生涯学習センター	0	0	

公民館は中央公民館 1、地区公民館 35(このうち 1 か所は中央公民館内)である。地区公民館は、基本的に小学校区ごとに 1 箇所ずつ配置している。コミュニティセンターは存在しない。なお、市内に町会自治組織が 494 あり、それぞれが「町内公民館(自治公民館)」を 475 組織している。

類似施設として、地区福祉ひろば、地区体育館、児童センターなどがある。この中で地区福祉ひろばは別名「福祉公民館」という施設で、福祉を切り口とした施設・地域・まちづくりを推進している。この施設を中心にして最近では地区体育館、地区運動広場、児童センターなどの施設を配置しており(公民館にも隣接していることも多い)、地域全体としてコミュニティーゾーンを形成しているケースが多い。地区福祉ひろばと公民館は街づくりに関する計画にも位置づけられている。

公民館で提供された学習機会は以下のとおり (平成 21 年度)。

区分	利用回数	利用人数
学級・講座	3,874	46,266
諸集会・会議等		71,100
その他(貸館)	45,046	676,639

2) 住民の学習状況及びニーズ

①基本属性

回答者の属性は以下のとおりである。

a. 性別・年齢

回答者の性別及び年齢は、全 404 名のうち 20-30 代が男性 90 名、女性 99 名の計 189 名、40-50 代が男性 89 名、女性 98 名の計 187 名、60 代以上が男性 23 名、女性 5 名の計 28 名である。

図表2-153. 対象者の性別・年齢

		男性	女性	合計
20-30 代	(人)	90	99	189
	(%)	47.6	52.4	100.0
40-50 代	(人)	89	98	187
	(%)	47.6	52.4	100.0
60 代以上	(人)	23	5	28
	(%)	82.1	17.9	100.0

②学習活動の内容

学習活動の内容は以下のとおりである。

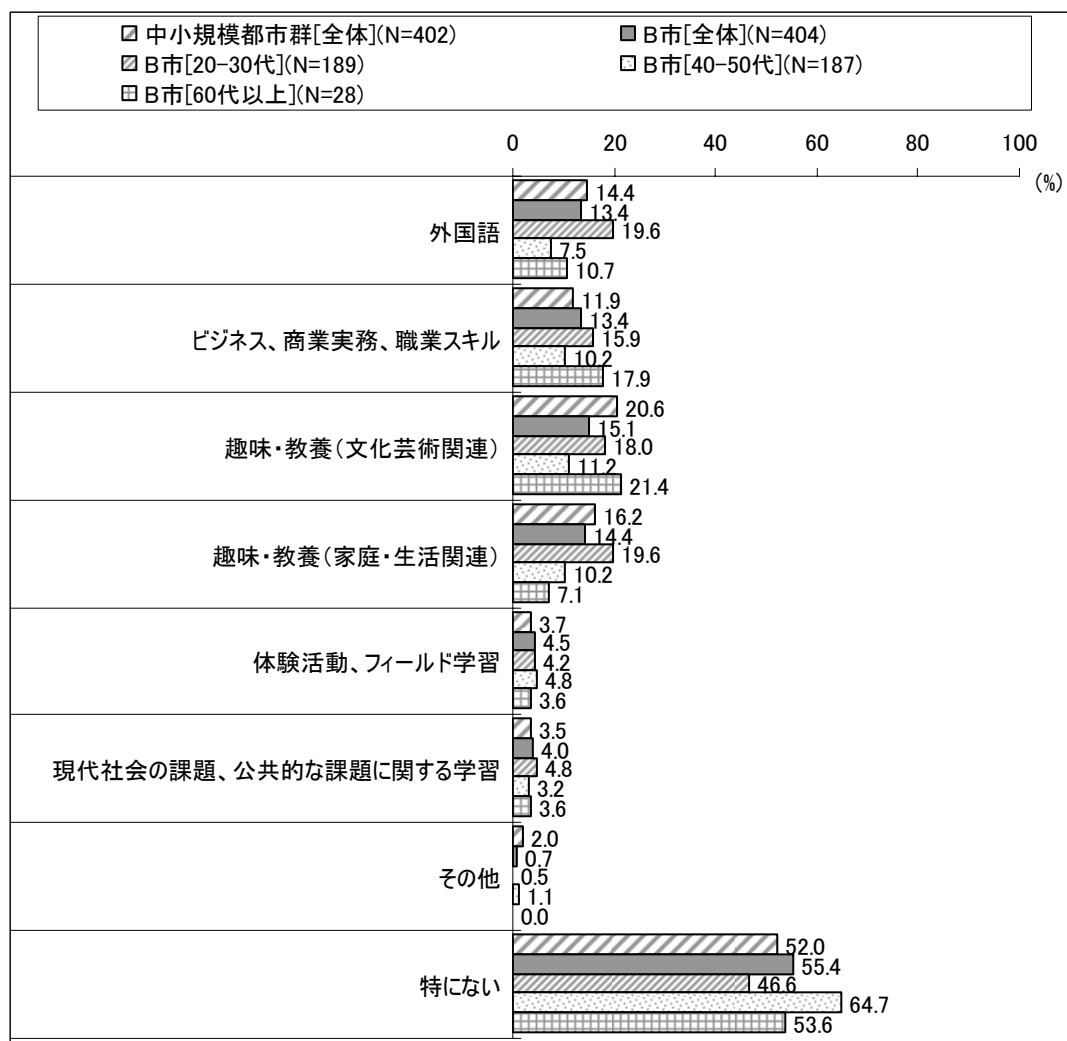
問 以下の 1～6 の学習活動のうち、あなたが実際に取り組んでいる活動はありますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。また、取り組んでいる各活動に関し、活動場所、活動頻度、活動時間、活動理由それぞれについて、当てはまる番号すべてに○をつけてください。(学習活動内容と活動場所の()には、具体的な内容をお書きください)

a. 取り組んでいる学習活動

取り組んでいる学習活動内容について質問したところ、B市全体では、「趣味・教養（文化芸術関連）」が最も多く、15.1%であった。

年代別にみると、20-30代では「外国語」が最も多く、19.6%であった。40-50代及び60代以上では「趣味・教養（文化芸術関連）」が最も多く、それぞれ11.2%、21.4%であった。

図表2-154. 取り組んでいる学習活動内容(B市)



③学習活動を社会に役立てる意志

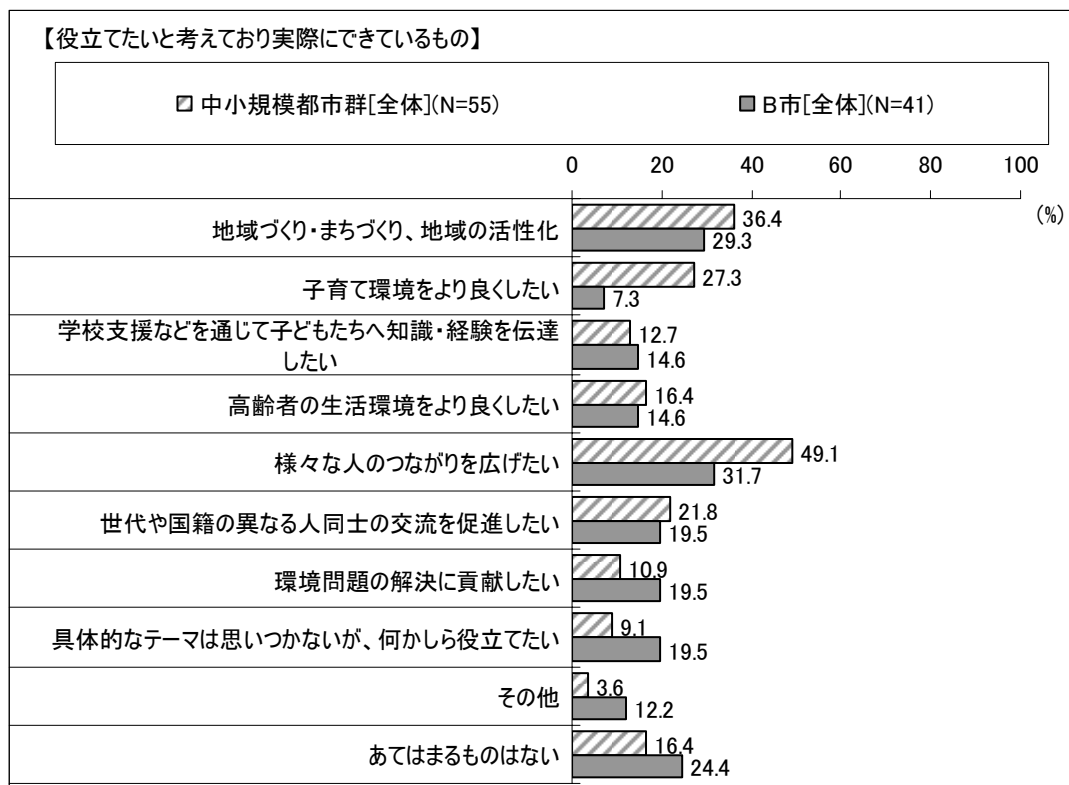
対象者の学習活動を社会に役立てる意志は以下のとおりである。

問 前問「(5)活動理由」で、「周りの人、地域、社会に役立てたい」に一つでも○をつけた方にお聞きます。
 具体的に、どのように役立てたいと考えていますか。また、それは実際に取り組んでいますか。以下の項目のうち、役立てたいと考えており実際に取り組んでいるもの、役立てたいと考えているが実際には取り組めていないものについて、それぞれ当てはまる番号すべてに○をつけてください。また、役立てたいと考えているが実際には取り組めていないものに○をつけた方は、その理由について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

a. 役立てたいと考えており、実際にできているもの

学習活動を社会に役立てる意志のある人に対して、実際にできている取組について質問したところ、B市全体では、「様々な人のつながりを広げたい」が31.7%で最も多く、次いで「地域づくり・まちづくり、地域の活性化」が29.3%であった。

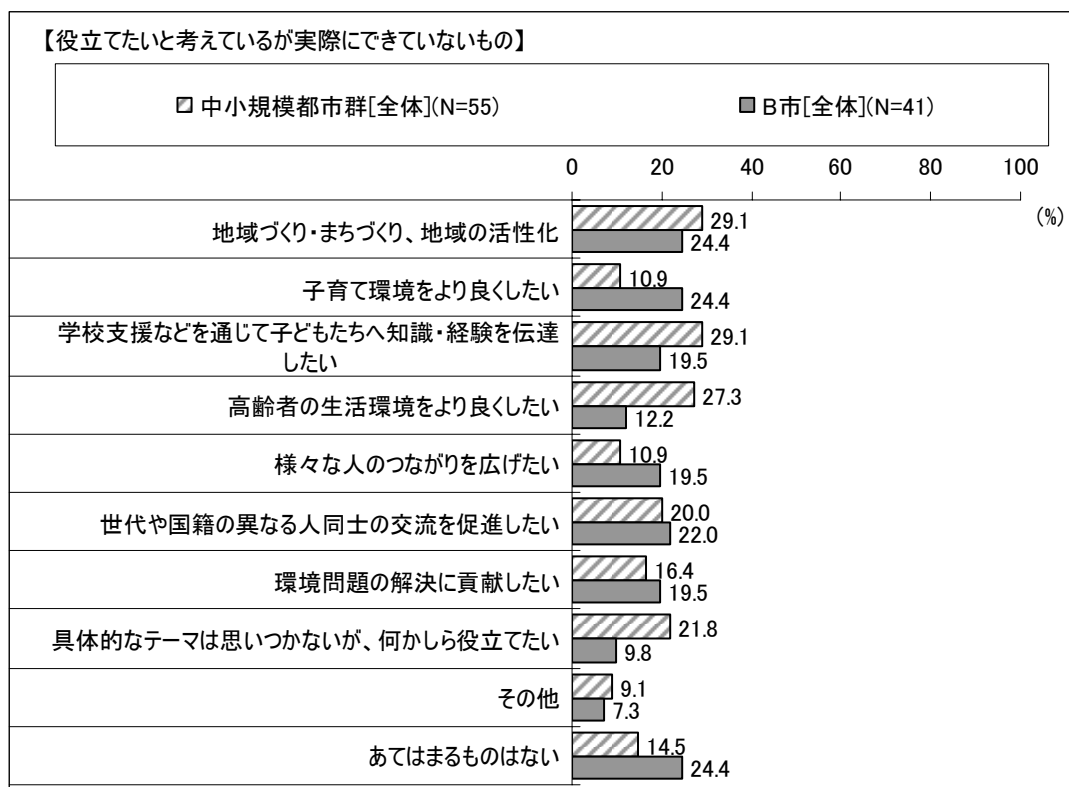
図表2-155. 役立てたいと考えており、実際にできているもの(B市)



b. 役立てたいと考えているが、実際にできていないもの

学習活動を社会に役立てる意志のある人に対して、役立てたいが実際にはできていない取組について質問したところ、B市全体では、「地域づくり・まちづくり、地域の活性化」、「子育て環境をより良くしたい」が最も多く、24.4%であった。

図表2-156. 役立てたいと考えており、実際にできていないもの(B市)



④ 社会教育施設等の認知度

社会教育施設等の認知度については、以下のとおりである。

問 あなたの居住している市区町村にある施設についてお聞きます。

a. 認知度

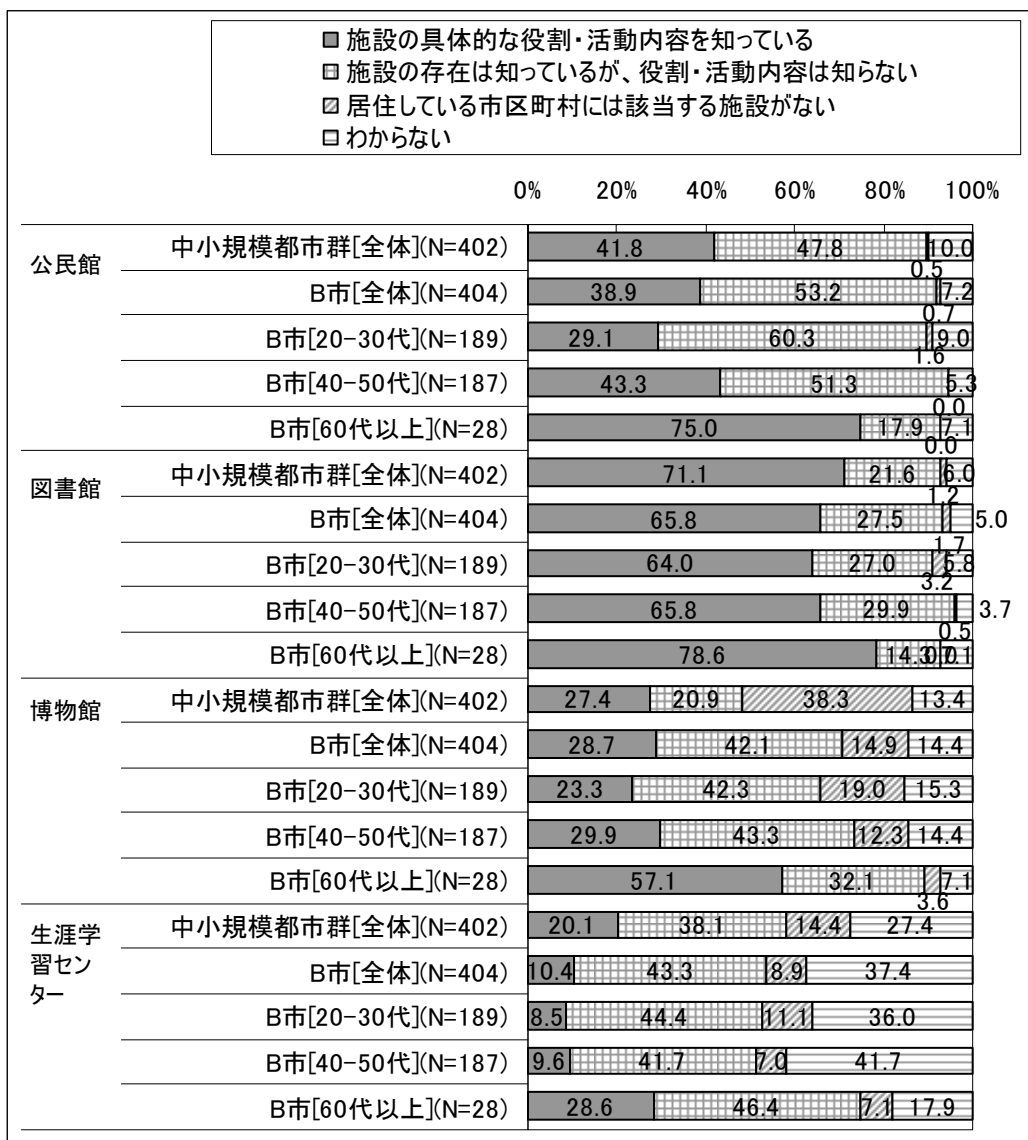
(1) あなたは、居住している市区町村にある以下の施設についてどの程度知っていますか。また、各施設を身近に感じますか。a～dそれぞれについて、もっとも当てはまる番号一つに○をつけてください。

社会教育施設について、どの程度知っているか質問したところ、「施設の具体的な役割・活動内容を知っている」との回答は、B市全体では、公民館が38.9%、図書館が65.8%、博物館が28.7%、生涯学習センターが10.4%であった。

年代別にみると、公民館については、「施設の具体的な役割・活動内容を知っている」との回答は、年齢が高くなるほど多くなる傾向にあり、60代以上は75.0%であった。

図書館、博物館、生涯学習センターについても、「施設の具体的な役割・活動内容を知っている」との回答は、年齢が高くなるほど多くなる傾向にあり、60代以上が順に78.6%、57.1%、28.6%であった。

図表2-157. 社会教育施設等の認知状況(B市)



b. 使用頻度

社会教育施設について、どの程度の頻度で使用しているかを質問したところ、B市全体では、「ほぼ毎月使用している」と回答する割合が最も高いのは図書館で24.9%、次いで公民館の7.7%であった。

年代別にみると、公民館を「ほぼ毎月使用している」割合は60代が21.4%で最も高く、図書館は20-30代が最も高く27.3%であった。

図表2-158. 社会教育施設等の使用頻度(B市)

		■ ほぼ毎月使用している □ 年に数回は使用している ▨ ここ、一年以内に一回以上は使用したことがある □ 一年以上使用したことはない					
		0%	20%	40%	60%	80%	100%
公民館	中小規模都市群[全体](N=400)	9.3	19.3	13.8			57.8
	B市[全体](N=401)	7.7	26.2	13.5			52.6
	B市[20-30代](N=186)	8.1	23.7	12.9			55.4
	B市[40-50代](N=187)	5.3	28.9	14.4			51.3
	B市[60代以上](N=28)	21.4	25.0	10.7			42.9
図書館	中小規模都市群[全体](N=397)	24.2	29.2	10.1			36.5
	B市[全体](N=397)	24.9	20.9	11.3			42.8
	B市[20-30代](N=183)	27.3	22.4	10.9			39.3
	B市[40-50代](N=186)	23.1	19.9	11.8			45.2
	B市[60代以上](N=28)	21.4	17.9	10.7			50.0
博物館	中小規模都市群[全体](N=248)	12.9	14.5				71.4
	B市[全体](N=344)	6.1	15.7				75.9
	B市[20-30代](N=153)	2.3	15.0				77.8
	B市[40-50代](N=164)	3.9	16.5				75.0
	B市[60代以上](N=27)	1.2	14.8	14.8			70.4
生涯学習センター	中小規模都市群[全体](N=344)	7.3	37.8				82.8
	B市[全体](N=368)	2.0					92.1
	B市[20-30代](N=168)	0.8	3.5	3.5			91.7
	B市[40-50代](N=174)	1.8	4.8	1.8			94.3
	B市[60代以上](N=26)	0.0	1.7				80.8

c. 身近に感じるか

社会教育施設について、どの程度身近に感じるかを質問したところ、B市全体では「とても身近に感じる」と回答する割合が最も高いのは図書館で32.2%、次いで公民館の15.7%であった。

年代別にみると、公民館は、年齢が高くなるほど身近に感じる傾向にあり、60代以上は「とても身近に感じる」が28.6%、「ある程度身近に感じる」が39.3%であった。

図書館は、20-30代で「とても身近に感じる」と回答する割合が高く、29.6%であった。

図表2-159. 社会教育施設等の身近に感じる程度(B市)



⑤社会教育施設等への要望

a. 要望

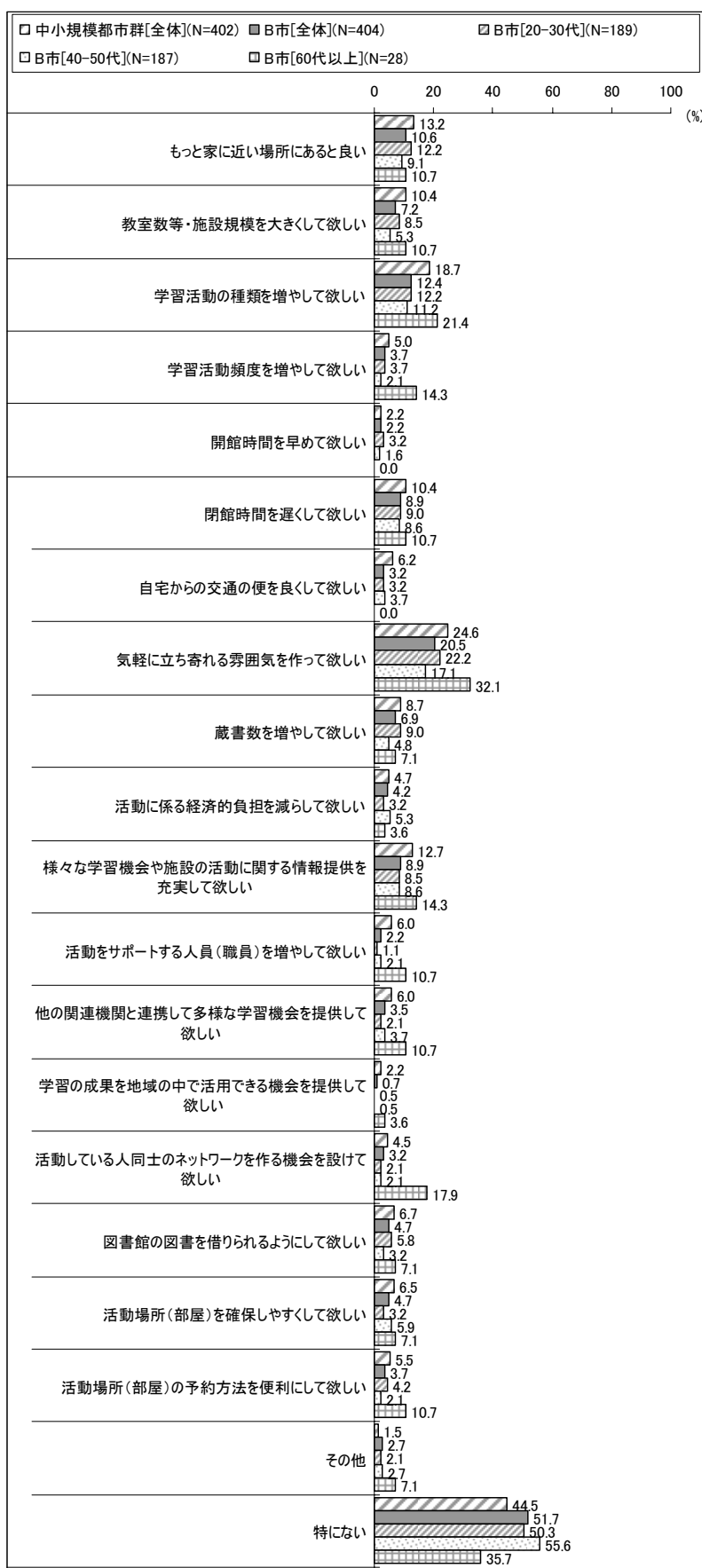
問 あなたは、以下の各施設について、どのような要望がありますか。a～d それぞれについて、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

公民館

公民館への要望について質問したところ、B市全体では「気軽に立ち寄れる雰囲気を作って欲しい」が最も多く、20.5%であった。

年代別にみると、いずれの年代も「気軽に立ち寄れる雰囲気を作って欲しい」が最も多く、20-30代は22.2%、40-50代は17.1%、60代以上は32.1%であった。

図表2-160. 公民館への要望(B市)

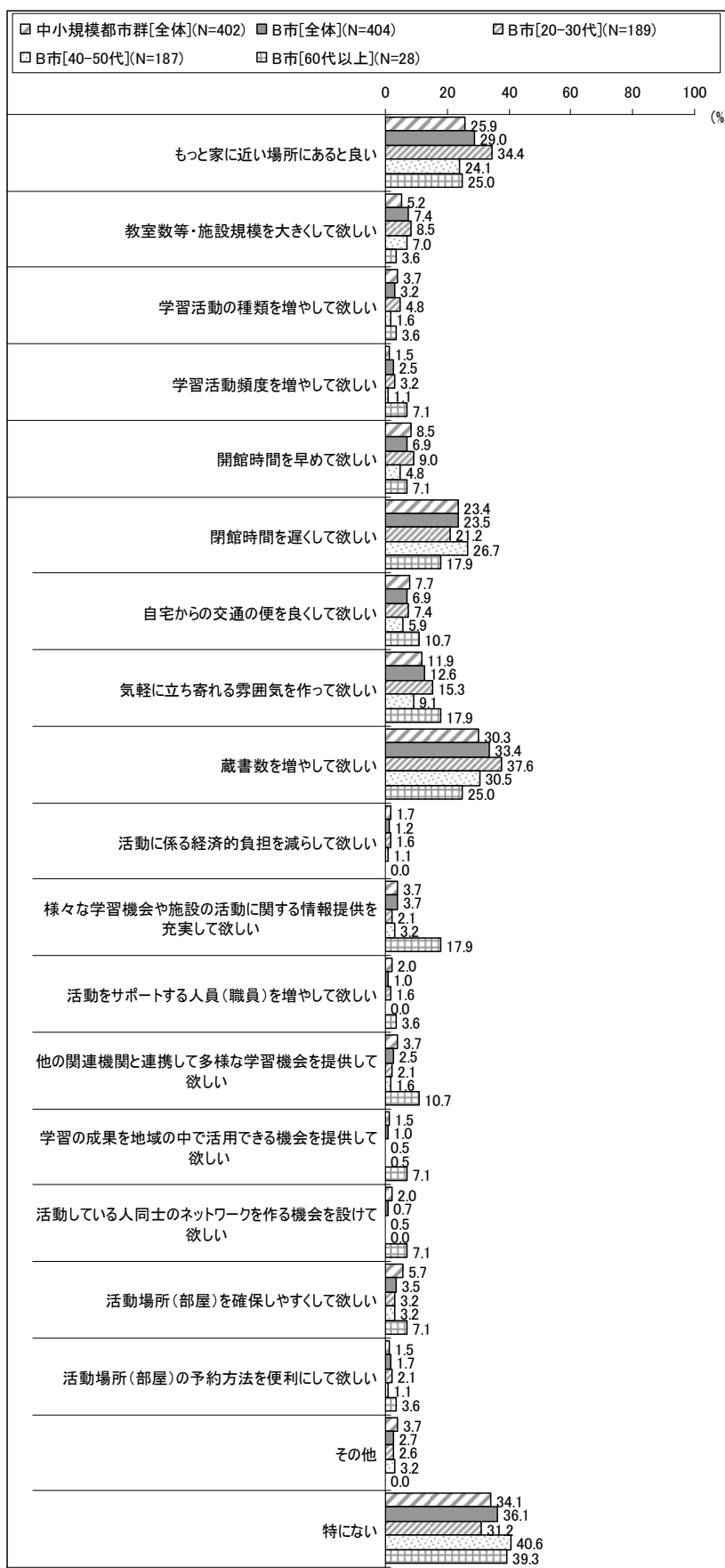


図書館

図書館への要望について質問したところ、B市全体では「蔵書数を増やして欲しい」が最も多く、33.4%であった。

年代別にみると、すべての年代で「蔵書数を増やして欲しい」が最も多く、20-30代が37.6%、40-50代が30.5%、60代以上が25.0%であった。次いで多かった回答は、20-30代は「もっと家に近い場所にあると良い」で34.4%、40-50代も「もっと家に近い場所にあると良い」で24.1%、60代以上は「蔵書数を増やして欲しい」と同様に「もっと家に近い場所にあると良い」が25.0%であった。

図表2-161. 図書館への要望(B市)

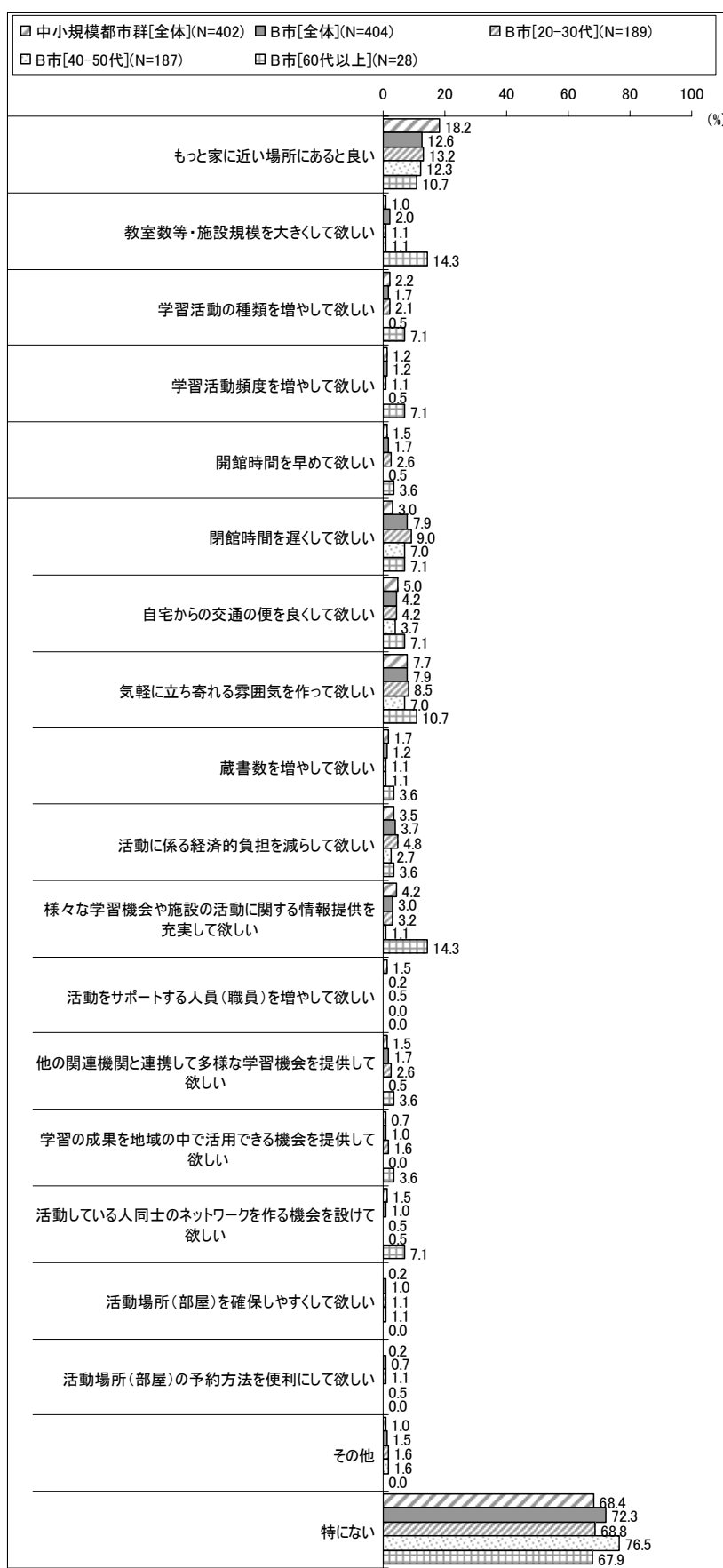


博物館

博物館への要望について質問したところ、B市全体では「もっと家に近い場所にあると良い」が最も多く、12.6%であった。

年代別にみると、20-30代及び、40-50代で「もっと家に近い場所にあると良い」が最も多く、それぞれ13.2%、12.3%であり、60代以上は「教室数等・施設規模を大きくして欲しい」及び「様々な学習機会や施設の活動に関する情報提供を充実して欲しい」が14.3%で最も多い。次いで多かった回答は、20-30代が「閉館時間を遅くして欲しい」の9.0%、40-50代は「閉館時間を遅くして欲しい」及び「気軽に立ち寄れる雰囲気を作って欲しい」の7.0%、60代以上は「もっと家に近い場所にあると良い」及び「気軽に立ち寄れる雰囲気を作って欲しい」で10.7%であった。

図表2-162. 博物館への要望(B市)

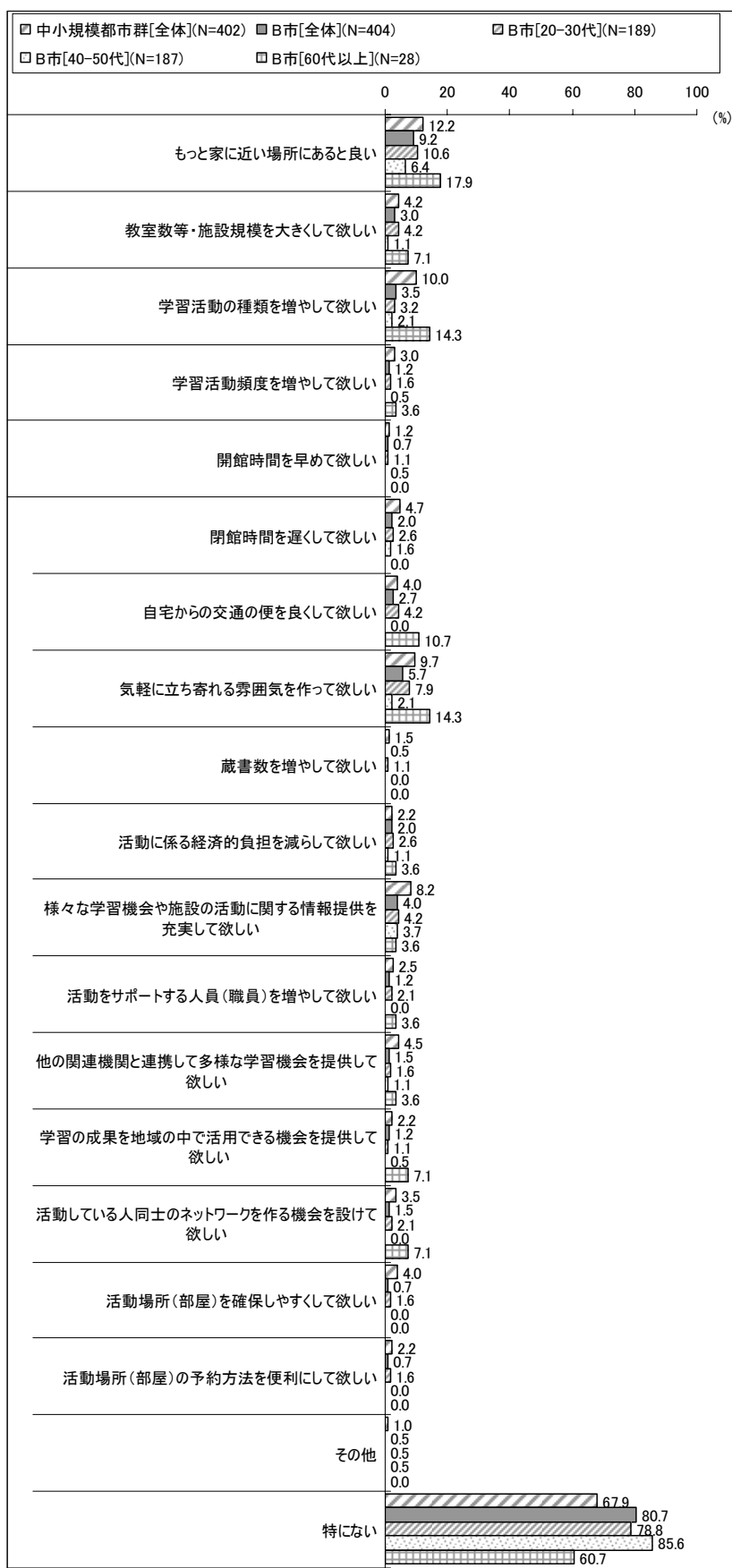


生涯学習センター

生涯学習センターへの要望について質問したところ、B市全体では「もっと家に近い場所にあると良い」が最も多く、9.2%であった。

年代別にみると、すべての年代で「もっと家に近い場所にあると良い」が最も多く、20-30代が10.6%、40-50代が6.4%、60代以上が17.9%であった。次いで多かった回答は、20-30代が「気軽に立ち寄れる雰囲気を作って欲しい」の7.9%、40-50代は「様々な学習機会や施設の活動に関する情報提供を充実して欲しい」の3.7%、60代以上は「学習の種類を増やして欲しい」及び「気軽に立ち寄れる雰囲気を作って欲しい」で14.3%であった。

図表2-163.生涯学習センターへの要望(B市)



⑥学習に関する相談や情報提供等

日ごろ学習したいと考えている内容など（学習ニーズ）、及び学習活動に関する情報に関しては、以下のとおりである。

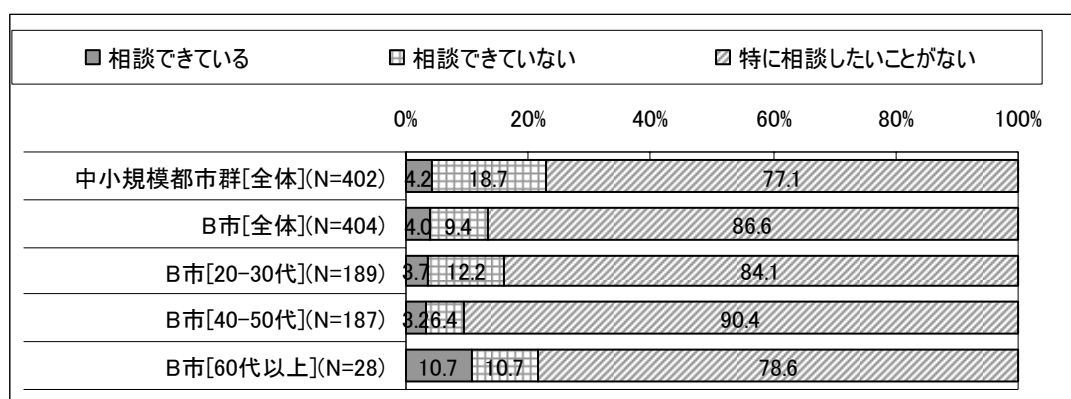
a. 相談状況

問 あなたは、日ごろ学習したいと考えている内容等（学習ニーズ）を、地域の行政機関や社会教育施設へ相談することができますか。
 (1) これまで、地域の行政機関や社会教育施設へ相談したいことがあった際、十分に相談できていますか。もっとも当てはまる番号一つに○をつけてください。

地域の行政機関や社会教育施設へ相談したいことがあった際に、十分に相談できているかを質問したところ、B市全体では「相談できている」が4.0%、「相談できていない」が9.4%、「特に相談したいことがない」86.6%であった。

年代別にみると、「相談できている」の回答が最も多いのは60代以上で10.7%、「相談できていない」の回答が最も多いのは20-30代で12.2%であった。

図表2-164. 地域の行政機関や社会教育施設への相談状況(B市)



(3) C市の例

1) C市の地域概要と社会教育の現状

①地域の概要

項目	状況
人口規模	約 1,400,000 人（平成 23 年 2 月 1 日現在）
財政規模	歳出総額：約 6700 億円（平成 20 年度） 財政力指数：0.84（平成 20 年度）
面積（人口密度）	約 340 平方キロメートル、人口密度：4,300 人/km ²
生涯学習計画、 社会教育計画	平成 11 年度策定 平成 15 年策定の総合計画に生涯学習の推進計画を位置づけ
教育振興計画、 教育基本計画	平成 21 年度策定
市の特徴	地方の大都市

②社会教育施設の状況

館種	館数（市区町村立）	館数（市区町村内）	備考
公民館	146	146	ほかに市民センター（中央公民館的な位置づけ）7
図書館	10	11	他に点字図書館：1
博物館	3	22	
生涯学習センター	0	0	

※ほかに、市の公共施設として少年科学文化会館、少年自然の家、青少年海の家、野外活動センター、レクリエーションセンター、青年センター、児童会館、男女共同参画推進センター、人権啓発センターがある。

公民館で提供された学習機会は以下のとおり（平成 21 年度）。

区分	活動実績	利用回数	利用人数
主催講座（館内外）	1,693	8,160	337,255
主催会議	—	2,336	55,653
行政利用	3,196	2,472	68,808
地域諸団体	9,989	55,688	925,180
図書利用	—	20,618	92,066
グループ・サークル （館内外）	15,262	214,056	3,210,266
その他（館内外）	—	59,198	563,080

2) 住民の学習状況及びニーズ

①基本属性

回答者の属性は以下のとおりである。

a. 性別・年齢

回答者の性別及び年齢は、全 402 名のうち 20-30 代が男性 67 名、女性 67 名の計 134 名、40-50 代が男性 67 名、女性 67 名の計 134 名、60 代以上が男性 67 名、女性 67 名の計 134 名である。

図表2-165. 対象者の性別・年齢

		男性	女性	合計
20-30 代	(人)	67	67	134
	(%)	50.0	50.0	100.0
40-50 代	(人)	67	67	134
	(%)	50.0	50.0	100.0
60 代以上	(人)	67	67	134
	(%)	50.0	50.0	100.0

②学習活動の内容

学習活動の内容は以下のとおりである。

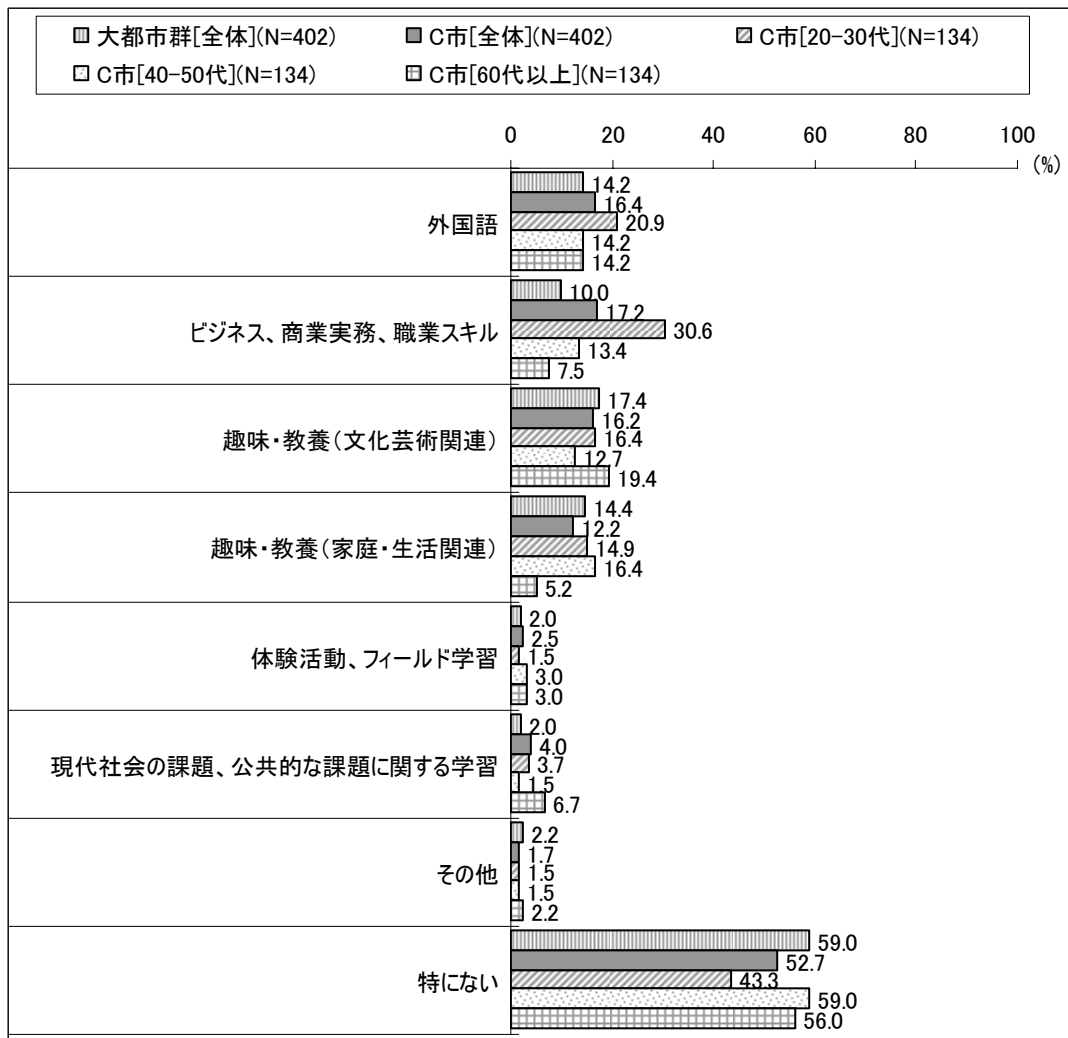
問 以下の 1～6 の学習活動のうち、あなたが実際に取り組んでいる活動はありますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。また、取り組んでいる各活動に関し、活動場所、活動頻度、活動時間、活動理由それぞれについて、当てはまる番号すべてに○をつけてください。(学習活動内容と活動場所の()には、具体的な内容をお書きください)

a. 取り組んでいる学習活動

取り組んでいる学習活動内容について質問したところ、C市全体では、「ビジネス、商業実務、職業スキル」が最も多く、17.2%であった。

年代別にみると、20-30代では「ビジネス、商業実務、職業スキル」が最も多く、30.6%であった。40-50代では「趣味・教養（家庭・生活関連）」が16.4%で最も多く、60代以上では「趣味・教養（文化芸術関連）」が最も多く、19.4%であった。

図表2-166. 取り組んでいる学習活動内容(C市)



③学習活動を社会に役立てる意志

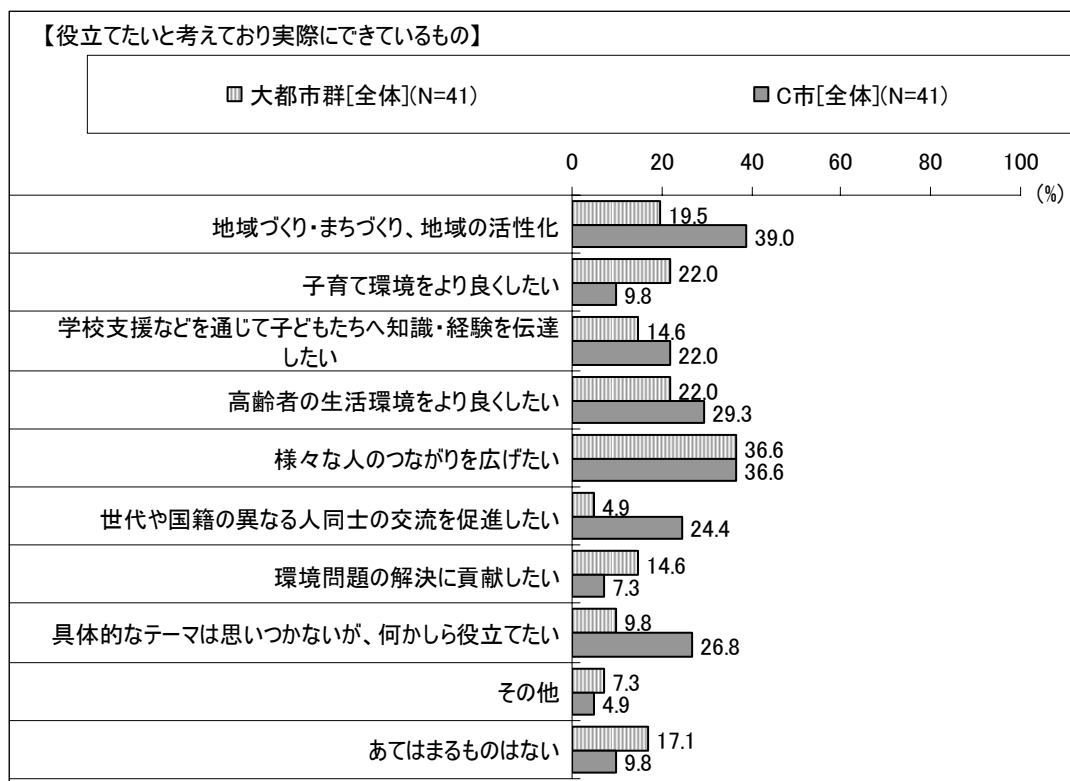
対象者の学習活動を社会に役立てる意志は以下のとおりである。

問 前問「(5)活動理由」で、「周りの人、地域、社会に役立てたい」に一つでも○をつけた方にお聞きます。
 具体的に、どのように役立てたいと考えていますか。また、それは実際に取り組んでいますか。以下の項目のうち、役立てたいと考えており実際に取り組んでいるもの、役立てたいと考えているが実際には取り組めていないものについて、それぞれ当てはまる番号すべてに○をつけてください。また、役立てたいと考えているが実際には取り組めていないものに○をつけた方は、その理由について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

a. 役立てたいと考えており、実際にできているもの

学習活動を社会に役立てる意志のある人に対して、実際にできている取組について質問したところ、C市全体では、「地域づくり・まちづくり、地域の活性化」が39.0%で最も多く、次いで「様々な人のつながりを広げたい」が36.6%であった。

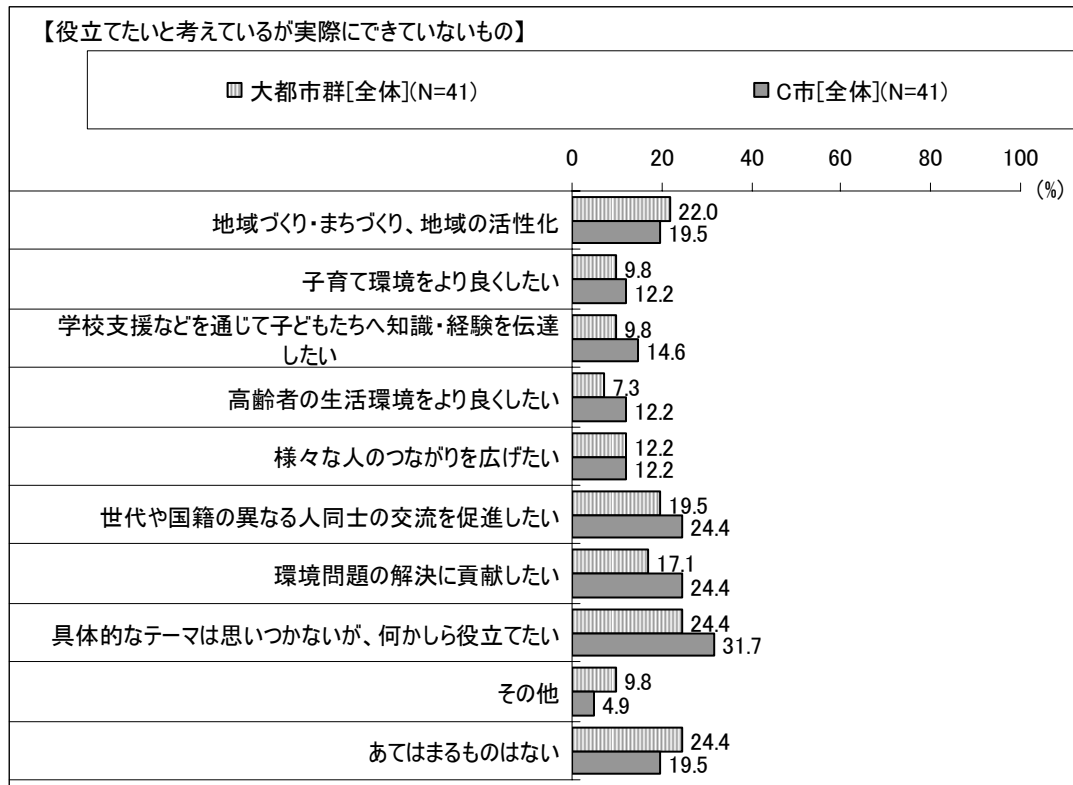
図表2-167. 役立てたいと考えており、実際にできているもの(C市)



b. 役立たいと考えているが、実際にできていないもの

学習活動を社会に役立てる意志のある人に対して、役立たいが実際にはできていない取組について質問したところ、C市全体では、「具体的なテーマは思いつかないが、何かしら役立たい」の31.7%を除くと、「世代や国籍の異なる人同士の交流を促進したい」及び「環境問題の解決に貢献したい」が最も多く24.4%であった

図表2-168. 役立たいと考えており、実際にできていないもの(C市)



④ 社会教育施設等の認知度

社会教育施設等の認知度については、以下のとおりである。

問 あなたの居住している市区町村にある施設についてお聞きます。

a. 認知度

(1) あなたは、居住している市区町村にある以下の施設についてどの程度知っていますか。また、各施設を身近に感じますか。a～dそれぞれについて、もっとも当てはまる番号一つに○をつけてください。

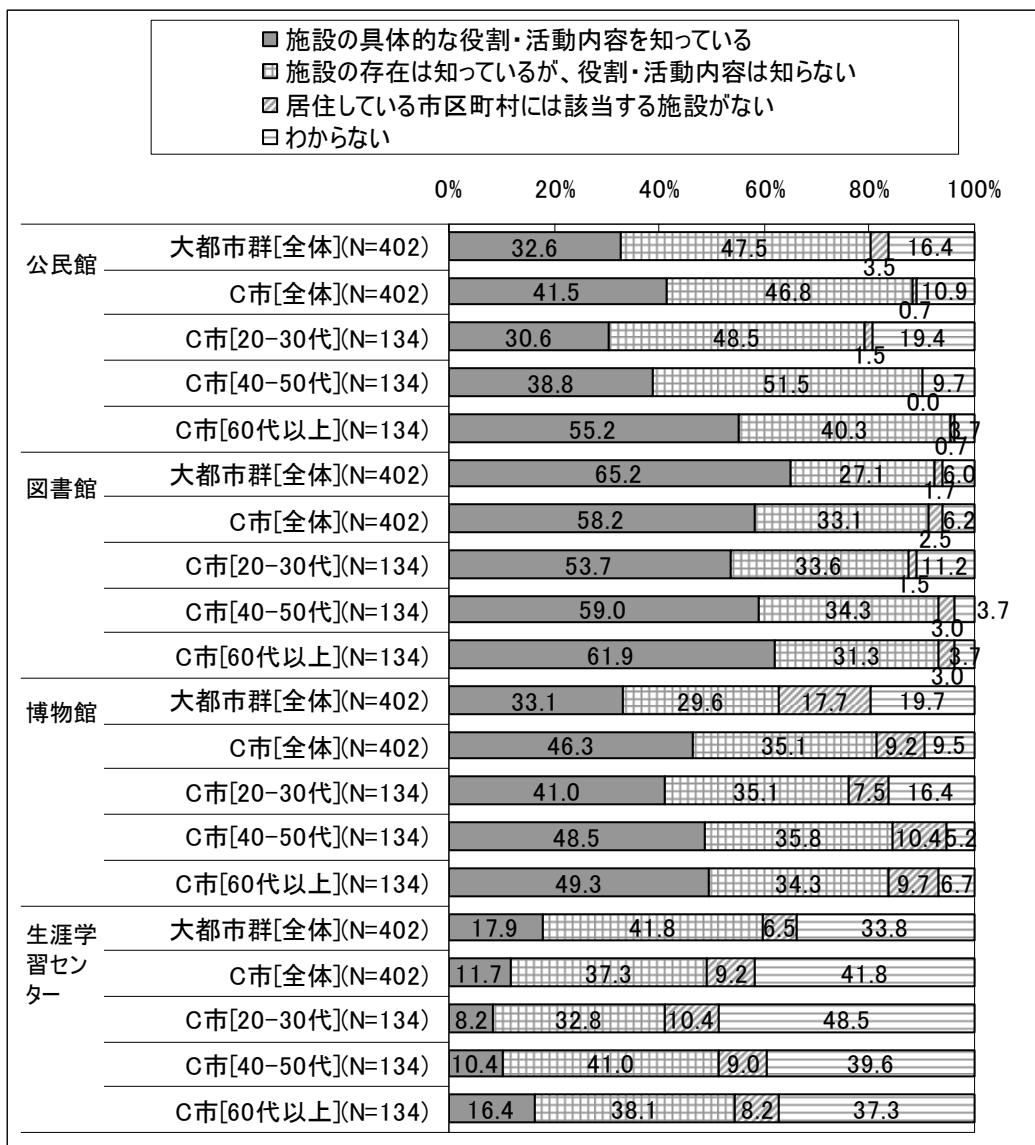
社会教育施設について、どの程度知っているか質問したところ、「施設の具体的な役割・活動内容を知っている」との回答は、C市全体では、公民館が41.5%、図書館が58.2%、博物館が46.3%、生涯学習センターが11.7%であった。

年代別にみると、公民館については、「施設の具体的な役割・活動内容を知っている」との回答は、年齢が高くなるほど多くなる傾向にあり、60代以上は55.2%であった。

図書館、博物館、生涯学習センターについても、「施設の具体的な役割・活動内容を知って

いる」との回答は、年齢が高くなるほど多くなる傾向にあり、60代以上は順に61.9%、49.3%、16.4%であった。

図表2-169. 社会教育施設等の認知状況(C市)



b. 使用頻度

社会教育施設について、どの程度の頻度で使用しているかを質問したところ、C市全体では、「ほぼ毎月使用している」と回答する割合が最も高いのは図書館で16.3%、次いで公民館の6.3%であった。

年代別にみると、公民館は、年齢が高くなるほど使用頻度が高まる傾向にあり、60代以上は「ほぼ毎月使用する」が12.0%、「年に数回は使用している」が11.3%であった。

図表2-170. 社会教育施設等の使用頻度(C市)



c. 身近に感じるか

社会教育施設について、どの程度身近に感じるかを質問したところ、C市全体では「とても身近に感じる」と回答する割合が最も高いのは図書館で25.8%、次いで公民館の14.0%であった。

年代別にみると、公民館は、年齢が高くなるほど身近に感じる傾向にあり、60代以上は「とても身近に感じる」が17.3%、「ある程度身近に感じる」が33.8%であった。

図書館は、20-30代で「とても身近に感じる」と回答する割合が高く、28.0%であった。

図表2-171. 社会教育施設等の身近に感じる程度(C市)



⑤社会教育施設等への要望

a. 要望

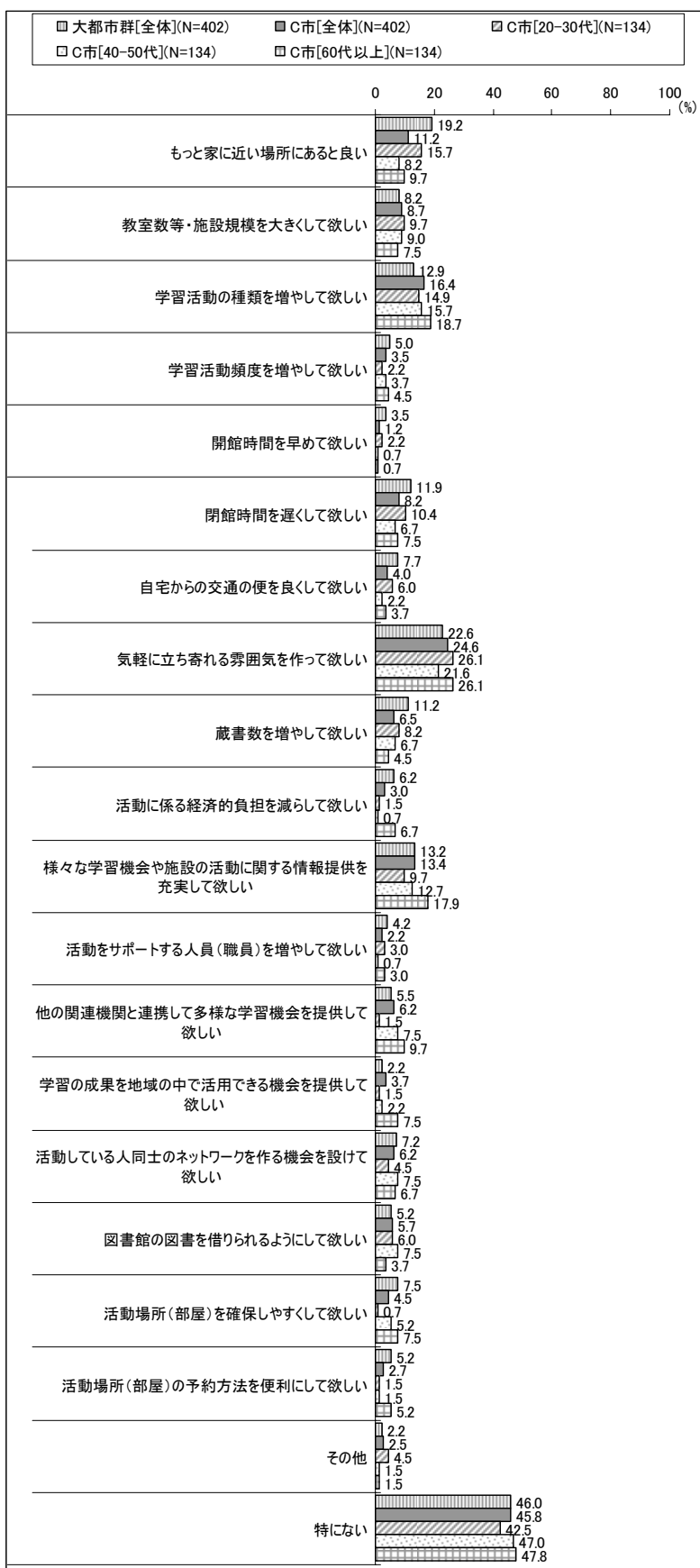
問 あなたは、以下の各施設について、どのような要望がありますか。a～d それぞれについて、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

公民館

公民館への要望について質問したところ、C市全体では「気軽に立ち寄れる雰囲気を作りたい」が最も多く、24.6%であった。

年代別にみると、いずれの年代も「気軽に立ち寄れる雰囲気を作りたい」が最も多く、20-30代は26.1%で、40-50代は21.6%、60代以上は26.1%であった。

図表2-172. 公民館への要望(C市)

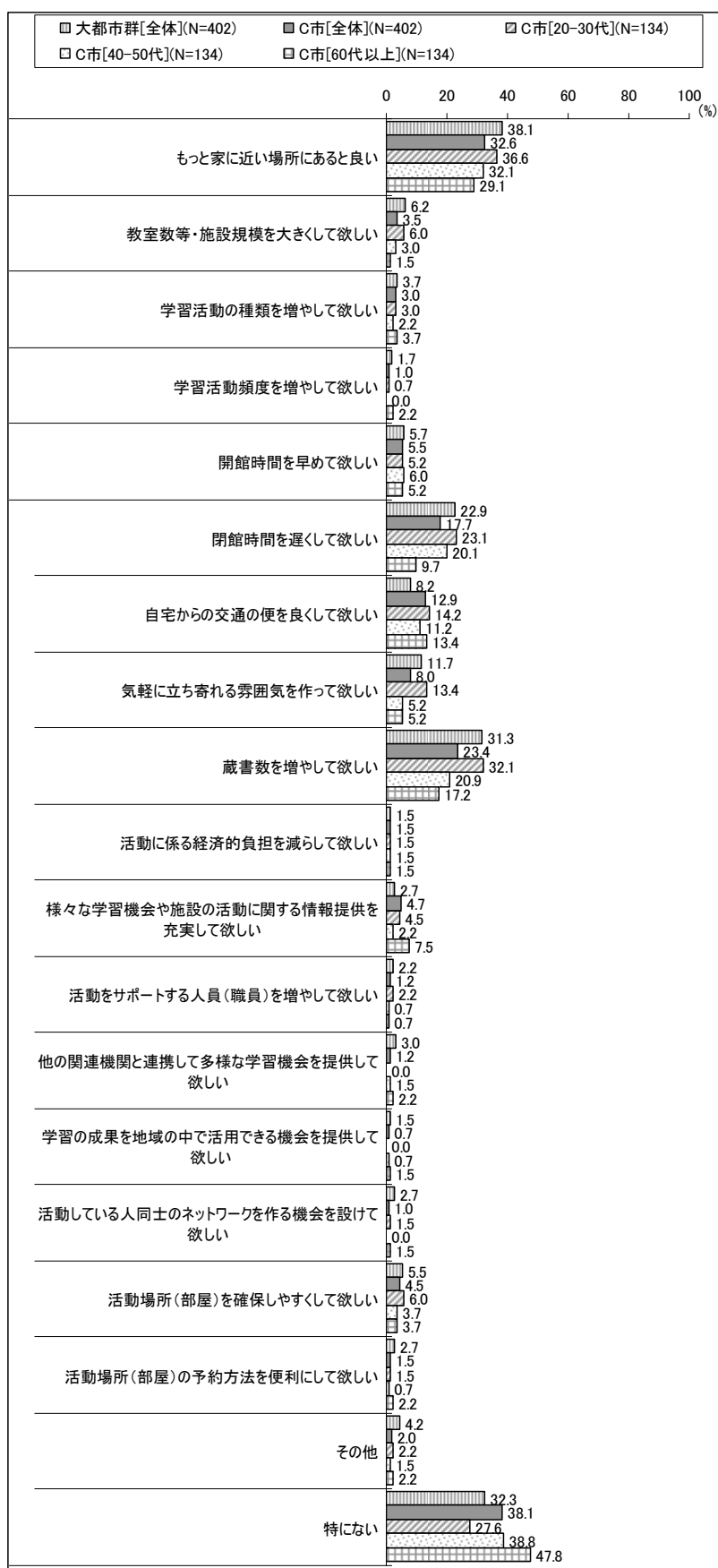


図書館

図書館への要望について質問したところ、C市全体では「もっと家の近くにあると良い」が最も多く、32.6%であった。

年代別にみると、すべての年代で「もっと家の近くにあると良い」が最も多く、20-30代が36.6%、40-50代が32.1%、60代以上が29.1%であった。次いで多かった回答は、すべての年代で「蔵書数を増やして欲しい」であり、20-30代は32.1%、40-50代は20.9%、60代以上は17.2%であった。

図表2-173. 図書館への要望(C市)

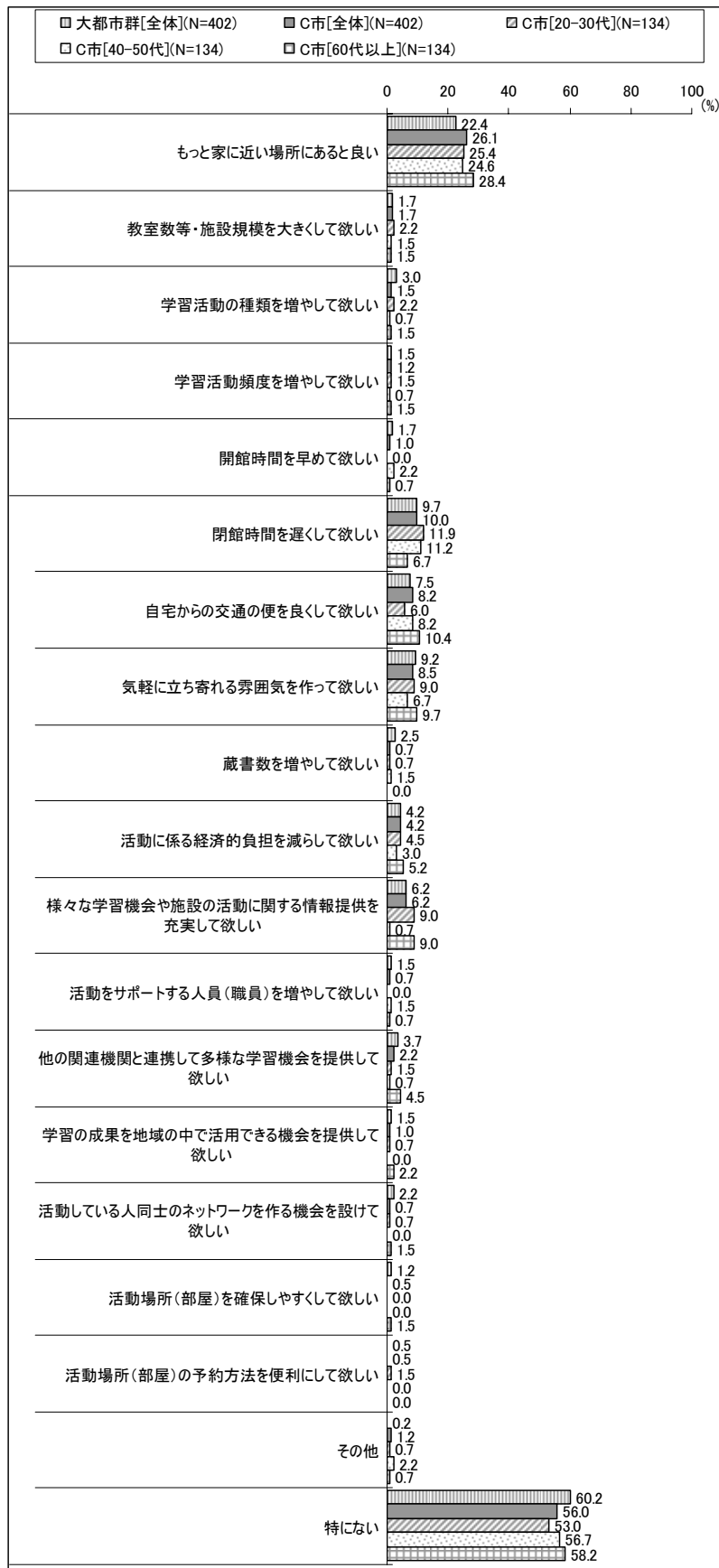


博物館

博物館への要望について質問したところ、C市全体では「もっと家に近い場所にあると良い」が最も多く、26.1%であった。

年代別にみると、すべての年代で「もっと家に近い場所にあると良い」が最も多く、20-30代が25.4%、40-50代が24.6%、60代以上が28.4%であった。次いで多かった回答は、20-30代及び40-50代で「閉館時間を遅くして欲しい」が最も多く、それぞれ11.9%、11.2%であり、60代では「自宅からの交通の便を良くして欲しい」が最も多く10.4%であった。

図表2-174. 博物館への要望(C市)

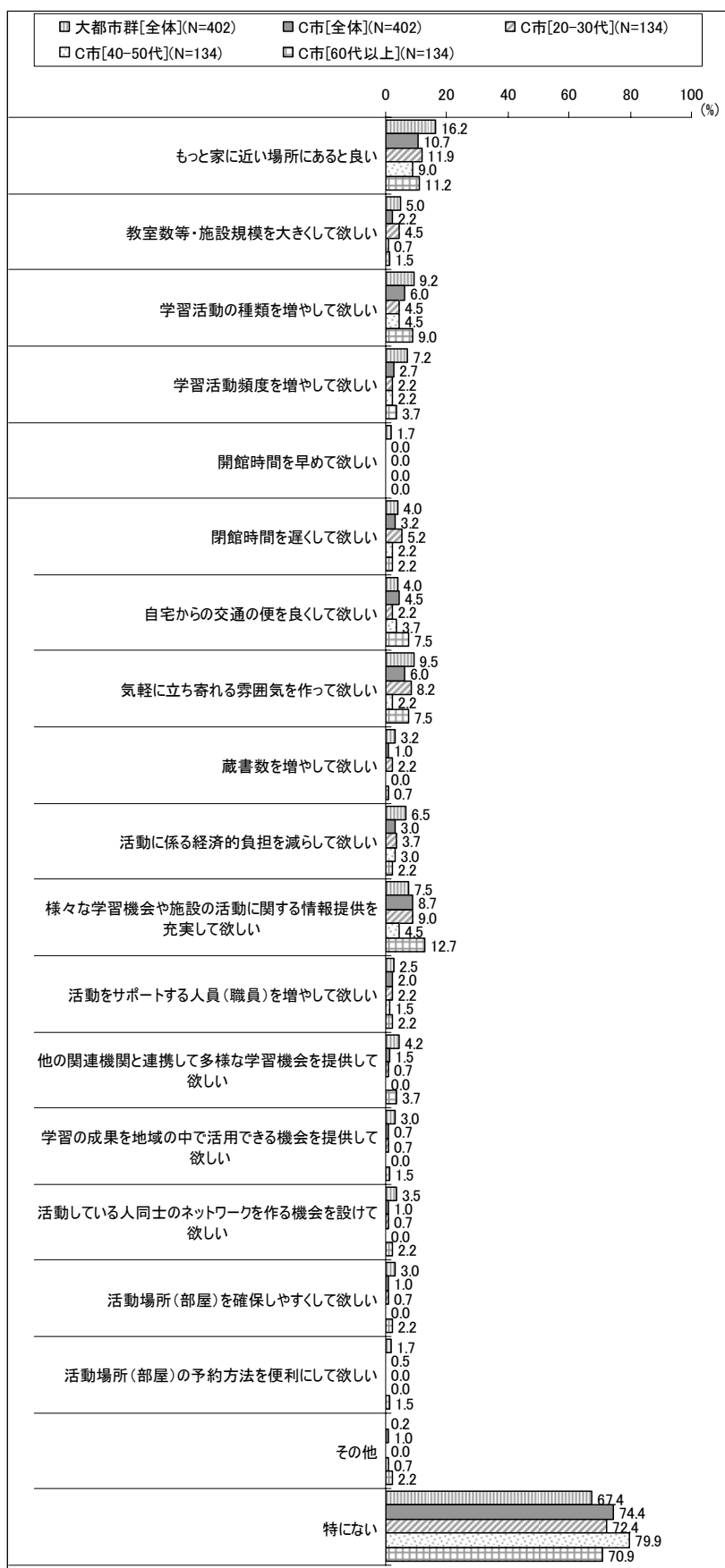


生涯学習センター

生涯学習センターへの要望について質問したところ、C市全体では「もっと家に近い場所にあると良い」が最も多く、10.7%であった。

年代別にみると、20-30代及び40-50代で「もっと家に近い場所にあると良い」が最も多く、それぞれ11.9%、9.0%、60代以上では「様々な学習機会や施設の活動に関する情報提供を充実して欲しい」が12.7%と最も多かった。次いで多かった回答は、20-30代が「様々な学習機会や施設の活動に関する情報提供を充実して欲しい」で9.0%、40-50代が「学習活動の種類を増やして欲しい」及び「様々な学習機会や施設の活動に関する情報提供を充実して欲しい」で4.5%、60代では「もっと家に近い場所にあると良い」で11.2%であった。

図表2-175.生涯学習センターへの要望(C市)



⑥学習に関する相談や情報提供等

日ごろ学習したいと考えている内容など（学習ニーズ）、及び学習活動に関する情報に関しては、以下のとおりである。

a. 相談状況

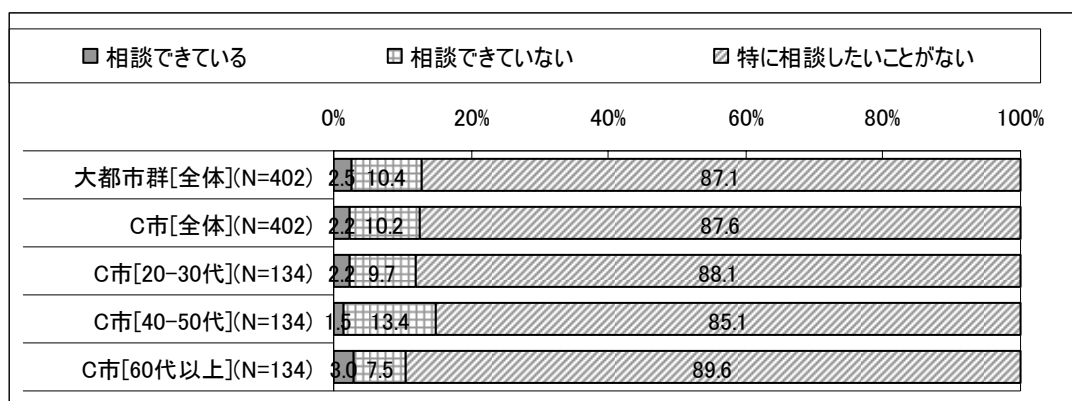
問 あなたは、日ごろ学習したいと考えている内容等（学習ニーズ）を、地域の行政機関や社会教育施設へ相談することができますか。

(1) これまで、地域の行政機関や社会教育施設へ相談したいことがあった際、十分に相談できていますか。もっとも当てはまる番号一つに○をつけてください。

地域の行政機関や社会教育施設へ相談したいことがあった際に、十分に相談できているかを質問したところ、C市全体では「相談できている」が2.2%、「相談できていない」が10.2%、「特に相談したいことがない」87.6%であった。

年代別にみると、「相談できている」の回答が最も多いのは60代以上で3.0%、「相談できていない」の回答が最も多いのは40-50代で13.4%であった。

図表2-176. 地域の行政機関や社会教育施設への相談状況(C市)



(4) D市の例

1) D市の地域概要と社会教育の現状

①地域の概要

項目	状況
人口規模	約 255,000 人
財政規模	歳出総額： 約 770 億円（平成 20 年度） 財政力指数： 0.79（平成 20 年度）
面積（人口密度）	約 380 平方キロメートル、人口密度： 670 人/km ²
生涯学習計画、 社会教育計画	平成 22 年度策定
教育振興計画、 教育基本計画	平成 22 年度策定
市の特徴	平成 13 年には特例市に移行し、平成 19 年には、「新総合計画」（第 7 次総合計画）がスタートし、あたらしいまちづくりを進めている。

②社会教育施設の状況

館種	館数（市区町村立）	館数（市区町村内）	備考
公民館	28	28	
図書館	5	7	県立点字図書館 1 含む
博物館	1	8	美術館、歴史館等含む
生涯学習センター	0	1	

※他に市民活動支援センター1、福祉文化センター1、国際交流センター1、男女共同参画センター1、児童館 4、総合学習センター1、児童文化センター1、少年自然の家1がある

公民館で提供された学習機会は以下のとおり（平成 21 年度）。

区分	事業数	講座数	利用人数
主催	141	515	19,533
共催	146	252	94,933
ブロック	65	195	4,407

2) 住民の学習状況及びニーズ

①基本属性

回答者の属性は以下のとおりである。

a. 性別・年齢

回答者の性別及び年齢は、全 404 名のうち 20-30 代が男性 87 名、女性 95 名の計 182 名、40-50 代が男性 86 名、女性 95 名の計 181 名、60 代以上が男性 29 名、女性 12 名の計 41 名である。

図表2-177. 対象者の性別・年齢

		男性	女性	合計
20-30 代	(人)	87	95	182
	(%)	47.8	52.2	100.0
40-50 代	(人)	86	95	181
	(%)	47.5	52.5	100.0
60 代以上	(人)	29	12	41
	(%)	70.7	29.3	100.0

②学習活動の内容

学習活動の内容は以下のとおりである。

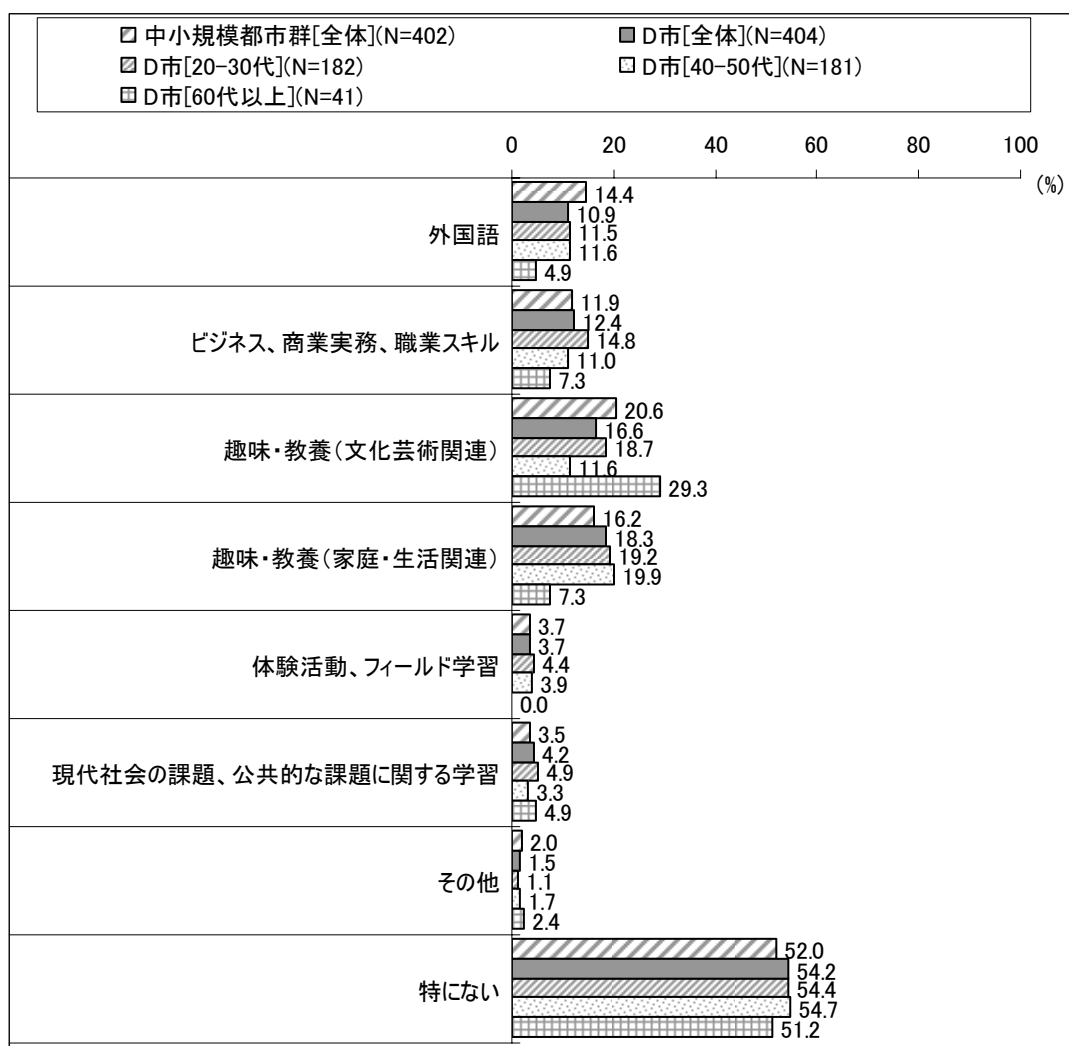
問 以下の 1～6 の学習活動のうち、あなたが実際に取り組んでいる活動はありますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。また、取り組んでいる各活動に関し、活動場所、活動頻度、活動時間、活動理由それぞれについて、当てはまる番号すべてに○をつけてください。(学習活動内容と活動場所の()には、具体的な内容をお書きください)

b. 取り組んでいる学習活動

取り組んでいる学習活動内容について質問したところ、D市全体では、「趣味・教養（家庭・生活関連）」が最も多く、18.3%であった。

年代別にみると、20-30代では「趣味・教養（家庭・生活関連）」が最も多く、19.2%であった。40-50代でも「趣味・教養（家庭・生活関連）」が19.9%で最も多く、60代以上では「趣味・教養（文化芸術関連）」が最も多く、29.3%であった。

図表2-178. 取り組んでいる学習活動内容(D市)



③学習活動を社会に役立てる意志

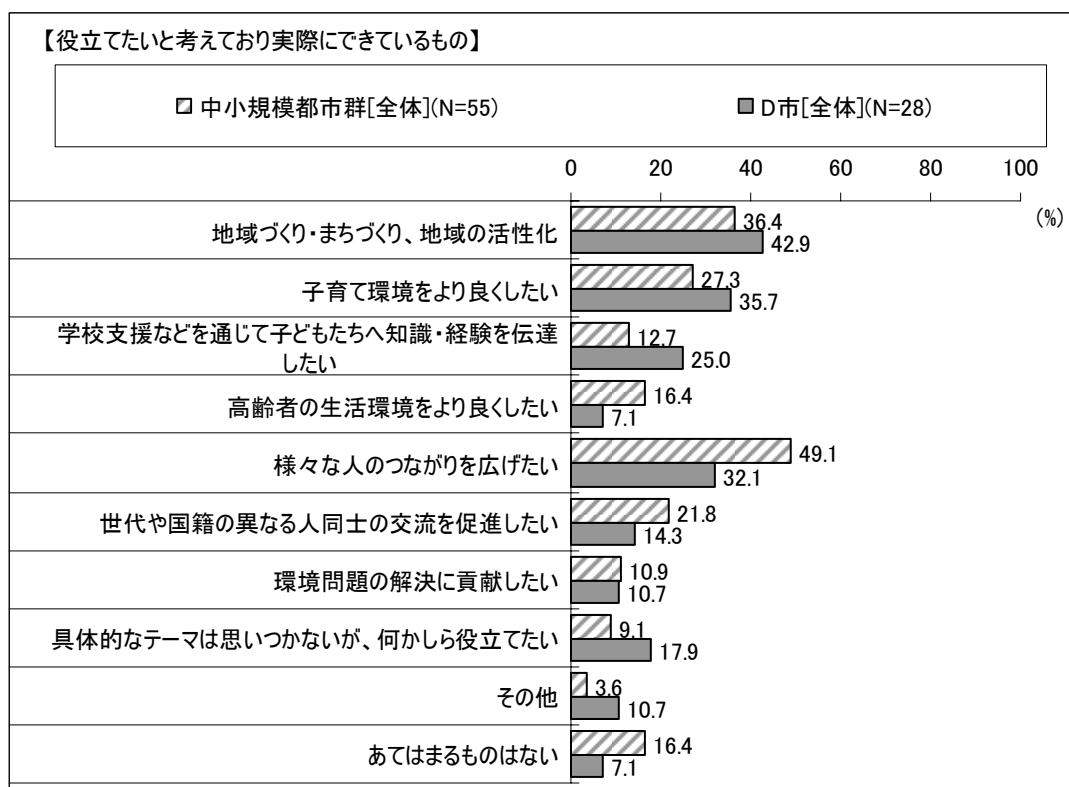
対象者の学習活動を社会に役立てる意志は以下のとおりである。

問 前問「(5)活動理由」で、「周りの人、地域、社会に役立てたい」に一つでも○をつけた方にお聞きします。
 具体的に、どのように役立てたいと考えていますか。また、それは実際に取り組んでいますか。以下の項目のうち、役立てたいと考えており実際に取り組んでいるもの、役立てたいと考えているが実際には取り組めていないものについて、それぞれ当てはまる番号すべてに○をつけてください。また、役立てたいと考えているが実際には取り組めていないものに○をつけた方は、その理由について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

a. 役立てたいと考えており、実際にできているもの

学習活動を社会に役立てる意志のある人に対して、実際にできている取組について質問したところ、D市全体では、「地域づくり・まちづくり、地域の活性化」が42.9%で最も多く、次いで「子育て環境をより良くしたい」が35.7%であった。

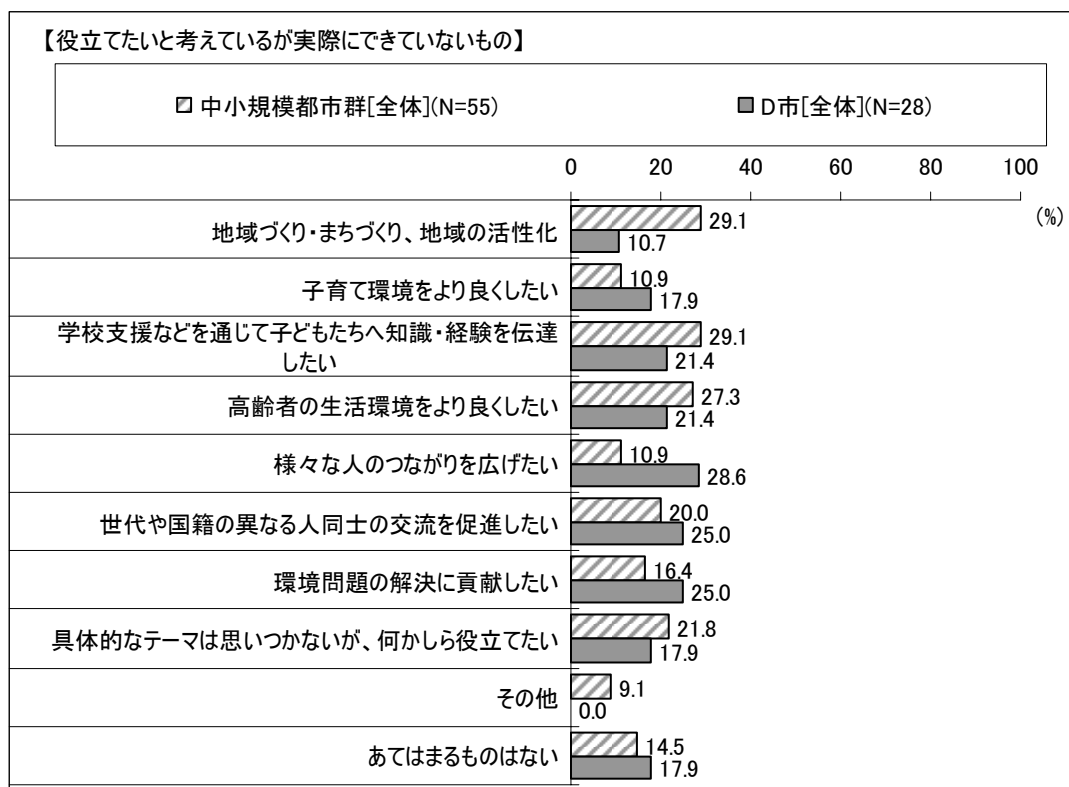
図表2-179. 役立てたいと考えており、実際にできているもの(D市)



b. 役立てたいと考えているが、実際にできていないもの

学習活動を社会に役立てる意志のある人に対して、役立てたいが実際にはできていない取組について質問したところ、D市全体では、「様々な人のつながりを広げたい」が最も多く、28.6%であった。

図表2-180. 役立てたいと考えており、実際にできていないもの(D市)



④ 社会教育施設等の認知度

社会教育施設等の認知度については、以下のとおりである。

問 あなたの居住している市区町村にある施設についてお聞きます。

a. 認知度

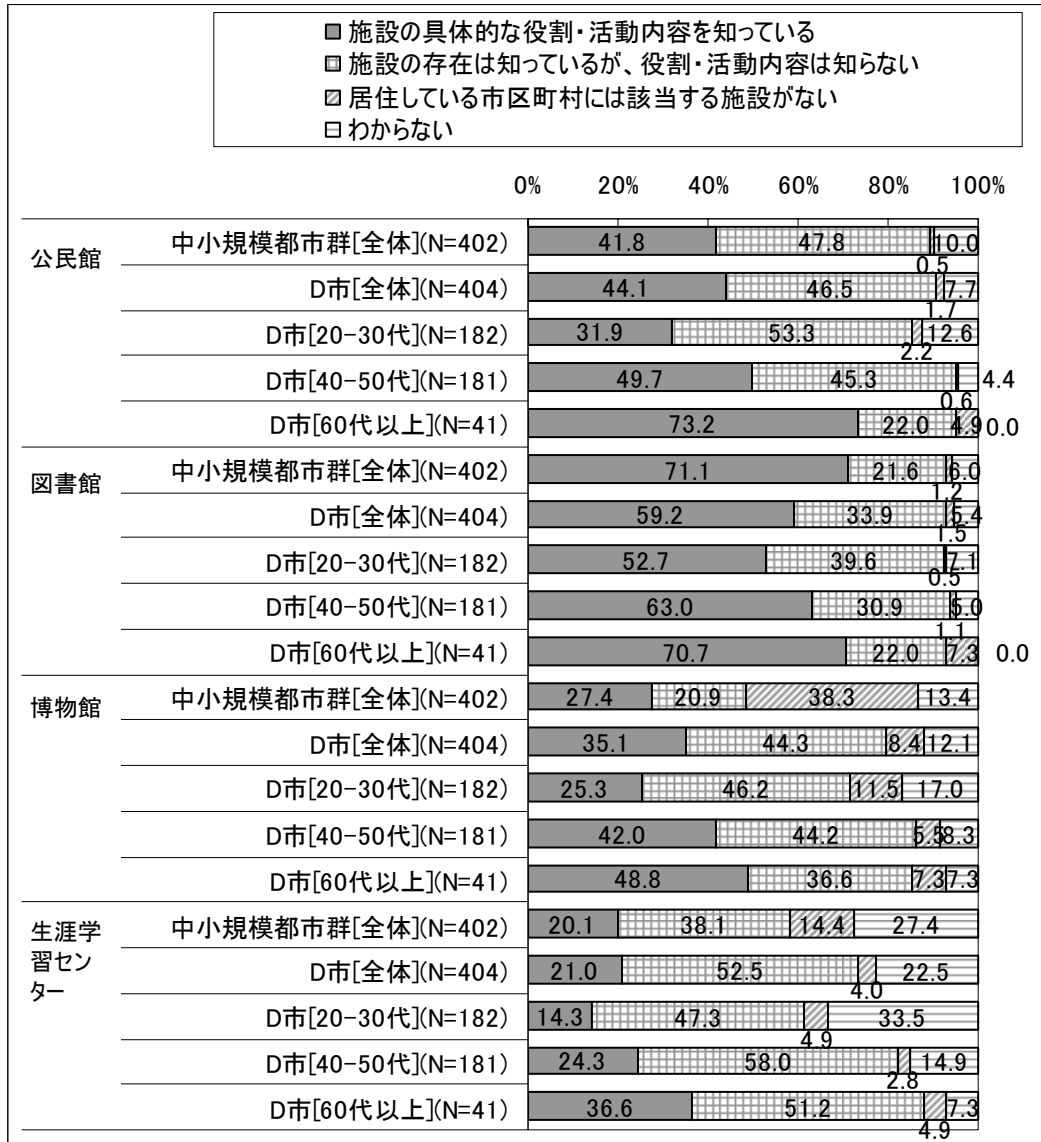
(1) あなたは、居住している市区町村にある以下の施設についてどの程度知っていますか。また、各施設を身近に感じますか。a～dそれぞれについて、もっとも当てはまる番号一つに○をつけてください。

社会教育施設について、どの程度知っているか質問したところ、「施設の具体的な役割・活動内容を知っている」との回答は、D市全体では、公民館が44.1%、図書館が59.2%、博物館が35.1%、生涯学習センターが21.0%であった。

年代別にみると、公民館については、「施設の具体的な役割・活動内容を知っている」との回答は、年齢が高くなるほど多くなる傾向にあり、60代以上は73.2%であった。

図書館、博物館、生涯学習センターについても、「施設の具体的な役割・活動内容を知っている」との回答は、年齢が高くなるほど多くなる傾向にあり、60代以上は順に70.7%、48.8%、36.6%であった。

図表2-181. 社会教育施設等の認知状況(D市)

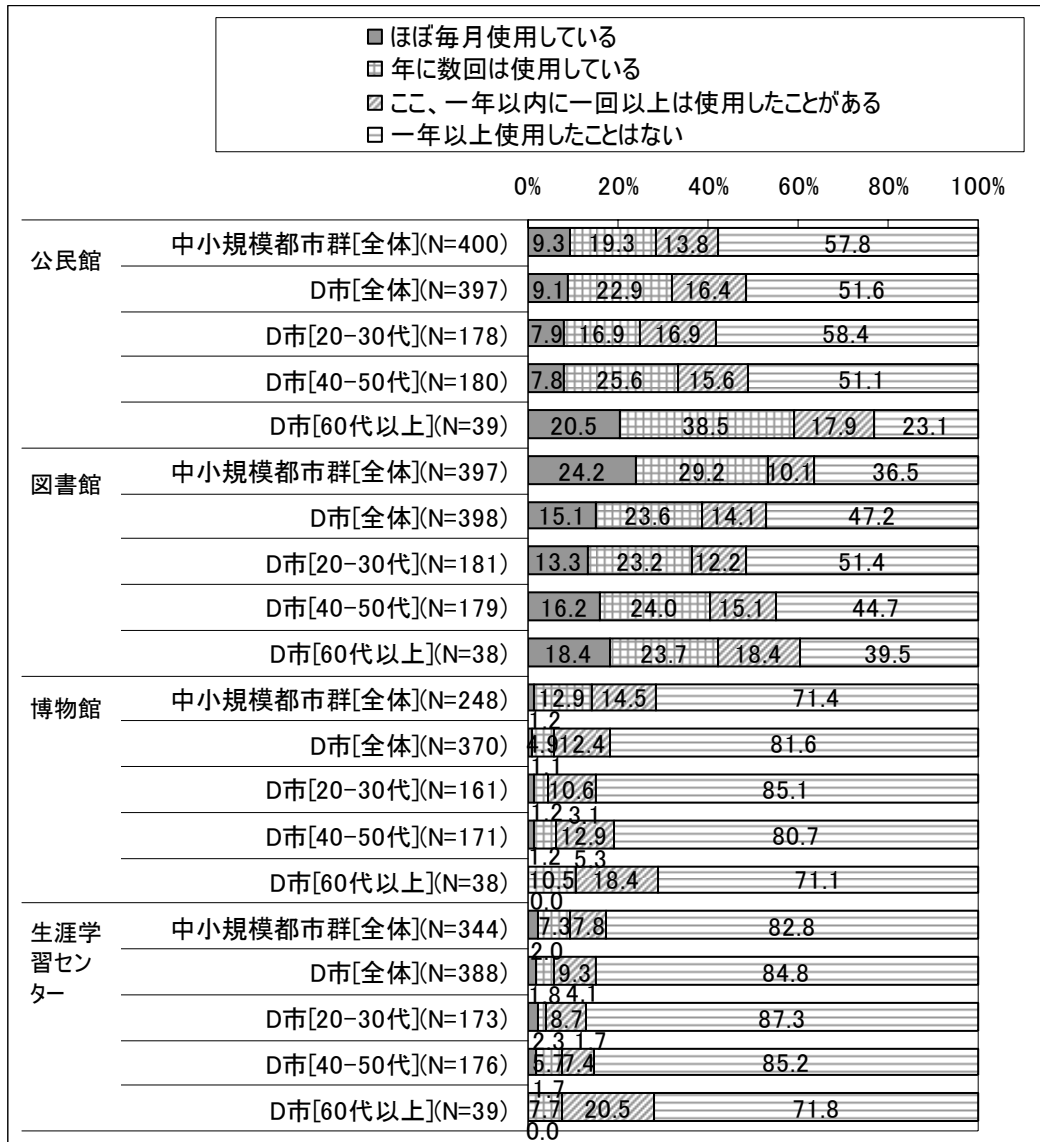


b. 使用頻度

社会教育施設について、どの程度の頻度で使用しているかを質問したところ、D市全体では、「ほぼ毎月使用している」と回答する割合が最も高いのは図書館で15.1%、次いで公民館の9.1%であった。

年代別にみると、公民館は、年齢が高くなるほど使用頻度が高まる傾向にあり、60代以上は「ほぼ毎月使用する」が20.5%であった。

図表2-182. 社会教育施設等の使用頻度(D市)



c. 身近に感じるか

社会教育施設について、どの程度身近に感じるかを質問したところ、D市全体では「とても身近に感じる」と回答する割合が最も高いのは図書館で27.1%、次いで公民館の19.6%であった。

年代別にみると、公民館は、年齢が高くなるほど身近に感じる傾向にあり、60代以上は「とても身近に感じる」が43.6%、「ある程度身近に感じる」が38.5%であった。

図書館も、60代で「とても身近に感じる」と回答する割合が高く、28.9%であった。

図表2-183. 社会教育施設等の身近に感じる程度(D市)



⑤社会教育施設等への要望

a. 要望

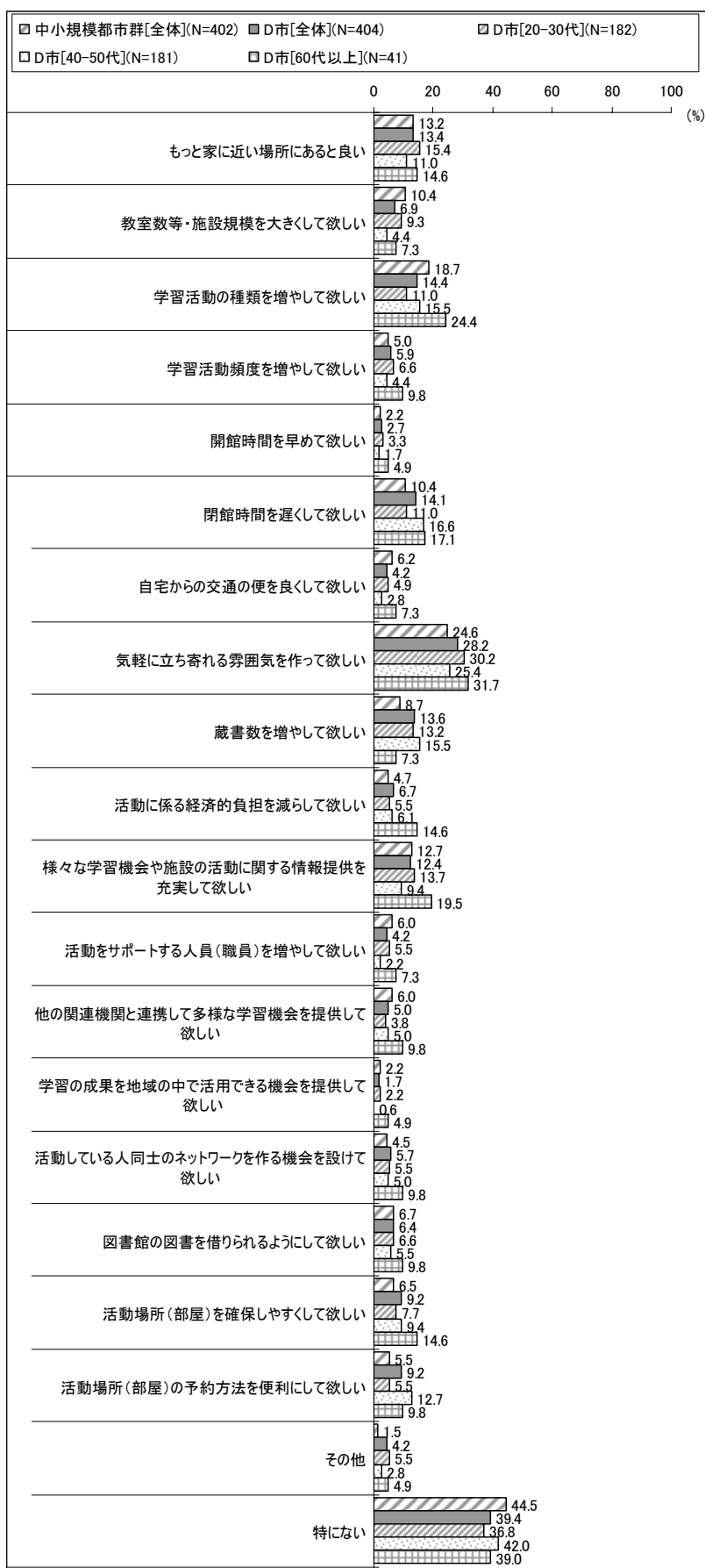
問 あなたは、以下の各施設について、どのような要望がありますか。a～d それぞれについて、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

公民館

公民館への要望について質問したところ、D市全体では「気軽に立ち寄れる雰囲気を作って欲しい」が最も多く、28.2%であった。

年代別にみると、20-30代は「気軽に立ち寄れる雰囲気を作って欲しい」が最も多く、30.2%であった。40-50代及び60代以上も同様に、「気軽に立ち寄れる雰囲気を作って欲しい」が最も多く、それぞれ25.4%、31.7%であった。

図表2-184. 公民館への要望(D市)

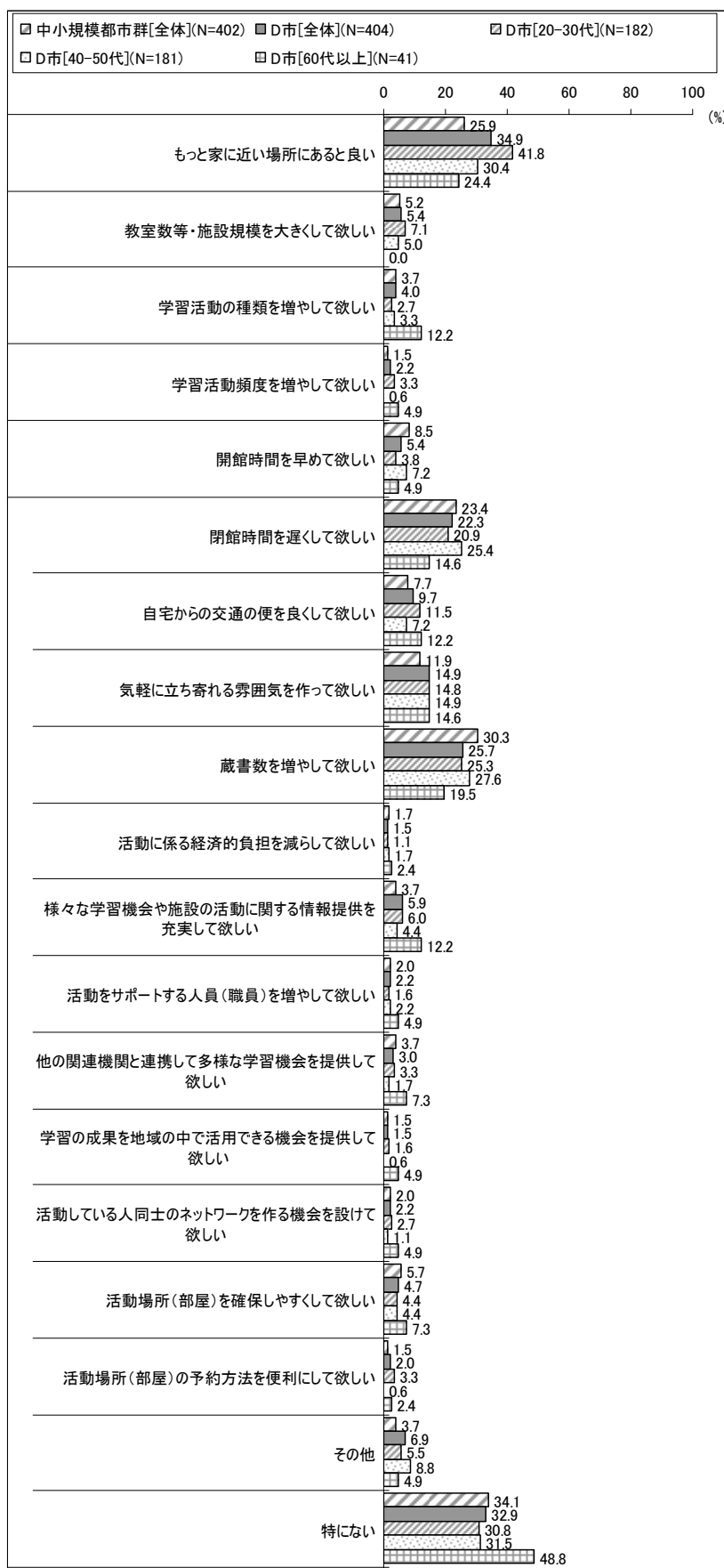


図書館

図書館への要望について質問したところ、D市全体では「もっと家の近くにあると良い」が最も多く、34.9%であった。

年代別にみると、すべての年代で「もっと家の近くにあると良い」が最も多く、20-30代が41.8%、40-50代が30.4%、60代以上が24.4%であった。次いで多かった回答は、すべての年代で「蔵書数を増やして欲しい」であり、20-30代が25.3%、40-50代が27.6%、60代以上が19.5%であった。

図表2-185. 図書館への要望(D市)

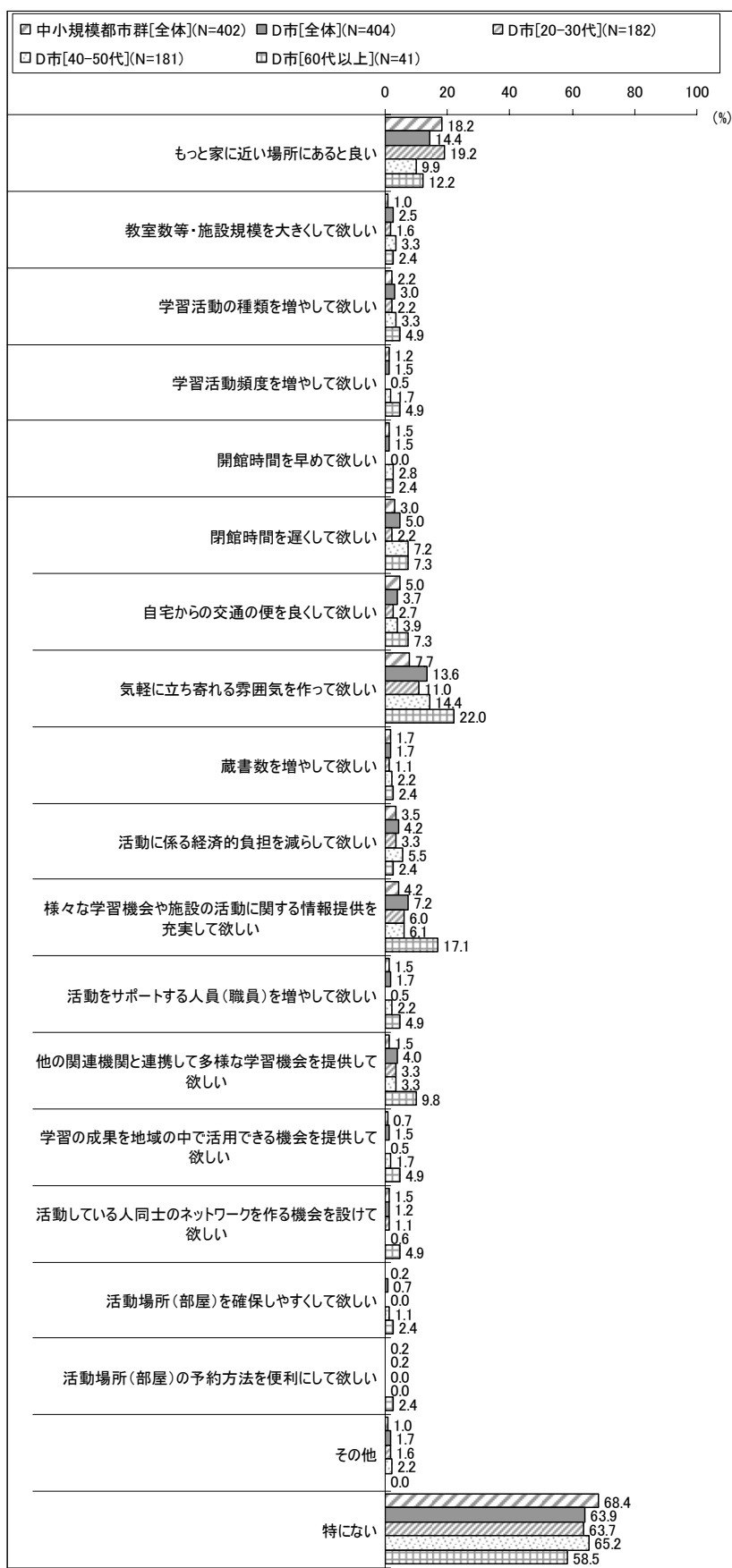


博物館

博物館への要望について質問したところ、D市全体では「もっと家に近い場所にあると良い」が最も多く、14.4%であった。

年代別にみると、20-30代では「もっと家に近い場所にあると良い」が最も多く19.2%、40-50代及び60代以上は「気軽に立ち寄れる雰囲気を作って欲しい」で、それぞれ14.4%、22.0%であった。次いで多かった回答は、20-30代が「気軽に立ち寄れる雰囲気を作って欲しい」で11.0%、40-50代が「もっと家に近い場所にあると良い」で9.9%、60代以上が「様々な学習機会や施設の活動に関する情報提供を充実して欲しい」で17.1%であった。

図表2-186. 博物館への要望(D市)

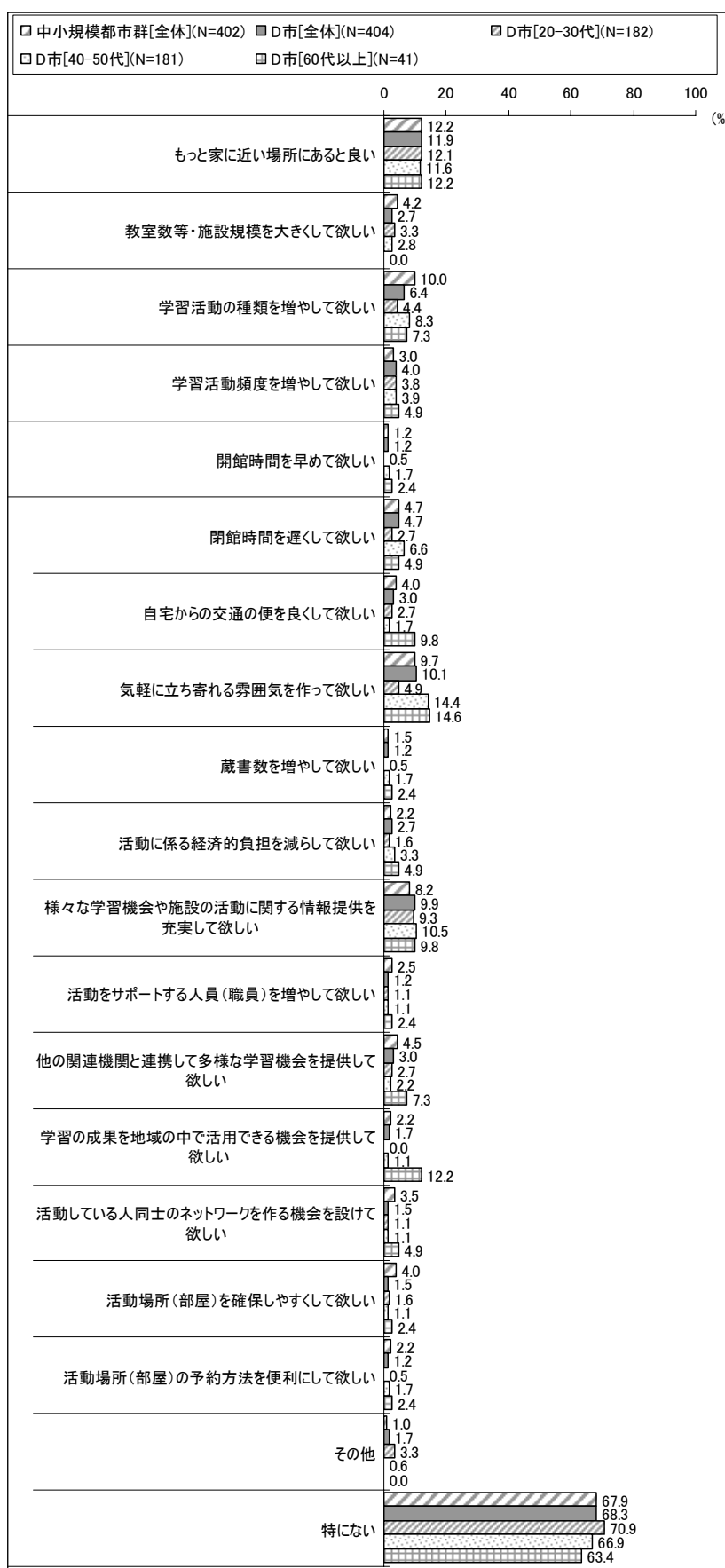


生涯学習センター

生涯学習センターへの要望について質問したところ、D市全体では「もっと家に近い場所にあると良い」が最も多く、11.9%であった。

年代別にみると、20-30代は「もっと家に近い場所にあると良い」が最も多く12.1%、40-50代及び60代以上は「気軽に立ち寄れる雰囲気を作って欲しい」が最も多く、それぞれ14.4%、14.6%であった。次いで多かった回答は、20-30代が「様々な学習機会や施設の活動に関する情報提供を充実して欲しい」の9.3%、40-50代は「もっと家に近い場所にあると良い」で11.6%、60代以上は「もっと家に近い場所にあると良い」と「学習の成果を地域の中で活用できる機会を提供して欲しい」で12.2%であった。

図表2-187.生涯学習センターへの要望(D市)



⑥学習に関する相談や情報提供等

日ごろ学習したいと考えている内容など（学習ニーズ）、及び学習活動に関する情報に関しては、以下のとおりである。

a. 相談状況

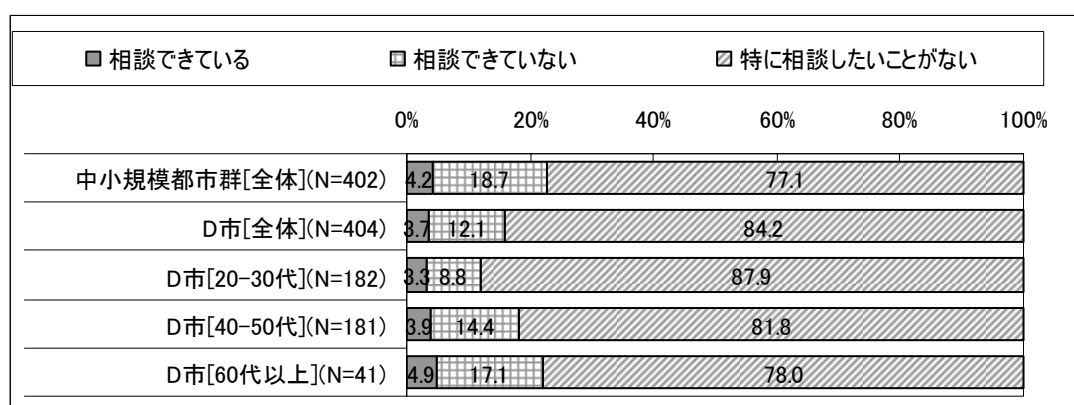
問 あなたは、日ごろ学習したいと考えている内容等（学習ニーズ）を、地域の行政機関や社会教育施設へ相談することができますか。

(1) これまで、地域の行政機関や社会教育施設へ相談したいことがあった際、十分に相談できていますか。もっとも当てはまる番号一つに○をつけてください。

地域の行政機関や社会教育施設へ相談したいことがあった際に、十分に相談できているかを質問したところ、D市全体では「相談できている」が3.7%、「相談できていない」が12.1%、「特に相談したいことがない」84.2%であった。

年代別にみると、「相談できている」の回答が最も多いのは60代以上で4.9%、「相談できていない」の回答が最も多いのも60代以上で17.1%であった。

図表2-188. 地域の行政機関や社会教育施設への相談状況(D市)



(5) E市の例

1) E市の地域概要と社会教育の現状

①地域の概要

項目	状況
人口規模	390,000人（平成23年1月31日現在）
財政規模	歳出総額：約1,160億円（平成20年度） 財政力指数：0.98（平成20年度）
面積（人口密度）	約37平方キロメートル、人口密度：約11,000人/km ²
生涯学習計画、 社会教育計画	下記に含む
教育振興計画、 教育基本計画	平成22年策定
市の特徴	大都市部に近く、ニュータウンとして発展。各種スポーツも盛ん。

②社会教育施設の状況

館種	館数（市区町村立）	館数（市区町村内）	備考
公民館	4	4	公民分館を除く
図書館	9	9	
博物館	0	1	
生涯学習センター	0	0	

※ほかに、市の施設として複合公共施設、人権まちづくりセンター、文化芸術振興施設、労働会館、国際交流センター、地域情報化推進施設、文化センター、男女共同参画推進センター等がある。

ほかに、コミュニティープラザや公民分館でも学習機会を提供している。コミュニティープラザは地域住民の学習・交流・その他の地域活動を行う場で、コミュニティープラザ管理運営委員会が管理運営している。公民分館は41の小学校区で当該地域の小学校の空き教室を利用する方式で設置され、学校との連携を基礎にしながら生涯学習の推進を目的に春・秋の講座や人権学習講座、体育祭や文化祭など地域の行事を実施している。

公民館で提供された学習機会は以下のとおり（平成21年度）。

区分	活動実績	利用人数
主催事業	1,155	54,266
グループ・団体	23,098	325,578
展示会	75	67,454

2) 住民の学習状況及びニーズ

①基本属性

回答者の属性は以下のとおりである。

a. 性別・年齢

回答者の性別及び年齢は、全 404 名のうち 20-30 代が男性 67 名、女性 82 名の計 149 名、40-50 代が男性 67 名、女性 81 名の計 148 名、60 代以上が男性 67 名、女性 40 名の計 107 名である。

図表2-189. 対象者の性別・年齢

		男性	女性	合計
20-30 代	(人)	67	82	149
	(%)	45.0	55.0	100.0
40-50 代	(人)	67	81	148
	(%)	45.3	54.7	100.0
60 代以上	(人)	67	40	107
	(%)	62.6	37.4	100.0

②学習活動の内容

学習活動の内容は以下のとおりである。

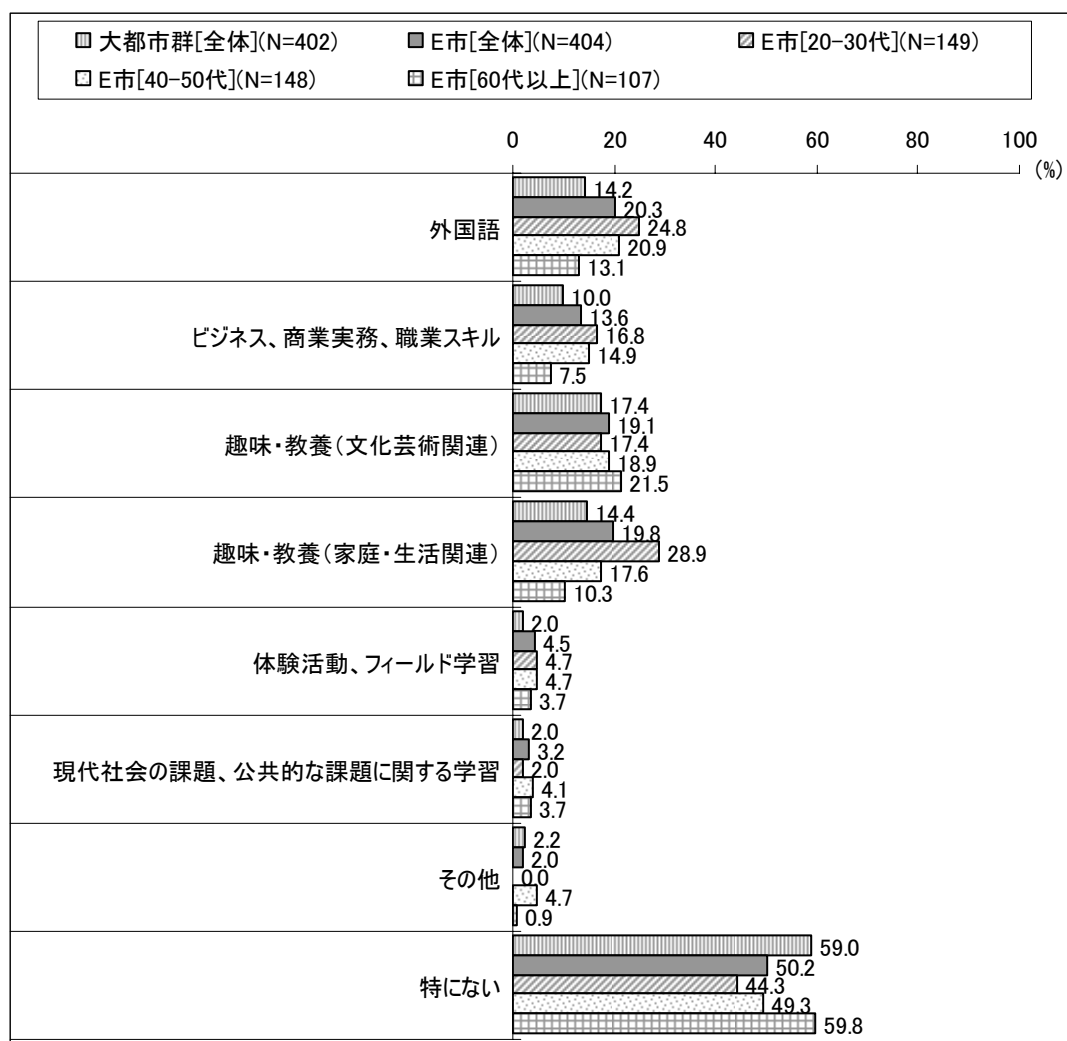
問 以下の 1～6 の学習活動のうち、あなたが実際に取り組んでいる活動はありますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。また、取り組んでいる各活動に関し、活動場所、活動頻度、活動時間、活動理由それぞれについて、当てはまる番号すべてに○をつけてください。(学習活動内容と活動場所の()には、具体的な内容をお書きください)

a. 取り組んでいる学習活動

取り組んでいる学習活動内容について質問したところ、E市全体では、「外国語」が最も多く、20.3%であった。

年代別にみると、20-30代では「趣味・教養（家庭・生活関連）」が最も多く、28.9%であった。40-50代では「外国語」が20.9%で最も多く、60代以上では「趣味・教養（文化芸術関連）」が最も多く、21.5%であった。

図表2-190. 取り組んでいる学習活動内容(E市)



③学習活動を社会に役立てる意志

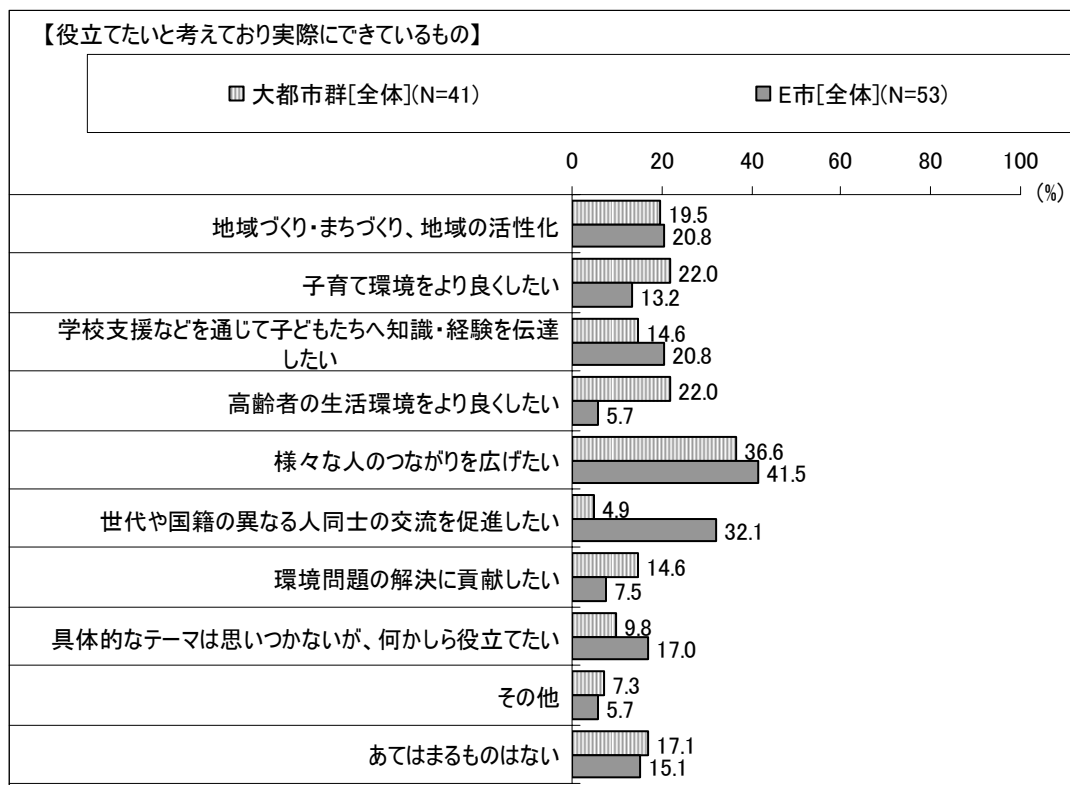
対象者の学習活動を社会に役立てる意志は以下のとおりである。

問 前問「(5)活動理由」で、「周りの人、地域、社会に役立てたい」に一つでも○をつけた方にお聞きます。
 具体的に、どのように役立てたいと考えていますか。また、それは実際に取り組んでいますか。以下の項目のうち、役立てたいと考えており実際に取り組んでいるもの、役立てたいと考えているが実際には取り組めていないものについて、それぞれ当てはまる番号すべてに○をつけてください。また、役立てたいと考えているが実際には取り組めていないものに○をつけた方は、その理由について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

a. 役立てたいと考えており、実際にできているもの

学習活動を社会に役立てる意志のある人に対して、実際にできている取組について質問したところ、E市全体では、「様々な人のつながりを広げたい」が41.5%で最も多く、次いで「世代や国籍の異なる人同士の交流を促進したい」が32.1%であった。

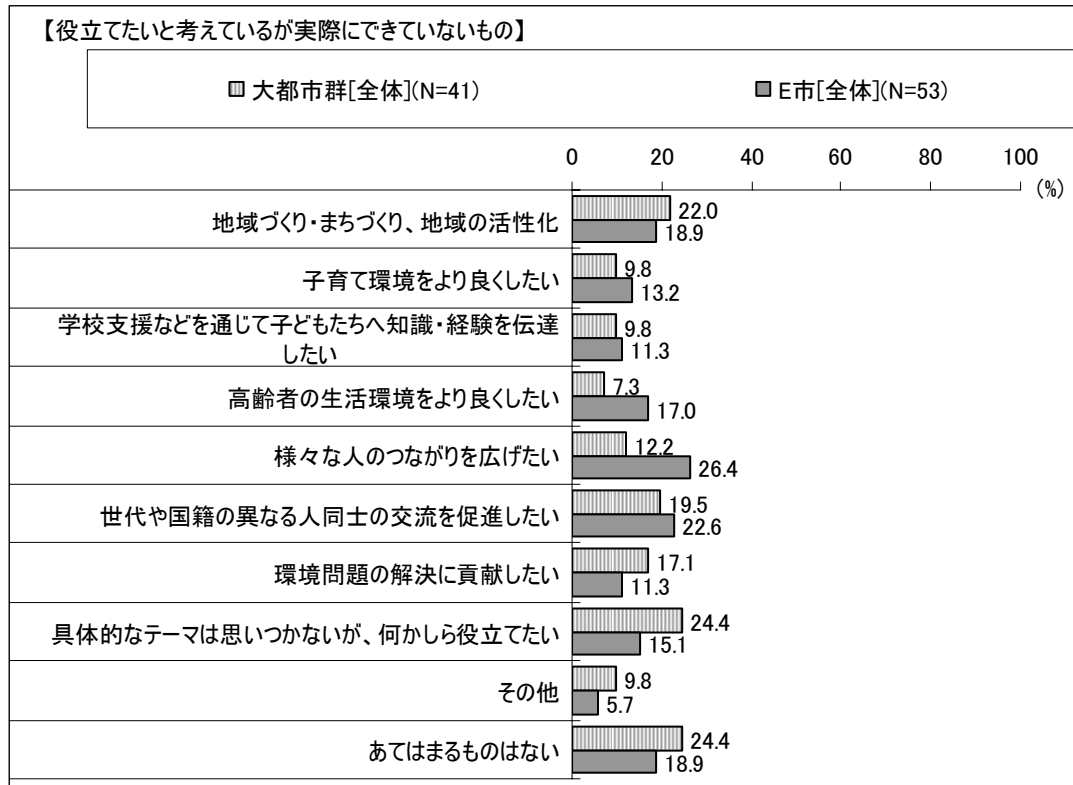
図表2-191. 役立てたいと考えており、実際にできているもの(E市)



b. 役立たいと考えているが、実際にできていないもの

学習活動を社会に役立てる意志のある人に対して、役立たいが実際にはできていない取組について質問したところ、E市全体では、「様々な人のつながりを広げたい」が最も多く、26.4%であった。

図表2-192. 役立たいと考えており、実際にできていないもの(E市)



④ 社会教育施設等の認知度

社会教育施設等の認知度については、以下のとおりである。

問 あなたの居住している市区町村にある施設についてお聞きます。

a. 認知度

(1) あなたは、居住している市区町村にある以下の施設についてどの程度知っていますか。また、各施設を身近に感じますか。a～dそれぞれについて、もっとも当てはまる番号一つに○をつけてください。

社会教育施設について、どの程度知っているか質問したところ、「施設の具体的な役割・活動内容を知っている」との回答は、E市全体では、公民館が27.0%、図書館が71.3%、博物館が19.6%、生涯学習センターが12.9%であった。

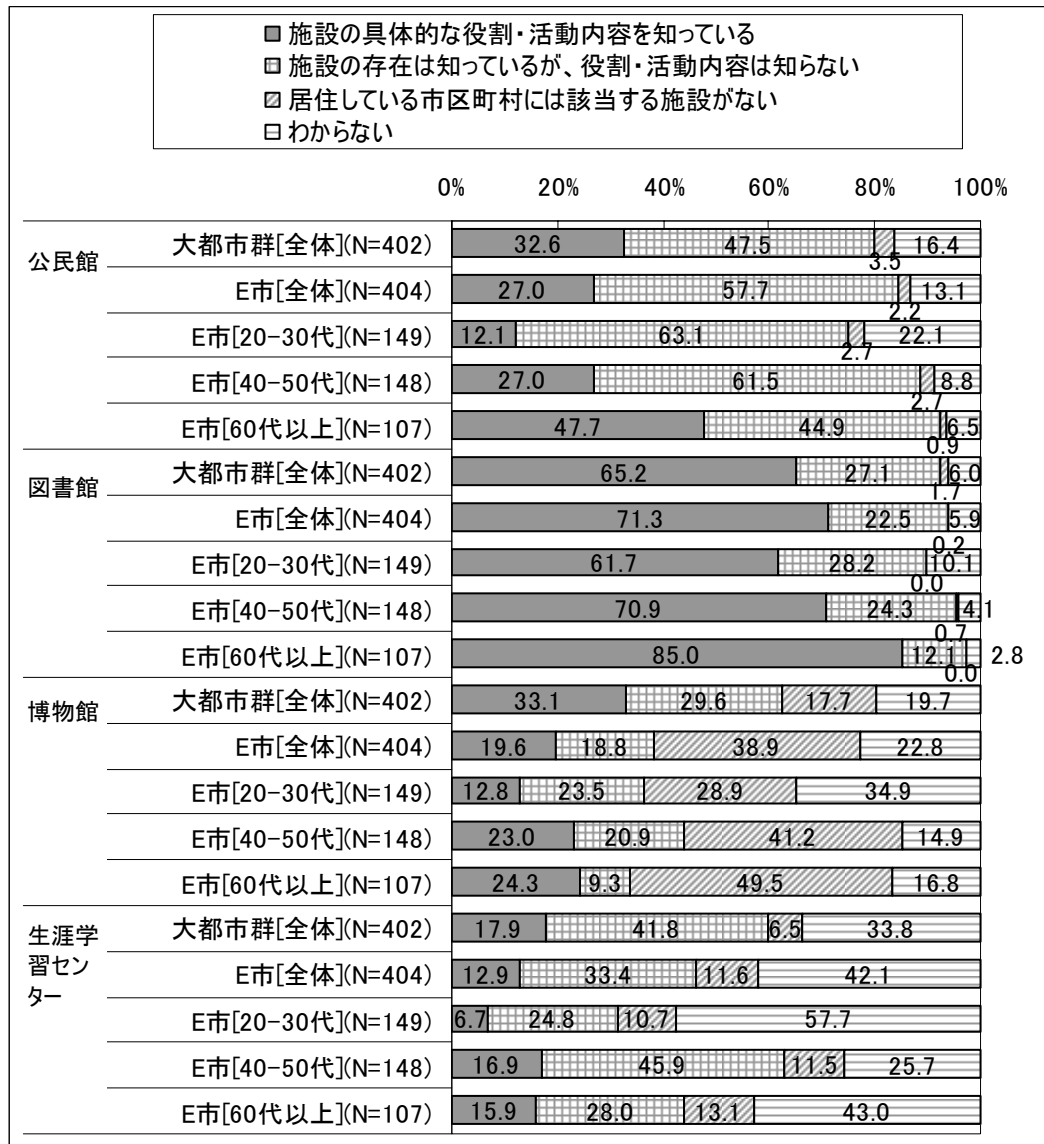
年代別にみると、公民館については、「施設の具体的な役割・活動内容を知っている」との回答は、年齢が高くなるほど多くなる傾向にあり、60代以上は47.7%であった。

図書館についても、「施設の具体的な役割・活動内容を知っている」との回答は、60代以上が最も多く85.0%であった。

博物館についても、「施設の具体的な役割・活動内容を知っている」との回答は、60代以上が最も多く、24.3%であった。

生涯学習センターについては、「施設の具体的な役割・活動内容を知っている」との回答は、40-50代が最も多く、16.9%であった。

図表2-193. 社会教育施設等の認知状況(E市)

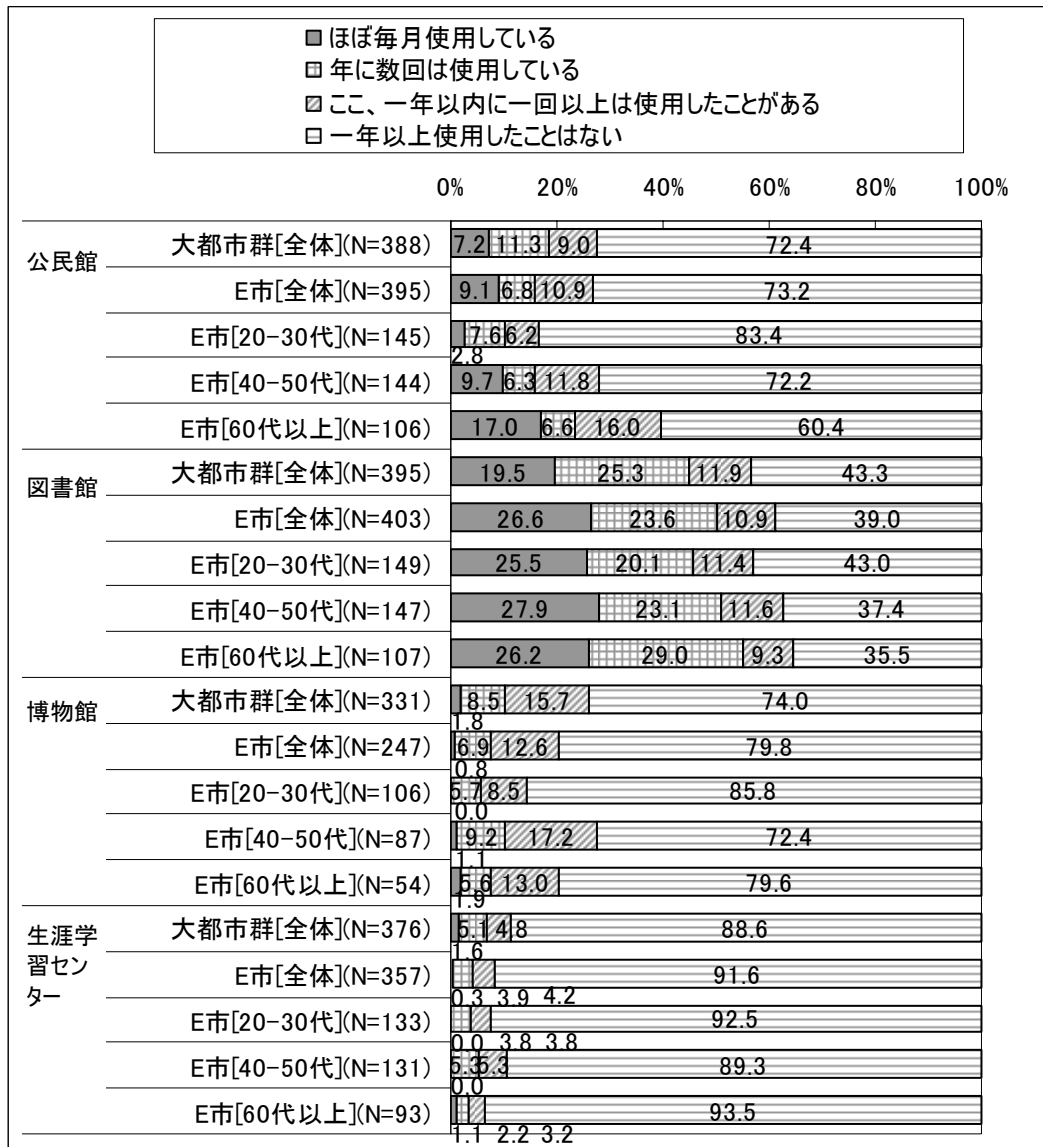


b. 使用頻度

社会教育施設について、どの程度の頻度で使用しているかを質問したところ、E市全体では、「ほぼ毎月使用している」と回答する割合が最も高いのは図書館で26.6%、次いで公民館の9.1%であった。

年代別にみると、公民館は、年齢が高くなるほど使用頻度が高まる傾向にあり、60代以上は「ほぼ毎月使用する」が17.0%であった。

図表2-194. 社会教育施設等の使用頻度(E市)



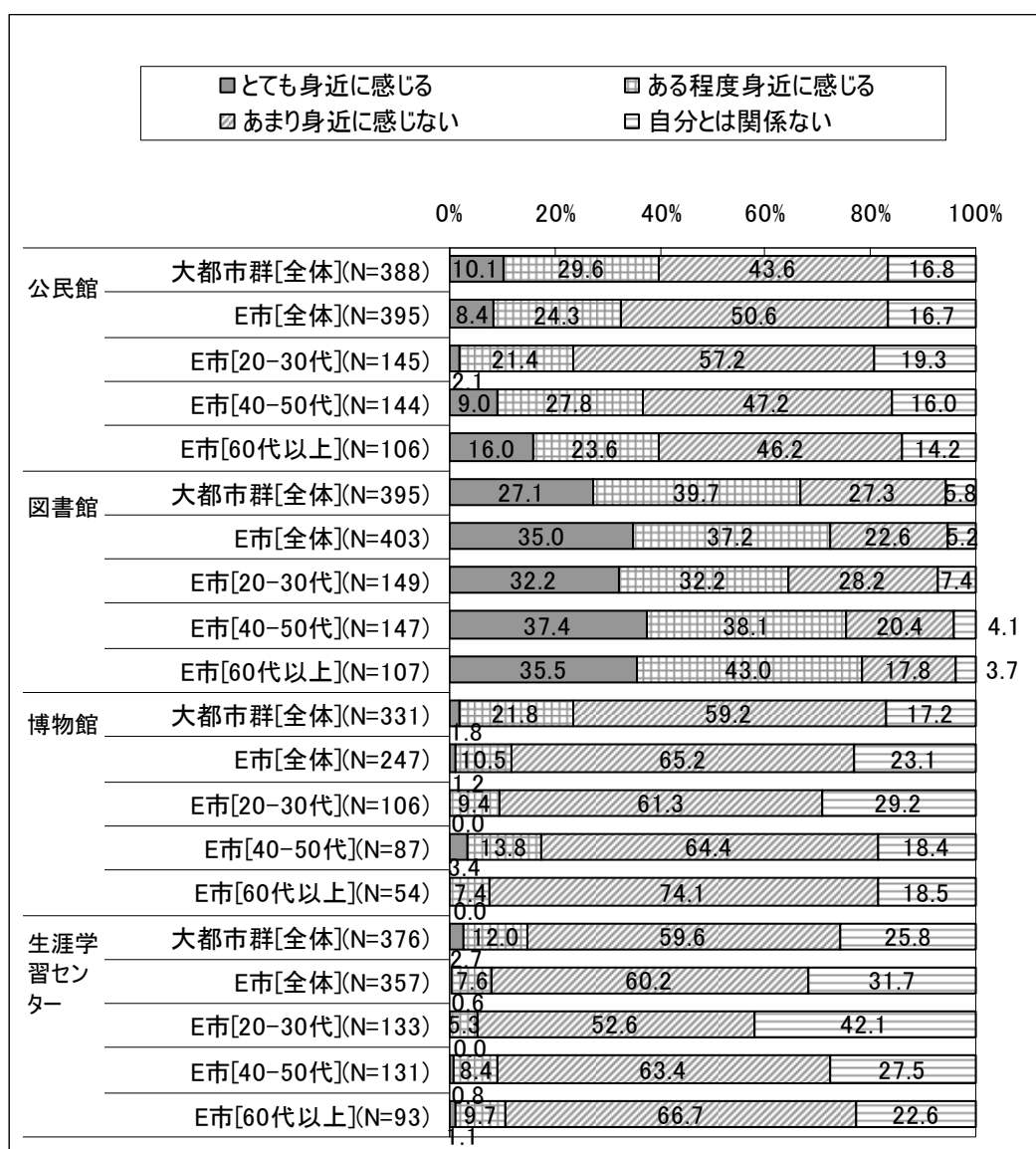
c. 身近に感じるか

社会教育施設について、どの程度身近に感じるかを質問したところ、E市全体では「とても身近に感じる」と回答する割合が最も高いのは図書館で35.0%、次いで公民館の8.4%であった。

年代別にみると、公民館は、年齢が高くなるほど身近に感じる傾向にあり、60代以上は「とても身近に感じる」が16.0%、「ある程度身近に感じる」が23.6%であった。

図書館は、40-50代で「とても身近に感じる」と回答する割合が高く、37.4%であった。

図表2-195. 社会教育施設等の身近に感じる程度(E市)



⑤社会教育施設等への要望

a. 要望

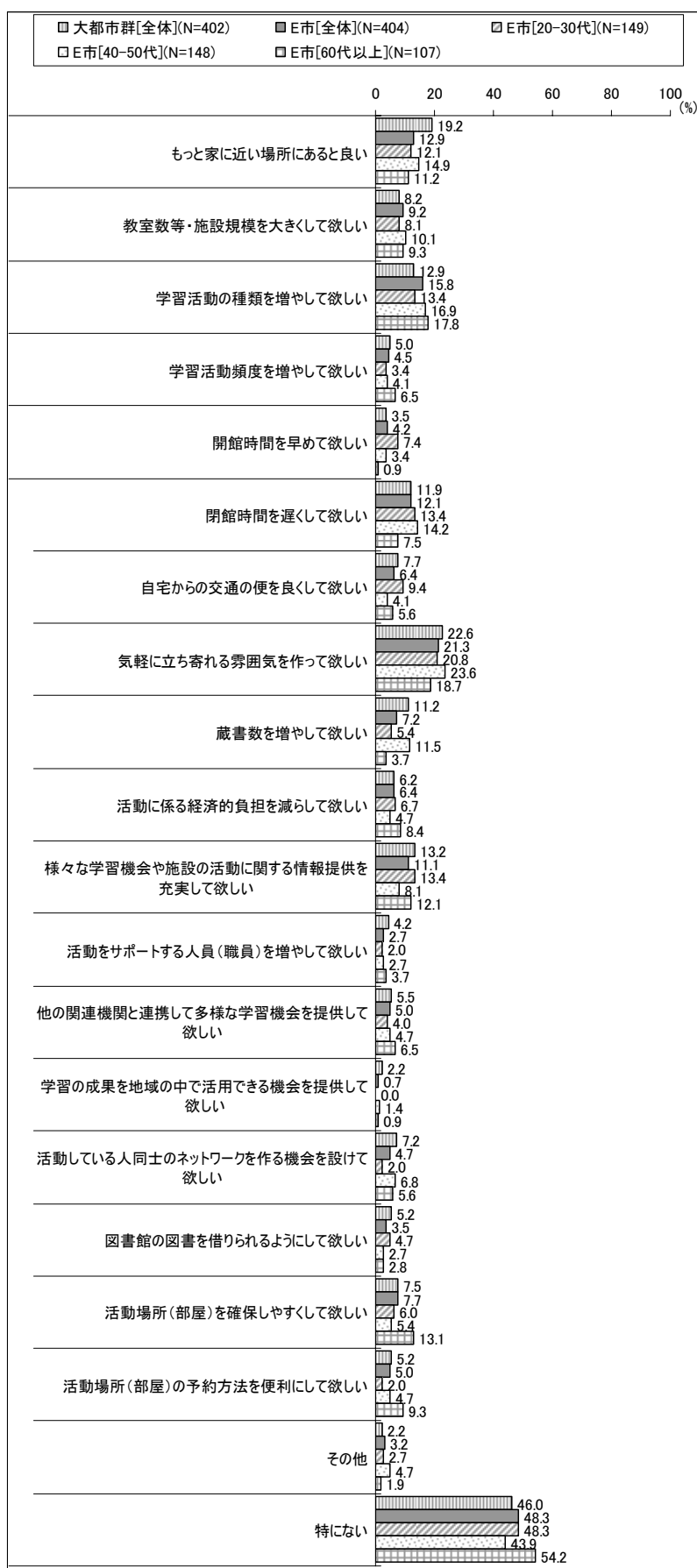
問 あなたは、以下の各施設について、どのような要望がありますか。a～d それぞれについて、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

公民館

公民館への要望について質問したところ、E市全体では「気軽に立ち寄れる雰囲気を作って欲しい」が最も多く、21.3%であった。

年代別にみると、すべての年代で「気軽に立ち寄れる雰囲気を作って欲しい」が最も多く、20-30代は20.8%であった。40-50代は23.6%、60代以上は18.7%であった。

図表2-196. 公民館への要望(E市)

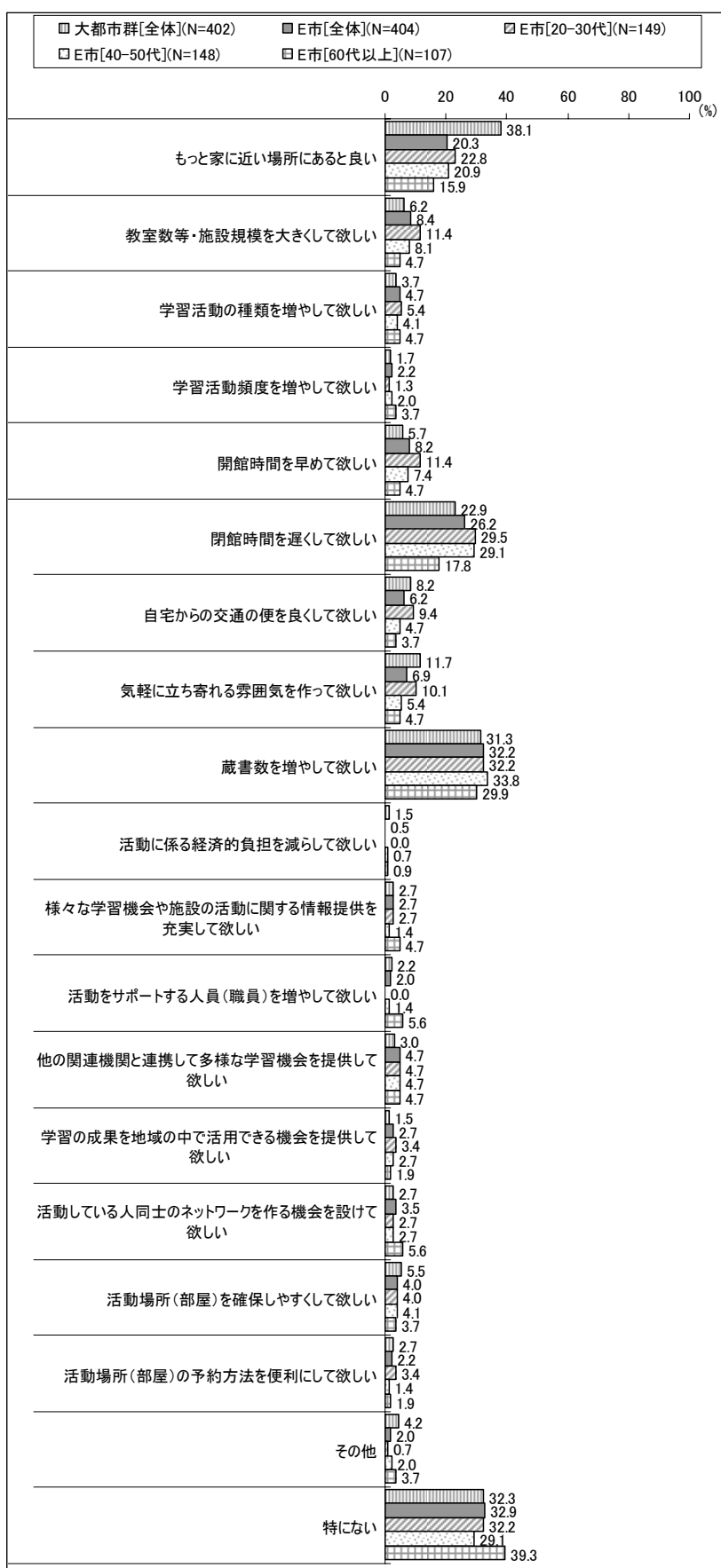


図書館

図書館への要望について質問したところ、E市全体では「蔵書数を増やして欲しい」が最も多く、32.2%であった。

年代別にみると、すべての年代で「蔵書数を増やして欲しい」が最も多く、20-30代が32.2%、40-50代が33.8%、60代以上が29.9%であった。次いで多かった回答は、すべての年代で「閉館時間を遅くして欲しい」であり、20-30代が29.5%、40-50代が29.1%、60代以上が17.8%であった。

図表2-197. 図書館への要望(E市)

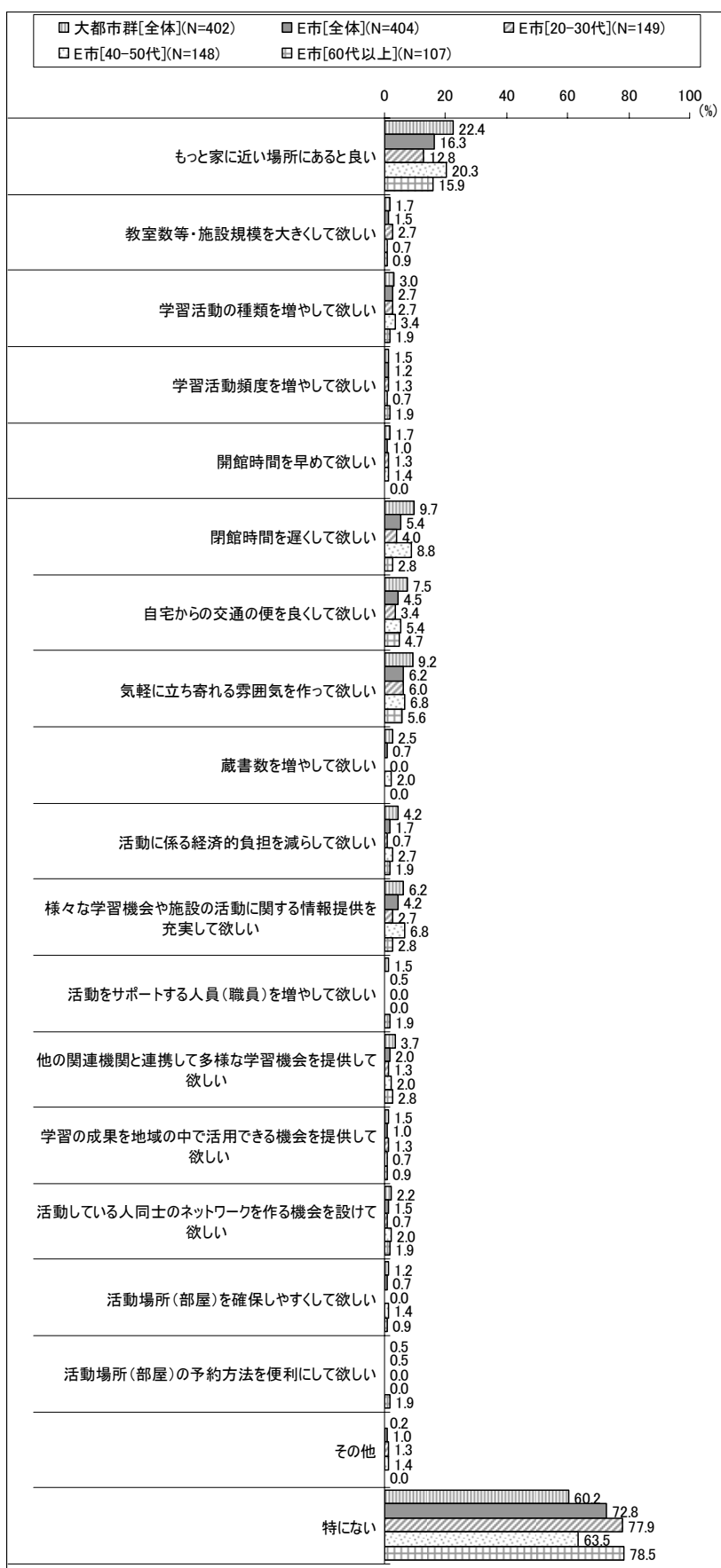


博物館

博物館への要望について質問したところ、E市全体では「もっと家に近い場所にあると良い」が最も多く、16.3%であった。

年代別にみると、すべての年代で「もっと家に近い場所にあると良い」が最も多く、20-30代が12.8%、40-50代が20.3%、60代以上が15.9%であった。次いで多かった回答は、20-30代と60代以上で「気軽に立ち寄れる雰囲気を作って欲しい」であり、20-30代が6.0%、60代以上が5.6%であった。40-50代では「閉館時間を遅くして欲しい」で8.8%であった。

図表2-198. 博物館への要望(E市)

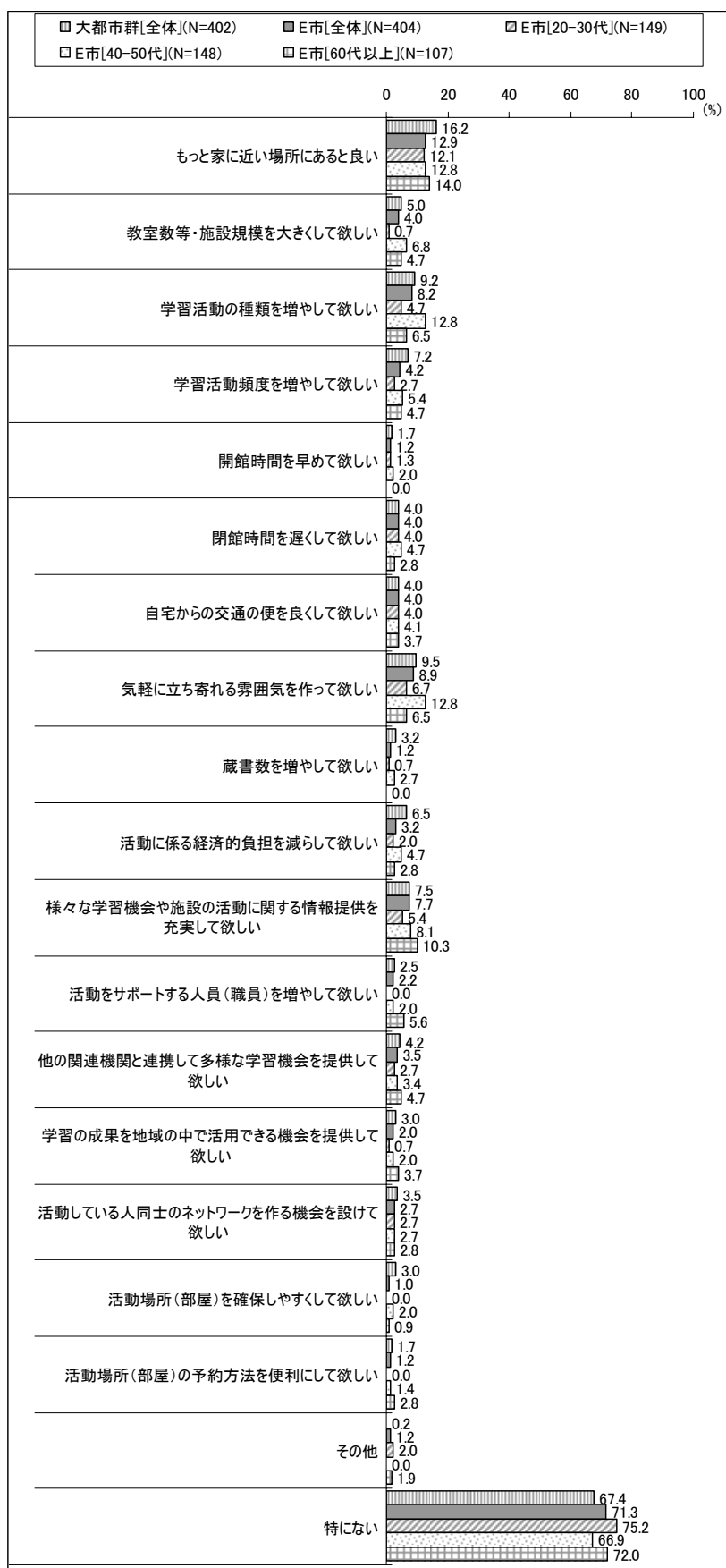


生涯学習センター

生涯学習センターへの要望について質問したところ、E市全体では「もっと家に近い場所にあると良い」が最も多く、12.9%であった。

年代別にみると、すべての年代で「もっと家に近い場所にあると良い」が最も多く、20-30代が12.1%、40-50代が12.8%、60代以上が14.0%であった。また、40-50代では、「学習活動の種類を増やして欲しい」、「気軽に立ち寄れる雰囲気を作って欲しい」も12.8%であった。

図表2-199.生涯学習センターへの要望(E市)



⑥学習に関する相談や情報提供等

日ごろ学習したいと考えている内容など（学習ニーズ）、及び学習活動に関する情報に関しては、以下のとおりである。

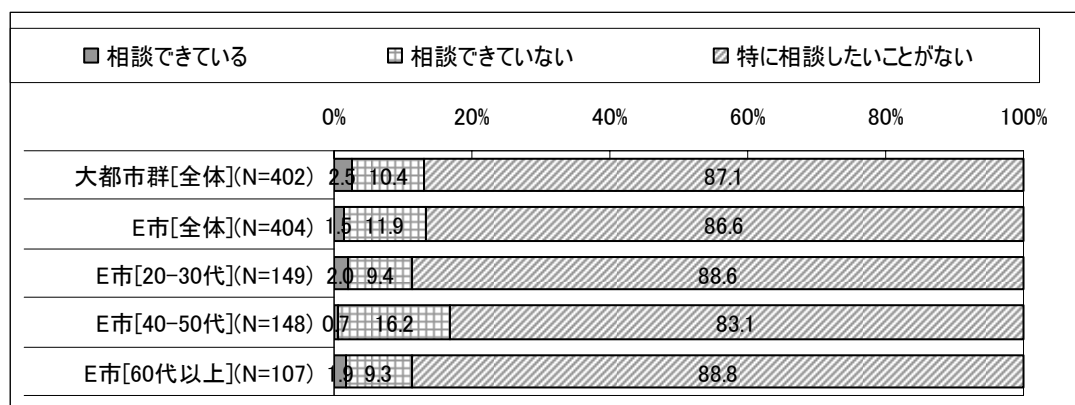
a. 相談状況

問 あなたは、日ごろ学習したいと考えている内容等（学習ニーズ）を、地域の行政機関や社会教育施設へ相談することがありますか。
 (1) これまで、地域の行政機関や社会教育施設へ相談したいことがあった際、十分に相談できていますか。もっとも当てはまる番号一つに○をつけてください。

地域の行政機関や社会教育施設へ相談したいことがあった際に、十分に相談できているかを質問したところ、E市全体では「相談できている」が1.5%、「相談できていない」が11.9%、「特に相談したいことがない」86.6%であった。

年代別にみると、「相談できている」の回答が最も多いのは20-30代で2.0%、「相談できていない」の回答が最も多いのは40-50代で16.2%であった。

図表2-200.地域の行政機関や社会教育施設への相談状況(E市)



(6) F市の例

1) F市の地域概要と社会教育の現状

①地域の概要

項目	状況
人口規模	約 200,000 人 (平成 23 年 2 月 1 日)
財政規模	歳出総額：約 640 億円 (平成 21 年度) 財政力指数：0.96 (平成 21 年度)
面積 (人口密度)	約 16 平方キロメートル、人口密度：12000/km ²
生涯学習計画、 社会教育計画	平成 21 年策定
教育振興計画、 教育基本計画	平成 21 年策定
市の特徴	2 市合併により誕生した市。

②社会教育施設の状況

館種	館数 (市区町村立)	館数 (市区町村内)	備考
公民館	6	6	
図書館	6	6	
博物館	0	1	近隣市と共同運営
生涯学習センター	0	0	

社会教育施設は、6 公民館、6 図書館がある。さらに、博物館類似施設として郷土資料室がある。ほかに、市長部局所管の文化施設・体育施設がある。コミュニティセンターは現在 2 箇所あり、いずれも指定管理制度で運営している。それぞれ学習講座も主催しているが、地域住民の主体的な学習活動のためにサービスとして部屋貸しをする業務が主である。

ほかに、老人福祉施設における高齢者大学講座、福祉会館での部屋貸しと文化サークル活動、消費者センター、エコプラザ等ではそれぞれ学習機会を提供している。また、障害者福祉センター、男女平等推進センター、青少年センター、子育て支援センター、保育園、総合体育館やスポーツ施設などの施設においても事業を実施している。また、コミュニティ施設として地区会館がある。

公民館で提供された学習機会は以下のとおり (平成 21 年度)。

区分	活動実績	利用人数
主催講座	620	20,480
貸室	19,619	288,724
公民館市民企画事業	37	1,270

2) 住民の学習状況及びニーズ

①基本属性

回答者の属性は以下のとおりである。

a. 性別・年齢

回答者の性別及び年齢は、全 403 名のうち 20-30 代が男性 68 名、女性 95 名の計 163 名、40-50 代が男性 68 名、女性 94 名の計 162 名、60 代以上が男性 65 名、女性 13 名の計 78 名である。

図表2-201.対象者の性別・年齢

		男性	女性	合計
20-30 代	(人)	68	95	163
	(%)	41.7	58.3	100.0
40-50 代	(人)	68	94	162
	(%)	42.0	58.0	100.0
60 代以上	(人)	65	13	78
	(%)	83.3	16.7	100.0

②学習活動の内容

学習活動の内容は以下のとおりである。

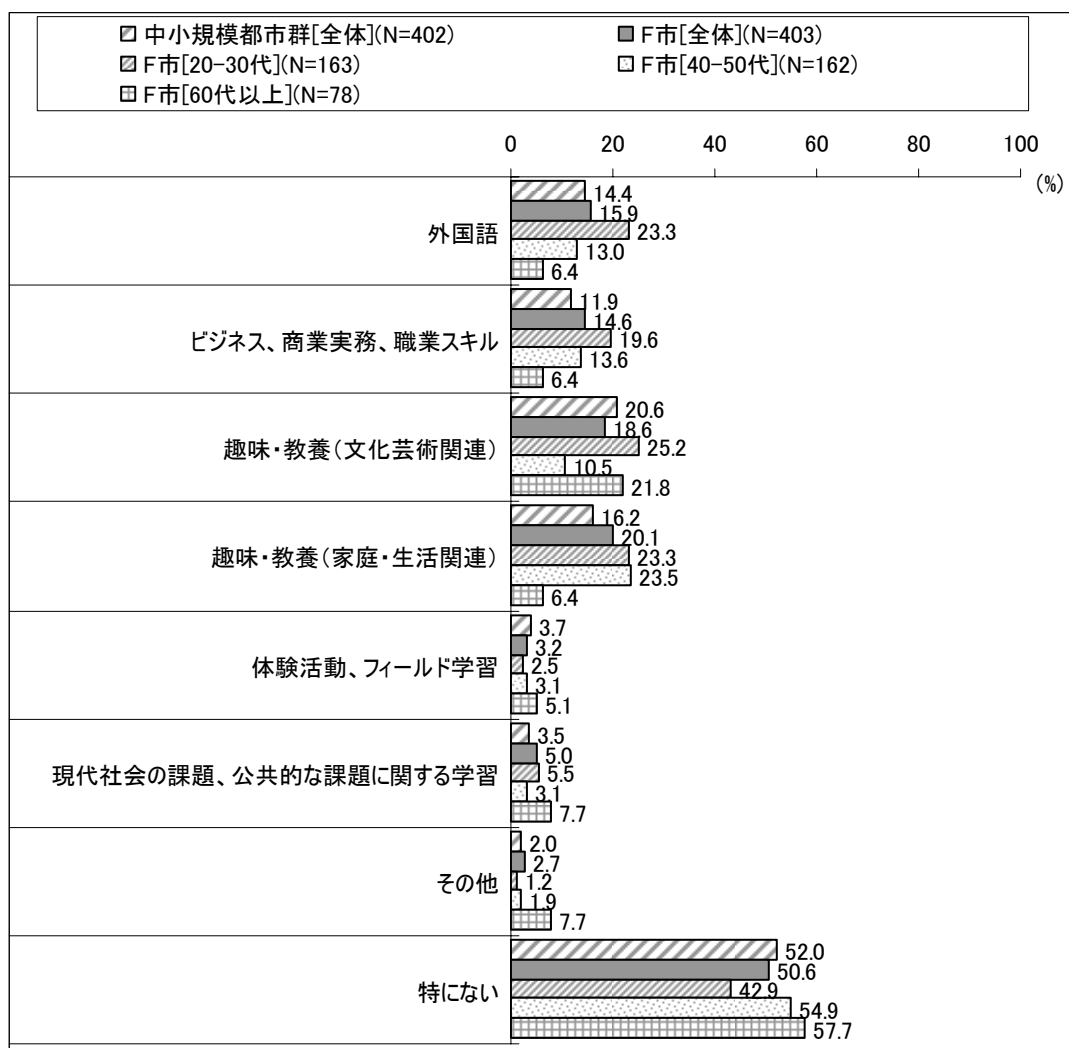
問 以下の 1～6 の学習活動のうち、あなたが実際に取り組んでいる活動はありますか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。また、取り組んでいる各活動に関し、活動場所、活動頻度、活動時間、活動理由それぞれについて、当てはまる番号すべてに○をつけてください。(学習活動内容と活動場所の()には、具体的な内容をお書きください)

a. 取り組んでいる学習活動

取り組んでいる学習活動内容について質問したところ、F市全体では、「趣味・教養（家庭・生活関連）」が最も多く、20.1%であった。

年代別にみると、20-30代では「趣味・教養（文化芸術関連）」が最も多く、25.2%であった。40-50代では「趣味・教養（家庭・生活関連）」が23.5%で最も多く、60代以上では「趣味・教養（文化芸術関連）」が最も多く、21.8%であった。

図表2-202. 取り組んでいる学習活動内容(F市)



③学習活動を社会に役立てる意志

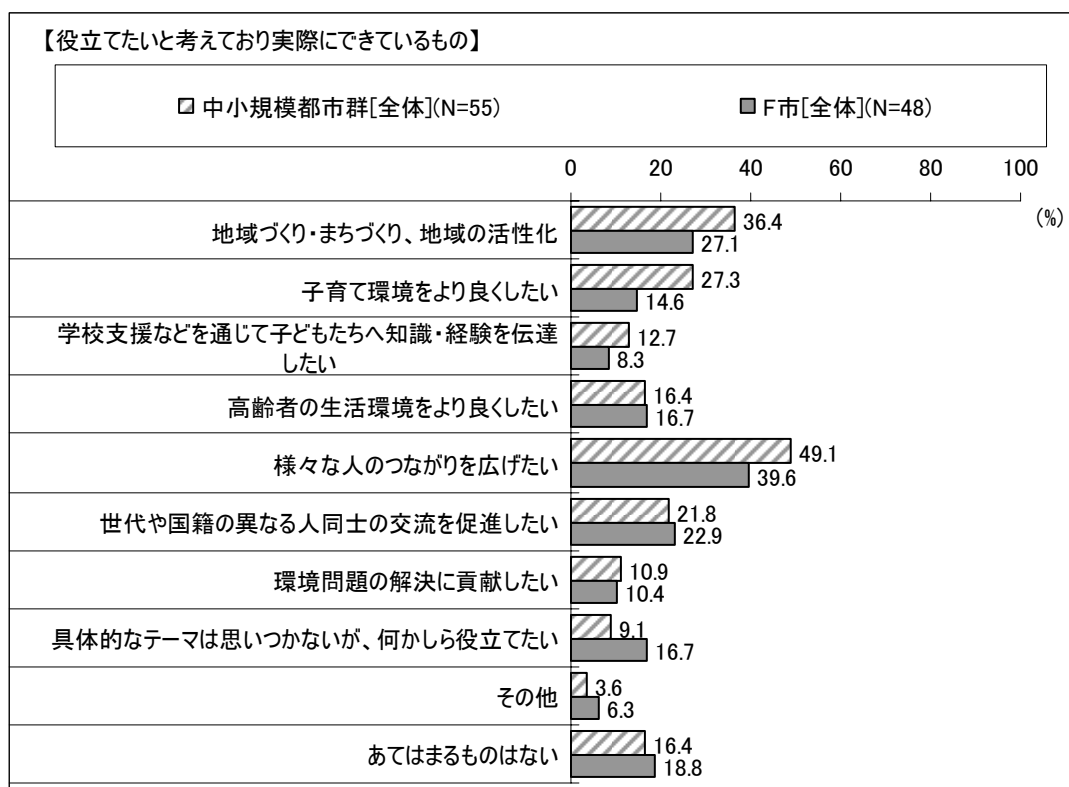
対象者の学習活動を社会に役立てる意志は以下のとおりである。

問 前問「(5)活動理由」で、「周りの人、地域、社会に役立てたい」に一つでも○をつけた方にお聞きします。
 具体的に、どのように役立てたいと考えていますか。また、それは実際に取り組んでいますか。以下の項目のうち、役立てたいと考えており実際に取り組んでいるもの、役立てたいと考えているが実際には取り組めていないものについて、それぞれ当てはまる番号すべてに○をつけてください。また、役立てたいと考えているが実際には取り組めていないものに○をつけた方は、その理由について、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

a. 役立てたいと考えており、実際にできているもの

学習活動を社会に役立てる意志のある人に対して、実際にできている取組について質問したところ、F市全体では、「様々な人のつながりを広げたい」が39.6%で最も多く、次いで「地域づくり・まちづくり、地域の活性化」が27.1%であった。

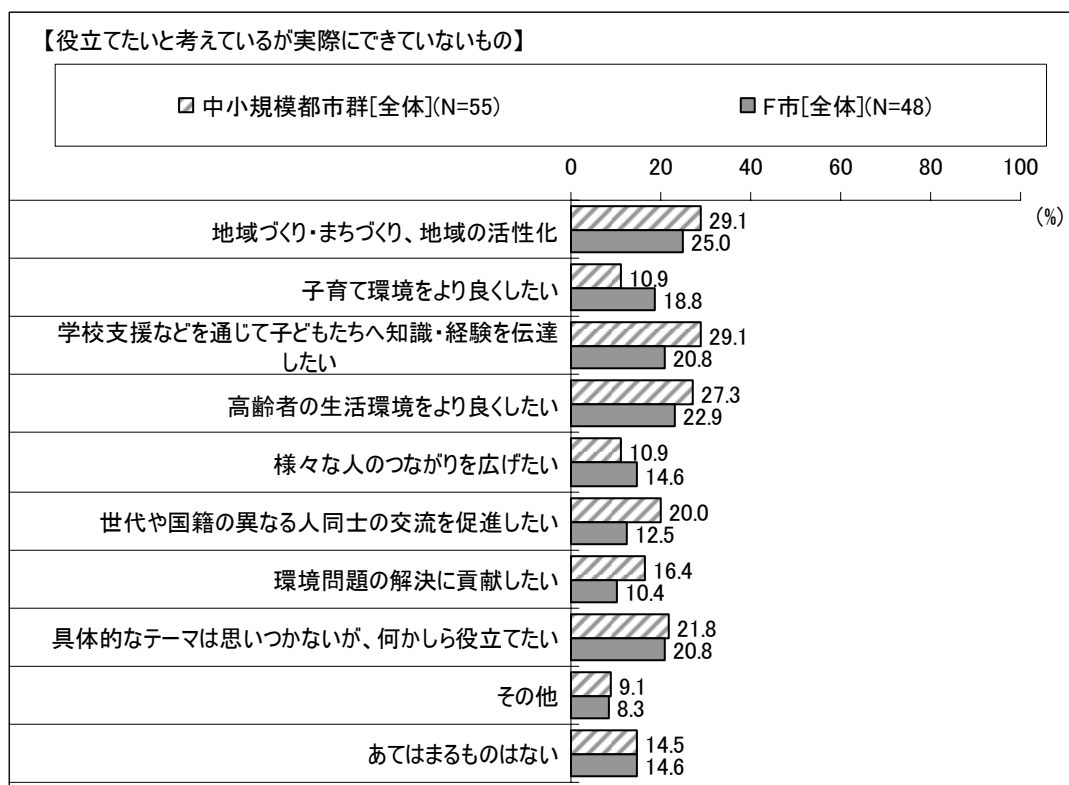
図表2-203. 役立てたいと考えており、実際にできているもの(F市)



b. 役立たいと考えているが、実際にできていないもの

学習活動を社会に役立てる意志のある人に対して、役立たいが実際にはできていない取組について質問したところ、F市全体では、「地域づくり・まちづくり、地域の活性化」が最も多く、25.0%であった。

図表2-204. 役立たいと考えており、実際にできていないもの(F市)



④社会教育施設等の認知度

社会教育施設等の認知度については、以下のとおりである。

問 あなたの居住している市区町村にある施設についてお聞きます。

a. 認知度

(1) あなたは、居住している市区町村にある以下の施設についてどの程度知っていますか。また、各施設を身近に感じますか。a～dそれぞれについて、もっとも当てはまる番号一つに○をつけてください。

社会教育施設について、どの程度知っているか質問したところ、「施設の具体的な役割・活動内容を知っている」との回答は、F市全体では、公民館が34.0%、図書館が71.2%、博物館が20.6%、生涯学習センターが10.2%であった。

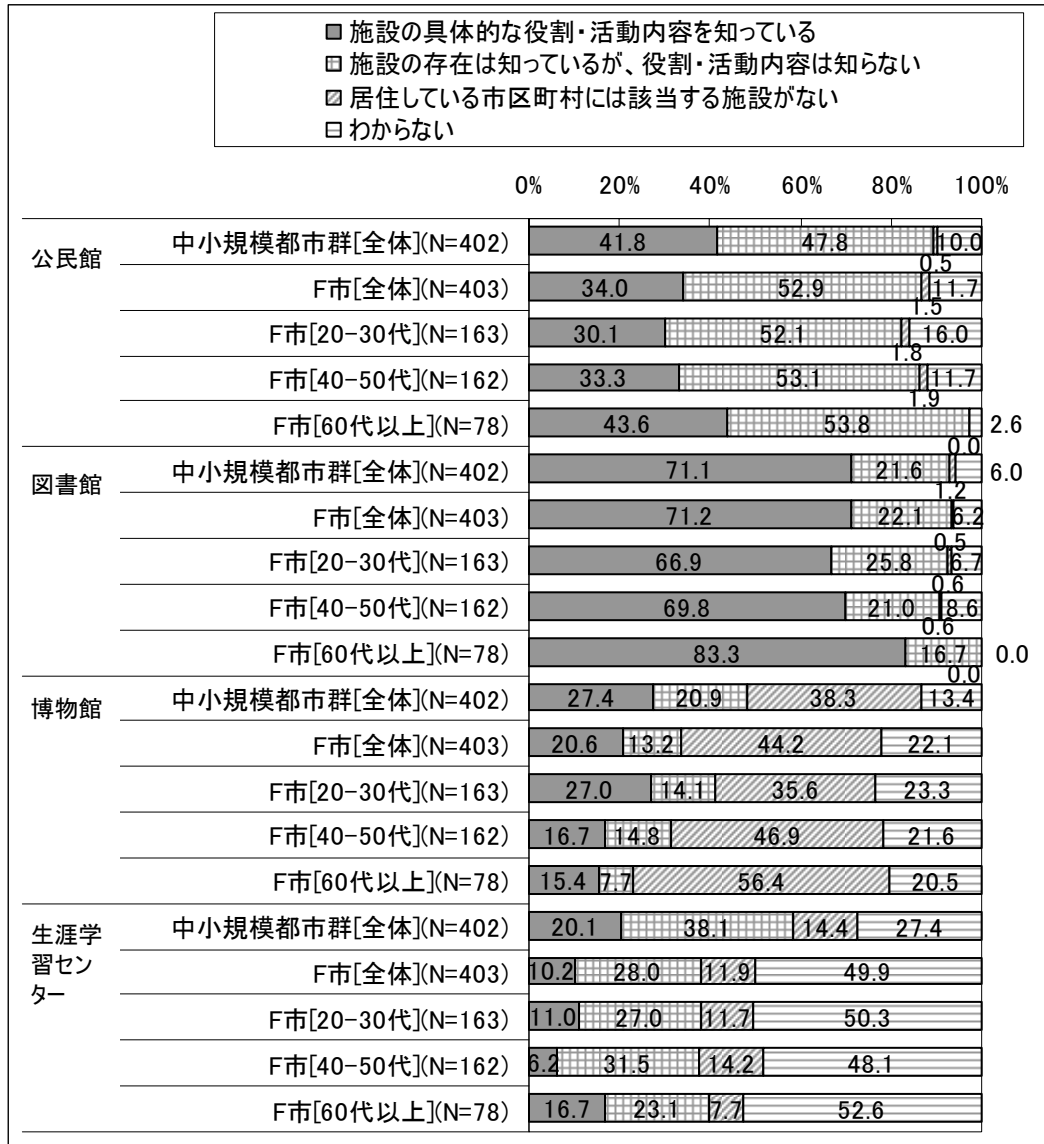
年代別にみると、公民館については、「施設の具体的な役割・活動内容を知っている」との回答は、年齢が高くなるほど多くなる傾向にあり、60代以上は43.6%であった。

図書館については、「施設の具体的な役割・活動内容を知っている」との回答は、60代以上が最も多く83.3%であった。

博物館については、「施設の具体的な役割・活動内容を知っている」との回答は、20-30代が最も多く、27.0%であった。

生涯学習センターについては、「施設の具体的な役割・活動内容を知っている」との回答は、60代以上が最も多く、16.7%であった。

図表2-205. 社会教育施設等の認知状況(F市)

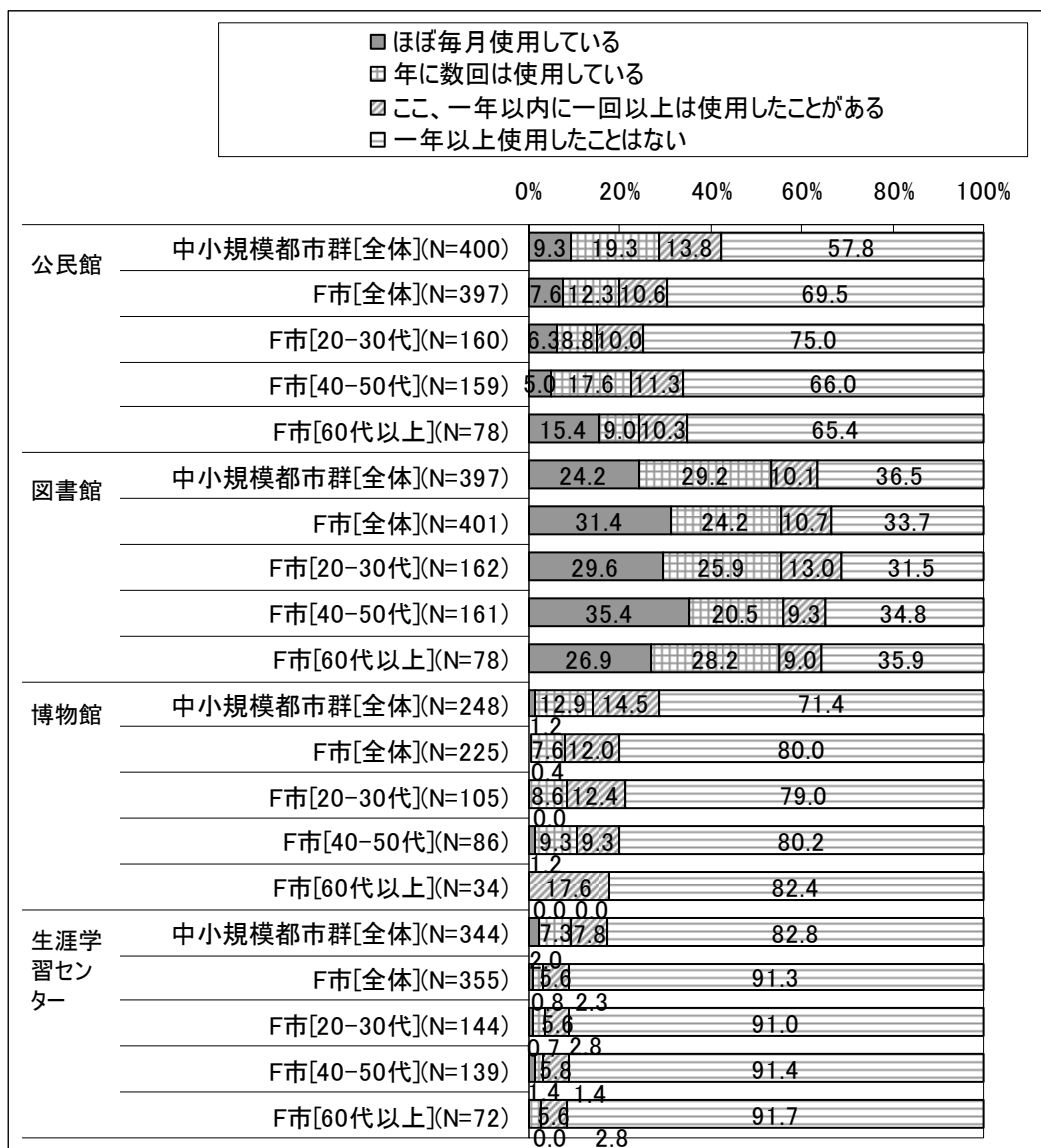


b. 使用頻度

社会教育施設について、どの程度の頻度で使用しているかを質問したところ、F市全体では、「ほぼ毎月使用している」と回答する割合が最も高いのは図書館で31.4%、次いで公民館の7.6%であった。

年代別にみると、公民館は、年齢が高くなるほど使用頻度が高まる傾向にあり、60代以上は「ほぼ毎月使用する」が15.4%であった。

図表2-206. 社会教育施設等の使用頻度(F市)



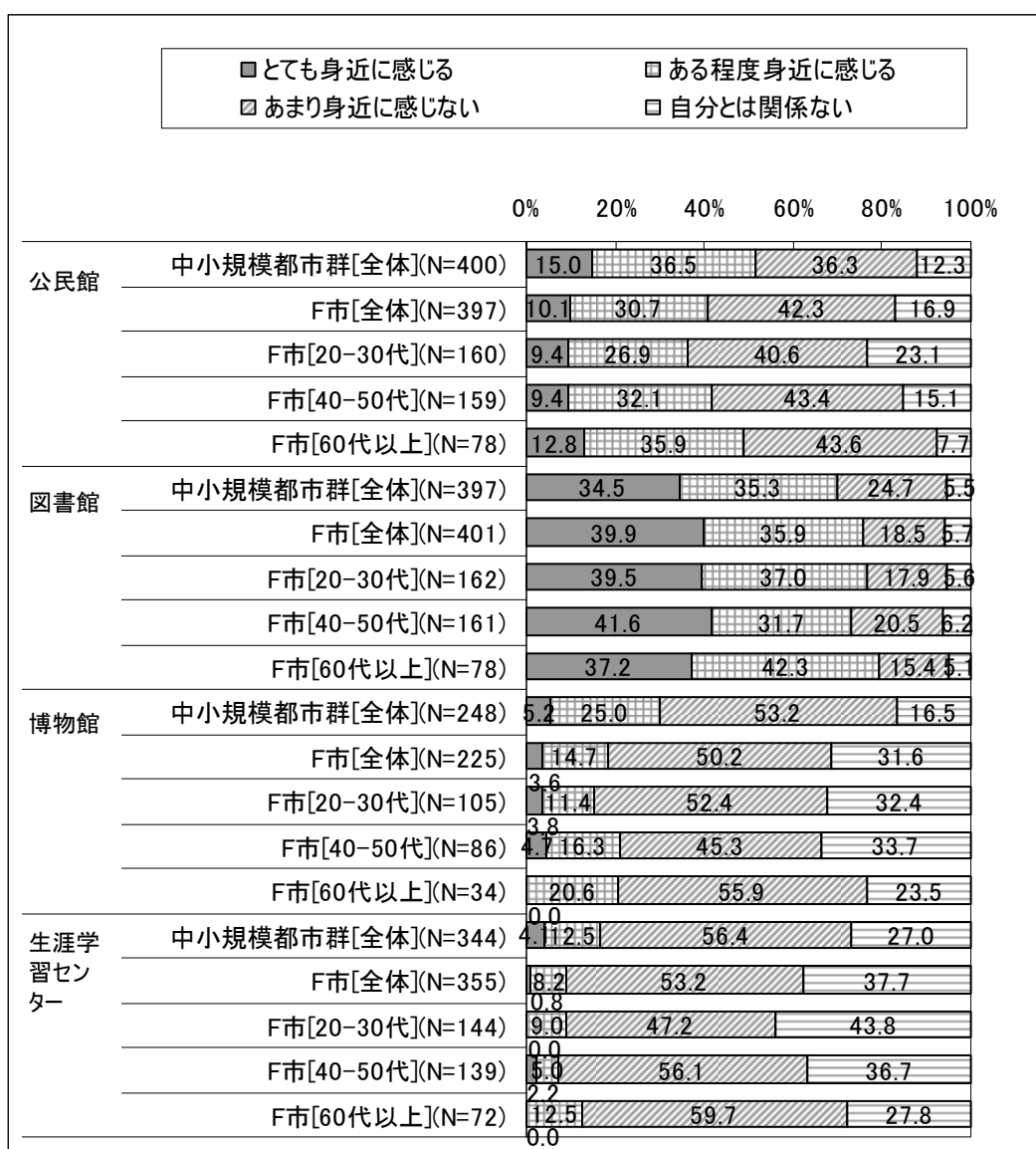
c. 身近に感じるか

社会教育施設について、どの程度身近に感じるかを質問したところ、F市全体では「とても身近に感じる」と回答する割合が最も高いのは図書館で39.9%、次いで公民館の10.1%であった。

年代別にみると、公民館は、年齢が高くなるほど身近に感じる傾向にあり、60代以上は「とても身近に感じる」が12.8%、「ある程度身近に感じる」が35.9%であった。

図書館は、40-50代で「とても身近に感じる」と回答する割合が高く、41.6%であった。

図表2-207. 社会教育施設等の身近に感じる程度(F市)



⑤社会教育施設等への要望

a. 要望

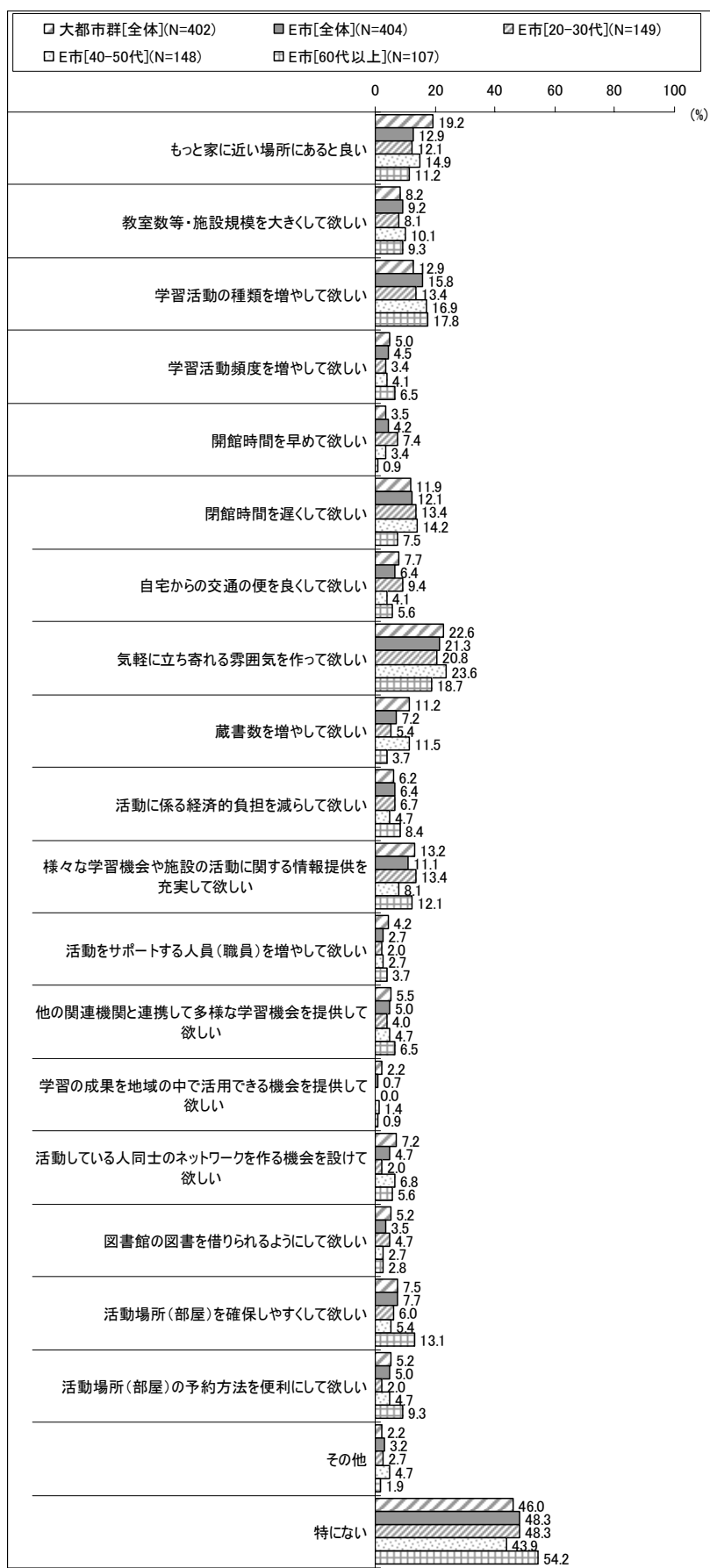
問 あなたは、以下の各施設について、どのような要望がありますか。a～d それぞれについて、当てはまる番号すべてに○をつけてください。

公民館

公民館への要望について質問したところ、F市全体では「気軽に立ち寄れる雰囲気を作って欲しい」が最も多く、21.3%であった。

年代別にみると、すべての年代で「気軽に立ち寄れる雰囲気を作って欲しい」が最も多く、20-30代が20.8%、40-50代が23.6%、60代以上が18.7%であった。次いで多かった回答は、20-30代が「学習活動の種類を増やして欲しい」、「閉館時間を遅くして欲しい」、「様々な学習機会や施設の活動に関する情報提供を充実して欲しい」で13.4%、40-50代は「学習活動の種類を増やして欲しい」で16.9%、60代以上は「学習活動の種類を増やして欲しい」で17.8%であった。

図表2-208. 公民館への要望(F市)

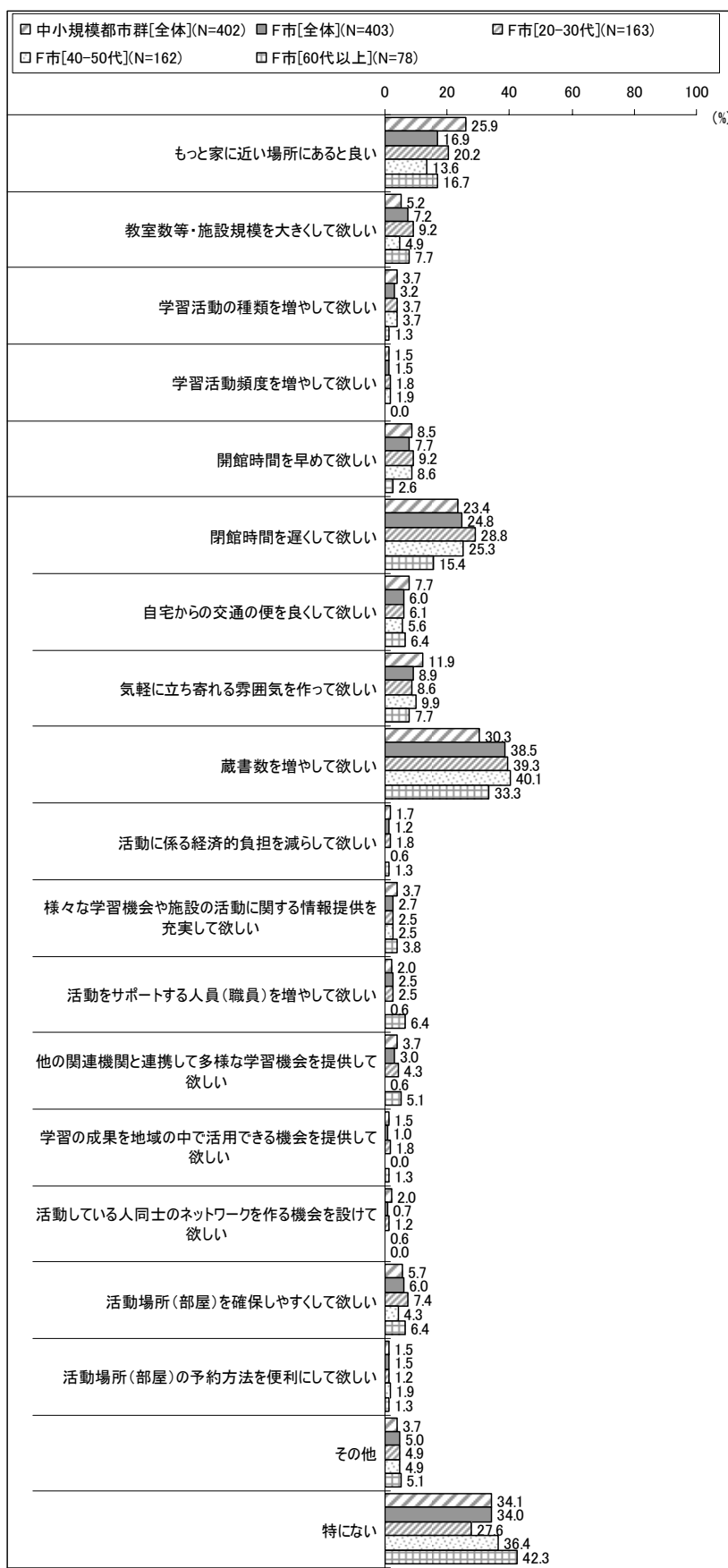


図書館

図書館への要望について質問したところ、F市全体では「蔵書数を増やして欲しい」が最も多く、38.5%であった。

年代別にみると、すべての年代で「蔵書数を増やして欲しい」が最も多く、20-30代が39.3%、40-50代が40.1%、60代以上が33.3%であった。次いで多かった回答は、20-30代及び40-50代が「閉館時間を遅くして欲しい」で、それぞれ28.8%、25.3%、60代以上は「もっと家に近い場所にあると良い」で16.7%であった。

図表2-209. 図書館への要望(F市)

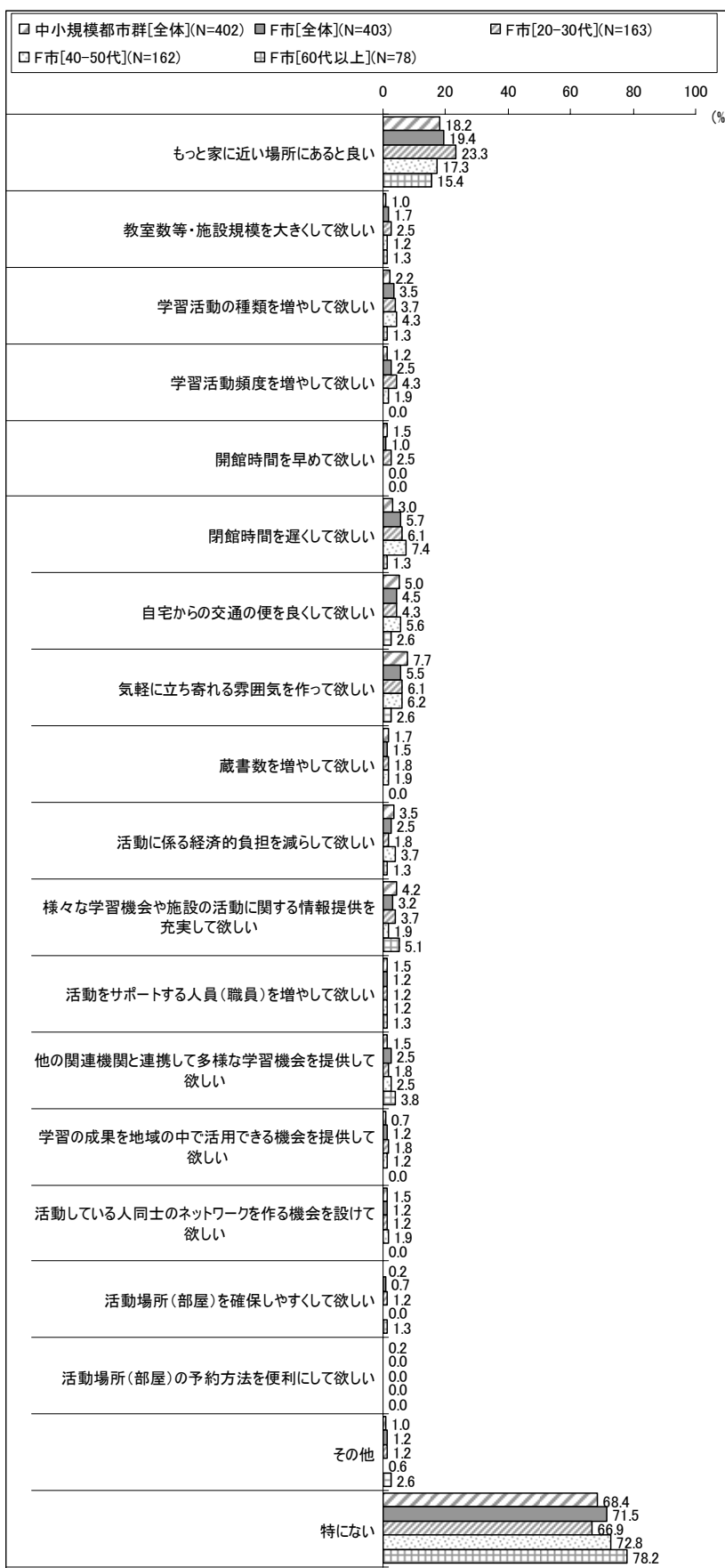


博物館

博物館への要望について質問したところ、F市全体では「もっと家に近い場所にあると良い」が最も多く、19.4%であった。

年代別にみると、すべての年代で「もっと家に近い場所にあると良い」が最も多く、20-30代が23.3%、40-50代が17.3%、60代以上が15.4%であった。次いで多かった回答は、20-30代が「閉館時間を遅くして欲しい」及び「気軽に立ち寄れる雰囲気を作って欲しい」で6.1%、40-50代が「閉館時間を遅くして欲しい」で7.4%、60代以上が「様々な学習機会や施設の活動に関する情報提供を充実して欲しい」で5.1%であった。

図表2-210. 博物館への要望(F市)

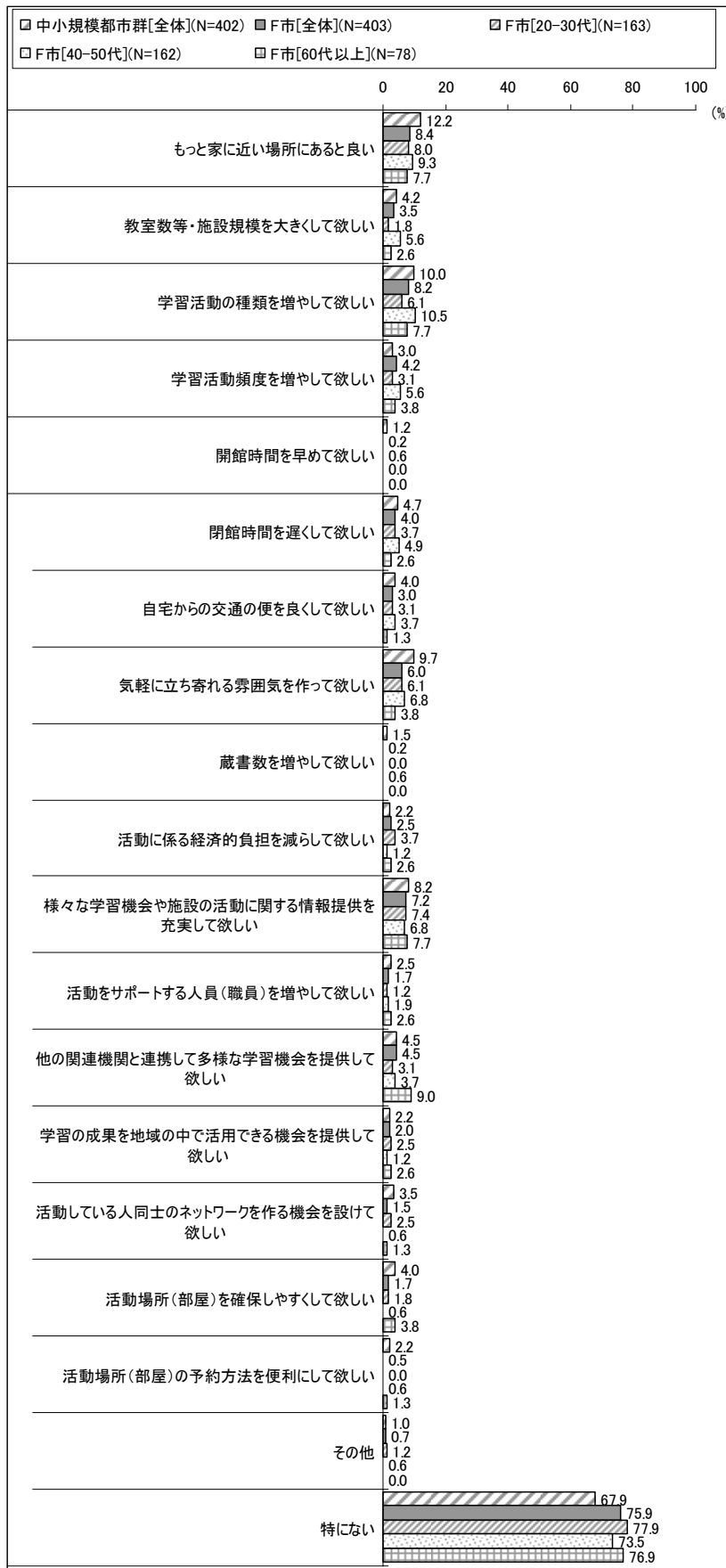


生涯学習センター

生涯学習センターへの要望について質問したところ、F市全体では「もっと家に近い場所にあると良い」が最も多く、8.4%であった。

年代別にみると、20-30代で「もっと家に近い場所にあると良い」が最も多く、8.0%であった。40-50代は「学習活動の種類を増やして欲しい」が最も多く10.5%、60代以上は「他の関連機関と連携して多様な学習機会を提供して欲しい」が最も多く、9.0%であった。次いで多かった回答は、20-30代が「様々な学習機会や施設の活動に関する情報提供を充実して欲しい」で7.4%、40-50代が「もっと家に近い場所にあると良い」で9.3%、60代以上が「もっと家に近い場所にあると良い」、「学習活動の種類を増やして欲しい」、「様々な学習機会や施設の活動に関する情報提供を充実して欲しい」で7.7%であった。

図表2-211.生涯学習センターへの要望(F市)



⑥学習に関する相談や情報提供等

日ごろ学習したいと考えている内容など（学習ニーズ）、及び学習活動に関する情報に関しては、以下のとおりである。

a. 相談状況

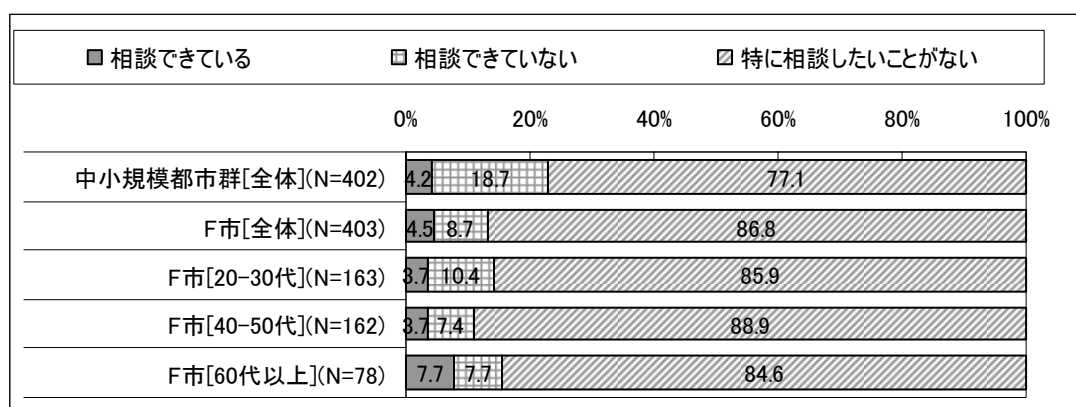
問 あなたは、日ごろ学習したいと考えている内容等（学習ニーズ）を、地域の行政機関や社会教育施設へ相談することができますか。

(1) これまで、地域の行政機関や社会教育施設へ相談したいことがあった際、十分に相談できていますか。もっとも当てはまる番号一つに○をつけてください。

地域の行政機関や社会教育施設へ相談したいことがあった際に、十分に相談できているかを質問したところ、F市全体では「相談できている」が4.5%、「相談できていない」が8.7%、「特に相談したいことがない」86.8%であった。

年代別にみると、「相談できている」の回答が最も多いのは60代以上で7.7%、「相談できていない」の回答が最も多いのは20-30代で10.4%であった。

図表2-212. 地域の行政機関や社会教育施設への相談状況(F市)



**平成22年度「生涯学習施策に関する調査研究」
社会教育施設の利用者アンケート等による効果的社会教育施設形成に関する調査研究**

平成 23 年 3 月

■著作権者

文部科学省生涯学習政策局社会教育課
〒100-8959 東京都千代田区霞が関 3-2-2
TEL : (03) 5253-4111 (代表)

■発行元

株式会社三菱総合研究所 人間・生活研究本部 人材・教育グループ
〒100-8141 東京都千代田区永田町 2-10-3
TEL: (03) 6705-6022
